

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽科研究						
担当教員	奥村 正子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの発達を理解すること。楽譜から音楽表現の方法について読み取る力と音楽によるコミュニケーションの基礎力を養う。						
授業の概要	子どもと音楽の関わりを幼児・児童期の発達とともに概観するとともに、楽典と歌うことを学ぶ。合唱や合奏を実習する。DVDで音楽表現を鑑賞する。						
到達目標	子どもの音楽的発達や子どもと音楽の関わりを知る。どのような歌唱教材を選択し、どのような声で関わればよいのか理解し、実際に歌唱できるようになる。子どもが使用する楽器の選択、実際の奏法がわかるようになる。基礎的な楽典について、わかりやすく説明できるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス・授業の方法の説明 第2回 楽典1（音名、音階、コードネームの復習） 第3回 楽典2（簡易伴奏、移調） 第4回 子どもの音楽的発達1：発達のみちすじ 第5回 子どもの音楽的発達2：音楽的な成長 第6回 声による表現1：子どもと歌 第7回 声による表現2：特色ある音楽教育について 第8回 中間試験 及び 様々な子どもの楽器の紹介 第9回 わらべうたの実習 及び 弾き歌い実習 1 第10回 わらべうたの創作 及び 弾き歌い実習 2 第11回 子どもと楽器の関わり 及び リズムパターンについて 第12回 リズム・アンサンブル1：リズムパターンの作成 第13回 リズム・アンサンブル2：ポディーパーカッション 第14回 リズム・アンサンブル3：グループでのアンサンブル発表 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	次回の授業で学ぶテキスト箇所、楽曲は予習しておくこと。 テキスト掲載の教材曲は、「音楽実技2」の授業における弾き歌いの課題曲が含まれています。 毎回の授業で歌った曲は、復習し歌詞を覚えること。						
授業方法	講義と実習						
評価基準と評価方法	平常点40%、中間試験と発表30%、期末試験30% 出席回数が10回に満たない場合、また試験を受けない場合は評価の対象とならない。						
教科書	『新・幼児の音楽教育』 代表著者：井口 太 朝日出版社 ISBN-13: 978-4255155562						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽科研究						
担当教員	奥村 正子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの発達を理解すること。楽譜から音楽表現の方法について読み取る力と音楽によるコミュニケーションの基礎力を養う。						
授業の概要	子どもと音楽の関わりを幼児・児童期の発達とともに概観するとともに、楽典と歌うことを学ぶ。合唱や合奏を実習する。DVDで音楽表現を鑑賞する。						
到達目標	子どもの音楽的発達や子どもと音楽の関わりを知る。どのような歌唱教材を選択し、どのような声で関わればよいのか理解し、実際に歌唱できるようになる。子どもが使用する楽器の選択、実際の奏法がわかるようになる。基礎的な楽典について、わかりやすく説明できるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス・授業の方法の説明 第2回 楽典1（音名、音階、コードネームの復習） 第3回 楽典2（簡易伴奏、移調） 第4回 子どもの音楽的発達1：発達のみちすじ 第5回 子どもの音楽的発達2：音楽的な成長 第6回 声による表現1：子どもと歌 第7回 声による表現2：特色ある音楽教育について 第8回 中間試験 及び 様々な子どもの楽器の紹介 第9回 わらべうたの実習 及び 弾き歌い実習 1 第10回 わらべうたの創作 及び 弾き歌い実習 2 第11回 子どもと楽器の関わり 及び リズムパターンについて 第12回 リズム・アンサンブル1：リズムパターンの作成 第13回 リズム・アンサンブル2：ポディーパーカッション 第14回 リズム・アンサンブル3：グループでのアンサンブル発表 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	次回の授業で学ぶテキスト箇所、楽曲は予習しておくこと。 テキスト掲載の教材曲は、「音楽実技2」の授業における弾き歌いの課題曲が含まれています。 毎回の授業で歌った曲は、復習し歌詞を覚えること。						
授業方法	講義と実習						
評価基準と評価方法	平常点40%、中間試験と発表30%、期末試験30% 出席回数が10回に満たない場合、また試験を受けない場合は評価の対象とならない。						
教科書	『新・幼児の音楽教育』代表著者：井口 太 朝日出版社 ISBN-13: 978-4255155562						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技I						
担当教員	奥村 正子・河瀬 里子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得						
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。楽典とピアノ曲の演奏について中間試験と期末試験を実施する。						
到達目標	半音と全音、音程、長音階と短音階について理解し、説明できるようになる。 ハ長調の簡単な課題曲をト長調とヘ長調に移調して弾くことができるようになる。 指定された簡単なピアノ伴奏による子どもの歌唱教材について、2曲弾き歌いできるようになる。 ピアノ曲は各自のグレードの課題を演奏できるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第2回 ピアノの基礎技能1 姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第3回 ピアノの基礎技能2 フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第4回 グレード毎の課題曲の解説 及び個人レッスン 第5回 読譜のために 及び個人レッスン 第6回 拍子について 及び個人レッスン 第7回 リズムについて 及び個人レッスン 第8回 中間試験 及び個人レッスン 第9回 コードネームについて 及び個人レッスン 第10回 歌うこと1：発声法 及び個人レッスン 第11回 歌うこと2：子どもの歌唱教材 及び個人レッスン 第12回 調性1：長音階 及び個人レッスン 第13回 調性2：短音階 及び個人レッスン 第14回 楽典の確認テスト 及び個人レッスン 第15回 期末試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技I						
担当教員	奥村 正子・河瀬 里子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得						
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。楽典とピアノ曲の演奏について中間試験と期末試験を実施する。						
到達目標	半音と全音、音程、長音階と短音階について理解し、説明できるようになる。 ハ長調の簡単な課題曲をト長調とヘ長調に移調して弾くことができるようになる。 指定された簡単なピアノ伴奏による子どもの歌唱教材について、2曲弾き歌いできるようになる。 ピアノ曲は各自のグレードの課題を演奏できるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第2回 ピアノの基礎技能1 姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第3回 ピアノの基礎技能2 フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第4回 グレード毎の課題曲の解説 及び個人レッスン 第5回 読譜のために 及び個人レッスン 第6回 拍子について 及び個人レッスン 第7回 リズムについて 及び個人レッスン 第8回 中間試験 及び個人レッスン 第9回 コードネームについて 及び個人レッスン 第10回 歌うこと1：発声法 及び個人レッスン 第11回 歌うこと2：子どもの歌唱教材 及び個人レッスン 第12回 調性1：長音階 及び個人レッスン 第13回 調性2：短音階 及び個人レッスン 第14回 楽典の確認テスト 及び個人レッスン 第15回 期末試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技I						
担当教員	奥村 正子・幸野 紀子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得						
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。楽典とピアノ曲の演奏について中間試験と期末試験を実施する。						
到達目標	半音と全音、音程、長音階と短音階について理解し、説明できるようになる。 ハ長調の簡単な課題曲をト長調とヘ長調に移調して弾くことができるようになる。 指定された簡単なピアノ伴奏による子どもの歌唱教材について、2曲弾き歌いできるようになる。 ピアノ曲は各自のグレードの課題を演奏できるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第2回 ピアノの基礎技能1 姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第3回 ピアノの基礎技能2 フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第4回 グレード毎の課題曲の解説 及び個人レッスン 第5回 読譜のために 及び個人レッスン 第6回 拍子について 及び個人レッスン 第7回 リズムについて 及び個人レッスン 第8回 中間試験 及び個人レッスン 第9回 コードネームについて 及び個人レッスン 第10回 歌うこと1：発声法 及び個人レッスン 第11回 歌うこと2：子どもの歌唱教材 及び個人レッスン 第12回 調性1：長音階 及び個人レッスン 第13回 調性2：短音階 及び個人レッスン 第14回 楽典の確認テスト 及び個人レッスン 第15回 期末試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技I						
担当教員	奥村 正子・幸野 紀子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得						
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。楽典とピアノ曲の演奏について中間試験と期末試験を実施する。						
到達目標	半音と全音、音程、長音階と短音階について理解し、説明できるようになる。 ハ長調の簡単な課題曲をト長調とヘ長調に移調して弾くことができるようになる。 指定された簡単なピアノ伴奏による子どもの歌唱教材について、2曲弾き歌いできるようになる。 ピアノ曲は各自のグレードの課題を演奏できるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第2回 ピアノの基礎技能1 姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第3回 ピアノの基礎技能2 フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第4回 グレード毎の課題曲の解説 及び個人レッスン 第5回 読譜のために 及び個人レッスン 第6回 拍子について 及び個人レッスン 第7回 リズムについて 及び個人レッスン 第8回 中間試験 及び個人レッスン 第9回 コードネームについて 及び個人レッスン 第10回 歌うこと1：発声法 及び個人レッスン 第11回 歌うこと2：子どもの歌唱教材 及び個人レッスン 第12回 調性1：長音階 及び個人レッスン 第13回 調性2：短音階 及び個人レッスン 第14回 楽典の確認テスト 及び個人レッスン 第15回 期末試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技I						
担当教員	奥村 正子・志茂 みなみ						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得						
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。楽典とピアノ曲の演奏について中間試験と期末試験を実施する。						
到達目標	半音と全音、音程、長音階と短音階について理解し、説明できるようになる。 ハ長調の簡単な課題曲をト長調とヘ長調に移調して弾くことができるようになる。 指定された簡単なピアノ伴奏による子どもの歌唱教材について、2曲弾き歌いできるようになる。 ピアノ曲は各自のグレードの課題を演奏できるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第2回 ピアノの基礎技能1 姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第3回 ピアノの基礎技能2 フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第4回 グレード毎の課題曲の解説 及び個人レッスン 第5回 読譜のために 及び個人レッスン 第6回 拍子について 及び個人レッスン 第7回 リズムについて 及び個人レッスン 第8回 中間試験 及び個人レッスン 第9回 コードネームについて 及び個人レッスン 第10回 歌うこと1：発声法 及び個人レッスン 第11回 歌うこと2：子どもの歌唱教材 及び個人レッスン 第12回 調性1：長音階 及び個人レッスン 第13回 調性2：短音階 及び個人レッスン 第14回 楽典の確認テスト 及び個人レッスン 第15回 期末試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技I						
担当教員	奥村 正子・志茂 みなみ						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得						
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。楽典とピアノ曲の演奏について中間試験と期末試験を実施する。						
到達目標	半音と全音、音程、長音階と短音階について理解し、説明できるようになる。 ハ長調の簡単な課題曲をト長調とヘ長調に移調して弾くことができるようになる。 指定された簡単なピアノ伴奏による子どもの歌唱教材について、2曲弾き歌いできるようになる。 ピアノ曲は各自のグレードの課題を演奏できるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第2回 ピアノの基礎技能1 姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第3回 ピアノの基礎技能2 フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第4回 グレード毎の課題曲の解説 及び個人レッスン 第5回 読譜のために 及び個人レッスン 第6回 拍子について 及び個人レッスン 第7回 リズムについて 及び個人レッスン 第8回 中間試験 及び個人レッスン 第9回 コードネームについて 及び個人レッスン 第10回 歌うこと1：発声法 及び個人レッスン 第11回 歌うこと2：子どもの歌唱教材 及び個人レッスン 第12回 調性1：長音階 及び個人レッスン 第13回 調性2：短音階 及び個人レッスン 第14回 楽典の確認テスト 及び個人レッスン 第15回 期末試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。						
参考書							



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技I						
担当教員	奥村 正子・矢野 ゆかり						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得						
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。楽典とピアノ曲の演奏について中間試験と期末試験を実施する。						
到達目標	半音と全音、音程、長音階と短音階について理解し、説明できるようになる。 ハ長調の簡単な課題曲をト長調とヘ長調に移調して弾くことができるようになる。 指定された簡単なピアノ伴奏による子どもの歌唱教材について、2曲弾き歌いできるようになる。 ピアノ曲は各自のグレードの課題を演奏できるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第2回 ピアノの基礎技能1 姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第3回 ピアノの基礎技能2 フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第4回 グレード毎の課題曲の解説 及び個人レッスン 第5回 読譜のために 及び個人レッスン 第6回 拍子について 及び個人レッスン 第7回 リズムについて 及び個人レッスン 第8回 中間試験 及び個人レッスン 第9回 コードネームについて 及び個人レッスン 第10回 歌うこと1：発声法 及び個人レッスン 第11回 歌うこと2：子どもの歌唱教材 及び個人レッスン 第12回 調性1：長音階 及び個人レッスン 第13回 調性2：短音階 及び個人レッスン 第14回 楽典の確認テスト 及び個人レッスン 第15回 期末試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技I						
担当教員	奥村 正子・矢野 ゆかり						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得						
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。楽典とピアノ曲の演奏について中間試験と期末試験を実施する。						
到達目標	半音と全音、音程、長音階と短音階について理解し、説明できるようになる。 ハ長調の簡単な課題曲をト長調とヘ長調に移調して弾くことができるようになる。 指定された簡単なピアノ伴奏による子どもの歌唱教材について、2曲弾き歌いできるようになる。 ピアノ曲は各自のグレードの課題を演奏できるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第2回 ピアノの基礎技能1 姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第3回 ピアノの基礎技能2 フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第4回 グレード毎の課題曲の解説 及び個人レッスン 第5回 読譜のために 及び個人レッスン 第6回 拍子について 及び個人レッスン 第7回 リズムについて 及び個人レッスン 第8回 中間試験 及び個人レッスン 第9回 コードネームについて 及び個人レッスン 第10回 歌うこと1：発声法 及び個人レッスン 第11回 歌うこと2：子どもの歌唱教材 及び個人レッスン 第12回 調性1：長音階 及び個人レッスン 第13回 調性2：短音階 及び個人レッスン 第14回 楽典の確認テスト 及び個人レッスン 第15回 期末試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技I						
担当教員	奥村 正子・横山 由美子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得						
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。楽典とピアノ曲の演奏について中間試験と期末試験を実施する。						
到達目標	半音と全音、音程、長音階と短音階について理解し、説明できるようになる。 ハ長調の簡単な課題曲をト長調とヘ長調に移調して弾くことができるようになる。 指定された簡単なピアノ伴奏による子どもの歌唱教材について、2曲弾き歌いできるようになる。 ピアノ曲は各自のグレードの課題を演奏できるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第2回 ピアノの基礎技能1 姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第3回 ピアノの基礎技能2 フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第4回 グレード毎の課題曲の解説 及び個人レッスン 第5回 読譜のために 及び個人レッスン 第6回 拍子について 及び個人レッスン 第7回 リズムについて 及び個人レッスン 第8回 中間試験 及び個人レッスン 第9回 コードネームについて 及び個人レッスン 第10回 歌うこと1：発声法 及び個人レッスン 第11回 歌うこと2：子どもの歌唱教材 及び個人レッスン 第12回 調性1：長音階 及び個人レッスン 第13回 調性2：短音階 及び個人レッスン 第14回 楽典の確認テスト 及び個人レッスン 第15回 期末試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技I						
担当教員	奥村 正子・横山 由美子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得						
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。楽典とピアノ曲の演奏について中間試験と期末試験を実施する。						
到達目標	半音と全音、音程、長音階と短音階について理解し、説明できるようになる。 ハ長調の簡単な課題曲をト長調とヘ長調に移調して弾くことができるようになる。 指定された簡単なピアノ伴奏による子どもの歌唱教材について、2曲弾き歌いできるようになる。 ピアノ曲は各自のグレードの課題を演奏できるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第2回 ピアノの基礎技能1 姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第3回 ピアノの基礎技能2 フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第4回 グレード毎の課題曲の解説 及び個人レッスン 第5回 読譜のために 及び個人レッスン 第6回 拍子について 及び個人レッスン 第7回 リズムについて 及び個人レッスン 第8回 中間試験 及び個人レッスン 第9回 コードネームについて 及び個人レッスン 第10回 歌うこと1：発声法 及び個人レッスン 第11回 歌うこと2：子どもの歌唱教材 及び個人レッスン 第12回 調性1：長音階 及び個人レッスン 第13回 調性2：短音階 及び個人レッスン 第14回 楽典の確認テスト 及び個人レッスン 第15回 期末試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技II						
担当教員	河瀬 里子・奥村 正子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	「音楽実技1」で学んだピアノ奏法の技能、実践力をさらに向上させ、弾き歌い曲についても学ぶ。						
授業の概要	「音楽実技1」と同様に、1クラスを2つのグループに分けて行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」ができるように、コードネームについての理解を深める。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている音楽的感性を磨く。 活動場面に相応しいピアノ曲を選んで、流れを止めることなく演奏できる。 子どもの歌唱教材から12曲を弾き歌いできる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『新・幼児の音楽教育』代表著者：井口 太 朝日出版社 ISBN-13: 978-4255155562						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技II						
担当教員	河瀬 里子・奥村 正子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	「音楽実技1」で学んだピアノ奏法の技能、実践力をさらに向上させ、弾き歌い曲についても学ぶ。						
授業の概要	「音楽実技1」と同様に、1クラスを2つのグループに分けて行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」ができるように、コードネームについての理解を深める。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている音楽的感性を磨く。 活動場面に相応しいピアノ曲を選んで、流れを止めることなく演奏できる。 子どもの歌唱教材から12曲を弾き歌いできる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『新・幼児の音楽教育』代表著者：井口 太 朝日出版社 ISBN-13: 978-4255155562						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技II						
担当教員	河瀬 里子・幸野 紀子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	「音楽実技1」で学んだピアノ奏法の技能、実践力をさらに向上させ、弾き歌い曲についても学ぶ。						
授業の概要	「音楽実技1」と同様に、1クラスを2つのグループに分けて行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」ができるように、コードネームについての理解を深める。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている音楽的感性を磨く。 活動場面に相応しいピアノ曲を選んで、流れを止めることなく演奏できる。 子どもの歌唱教材から12曲を弾き歌いできる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『新・幼児の音楽教育』代表著者：井口 太 朝日出版社 ISBN-13: 978-4255155562						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技II						
担当教員	河瀬 里子・幸野 紀子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	「音楽実技1」で学んだピアノ奏法の技能、実践力をさらに向上させ、弾き歌い曲についても学ぶ。						
授業の概要	「音楽実技1」と同様に、1クラスを2つのグループに分けて行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」ができるように、コードネームについての理解を深める。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている音楽的感性を磨く。 活動場面に相応しいピアノ曲を選んで、流れを止めることなく演奏できる。 子どもの歌唱教材から12曲を弾き歌いできる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『新・幼児の音楽教育』代表著者：井口 太 朝日出版社 ISBN-13: 978-4255155562						
参考書							



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技II						
担当教員	河瀬 里子・志茂 みなみ						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	「音楽実技1」で学んだピアノ奏法の技能、実践力をさらに向上させ、弾き歌い曲についても学ぶ。						
授業の概要	「音楽実技1」と同様に、1クラスを2つのグループに分けて行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」ができるように、コードネームについての理解を深める。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている音楽的感性を磨く。 活動場面に相応しいピアノ曲を選んで、流れを止めることなく演奏できる。 子どもの歌唱教材から12曲を弾き歌いできる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『新・幼児の音楽教育』代表著者：井口 太 朝日出版社 ISBN-13: 978-4255155562						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技II						
担当教員	河瀬 里子・志茂 みなみ						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	「音楽実技1」で学んだピアノ奏法の技能、実践力をさらに向上させ、弾き歌い曲についても学ぶ。						
授業の概要	「音楽実技1」と同様に、1クラスを2つのグループに分けて行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」ができるように、コードネームについての理解を深める。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている音楽的感性を磨く。 活動場面に相応しいピアノ曲を選んで、流れを止めることなく演奏できる。 子どもの歌唱教材から12曲を弾き歌いできる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『新・幼児の音楽教育』代表著者：井口 太 朝日出版社 ISBN-13: 978-4255155562						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技II						
担当教員	河瀬 里子・矢野 ゆかり						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	「音楽実技1」で学んだピアノ奏法の技能、実践力をさらに向上させ、弾き歌い曲についても学ぶ。						
授業の概要	「音楽実技1」と同様に、1クラスを2つのグループに分けて行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」ができるように、コードネームについての理解を深める。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている音楽的感性を磨く。 活動場面に相応しいピアノ曲を選んで、流れを止めることなく演奏できる。 子どもの歌唱教材から12曲を弾き歌いできる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『新・幼児の音楽教育』代表著者：井口 太 朝日出版社 ISBN-13: 978-4255155562						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技II						
担当教員	河瀬 里子・矢野 ゆかり						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	「音楽実技1」で学んだピアノ奏法の技能、実践力をさらに向上させ、弾き歌い曲についても学ぶ。						
授業の概要	「音楽実技1」と同様に、1クラスを2つのグループに分けて行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」ができるように、コードネームについての理解を深める。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている音楽的感性を磨く。 活動場面に相応しいピアノ曲を選んで、流れを止めることなく演奏できる。 子どもの歌唱教材から12曲を弾き歌いできる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『新・幼児の音楽教育』代表著者：井口 太 朝日出版社 ISBN-13: 978-4255155562						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技II						
担当教員	河瀬 里子・横山 由美子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	「音楽実技1」で学んだピアノ奏法の技能、実践力をさらに向上させ、弾き歌い曲についても学ぶ。						
授業の概要	「音楽実技1」と同様に、1クラスを2つのグループに分けて行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」ができるように、コードネームについての理解を深める。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている音楽的感性を磨く。 活動場面に相応しいピアノ曲を選んで、流れを止めることなく演奏できる。 子どもの歌唱教材から12曲を弾き歌いできる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『新・幼児の音楽教育』代表著者：井口 太 朝日出版社 ISBN-13: 978-4255155562						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技II						
担当教員	河瀬 里子・横山 由美子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	「音楽実技1」で学んだピアノ奏法の技能、実践力をさらに向上させ、弾き歌い曲についても学ぶ。						
授業の概要	「音楽実技1」と同様に、1クラスを2つのグループに分けて行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」ができるように、コードネームについての理解を深める。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている音楽的感性を磨く。 活動場面に相応しいピアノ曲を選んで、流れを止めることなく演奏できる。 子どもの歌唱教材から12曲を弾き歌いできる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『新・幼児の音楽教育』代表著者：井口 太 朝日出版社 ISBN-13: 978-4255155562						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技III						
担当教員	奥村 正子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	「声」と「身体」による音楽表現の探求とともに、音楽実技1、音楽実技2で培った演奏技能をさらに向上させ、レパートリーを増やす。						
授業の概要	心地よい声、よく聴き取れる日本語で歌うための発声法、また子どもの音楽表現を引き出す柔軟で豊かな身体表現、声や楽器によるアンサンブルを学ぶ。各自のレベルに応じたピアノ曲に取り組み、技能を向上させる。						
到達目標	明瞭な発音、その楽曲に相応しい発声、正確な音程で歌うことができるようになる。 子どもの音楽活動を豊かに援助することのできる表現力を獲得する。 簡単なピアノの即興演奏ができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス/授業の概要説明 第2回 声と身体1 (発声の仕組み) 及びピアノ課題の設定 第3回 声と身体2 (柔軟な身体、柔軟な声) 第4回 話す声・読む声1 (表情、身振り、感情と声) 第5回 話す声・読む声2 (朗読、台詞) 第6回 声のアンサンブル1 (発声のしくみと呼吸法) 第7回 声のアンサンブル2 (二声の合唱) 第8回 楽器と身体表現1 (様々なリズム楽器) 第9回 楽器と身体表現2 (ミュージック・ベル) 第10回 物語と音楽 第11回 劇の伴奏音楽と効果音 第12回 即興的なピアノ演奏 第13回 声と楽器のリズムアンサンブル 第14回 総合的な音楽表現 第15回 期末テストとまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業で指定した課題について、繰り返し練習すること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表40点 実技テスト20点 毎回の授業への取り組み40点 出席回数が2/3以下の場合には評価の対象としない。						
教科書	楽譜、資料等は、そのつど配布する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅳ						
担当教員	奥村 正子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	実習及び採用試験に向けて、音楽表現力の向上とレパートリーの拡充を実現する。						
授業の概要	ピアノ演奏や歌唱、弾き歌いについて、これまで学んできたことを基に、「音楽表現活動のためのピアノ曲演奏」「発声」「ピアノと声の音量バランス」「歌う表情」など具体的に指導する。採用試験対策として、学習指導要領や楽典についても指導する。						
到達目標	幼保の就職試験で課せられることの多い「弾き歌い」や「ピアノ曲」のレパートリーを増やす。小学校希望の場合は共通歌唱教材24曲すべてについて、弾き歌いができる。それぞれの曲において、曲の成り立ちや歌詞の意味を十分理解し、相応しい歌い方、発声ができる。子どもの生活場面に即して、即興的な演奏ができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明 第2回 弾き歌いと子どもの歌唱教材 第3回 子どもの音楽表現活動を指導するためのピアノ曲 第4回 楽典の復習1：伴奏の簡略化 第5回 歌唱とピアノ伴奏1：明瞭な発音と発声法 第6回 歌唱とピアノ伴奏2：ピアノと声の音量バランス 第7回 学習指導要領1：各学年の共通教材 第8回 中間試験 第9回 楽典の復習2：移調の実習、およびピアノ曲演習 第10回 学習指導要領2：表現と鑑賞 第11回 指揮法1：基本の拍子、及びピアノ曲演習 第12回 連弾曲の解説 及びピアノ曲演習 第13回 楽器のアンサンブル 及びピアノ曲演習 第14回 指揮法2：弱起の曲、及び連弾の発表 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自の課題について、日々の練習を怠らないこと。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点70点（課題への取り組み、中間試験などを総合する） 期末試験 30点 10回以上の出席がないと評価の対象としない。						
教科書	「音楽科指導法」と「保育内容（表現1）」を履修した際に使用したテキスト 課題曲の楽譜はそのつど配布する。						
参考書							



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	奥村 正子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の基礎を習得する。						
授業の概要	子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。						
到達目標	歌やピアノで実際に音として再現するため、五線譜に記された音部記号、音名、音符、休符、拍子記号など基礎的な事項について理解できるようになる。ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、課題のピアノ曲を弾くことができるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け 第2回 ピアノ奏法のための基礎的な用語解説 第3回 楽典について 及びレッスン1 第4回 課題曲の解説 及びレッスン2 第5回 「譜表と音名」 及びレッスン3 第6回 「音符と休符」 及びレッスン4 第7回 バーナムの練習曲による小テスト 及びレッスン5 第8回 連弾について 及びレッスン6 第9回 「音程」 及びレッスン7 第10回 「音階と調」 及びレッスン8 第11回 「リズムと拍子」 及びレッスン9 第12回 連弾の発表 第13回 「ペダルの使用法」 及びレッスン10 第14回 「音楽表現のための楽語」 及びレッスン11 第15回 演奏の発表（期末試験）とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々の練習に取り組んで下さい。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60% 期末試験40% 出席回数が10回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第1回めの授業で発表します。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	奥村 正子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の基礎を習得する。						
授業の概要	子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。						
到達目標	歌やピアノで実際に音として再現するため、五線譜に記された音部記号、音名、音符、休符、拍子記号など基礎的な事項について理解できるようになる。ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、課題のピアノ曲を弾くことができるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け 第2回 ピアノ奏法のための基礎的な用語解説 第3回 楽典について 及びレッスン1 第4回 課題曲の解説 及びレッスン2 第5回 「譜表と音名」 及びレッスン3 第6回 「音符と休符」 及びレッスン4 第7回 バーナムの練習曲による小テスト 及びレッスン5 第8回 連弾について 及びレッスン6 第9回 「音程」 及びレッスン7 第10回 「音階と調」 及びレッスン8 第11回 「リズムと拍子」 及びレッスン9 第12回 連弾の発表 第13回 「ペダルの使用法」 及びレッスン10 第14回 「音楽表現のための楽語」 及びレッスン11 第15回 演奏の発表（期末試験）とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々の練習に取り組んで下さい。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60% 期末試験40% 出席回数が10回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第1回めの授業で発表します。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	河瀬 里子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の基礎を習得する。						
授業の概要	子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。						
到達目標	歌やピアノで実際に音として再現するため、五線譜に記された音部記号、音名、音符、休符、拍子記号など基礎的な事項について理解できるようになる。ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、課題のピアノ曲を弾くことができるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け 第2回 ピアノ奏法のための基礎的な用語解説 第3回 楽典について 及びレッスン1 第4回 課題曲の解説 及びレッスン2 第5回 「譜表と音名」 及びレッスン3 第6回 「音符と休符」 及びレッスン4 第7回 バーナムの練習曲による小テスト 及びレッスン5 第8回 連弾について 及びレッスン6 第9回 「音程」 及びレッスン7 第10回 「音階と調」 及びレッスン8 第11回 「リズムと拍子」 及びレッスン9 第12回 連弾の発表 第13回 「ペダルの使用法」 及びレッスン10 第14回 「音楽表現のための楽語」 及びレッスン11 第15回 演奏の発表（期末試験）とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々の練習に取り組んで下さい。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60% 期末試験40% 出席回数が10回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第1回めの授業で発表します。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	河瀬 里子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の基礎を習得する。						
授業の概要	子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。						
到達目標	歌やピアノで実際に音として再現するため、五線譜に記された音部記号、音名、音符、休符、拍子記号など基礎的な事項について理解できるようになる。ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、課題のピアノ曲を弾くことができるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け 第2回 ピアノ奏法のための基礎的な用語解説 第3回 楽典について 及びレッスン1 第4回 課題曲の解説 及びレッスン2 第5回 「譜表と音名」 及びレッスン3 第6回 「音符と休符」 及びレッスン4 第7回 バーナムの練習曲による小テスト 及びレッスン5 第8回 連弾について 及びレッスン6 第9回 「音程」 及びレッスン7 第10回 「音階と調」 及びレッスン8 第11回 「リズムと拍子」 及びレッスン9 第12回 連弾の発表 第13回 「ペダルの使用法」 及びレッスン10 第14回 「音楽表現のための楽語」 及びレッスン11 第15回 演奏の発表（期末試験）とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々の練習に取り組んで下さい。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60% 期末試験40% 出席回数が10回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第1回めの授業で発表します。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	横山 由美子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の基礎を習得する。						
授業の概要	子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。						
到達目標	歌やピアノで実際に音として再現するため、五線譜に記された音部記号、音名、音符、休符、拍子記号など基礎的な事項について理解できるようになる。ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、課題のピアノ曲を弾くことができるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け 第2回 ピアノ奏法のための基礎的な用語解説 第3回 楽典について 及びレッスン1 第4回 課題曲の解説 及びレッスン2 第5回 「譜表と音名」 及びレッスン3 第6回 「音符と休符」 及びレッスン4 第7回 バーナムの練習曲による小テスト 及びレッスン5 第8回 連弾について 及びレッスン6 第9回 「音程」 及びレッスン7 第10回 「音階と調」 及びレッスン8 第11回 「リズムと拍子」 及びレッスン9 第12回 連弾の発表 第13回 「ペダルの使用法」 及びレッスン10 第14回 「音楽表現のための楽語」 及びレッスン11 第15回 演奏の発表（期末試験）とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々の練習に取り組んで下さい。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60% 期末試験40% 出席回数が10回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第1回めの授業で発表します。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	横山 由美子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の基礎を習得する。						
授業の概要	子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。						
到達目標	歌やピアノで実際に音として再現するため、五線譜に記された音部記号、音名、音符、休符、拍子記号など基礎的な事項について理解できるようになる。ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、課題のピアノ曲を弾くことができるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け 第2回 ピアノ奏法のための基礎的な用語解説 第3回 楽典について 及びレッスン1 第4回 課題曲の解説 及びレッスン2 第5回 「譜表と音名」 及びレッスン3 第6回 「音符と休符」 及びレッスン4 第7回 バーナムの練習曲による小テスト 及びレッスン5 第8回 連弾について 及びレッスン6 第9回 「音程」 及びレッスン7 第10回 「音階と調」 及びレッスン8 第11回 「リズムと拍子」 及びレッスン9 第12回 連弾の発表 第13回 「ペダルの使用法」 及びレッスン10 第14回 「音楽表現のための楽語」 及びレッスン11 第15回 演奏の発表（期末試験）とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々の練習に取り組んで下さい。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60% 期末試験40% 出席回数が10回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第1回めの授業で発表します。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	介護等体験						
担当教員	谷口 和良						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	介護体験実習を有意義なものにするための意識の変革と資質の向上（介護等体験実習に対する事前・事後指導による意識の変革と資質の向上）						
授業の概要	この授業では介護等体験の意義、つまり個人の尊厳や社会連帯の理念に対する理解を深めることをねらいとしている。そこで、社会福祉に関する知識と理解、障害者や高齢者の介護や援助、そして参加と連帯の精神などを活かして、実際の介護等体験を充実させる必要がある。そのために、障害児や施設利用者への配慮、コミュニケーションの取り方、職員との接し方、施設での取り組みなどを探究していく。						
到達目標	介護等体験実習に向けて、それぞれの学校や施設及び利用者の現状や実態を把握し、実習への心構えや態度などを養い、有意義な介護等体験をすることができる。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 集中講義 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング（介護・介助等の意義と目的等）</li> <li>第2回 特別支援学校の概要と実態</li> <li>第3回 特別支援学校での介護等体験に取り組む留意点と心構え</li> <li>第4回 社会福祉施設での介護等体験に取り組む留意点と心構え</li> <li>第5回 社会福祉施設の現状及び問題・課題「ゲスト・スピーカー招聘予定」</li> <li>第6回 特別支援学校での介護等体験の振り返り</li> <li>第7回 社会福祉施設での介護等体験の振り返り</li> <li>第8回 まとめ（介護等の体験による自己変革・改革、生命の尊厳、介護のあり方等）</li> </ul> </li> <li>○ 現場体験 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 特別支援学校において2日間 2. 社会福祉施設において5日間</li> </ul> </li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前学習：2回生で受講した「子ども発達実習」での特別支援学校訪問のレポートを見直し、復習するとともに訪問時のことを想起しておいてください。</li> <li>・授業後学習：事前・事後の授業及び現場で体験したことを復習しながら整理しておき、教職現場に立った時に活用できるようにしておくことが大切です。</li> </ul>						
授業方法	授業計画にあるように、集中講義8回（事前指導として5回と二つの実習報告・振り返りを含めた事後指導として3回）と現場体験（特別支援学校2日間と社会福祉施設5日間）を行う						
評価基準と評価方法	発表やワークシートなどの平常点40%、体験レポート40%、体験先の評価の参考20% なお、体験終了後、体験先から交付される「証明書」を提出しないと、実習を完了していても単位が与えられないので注意すること						
教科書							
参考書	「教師をめざす人の介護等体験ハンドブック」（現代教師養成研究会編）大修館書店						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	家庭科研究						
担当教員	奥井 一幾						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における家庭科教育のあり方						
授業の概要	現状の家庭生活の抱える問題、児童の育ちを阻害するものなどを見渡しながら、家庭科教育が、小学校高学年の段階の児童のいかなる面に働きかけ、いかなる力を伸ばすことをめざすのかを考える。また、家庭科の具体的な学習内容を学び、学習主体の学習動機を見据えて「学びたい」、「わかる・できることが楽しい気持ちにさせる教材を吟味する機会とする。						
到達目標	小学校の家庭科の学習は、児童にいかなる力をつける機会となるのか、また、家庭科教育は、変化する社会の要請や期待に応えることができるのか考え、自分の家庭科教育の目標を持てるようになる。また、学習主体の学習動機を喚起する、学習内容および指導方法について考え、工夫することができるようになる。そして、自分自身の生活についても見直し、改善する姿勢を身につける。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：小学校家庭科教育のイメージ 第2回 家庭科教育とは：学習指導要領の理解と学習内容の概観 第3回 家族との関わり 第4回 子どもの育ちと家庭環境 第5回 家庭生活での役割 家事労働 生活時間 第6回 消費と節約 環境にやさしい暮らしの工夫 第7回 健康的な暮らし（1）生活習慣 第8回 健康的な暮らし（2）食生活 第9回 衛生的な暮らし（1）住生活 第10回 衛生的な暮らし（2）衣生活 第11回 快適な暮らし 楽しみ・工夫と改善 第12回 自立と生活スキル（1）家事技術の習得 第13回 自立と生活スキル（2）自己管理能力の育成 第14回 自立と生活スキル（3）家族・身近な人とのコミュニケーション 第15回 まとめ：今後の課題						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：小学校、中学校、高校の家庭科の教科書を見て、どんな学習内容が含まれているか確認しておくことよい。 授業後学習：授業で解説した基礎的基本的な内容をもとに、それを小学生が理解できるように説明するにはどのような表現が適切か考えるようにしてください。						
授業方法	講義および意見交換						
評価基準と評価方法	基本用語の確認テスト30% 指導案の作成30% レポート40%						
教科書	小学校用教科書『新しい家庭』東京書籍（講義開始後に教科書販売店に注文します） 中間美砂子編著『小学校家庭科の指導』建帛社（家庭科指導法でも使用します）						
参考書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版社、2008年 978-4-491-02374-8 C3037（ISBN）90円（税別）						



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	家庭科指導法						
担当教員	守野 美佐子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における家庭科指導の具体的内容と方法を考える						
授業の概要	実際の生活と関わりある内容を取り扱う家庭科の指導において大切なことは、まず、小学校高学年という発達に応じた生活体験や生活状況を配慮した上で、興味関心を引き出し、児童の内面での学習動機付けを喚起することである。理解を促す教材やテーマは、児童にとって具体的であるとともに一般化しやすい側面を持ち合わせるものを選びたい。本講義では、児童が生活に関心を深め、自らの生活を変革する意識と実践力を身につけられるような指導方法を考える機会としたい。						
到達目標	自分の家庭科教育の目標を実現できる教材の選び方、授業の組み立て方を工夫することができる。 実技指導の内容について、教材を吟味して指導計画することができる。 多様な実践例などから学び、自分で指導計画の立案ができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：小学生の生活と生活能力 第2回 家庭科で何を教えるか：実技指導を伴う授業の計画 第3回 教材研究1：家族のための健康的な食生活 第4回 教材研究2：食生活に必要な技術 第5回 教材研究3：調理実習指導の教材作り 第6回 教材研究のための実践1：調理実習（1）調理って楽しいな（卵料理） 第7回 教材研究のための実践2：調理実習（2）家族のための食事作り（炊飯とみそ汁） 第8回 教材研究4：暮らしの中の布製品 裁縫技術の必要性を考える 第9回 教材研究5：裁縫を体験する教材作り 第10回 教材研究のための実践3：被服製作（1）基本の縫い方の確認 第11回 教材研究のための実践4：被服製作（2）実用的な小物作り 第12回 教材研究6：児童が主体となって学べる授業の計画 第13回 教材研究7：模擬授業 1回目 グループ発表（3つ） 第14回 教材研究8：模擬授業 2回目 グループ発表（3つ） 第15回 まとめ：総評						
授業外における学習（準備学習の内容）	調理実習や被服製作の実技指導で、教材にできそうなものをリサーチし、自分で体験、実施しておくといよい。						
授業方法	各回のテーマに沿った教材提案の意見交換 教材作成 授業の詳案の作成 調理実習および縫製技術を活用した作品作りを含む						
評価基準と評価方法	実技を含む単元の指導計画の作成20点 実技を含む単元の教材研究30点 手縫いの基本技術20点 模擬授業またはレポート30点 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
教科書	小学校用教科書『新しい家庭』（家庭科研究受講時に購入し、本講義でも使用）						
参考書	家庭科研究の講義で使用したテキスト						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	家庭支援論／子ども心理II（子育て支援）						
担当教員	寺見 陽子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保護者の養育性の発達および親子関係の発達と子育て支援の基本及びその実際について学ぶ。						
授業の概要	ここでは、今日の保護者の育児意識やストレス、夫婦関係や親子関係、地域との関係等、その実態を明らかにしながら、家庭支援の視点とその実際について学ぶ。						
到達目標	①今日の子育て環境と保護者の子育て意識を理解できる。 ②保護者の親としてのアイデンティティの形成を促す支援のあり方について理解できる。 ③子育て支援の実際について理解できる。						
授業計画	第1回 子育て・子育ての原風景ー子どもが育つとは 第2回 現代社会と子育て・子育てー子育て家庭を取り巻く社会環境の変化 第3回 子育て・家庭支援の動向と課題 第4回 子育て・家庭支援の目的と方法 第5回 子育てのストレスとその要因 第6回 子育てのストレス・コーピングとソーシャルサポート 第7回 親の養育性と親子関係の発達 第8回 子どもの養育と保護者支援の支援の視点 第7回 家族支援と地域支援の視点 第8回 次世代育成支援の視点 第9回 保育現場における子育て支援 第10回 子育て・家庭支援プログラムとその技法 第11回 子育て・家庭支援プログラムの展開ー計画と実践ー 第12回 子育て支援の実際（1）ー「まつぼっくり」実習 第13回 子育て支援の実際（2）ー子育て支援に関連する施設・拠点の見学実習 第14回 子育て支援の実際（3）ー社会的資源の活用とネットワークづくり 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	子育て支援実習（「まつぼっくり」実習） 子育て支援に関連する施設・拠点の見学実習						
授業方法	講義およびグループワーク・インタビュー調査						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 小レポート 20点 実習レポート 30点 テスト 50点						
教科書	寺見陽子編「子育て・子育て支援学」保育出版（ISBN978-4-938795-93-1）						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	学校観察実習						
担当教員	大石 正廣						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	スクールサポーターとしての体験学習を通して、教職へのモチベーションを高める。						
授業の概要	小学校現場で、週1回(半日)、合計15回以上継続して、児童の学習支援や学校行事の手伝いを行う。ただし、ボランティア的活動とはいえず、児童に与える影響は大きいことから、十分な事前指導や説明、事後の集中講義を受ける必要がある。 実習では教育の厳しさや喜びを体験でき、教職をめざす自覚も高められるだけでなく、人間理解を深め、自己啓発ができる機会も得られる。子どもにとってもスクールサポーターと接することで、自尊感情や学ぶ意欲を高めることができるなどの得がたい交流ができる。						
到達目標	小学校の教育現場の実態を知る。自己の適性を知り、教職への意欲を高める。サポート体験を通して、子ども理解に基づく支援について理解を深めることができる。						
授業計画	<p>○実習前の講義等(4月～5月)</p> <p>第1回 実習ガイダンス スクールサポーターに求められる資質・見識</p> <p>第2回 小学校教育の現状と課題、主な活動内容</p> <p>第3回 子ども理解と接し方、助言支援の方法</p> <p>第4回 実習記録・活動報告書の書き方、挨拶・自己紹介の仕方</p> <p>○当該学校での観察実習</p> <p>毎週1回(半日)以上、継続して実習を行う。活動状況報告書を書く。 スクールサポーター配置校を訪問し、学生の活動状況を把握し、指導助言を行う。</p> <p>○実習後の講義等(1月)</p> <p>第5回 活動報告書のコメントから学ぶこと、実習記録の整理・レポートの作成</p> <p>第6回 報告会1・経験したこと・学んだことをどう生かすか(グループ交流と全体発表内容の検討)</p> <p>第7回 報告会2・経験したこと・学んだことをどう生かすか(全体交流)</p> <p>第8回 講話とまとめ・教職を目指す学生に期待すること</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	配置される学校の特色、教育目標や活動内容などについて情報を収集する。						
授業方法	学校での観察実習、講義と講話、グループ・全体討議						
評価基準と評価方法	事前指導・事後指導を受けること。週1回程度継続して学校観察実習を行い、実習記録や感想文、レポートを提出することを評価の条件とする。 ・実習回数は15回以上でなくてはならない。 ・当該学校の活動報告書、並びに事前・事後の指導時におけるレポートの内容を加味して評価する。 実習校での実習意欲や態度、その活動報告書で40%、実習の記録と感想文で30%。事前・事後指導時のレポートで30%という割合で総合評価をする。						
教科書	資料やプリントを配布する。						
参考書	講義時に紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育課程論						
担当教員	大下 卓司						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	教育課程・カリキュラムに関する基礎的事項と考え方						
授業の概要	<p>教育課程・カリキュラムに関する基礎的事項と考え方の習得を目指すために、次の3つを主たる目的として授業内容を構成する。</p> <p>第1に、各学校段階（幼稚園・保育所なども含む）の教育課程・カリキュラムに関する基本的知識と特色を習得する。</p> <p>第2に、授業実践や学力問題といったさまざまな視点からアプローチすることで、教育課程・カリキュラムと授業及び評価との関わりについて理解を深める。</p> <p>第3に、教育課程・カリキュラム改革の歴史に関する知識を身につけることで、今日注目を浴びているカリキュラム開発の考え方の背景について理解を深め、これからの時代に求められる教育課程・カリキュラムのあり方について考察する。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程・カリキュラムに関する基本的知識を習得する</li> <li>・教育課程・カリキュラムと授業・評価との関わりについて理解を深める</li> <li>・教育課程・カリキュラム改革の歴史に関する知識を身につける</li> <li>・今日注目を浴びているカリキュラム開発とカリキュラム評価の考え方の背景について理解を深める</li> <li>・これからの時代に求められる教育課程・カリキュラムのあり方について考察を深める</li> </ul>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：授業概要の説明および、理想の時間割とは？</p> <p>第2回 「教育課程」と「カリキュラム」</p> <p>第3回 幼稚園・保育所のカリキュラム：遊びと発達</p> <p>第4回 小学校のカリキュラム</p> <p>第5回 中学校・高校のカリキュラム</p> <p>第6回 カリキュラムと授業づくり①：教科中心</p> <p>第7回 カリキュラムと授業づくり②：活動（体験）中心</p> <p>第8回 カリキュラムと評価①：学力問題を中心に</p> <p>第9回 教育課程の歴史①：戦後民主主義と経験主義カリキュラム</p> <p>第10回 教育課程の歴史②：戦後の経済的発展と系統主義・現代化カリキュラム</p> <p>第11回 教育課程の歴史③：「荒れ」の時代と「ゆとり」</p> <p>第12回 教育課程の歴史④：コンテンツベースからコンピテンシーベースへの転換</p> <p>第13回 カリキュラムと評価②：パフォーマンス評価を中心に</p> <p>第14回 アクティブラーニングと取り入れたカリキュラム開発とカリキュラムマネジメント</p> <p>第15回 まとめと今後の課題・筆記試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：授業中に指示した教科書の該当箇所や配布資料について予習をする。</p> <p>授業後学習：授業で学んだことを整理し、ポイント等を教科書や参考書等で確認しながら復習し、理解を深める。</p>						
授業方法	講義形態による授業に加えて視聴覚教材を活用するなど、多様なアプローチによって授業内容に関する学生の理解を深めることを目指す。						
評価基準と評価方法	試験60%、授業毎の課題40% 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
教科書							
参考書	<p>田中耕治編『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房。</p> <p>田中耕治他『新しい時代の教育課程』（第3版）有斐閣。</p>						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育経営論						
担当教員	根津 隆男						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	教育法規や教育行政について学び、子どもたちが、共に学び、共に成長する学級・学校の在り方を明らかにする						
授業の概要	まず、学校教育の歴史を振り返り、1990年代以降の変化する社会状況の中で、現代の学校園教育は如何にあるべきか、教育基本法に立ち返り、学校教育の目的を再考し、教育行政や教育制度が現在の教育法規の基でどのようになっているのかも学習する。その上で、学校教育が担う教育機能は、子どもたちに、知識・技能の習得をさせることだけでなく、心理社会的な発達を援助する側面を重視した学校経営論を構築していく。						
到達目標	現在の学校園の実態を把握して、子どもを中心に据えた学級・学校園経営を考える						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション  第2回：学校教育の目的  第3回：教育法規  第4回：学習指導要領と幼稚園教育要領  第5回：教育課程  第6回：子ども理解  第7回：保護者対応  第8回：教育行政と学校</p> <p>第9回：教職員の組織  第10回：学校経営と心の教育  第11回：学習指導と生徒指導  第12回：育てる教育相談  第13回：海外の教育と比べて  第14回：地域の中の学校  第15回：今学校に求められるもの  定期試験</p> <p>1990年代以降の子どもたち  教育基本法から探る公教育のねらいと学校に期待されるもの  学校教育法・学校教育法施行規則  子どもの指導の体系として  カリキュラムの必要性とカリキュラムにないもの  子どもは自ら伸びようとする力を持っている  保護者は味方にも敵にもなる  教育行政のトップの方を招いて、教育行政と学校の関係について  学ぶ ゲストスピーカー 招聘予定  リーダーシップとフォロアーシップ  鍵となるルールとリレーションをつくる  学習指導計画の大切さと生徒指導のプログラム化  集団の中で個を育てる  諸外国の幼児教育、初等教育との違いについて調べる  防災教育を核とした、地域へ発信する学校  学校教育の変わらぬ意義「人は 人によって 人になる」</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	学校園に出かけ、子どもとふれあい、子どもや学校・保育所の実態を知る						
授業方法	講義・演習						
評価基準と評価方法	平常点（授業態度・レポート） 40% 演習点（興味関心度・表現力） 20% テスト点（子どもを中心に据えた経営論が、立てられているか） 40% 意欲（授業に関心を持ち、懸命に参加する） 知識（教育用語を十分理解している） 適性（教育に関する発言が的確にできる）						
教科書	生徒指導提要（平成22年3月）						
参考書	教育六法						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目								
科目名	教育経営論								
担当教員	根津 隆男								
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	2	単位数	2.0		
授業のテーマ	教育法規や教育行政について学び、子どもたちが、共に学び、共に成長する学級・学校の在り方を明らかにする								
授業の概要	まず、学校教育の歴史を振り返り、1990年代以降の変化する社会状況の中で、現代の学校園教育は如何にあるべきか、教育基本法に立ち返り、学校教育の目的を再考し、教育行政や教育制度が現在の教育法規の基でどのようになっているのかも学習する。その上で、学校教育が担う教育機能は、子どもたちに、知識・技能の習得をさせることだけでなく、心理社会的な発達を援助する側面を重視した学校経営論を構築していく。								
到達目標	現在の幼稚園や保育園の実態を把握して、子どもを中心に据えた学級・学校園経営を考える								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第1回：オリエンテーション  第2回：学校教育の目的  第3回：教育法規  第4回：幼稚園教育要領と保育所保育指針  第5回：教育課程  第6回：子ども理解  第7回：保護者対応  第8回：教育行政と学校  第9回：教職員の組織  第10回：学校経営と心の教育  第11回：学習指導と生徒指導  第12回：育てる教育相談  第13回：海外の教育と比べて  第14回：地域の中の学校  第15回：今学校に求められるもの  定期試験 </td> <td style="vertical-align: top;"> 1990年代以降の子どもたち  教育基本法から探る公教育のねらいと学校に期待されるもの  学校教育法・学校教育法施行規則  子どもの指導の体系として  カリキュラムの必要性和カリキュラムにないもの  子どもは自ら伸びようとする力を持っている  保護者は味方にも敵にもなる  教育行政と学校の関係について学ぶ  リーダーシップとフォロアーシップ  鍵となるルールとリレーションをつくる  学習指導計画の大切さと生徒指導のプログラム化  集団の中で個を育てる  諸外国の幼児教育、初等教育との違いについて調べる  防災教育を核とした、地域へ発信する学校  学校教育の変わらぬ意義「人は人によって 人になる」 </td> </tr> </table>							第1回：オリエンテーション 第2回：学校教育の目的 第3回：教育法規 第4回：幼稚園教育要領と保育所保育指針 第5回：教育課程 第6回：子ども理解 第7回：保護者対応 第8回：教育行政と学校 第9回：教職員の組織 第10回：学校経営と心の教育 第11回：学習指導と生徒指導 第12回：育てる教育相談 第13回：海外の教育と比べて 第14回：地域の中の学校 第15回：今学校に求められるもの 定期試験	1990年代以降の子どもたち 教育基本法から探る公教育のねらいと学校に期待されるもの 学校教育法・学校教育法施行規則 子どもの指導の体系として カリキュラムの必要性和カリキュラムにないもの 子どもは自ら伸びようとする力を持っている 保護者は味方にも敵にもなる 教育行政と学校の関係について学ぶ リーダーシップとフォロアーシップ 鍵となるルールとリレーションをつくる 学習指導計画の大切さと生徒指導のプログラム化 集団の中で個を育てる 諸外国の幼児教育、初等教育との違いについて調べる 防災教育を核とした、地域へ発信する学校 学校教育の変わらぬ意義「人は人によって 人になる」
第1回：オリエンテーション 第2回：学校教育の目的 第3回：教育法規 第4回：幼稚園教育要領と保育所保育指針 第5回：教育課程 第6回：子ども理解 第7回：保護者対応 第8回：教育行政と学校 第9回：教職員の組織 第10回：学校経営と心の教育 第11回：学習指導と生徒指導 第12回：育てる教育相談 第13回：海外の教育と比べて 第14回：地域の中の学校 第15回：今学校に求められるもの 定期試験	1990年代以降の子どもたち 教育基本法から探る公教育のねらいと学校に期待されるもの 学校教育法・学校教育法施行規則 子どもの指導の体系として カリキュラムの必要性和カリキュラムにないもの 子どもは自ら伸びようとする力を持っている 保護者は味方にも敵にもなる 教育行政と学校の関係について学ぶ リーダーシップとフォロアーシップ 鍵となるルールとリレーションをつくる 学習指導計画の大切さと生徒指導のプログラム化 集団の中で個を育てる 諸外国の幼児教育、初等教育との違いについて調べる 防災教育を核とした、地域へ発信する学校 学校教育の変わらぬ意義「人は人によって 人になる」								
授業外における学習（準備学習の内容）	幼稚園や保育園に出かけ、子どもとふれあい、子どもや幼稚園・保育所の実態を知る								
授業方法	講義・演習								
評価基準と評価方法	平常点（授業態度・レポート） 40% 演習点（興味関心度・表現力） 20% テスト点（子どもを中心に据えた経営論が、立てられているか） 40% 意欲（授業に関心を持ち、懸命に参加する） 知識（教育用語を十分理解している） 適性（教育に関する発言が的確にできる）								
教科書	生徒指導提要（平成22年3月）								
参考書									

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育原理						
担当教員	松岡 靖						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	現代日本の教育問題を教育学の概念を使って分析しよう。						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近代的な学校教育制度の成り立ちと構造を説明する。</li> <li>2. 学校化社会を業績原理とジェンダーの視点で考える。</li> <li>3. カウンセリングマインドを手法と背景から理解する。</li> <li>4. 教育評価に関するいくつかの類型論を比較検討する。</li> <li>5. 「教育」をめぐる常識と定義の違いを明らかにする。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. すでに学習してきた内容を教育学の概念で学生が振り返ることができる。</li> <li>2. 教育学理論のうち保育と教育に役立ちそうな部分を学生が活用できる。</li> <li>3. 問いと答え、論理とデータを兼ね備えたレポートを学生が発表できる。</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：授業概要とアイスブレイク</li> <li>2. 高校と大学の違い(1)：皆さんが気づくズレと理由は？</li> <li>3. 高校と大学の違い(2)：学校系統図と就進学率の歴史</li> <li>4. 高校と大学の違い(3)：社会学者が大学生を比べると？</li> <li>5. 学校化社会の戦略(1)：帰属原理と業績原理はどう違う？</li> <li>6. 学校化社会の戦略(2)：女らしさと業績原理の間には？</li> <li>7. 学校化社会の戦略(3)：学校は授業で塾に勝てるか？</li> <li>8. カウンセリングマインド(1)：構成的エンカウンター</li> <li>9. カウンセリングマインド(2)：中国の小学校って？</li> <li>10. 教育評価を振り返る(1)：相対と絶対を比べると？</li> <li>11. 教育評価を振り返る(2)：診断・形成・総括の三段階</li> <li>12. 教育の常識から定義へ(1)：伝統的稽古と近代的教育</li> <li>13. 教育の常識から定義へ(2)：「発達への介入」として</li> <li>14. 教育原論を実践する：グループ発表と相互コメント</li> <li>15. まとめ：レポート返却と成績説明</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教科書を解説しますが各自でも読んでください。</li> <li>2. 参加者が自分の物語をテキストにしてください。</li> <li>3. 最後のレポートに楽しんで取り組んでください。</li> </ol>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前半は教員による教科書の解説を中心に進めます。</li> <li>2. 途中でさまざまな視聴覚教材について議論します。</li> <li>3. 後半は複数のアクティブ・ラーニングを行います。</li> </ol>						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平常点40点（毎回のコメントカード、レポート発表など）</li> <li>2. レポート60点（授業を踏まえて現代日本の教育問題を論じる）</li> </ol>						
教科書	『サヨナラ、学校化社会』上野千鶴子、筑摩書房、978-4-480-42460-0。						
参考書	教科書は指定しつつ、必要な資料を配付し、参考文献も紹介します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育原理						
担当教員	松岡 靖						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	現代日本の教育問題を教育学の概念を使って分析しよう。						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近代的な学校教育制度の成り立ちと構造を説明する。</li> <li>2. 学校化社会を業績原理とジェンダーの視点で考える。</li> <li>3. カウンセリングマインドを手法と背景から理解する。</li> <li>4. 教育評価に関するいくつかの類型論を比較検討する。</li> <li>5. 「教育」をめぐる常識と定義の違いを明らかにする。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. すでに学習してきた内容を教育学の概念で学生が振り返ることができる。</li> <li>2. 教育学理論のうち保育と教育に役立ちそうな部分を学生が活用できる。</li> <li>3. 問いと答え、論理とデータを兼ね備えたレポートを学生が発表できる。</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：授業概要とアイスブレイク</li> <li>2. 高校と大学の違い(1)：皆さんが気づくズレと理由は？</li> <li>3. 高校と大学の違い(2)：学校系統図と就進学率の歴史</li> <li>4. 高校と大学の違い(3)：社会学者が大学生を比べると？</li> <li>5. 学校化社会の戦略(1)：帰属原理と業績原理はどう違う？</li> <li>6. 学校化社会の戦略(2)：女らしさと業績原理の間には？</li> <li>7. 学校化社会の戦略(3)：学校は授業で塾に勝てるか？</li> <li>8. カウンセリングマインド(1)：構成的エンカウンター</li> <li>9. カウンセリングマインド(2)：中国の小学校って？</li> <li>10. 教育評価を振り返る(1)：相対と絶対を比べると？</li> <li>11. 教育評価を振り返る(2)：診断・形成・総括の三段階</li> <li>12. 教育の常識から定義へ(1)：伝統的稽古と近代的教育</li> <li>13. 教育の常識から定義へ(2)：「発達への介入」として</li> <li>14. 教育原論を実践する：グループ発表と相互コメント</li> <li>15. まとめ：レポート返却と成績説明</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教科書を解説しますが各自でも読んでください。</li> <li>2. 参加者が自分の物語をテキストにしてください。</li> <li>3. 最後のレポートに楽しんで取り組んでください。</li> </ol>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前半は教員による教科書の解説を中心に進めます。</li> <li>2. 途中でさまざまな視聴覚教材について議論します。</li> <li>3. 後半は複数のアクティブ・ラーニングを行います。</li> </ol>						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平常点40点（毎回のコメントカード、レポート発表など）</li> <li>2. レポート60点（授業を踏まえて現代日本の教育問題を論じる）</li> </ol>						
教科書	『サヨナラ、学校化社会』上野千鶴子、筑摩書房、978-4-480-42460-0。						
参考書	教科書は指定しつつ、必要な資料を配付し、参考文献も紹介します。						



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育心理学						
担当教員	藤本 浩一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの発達の理解と学習支援						
授業の概要	教職活動を行うためには実習などの経験に加えて知識の枠組みが有用である。心理学的知識を修得し、子どもを理解し受容する姿勢を養うことにつなげる。内容としては、子どもの認知・言語・社会性の発達についての理解、学習の動機づけや認知プロセス、学級集団、教師の力量、人格理論と心理検査および心理療法、不適応児の指導と発達アンバランス（発達障害）、特別支援教育、教育評価などである。						
到達目標	子どもの発達と記憶・学習に関する知識を整理できる。それらを教育場面に応用すればどうなるかを説明できる社会性の発達を学び、そこから不適応や「いじめ」について考察し、対処法を説明できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「教育活動」学ぶ楽しさとは何か。知識獲得の方法</li> <li>2. 生涯発達の心理学（1）初期経験・乳幼児期</li> <li>3. 生涯発達の心理学（2）児童期・青年期から成人期まで</li> <li>4. 社会性の発達と「いじめ」 対人関係の発達と「いじめ」の関連を探る</li> <li>5. 発達障害（1） 発達障害に関する正しい知識と取り組みの姿勢 LD、ADHD</li> <li>6. 発達障害（2） 自閉症の特徴と支援の方法</li> <li>7. 学習と記憶 記憶活動の仕組みを教育との関連で紹介する。</li> <li>8. 「「わかる」ことのプロセス」 知識を覚えるだけでなく「わかる」ことの過程を検討する。</li> <li>9. 人との関わり、社会との関わり</li> <li>10. 不適応 不登校・ひきこもりなど、教育現場での不適応について、原因や対処法を学ぶ。</li> <li>11. 「知能」 知能観を検討しつつ、頭の良さとは何かを考える。</li> <li>12. 「心理アセスメント」 教育現場で有効な心理査定について、知能テストや性格テストを実習し概説する。</li> <li>13. 「教師心理」 教師のストレスや教師のリーダーシップと学級経営の関係について。</li> <li>14. 「学級集団」 集団としての学級の性質を社会心理学の観点から学ぶ。</li> <li>15. 「復習と評価」 半期授業内容の復習と確認。記述式の筆記試験を行う（持ち込み不可）。</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に書きとめたノートを復習し、予告された各回の授業内容に関してインターネットや文献などで下調べを行う。						
授業方法	講義、討論、視聴覚教材						
評価基準と評価方法	授業中に簡単な提出物を課す（50%）。記述式テストを学期末に行う（50%）。なお、履修カルテについては「意欲」「知識」「適性」の3つの観点で評価する。						
教科書							
参考書	タイトルに「教育心理学」を含む書物						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育心理学						
担当教員	藤本 浩一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの発達の理解と学習支援						
授業の概要	教職活動を行うためには実習などの経験に加えて知識の枠組みが有用である。心理学的知識を修得し、子どもを理解し受容する姿勢を養うことにつなげる。内容としては、子どもの認知・言語・社会性の発達についての理解、学習の動機づけや認知プロセス、学級集団、教師の力量、人格理論と心理検査および心理療法、不適応児の指導と発達アンバランス（発達障害）、特別支援教育、教育評価などである。						
到達目標	子どもの発達と記憶・学習に関する知識を整理できる。それらを教育場面に応用すればどうなるかを説明できる社会性の発達を学び、そこから不適応や「いじめ」について考察し、対処法を説明できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「教育活動」学ぶ楽しさとは何か。知識獲得の方法</li> <li>2. 生涯発達の心理学（1）初期経験・乳幼児期</li> <li>3. 生涯発達の心理学（2）児童期・青年期から成人期まで</li> <li>4. 社会性の発達と「いじめ」 対人関係の発達と「いじめ」の関連を探る</li> <li>5. 発達障害（1） 発達障害に関する正しい知識と取り組みの姿勢 LD、ADHD</li> <li>6. 発達障害（2） 自閉症の特徴と支援の方法</li> <li>7. 学習と記憶 記憶活動の仕組みを教育との関連で紹介する。</li> <li>8. 「「わかる」ことのプロセス」 知識を覚えるだけでなく「わかる」ことの過程を検討する。</li> <li>9. 人との関わり、社会との関わり</li> <li>10. 不適応 不登校・ひきこもりなど、教育現場での不適応について、原因や対処法を学ぶ。</li> <li>11. 「知能」 知能観を検討しつつ、頭の良さとは何かを考える。</li> <li>12. 「心理アセスメント」 教育現場で有効な心理査定について、知能テストや性格テストを実習し概説する。</li> <li>13. 「教師心理」 教師のストレスや教師のリーダーシップと学級経営の関係について。</li> <li>14. 「学級集団」 集団としての学級の性質を社会心理学の観点から学ぶ。</li> <li>15. 「復習と評価」 半期授業内容の復習と確認。記述式の筆記試験を行う（持ち込み不可）。</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に書きとめたノートを復習し、予告された各回の授業内容に関してインターネットや文献などで下調べを行う。						
授業方法	講義、討論、視聴覚教材						
評価基準と評価方法	授業中に簡単な提出物を課す（50%）。記述式テストを学期末に行う（50%）。なお、履修カルテについては「意欲」「知識」「適性」の3つの観点で評価する。						
教科書							
参考書	タイトルに「教育心理学」を含む書物						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習I						
担当教員	井上 知子						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	効果的な教育実習を行う。						
授業の概要	幼稚園教育実習で直接幼児とかかわり、実習園の教員の指導を通して、幼児理解を深めながら教育の実際を体験する。 実習期間中は教育内容等を記録し、実習園の担当教員の指導を受ける。						
到達目標	幼稚園教育の現場で教育実習を体験することにより、幼稚園教諭としての仕事内容や役割、保育の楽しさを知ることができる。これまで学んできた教科の知識や技能を自分の立てた計画に沿ってに実践の場で使ってみることができる。						
授業計画	<p>授業のほとんどは、実習園で行われる。授業内容は下記の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習園訪問 (実習園へのあいさつ、実習園でのオリエンテーション、担当クラス・教材等の確認)</li> <li>・教育実習 (見学、観察、参加実習、実習記録の記入等)</li> <li>・責任実習 (部分実習、研究実習、半日実習、全日実習等)</li> <li>・責任実習の反省会 (自己評価、実習園長・指導教員からの指導助言等)</li> <li>・事後指導 (自己評価、実習記録の整理と提出)</li> </ul>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>授業前学習: 目標に迫るための模擬保育や教材研究などを行う。          授業後学習: 課題解決に向けて、ボランティア等で積極的に保育現場とかかわる。</p>						
授業方法	実習園における教育実習						
評価基準と評価方法	<p>実習園における勤務状況、実習の成績評価等 50%          教育実習の記録等の評価 50% を総合して評価する。</p>						
教科書	<p>「実習の手引き」神戸松蔭女子学院大学 人間科学部 子ども発達学科          教育実習指導で配布したプリント</p>						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習I						
担当教員	根津 隆男						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	効果的な教育実習を行う						
授業の概要	小学校教育実習で、直接、児童と触れ合うことを通して、子ども理解を深め、実習校園の教師の指導の下で、教育の実際を体験する。実習期間中は教育内容等を記録して、実習校園の担当教員の指導を受ける。						
到達目標	幼稚園・小学校教育の現場で、教育実習を体験することにより、これまで学習してきた教科の知識・技能を、現実の小学校教諭としての仕事内容や役割など、実践を通して学び、児童理解をさらに深め、小学校教員としての教育観をもつ。						
授業計画	<p>授業のほとんどは、実習校園で行われる。授業内容は、下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習校園訪問 (実習校園へのあいさつ・実習校園でのオリエンテーション・担当クラス、教材等の確認)</li> <li>・教育実習 (見学、観察、参加実習、実習記録の記入等)</li> <li>・研究授業 (研究保育・代表授業等)</li> <li>・研究事業の反省会 (研究授業後の自己評価、実習校園長、指導教員等からの指導助言)</li> <li>・事後指導 (自己評価、実習記録の整理と提出)</li> </ul>						
授業外における学習(準備学習の内容)	目標に迫るための模擬授業(保育)をする。課題解決に向けて、学校園現場に積極的に関わる。						
授業方法	実習校園における実習						
評価基準と評価方法	<p>実習校園における勤務状況、実習の成績評価 50%</p> <p>教育実習の記録等の評価 50% を総合して評価する</p>						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目																																																			
科目名	教育実習指導																																																			
担当教員	井上 知子																																																			
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3~4	単位数	1.0																																													
授業のテーマ	幼稚園現場の実態把握と実践を通じた幼児理解を的確に行える教育実習を目指す																																																			
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生が、これまで学んできた専門的な理論や技能、教職科目・一般教育科目の理論や知識を教育現場で実践に結び付ける貴重な体験の場である。 教育実習の意義と目的を確認し、教育者としての自覚と責任感を持ち、教育実習に対する意欲と心構えをもつ。 また、模擬保育をしたり見たりすることで、心に余裕をもって実践にあたる準備をする。																																																			
到達目標	模擬保育を経験して、活動や教材に対する理解を深める。 教員として、また社会人としての態度などを身に付け、安定して教育実習に臨めるようにする。 教育実習に対する興味・関心・意欲を高める。																																																			
授業計画	<p>(事前指導)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>:教育実習の概要 幼稚園のデイリープログラム</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>教育実習の意義と心得</td> <td>:幼稚園教育の基礎・基本 実習生としての自覚と心得</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>教育実習の心構え</td> <td>:教材研究と準備 保育指導案の書き方</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>保育指導(1)</td> <td>:絵本の読み聞かせ (ゲストスピーカー招聘)</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>保育指導(2)</td> <td>:模擬保育とディスカッション 保育指導案の書き方</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>保育指導(3)</td> <td>:模擬保育とディスカッション 実習記録の書き方</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>保育指導(4)</td> <td>:模擬保育とディスカッション エピソード記録について</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>保育指導(5)</td> <td>:模擬保育とディスカッション 幼稚園における環境整備</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>保育指導(6)</td> <td>:模擬保育とディスカッション 幼稚園における子育て支援の実際</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>保育指導(7)</td> <td>:模擬保育とディスカッション 特別な支援を必要とする幼児の指導</td> </tr> </table> <p>(事後指導)</p> <table border="0"> <tr> <td>第11回</td> <td>実習の振り返り(1)</td> <td>:チェックリストに基づいての自己評価</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>実習の振り返り(2)</td> <td>:学習内容の整理 教育観を確認する</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>実習の振り返り(3)</td> <td>:今後の課題と課題解決に向けて</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>危機管理</td> <td>:安全管理と保護者対応</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>園内研修のあり方</td> <td>:教師集団の一員として</td> </tr> </table>							第1回	オリエンテーション	:教育実習の概要 幼稚園のデイリープログラム	第2回	教育実習の意義と心得	:幼稚園教育の基礎・基本 実習生としての自覚と心得	第3回	教育実習の心構え	:教材研究と準備 保育指導案の書き方	第4回	保育指導(1)	:絵本の読み聞かせ (ゲストスピーカー招聘)	第5回	保育指導(2)	:模擬保育とディスカッション 保育指導案の書き方	第6回	保育指導(3)	:模擬保育とディスカッション 実習記録の書き方	第7回	保育指導(4)	:模擬保育とディスカッション エピソード記録について	第8回	保育指導(5)	:模擬保育とディスカッション 幼稚園における環境整備	第9回	保育指導(6)	:模擬保育とディスカッション 幼稚園における子育て支援の実際	第10回	保育指導(7)	:模擬保育とディスカッション 特別な支援を必要とする幼児の指導	第11回	実習の振り返り(1)	:チェックリストに基づいての自己評価	第12回	実習の振り返り(2)	:学習内容の整理 教育観を確認する	第13回	実習の振り返り(3)	:今後の課題と課題解決に向けて	第14回	危機管理	:安全管理と保護者対応	第15回	園内研修のあり方	:教師集団の一員として
第1回	オリエンテーション	:教育実習の概要 幼稚園のデイリープログラム																																																		
第2回	教育実習の意義と心得	:幼稚園教育の基礎・基本 実習生としての自覚と心得																																																		
第3回	教育実習の心構え	:教材研究と準備 保育指導案の書き方																																																		
第4回	保育指導(1)	:絵本の読み聞かせ (ゲストスピーカー招聘)																																																		
第5回	保育指導(2)	:模擬保育とディスカッション 保育指導案の書き方																																																		
第6回	保育指導(3)	:模擬保育とディスカッション 実習記録の書き方																																																		
第7回	保育指導(4)	:模擬保育とディスカッション エピソード記録について																																																		
第8回	保育指導(5)	:模擬保育とディスカッション 幼稚園における環境整備																																																		
第9回	保育指導(6)	:模擬保育とディスカッション 幼稚園における子育て支援の実際																																																		
第10回	保育指導(7)	:模擬保育とディスカッション 特別な支援を必要とする幼児の指導																																																		
第11回	実習の振り返り(1)	:チェックリストに基づいての自己評価																																																		
第12回	実習の振り返り(2)	:学習内容の整理 教育観を確認する																																																		
第13回	実習の振り返り(3)	:今後の課題と課題解決に向けて																																																		
第14回	危機管理	:安全管理と保護者対応																																																		
第15回	園内研修のあり方	:教師集団の一員として																																																		
授業外における学習(準備学習の内容)	ボランティア等、幼稚園現場とのかかわりを積極的にもつ。																																																			
授業方法	講義 演習																																																			
評価基準と評価方法	授業態度(興味・関心 等) 50% 提出物(実習に向けて、模擬保育指導案、実習報告 等) 50%を総合して評価する。																																																			
教科書	「教育実習の手引き」(神戸松蔭女子学院大学作成版)																																																			
参考書	幼稚園教育要領解説 文部科学省																																																			

科目区分	子ども発達学科専門教育科目																																																			
科目名	教育実習指導																																																			
担当教員	井上 知子																																																			
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3~4	単位数	1.0																																													
授業のテーマ	幼稚園現場の実態把握と実践を通した幼児理解を的確に行える教育実習を目指す																																																			
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生が、これまで学んできた専門的な理論や技能、教職科目・一般教育科目の理論や知識を教育現場で実践に結び付ける貴重な体験の場である。 教育実習の意義と目的を確認し、教育者としての自覚と責任感を持ち、教育実習に対する意欲と心構えをもつ。 また、模擬保育をしたり見たりすることで、心に余裕をもって実践にあたる準備をする。																																																			
到達目標	模擬保育を経験して、活動や教材に対する理解を深める。 教員として、また社会人としての態度などを身に付け、安定して教育実習に臨めるようにする。 教育実習に対する興味・関心・意欲を高める。																																																			
授業計画	<p>(事前指導)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>:教育実習の概要 幼稚園のデイリープログラム</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>教育実習の意義と心得</td> <td>:幼稚園教育の基礎・基本 実習生としての自覚と心得</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>教育実習の心構え</td> <td>:教材研究と準備 保育指導案の書き方</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>保育指導(1)</td> <td>:絵本の読み聞かせ (ゲストスピーカー招聘)</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>保育指導(2)</td> <td>:模擬保育とディスカッション 保育指導案の書き方</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>保育指導(3)</td> <td>:模擬保育とディスカッション 実習記録の書き方</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>保育指導(4)</td> <td>:模擬保育とディスカッション エピソード記録について</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>保育指導(5)</td> <td>:模擬保育とディスカッション 幼稚園における環境整備</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>保育指導(6)</td> <td>:模擬保育とディスカッション 幼稚園における子育て支援の実際</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>保育指導(7)</td> <td>:模擬保育とディスカッション 特別な支援を必要とする幼児の指導</td> </tr> </table> <p>(事後指導)</p> <table border="0"> <tr> <td>第11回</td> <td>実習の振り返り(1)</td> <td>:チェックリストに基づいての自己評価</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>実習の振り返り(2)</td> <td>:学習内容の整理 教育観を確認する</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>実習の振り返り(3)</td> <td>:今後の課題と課題解決に向けて</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>危機管理</td> <td>:安全管理と保護者対応</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>園内研修のあり方</td> <td>:教師集団の一員として</td> </tr> </table>							第1回	オリエンテーション	:教育実習の概要 幼稚園のデイリープログラム	第2回	教育実習の意義と心得	:幼稚園教育の基礎・基本 実習生としての自覚と心得	第3回	教育実習の心構え	:教材研究と準備 保育指導案の書き方	第4回	保育指導(1)	:絵本の読み聞かせ (ゲストスピーカー招聘)	第5回	保育指導(2)	:模擬保育とディスカッション 保育指導案の書き方	第6回	保育指導(3)	:模擬保育とディスカッション 実習記録の書き方	第7回	保育指導(4)	:模擬保育とディスカッション エピソード記録について	第8回	保育指導(5)	:模擬保育とディスカッション 幼稚園における環境整備	第9回	保育指導(6)	:模擬保育とディスカッション 幼稚園における子育て支援の実際	第10回	保育指導(7)	:模擬保育とディスカッション 特別な支援を必要とする幼児の指導	第11回	実習の振り返り(1)	:チェックリストに基づいての自己評価	第12回	実習の振り返り(2)	:学習内容の整理 教育観を確認する	第13回	実習の振り返り(3)	:今後の課題と課題解決に向けて	第14回	危機管理	:安全管理と保護者対応	第15回	園内研修のあり方	:教師集団の一員として
第1回	オリエンテーション	:教育実習の概要 幼稚園のデイリープログラム																																																		
第2回	教育実習の意義と心得	:幼稚園教育の基礎・基本 実習生としての自覚と心得																																																		
第3回	教育実習の心構え	:教材研究と準備 保育指導案の書き方																																																		
第4回	保育指導(1)	:絵本の読み聞かせ (ゲストスピーカー招聘)																																																		
第5回	保育指導(2)	:模擬保育とディスカッション 保育指導案の書き方																																																		
第6回	保育指導(3)	:模擬保育とディスカッション 実習記録の書き方																																																		
第7回	保育指導(4)	:模擬保育とディスカッション エピソード記録について																																																		
第8回	保育指導(5)	:模擬保育とディスカッション 幼稚園における環境整備																																																		
第9回	保育指導(6)	:模擬保育とディスカッション 幼稚園における子育て支援の実際																																																		
第10回	保育指導(7)	:模擬保育とディスカッション 特別な支援を必要とする幼児の指導																																																		
第11回	実習の振り返り(1)	:チェックリストに基づいての自己評価																																																		
第12回	実習の振り返り(2)	:学習内容の整理 教育観を確認する																																																		
第13回	実習の振り返り(3)	:今後の課題と課題解決に向けて																																																		
第14回	危機管理	:安全管理と保護者対応																																																		
第15回	園内研修のあり方	:教師集団の一員として																																																		
授業外における学習(準備学習の内容)	ボランティア等、幼稚園現場とのかかわりを積極的にもつ。																																																			
授業方法	講義 演習																																																			
評価基準と評価方法	授業態度(興味・関心 等) 50% 提出物(実習に向けて、模擬保育指導案、実習報告 等) 50%を総合して評価する。																																																			
教科書	「教育実習の手引き」(神戸松蔭女子学院大学作成版)																																																			
参考書	幼稚園教育要領解説 文部科学省																																																			

科目区分	子ども発達学科専門教育科目																																				
科目名	教育実習指導																																				
担当教員	根津 隆男																																				
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	1.0																														
授業のテーマ	「学校現場の実態把握を的確にする教育実習を目指す」																																				
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生がこれまでに学んできた専門的な理論や技術、教職科目・一般教育科目の理論や知識を、教育現場で実践に結び付ける貴重な体験の場である。 まず教育実習の意義と目的を認識し、教育者としての使命感と自覚を強く持ち、教育実習に対する心構えをしっかりと持つ。また、学校園・子どもたちの実態を把握し、理想と現実をより近いものにしていく。																																				
到達目標	模擬実習を経験して、子供・教職員へのあいさつの仕方や子供が主体となる授業・保育づくりなどを学び、教育実習に対する興味・関心、意欲を高める。																																				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回：オリエンテーション</td> <td>：教育実習の概要</td> </tr> <tr> <td>第2回：教育実習の意地</td> <td>：教育実習の目的</td> </tr> <tr> <td>第3回：子どもたち・学校園の実態</td> <td>：最近の学校園、子どもたちの実態把握</td> </tr> <tr> <td>第4回：教育実習に向けての心構え</td> <td>：記録の書き方</td> </tr> <tr> <td>第5回：学校園の生活</td> <td>：1日の生活時程の把握</td> </tr> <tr> <td>第6回：学習指導①</td> <td>：授業の基本・教材研究と指導計画の作成</td> </tr> <tr> <td>第7回：学習指導②</td> <td>：学習指導案の作成・模擬授業</td> </tr> <tr> <td>第8回：危機管理</td> <td>：生徒指導・保護者対応</td> </tr> <tr> <td>第9回：模擬実習①</td> <td>：模擬授業・生徒指導とロールプレイ</td> </tr> <tr> <td>第10回：模擬実習②</td> <td>：模擬授業・学習展開の実際</td> </tr> <tr> <td>第11回：教育観①</td> <td>：友達の感想を知り、自己の教育観を再考する</td> </tr> <tr> <td>第12回：教育観②</td> <td>：グループで実習後の教育観を交換し、全体で発表する</td> </tr> <tr> <td>第13回：教育観③</td> <td>：今後の課題</td> </tr> <tr> <td>第14回：教育観④</td> <td>：震災から学ぶ防災教育</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめ</td> <td>：子どもの前に立つて</td> </tr> </table>							第1回：オリエンテーション	：教育実習の概要	第2回：教育実習の意地	：教育実習の目的	第3回：子どもたち・学校園の実態	：最近の学校園、子どもたちの実態把握	第4回：教育実習に向けての心構え	：記録の書き方	第5回：学校園の生活	：1日の生活時程の把握	第6回：学習指導①	：授業の基本・教材研究と指導計画の作成	第7回：学習指導②	：学習指導案の作成・模擬授業	第8回：危機管理	：生徒指導・保護者対応	第9回：模擬実習①	：模擬授業・生徒指導とロールプレイ	第10回：模擬実習②	：模擬授業・学習展開の実際	第11回：教育観①	：友達の感想を知り、自己の教育観を再考する	第12回：教育観②	：グループで実習後の教育観を交換し、全体で発表する	第13回：教育観③	：今後の課題	第14回：教育観④	：震災から学ぶ防災教育	第15回：まとめ	：子どもの前に立つて
第1回：オリエンテーション	：教育実習の概要																																				
第2回：教育実習の意地	：教育実習の目的																																				
第3回：子どもたち・学校園の実態	：最近の学校園、子どもたちの実態把握																																				
第4回：教育実習に向けての心構え	：記録の書き方																																				
第5回：学校園の生活	：1日の生活時程の把握																																				
第6回：学習指導①	：授業の基本・教材研究と指導計画の作成																																				
第7回：学習指導②	：学習指導案の作成・模擬授業																																				
第8回：危機管理	：生徒指導・保護者対応																																				
第9回：模擬実習①	：模擬授業・生徒指導とロールプレイ																																				
第10回：模擬実習②	：模擬授業・学習展開の実際																																				
第11回：教育観①	：友達の感想を知り、自己の教育観を再考する																																				
第12回：教育観②	：グループで実習後の教育観を交換し、全体で発表する																																				
第13回：教育観③	：今後の課題																																				
第14回：教育観④	：震災から学ぶ防災教育																																				
第15回：まとめ	：子どもの前に立つて																																				
授業外における学習（準備学習の内容）	ボランティアなど、学校園現場とのかかわりを積極的にもつ																																				
授業方法	講義・演習																																				
評価基準と評価方法	<table border="0"> <tr> <td>授業態度（興味・関心度等）</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>提出物（実習計画・実習反省・指導案等）</td> <td>50%</td> </tr> </table>							授業態度（興味・関心度等）	50%	提出物（実習計画・実習反省・指導案等）	50%																										
授業態度（興味・関心度等）	50%																																				
提出物（実習計画・実習反省・指導案等）	50%																																				
教科書	教育実習の手引き（神戸松蔭女子学院大学作成）																																				
参考書	小学校学習指導要領解説総則編（平成20年版）																																				

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育相談						
担当教員	根津 隆男						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	学級経営・生徒指導上の問題対応できる予防的開発的教育相談						
授業の概要	学校教育現場においては、児童個人に対して、治療的教育相談だけでなく、学級経営上・生徒指導上の対応できる予防的開発的教育相談の必要性が高まっている。本講義では、教師として身につけたい教育相談の知識と手法について知り、事例研究やグループワーク・ロールプレイを通して児童支援の実際を理解していく。						
到達目標	個々の児童の治療的教育相談だけでなく、学級経営・生徒指導上の問題について理解し、集団を対象として予防的開発的教育相談について知識の理解と手法の獲得を通して、教師としての児童理解の姿勢とスキルを身につけると同時に、生徒指導との関連で考えることが出来るようにする。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 構成的グループエンカウンターを通して、対人関係上の問題について理解を図る 第2回：現代の子どもの問題 教師に必要な学校教育相談（「生徒指導提要」から） 第3回：ピアヘルピングと青年期の課題 第4回：教育相談の理論と方法（1）精神分析良穂、来談者中心療法、 第5回：教育相談の理論と方法（2）認知行動療法、論理療法 第6回：教育相談の理論と方法（3）折衷主義 コーヒーカップ方式、ブリーフセラピー 第7回：教育相談の個別支援（1）不登校といじめ 第8回：教育相談の個別支援（2）保護者対応と問題への対処法 第9回：仲間同士の教育相談…ピアヘルピングとカウンセリングの違い 第10回：カウンセリングスキル（1）言語的技法について 第11回：カウンセリングスキル（2）非言語的技法と対話上の諸問題への対処法 第12回：予防的開発的教育相談（1）構成的グループエンカウンター 第13回：予防的開発的教育相談（2）社会的スキル教育 第14回：予防的開発的教育相談（3）アサーショントレーニングと 第15回：まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	事例研究やグループワーク・ロールプレイを中心に授業を進めるので、積極的な参加する姿勢を望む						
授業方法	講義と事例研究やグループワーク・ロールプレイなど参加型のプログラムを実施していく						
評価基準と評価方法	平常点 30% レポート30% 試験 40%						
教科書	ピアヘルパーハンドブック 図書文化 ピアヘルパーガイドブック 図書文化						
参考書	國分康孝監修（1999）「構成的グループエンカウンターで子どもが変わるショートエクササイズ集」図書文化 國分康孝監修 小林正幸・相川充編（1999）「ソーシャルスキル教育で子どもが変わる」図書文化 中村豊（2013）「子どもの基礎的人間力養成のための積極的生徒指導 児童生徒における社会性の育ちそびれの考察」学事出版						



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育の方法と技術						
担当教員	大下 卓司						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	教育方法・教育技術を知り、習得する						
授業の概要	学校で行われるさまざまな教育やその背後にある教育学的知見、心理学的知見、法規的規程、教師としての経験、子どもの学びに着目し、それらに存在する教育方法、教育技術を知り、教師として今後これらを駆使する能力を育成する。また、幼稚園教諭の実践を合わせて取り上げることで、子どもの発達段階と学習の関係を考察する。						
到達目標	(1) これまでの教育課程においてどのような能力の形成が目指されていたのかを理解できる (2) 授業を教える立場からとらえ、教授と学習の関係について理解できる (3) 教育方法及び教育技術について理解できる						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：学校の組織と授業について</p> <p>第2回 学習指導要領の変遷：日本の教育の変遷について</p> <p>第3回 教育課程と授業：教育課程の法的規程について</p> <p>第4回 授業の構成要素：教育目標・教材・教授行為・学習形態と、その実践</p> <p>第5回 学習指導案とは何か：学習指導案の作成と教材研究について</p> <p>第6回 教育の評価：教育評価の役割と評価方法（観察を含む）、評価の留意点（発達段階等）について学ぶ。</p> <p>第7回 子どもの学びと教育方法：アクティブラーニングを取り入れた授業</p> <p>第8回 教育実践事例の検討（1）：子どもをひきつける教材や学習形態のあり方について考える。</p> <p>第9回 教育実践事例の検討（2）：「総合的な学習の時間」を通じて、学習での直接経験の役割を理解する。</p> <p>第10回 情報機器の活用した授業：情報活用能力を育成する、ICTを取り入れた効果的な授業方法について学ぶ。</p> <p>第11回 学習指導案づくり（1）：グループを作成し、単元計画を中心に学習指導案を実際に作成してみる。</p> <p>第12回 学習指導案づくり（2）：グループで本時の展開を中心に学習指導案を作成する。</p> <p>第13回 模擬授業発表会（1）：グループで役割分担を行い、学習指導案を模擬授業として発表する。</p> <p>第14回 模擬授業発表会（2）：グループで役割分担を行い、学習指導案を模擬授業として発表する。</p> <p>第15回 まとめと教育改革の動向：能力ベースのカリキュラム、アクティブラーニングなど教育改革の動向について学ぶ。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前に前の授業で配布した資料の該当箇所を読み、理解できなかったことをメモしておくこと。 授業で配布した資料や自分の記録を読み返し、理解を深めること。 学習指導案作成による模擬授業の計画・実施を通じて、体験的に学習を深めること。学習指導案はPCで作成し、教師の仕事の一端を体験する。						
授業方法	講義、演習、視聴覚教材						
評価基準と評価方法	模擬授業の発表および作成した学習指導案60%、授業毎の課題20%、レポート20%で評価を行う。 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行う。						
教科書	授業時に適宜、資料として配布する。						
参考書	『よくわかる授業論』、田中耕治編、ミネルヴァ書房、ISBN: 978-4-623-04332-3 『新しい時代の教育方法』、田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之著、有斐閣、ISBN: 978-4130513203						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育の方法と技術						
担当教員	大下 卓司						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	教育方法・教育技術を知り、習得する						
授業の概要	学校で行われるさまざまな教育やその背後にある教育学的知見、心理学的知見、法規的規程、教師としての経験、子どもの学びに着目し、それらに存在する教育方法、教育技術を知り、教師として今後これらを駆使する能力を育成する。また、幼稚園教諭の実践を合わせて取り上げることで、子どもの発達段階と学習の関係を考察する。						
到達目標	(1) これまでの教育課程においてどのような能力の形成が目指されていたのかを理解できる (2) 授業を教える立場からとらえ、教授と学習の関係について理解できる (3) 教育方法及び教育技術について理解できる						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：学校の組織と授業について</p> <p>第2回 学習指導要領の変遷：日本の教育の変遷について</p> <p>第3回 教育課程と授業：教育課程の法的規程について</p> <p>第4回 授業の構成要素：教育目標・教材・教授行為・学習形態と、その実践</p> <p>第5回 学習指導案とは何か：学習指導案の作成と教材研究について</p> <p>第6回 教育の評価：教育評価の役割と評価方法（観察を含む）、評価の留意点（発達段階等）について学ぶ。</p> <p>第7回 子どもの学びと教育方法：アクティブラーニングを取り入れた授業</p> <p>第8回 教育実践事例の検討（1）：子どもをひきつける教材や学習形態のあり方について考える。</p> <p>第9回 教育実践事例の検討（2）：「総合的な学習の時間」を通じて、学習での直接経験の役割を理解する。</p> <p>第10回 情報機器の活用した授業：情報活用能力を育成する、ICTを取り入れた効果的な授業方法について学ぶ。</p> <p>第11回 学習指導案づくり（1）：グループを作成し、単元計画を中心に学習指導案を実際に作成してみる。</p> <p>第12回 学習指導案づくり（2）：グループで本時の展開を中心に学習指導案を作成する。</p> <p>第13回 模擬授業発表会（1）：グループで役割分担を行い、学習指導案を模擬授業として発表する。</p> <p>第14回 模擬授業発表会（2）：グループで役割分担を行い、学習指導案を模擬授業として発表する。</p> <p>第15回 まとめと教育改革の動向：能力ベースのカリキュラム、アクティブラーニングなど教育改革の動向について学ぶ。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前に前の授業で配布した資料の該当箇所を読み、理解できなかったことをメモしておくこと。 授業で配布した資料や自分の記録を読み返し、理解を深めること。 学習指導案作成による模擬授業の計画・実施を通じて、体験的に学習を深めること。学習指導案はPCで作成し、教師の仕事の一端を体験する。						
授業方法	講義、演習、視聴覚教材						
評価基準と評価方法	模擬授業の発表および作成した学習指導案60%、授業毎の課題20%、レポート20%で評価を行う。 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行う。						
教科書	授業時に適宜、資料として配布する。						
参考書	『よくわかる授業論』、田中耕治編、ミネルヴァ書房、ISBN: 978-4-623-04332-3 『新しい時代の教育方法』、田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之著、有斐閣、ISBN: 978-4130513203						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	内田 祐貴						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における理科教育について、知識技術を深め、理科の得意な教員を目指す。						
授業の概要	理科指導法をうけ、さらに各学年の理科で扱うそれぞれの内容に対して、具体的な授業案や教材を作成できるための準備として、より深く、理科教育法について学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校理科の授業、特に実験授業の指導をできる</li> <li>・教材作成のための、資料準備や資料活用をできる</li> <li>・教員採用試験で理科が得意だとアピールできる</li> </ul>						
授業計画	第01回 オリエンテーション 第02回 生物の育成観察について 第03回 3年生「物と重さ」学習内容と実験 第04回 3年生「物と重さ」模擬授業 第05回 3年生「風やゴムの働き」学習内容と実験 第06回 3年生「風やゴムの働き」模擬授業 第07回 博物館、科学館教育について 第08回 3年生「磁石の性質」学習内容と実験 第09回 3年生「磁石の性質」模擬授業 第10回 3年生「電気の通り道」学習内容と実験 第11回 3年生「電気の通り道」模擬授業 第12回 4年生「空気と水の性質」学習内容と実験 第13回 4年生「空気と水の性質」模擬授業 第14回 4年生「金属、水、空気と温度」学習内容と実験 第15回 4年生「金属、水、空気と温度」模擬授業 デジタル教材の使い方や、アクティブラーニング、先行事例研究などもこれらの具体的な単元を使いながら行っていきます。						
授業外における学習（準備学習の内容）	博物館教育として水族館や青少年科学館での子どもの学習について考える。最近の理科教育について興味をもったものを調べておく。						
授業方法	講義と発表、実験実習、提出物の作成						
評価基準と評価方法	提出物など(60)を主資料として取り組みの熱意、平常点など(40)を考慮する						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	大下 卓司						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	関心を持った教育実践や教育問題に沿って各自が内容を掘り下げる						
授業の概要	学生が、各自の興味・関心に応じて文献（教育方法学の理論書、実践記録など）を選び、毎回の授業で交代で発表し、発表内容について学生全員で議論する。教員も議論に加わり、補足説明や論点の提示を適宜行う。授業の進め方は、「教育発達演習A」の延長ではあるが、4年次の「卒業研究」に向けての準備とすべく、追求したい問題の立て方、そのための文献の選び方、そこからの論点の取り出し方などについて指導する。また、問いと追求と答えという三要素を備えたレポートも作成できることをめざす。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年次の「卒業研究」に向けての準備とすべく、追求したい問題の立て方、そのための文献の選び方、そこからの論点の取り出し方などを身につける</li> <li>・問いと追求と答えという三要素を備えたレポートも作成できるようになる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 レポート返却およびコメント 第2回 テキストの内容と使用方法に関する説明、より伝わるレポートの書き方の指導 第3回 「教育発達演習A」のレポートの調査を深め、報告を行い、相互に検討する 第4回 「教育発達演習A」のレポートの調査を深め、報告を行い、相互に検討する 第5回 「教育発達演習A」のレポートの調査を深め、報告を行い、相互に検討する 第6回 テキスト発表とディスカッション 第7回 テキスト発表とディスカッション 第8回 テキスト発表とディスカッション 第9回 テキスト発表とディスカッション 第10回 テキスト発表のまとめ 第11回 自由テーマによる発表とディスカッション 第12回 自由テーマによる発表とディスカッション 第13回 自由テーマによる発表とディスカッション 第14回 自由テーマによる発表とディスカッション 第15回 総括討論						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前半は視聴覚教材も使いながら、今日的な教育問題に関する議論を行い、学校教育への理解を深める</li> <li>・後半は、自分のテーマについて事前に調べる。発表者以外の学生も、発表者のテーマに沿った基本資料を、発表者と相談したうえで指示する。</li> </ul>						
授業方法	レジュメの作成・発表と全体討論。議論の深まりに応じて、学外の社会教育施設や小学校等による公開研究会で学ぶ。						
評価基準と評価方法	授業毎の50%とレポート課題50%で評価する。						
教科書	授業中に適宜指示をする						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	奥 美佐子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもと美術 I						
授業の概要	美術教育では表現と鑑賞における相互の関係を重視している。美術の表現と鑑賞に関わるテーマを設定して、材料研究、文献や美術作品及び子どもの作品を介して、意見の相互交換を行う。アウトサイダーアートなど現代の美術及び美術教育の動向を共有し、文献購読、作品鑑賞、実践研究から子どもの造形行為の読み取りや子ども理解に関する課題を見出し、課題解決の道筋で子どもの造形・美術教育関わる専門的な議論ができるようにする。						
到達目標	(1) アウトサイダー・アートについて解説でき、意見を交換することができる。 (2) 文献を的確に要約することができる。 (3) 興味ある課題を見つけることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 美術作品及び子どもの作品を通して 1 現代美術と子どもの美術 第3回 美術作品及び子どもの作品を通して 2 アウトサイダー・アートA 第4回 美術作品及び子どもの作品を通して 3 アウトサイダー・アートB 第5回 美術作品及び子どもの作品を通して 4 まとめ 第6回 教材研究 1 学生の提案から 第7回 教材研究 2 学生の提案から 第8回 教材研究 3 学生の提案から 第9回 文献検索 第10回 課題レポートの書き方 第11回 文献購読と要約 1 第12回 文献購読と要約 2 第13回 課題レポートのプレゼンテーション1 第14回 課題レポートのプレゼンテーション2 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：課題について、各自資料を収集しておく。 授業後学習：資料や作品などについて要点をまとめ、次回につなぐようにする。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	参加態度、作品、提出物など30%、発表及び課題レポート70%で評価する。						
教科書	必要な文献を指定する。						
参考書	必要に応じて紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	奥村 正子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	音楽と子どもの関わりを知る。						
授業の概要	音楽教育の変遷について解説し、その中で各自が興味を持った問題を中心に討論を行う。並行して、子どものための音楽劇などを、実際に演奏する。						
到達目標	幼児期・児童期の音楽教育に関する問題意識を自分なりに持つことができるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 音楽と子ども 第3回 文献探索の方法（図書館の利用、データベース検索、学会誌検索など）について 第4回 音楽教育の変遷1 第5回 音楽教育の変遷2 第6回 音楽と乳幼児の関わり 第7回 声楽器と乳幼児のコミュニケーションの実際 第8回 まとめとレポートの提出 第9回 文献購読1 第10回 文献購読2 第11回 文献購読3 第12回 テーマ発見に向けて 第13回 発表1 第14回 発表2 第15回 まとめと文献リストの提出						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自がテーマの発見に向けて、図書館の活用をはじめ、興味・関心を広げるために行動しよう。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点（授業への取り組み）40%、レポート30% 発表30% 出席回数が授業全体の3分の2に満たない場合、評価の対象としない。						
教科書	・「乳幼児の音楽表現」日本赤ちゃん学会 監修、小西行郎 他 編著、中央法規出版 ISBN978-4-8058-5448-8						
参考書	そのつど紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	倉 真智子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	研究テーマの設定と講読						
授業の概要	子どもを取り巻くさまざまな環境からくる健康問題について、教育現場や地域、家庭教育といった視点から考え、教職につく立場として理解を深めることを目的とする。 子どもの体力・運動能力、生活習慣、遊び文化などについて、テキストや文献、先行研究をもとに考え討議し、それらから各自のテーマを見つける。						
到達目標	(1)子どもを取り巻く環境について、身近なところから問題意識をもち、ディスカッションができる。 (2)卒業研究のテーマに基づき、文献を収集し、内容をまとめて発表することができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 各自のテーマ設定と発表についての説明 第3回 問題提起とディスカッションの方法 第4回 問題提起と文献研究 第5回 発表およびディスカッション -幼児の運動に焦点をあてる- 第6回 発表およびディスカッション -小学生の体育に焦点をあてる- 第7回 発表およびディスカッション -保護者に焦点をあてる- 第8回 発表およびディスカッション -保育者に焦点をあてる- 第9回 文献検索の方法について 第10回 各自テーマについて文献収集 第11回 文献購読 -幼児期の運動遊びに関して- 第12回 文献購読 -児童期の運動に関して- 第13回 文献購読 -保護者に関して- 第14回 文献購読 -保育者に関して- 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	興味、関心のある分野の書物や論文を検索しておく。						
授業方法	発表、ディスカッション						
評価基準と評価方法	リアクションペーパーなどによる授業への取り組み(40%)、発表(30%)、レポート(30%)						
教科書	必要に応じて紹介する。また、適宜プリントを配布する。						
参考書	各自の内容に応じて紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	寺見 陽子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児の発達理解と育児・保育に関する理論と実践の研究						
授業の概要	<p>目的：乳幼児の発達に関する理解を深め、乳幼児の養育・保育・教育に関する専門的知識・技術および実践研究法を学ぶ</p> <p>概要：人間性の発達の基盤となる乳幼児期について、生涯発達心理学的視点から理解を深め、乳幼児の育ちにおける生活や遊びの意義、発達環境としての親子関係や家庭環境、養育者・保育者の役割、幼稚園・保育所における保育環境や保育者の役割について、自分自身の実習経験を踏まえて文献や先行研究をもとに考える。また、乳幼児期の育児・保育における今日的課題である育児支援や地域・家庭の教育力を高める支援のあり方について、これまでの調査研究やフィールド研究から考える。</p>						
到達目標	自己課題の設定とその課題解決に向けた研究方法について学ぶと共に、乳幼児の保育・教育に関する専門的な知見を身につけることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 養育・保育における今日的課題および保育現場の動向と課題 第3回 乳幼児期の発達とその理論について 第4回 乳幼児期の発達と環境について 第5回 乳幼児期の発達と遊びについて 第6回 乳幼児期の発達と養育・親子関係、家庭教育について 第7回 乳幼児期の発達と幼児教育・保育について 第8回 乳幼児期の発達環境と養育・保育について 第9回 グループ編成・グループ研究 第10回 グループ研究―課題設定 第11回 グループ研究―論文購読 第12回 グループ研究―フィールド研究 第13回 プレゼンテーション（1） 第14回 個別レポート作成 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	文献検索・文献輪読・レジメ作成・フィールドワーク・プレゼンテーション						
授業方法	グループワーク及びディスカッションを中心とする。						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 小レポートとプレゼンテーション 50点 最終レポート 50点						
教科書	特に指定しない。						
参考書	必要に応じて示す。						



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	藤本 浩一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	生涯発達心理学						
授業の概要	文献検索の仕方、問題意識の立て方、心理学論文の読み方などを学ぶ。 本年度は各自がテーマを考えて、個人ないしグループ研究を行う。						
到達目標	①相関係数を使った調査データの処理とレポートを作成できる ②心理学的観点から調査を行うための問題意識を持てる						
授業計画	第1回 文献検索の方法を例示し、図書館での資料の調べ方などのガイダンスを行う。 第2回 各自の興味を紙面に図示して展開する 第3回 各自の興味を心理学のテーマと結びつけられるよう個人指導を行う 第4回 論文体の練習 第5回 発想を文章にする練習 第6回 発表2名・全員討論、文章添削 第7回 発表2名・全員討論、文献紹介 第8回 発表2名・全員討論、アンケート項目の作成 第9回 発表2名・全員討論、アンケート実施 第10回 発表2名・全員討論、アンケート集計法 第11回 発表2名・全員討論、エクセル入力の方法 第12回 調査計画/相関係数について 第13回 調査実施/相関係数の有意性検定 第14回 相関係数と有意性のデータ処理 第15回 全員で個別発表						
授業外における学習(準備学習の内容)	発表準備、文献・ネット検索など						
授業方法	発表、討論、DVD視聴、小テスト記載(まとめ)、講義						
評価基準と評価方法	小テスト、発表などの平常点(50%)、レポート(50%)で合計100% なお、発表・レジュメの評価は、努力(2)、わかりやすさ(2)、理解度(3)の割合で行う。						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	松岡 靖						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	自分の興味・問題を保育・教育の理論へとつなげよう。						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序盤では保育・教育の基本文献を指定し、学生がそれぞれ担当部分を報告する。</li> <li>2. 中盤では多様な視点から学生同士が質疑応答して、教員はその背景を解説する。</li> <li>3. 終盤ではやや専門的な文献の読み方、プレゼンの技法、意見の理解力を伸ばす。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. やや専門的な文献を理解して、それについて自分の意見を学生が述べられる。</li> <li>2. 現代日本の教育問題を学生が発見して、それを自力で学生が探求していける。</li> <li>2. 問い・追及・答え、論理とデータを兼ね備えたレポートを学生が作成できる。</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 皆さんの動機と目標は？</li> <li>2. 発表・質疑・レポートの説明</li> <li>3. 図書館での論文ガイダンス</li> <li>4. 教育の意義はどこにある？</li> <li>5. 幼児教育の特徴とは何か？</li> <li>6. 教育思想の歴史を辿ると？</li> <li>7. 現代日本の教育問題とは？</li> <li>8. 保・幼・小による連携は？</li> <li>9. 大学教育から生涯学習へ？</li> <li>10. 学生による中間報告(1)</li> <li>11. 学生による中間報告(2)</li> <li>12. 学生による中間報告(3)</li> <li>13. 学生による中間報告(4)</li> <li>14. 学生による発表と質疑</li> <li>15. 成績の説明と授業の批評</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数回ある各自による発表をしっかりと準備してください。</li> <li>2. 文献の内容を自分の体験と結び付けて理解してください。</li> <li>3. 最後のレポートで自分が面白いテーマを探してください。</li> </ol>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序盤では保育・教育の基本文献を指定し、学生がそれぞれ担当部分を報告する。</li> <li>2. 中盤では多様な視点から学生同士が質疑応答して、教員はその背景を解説する。</li> <li>3. 終盤ではやや専門的な文献の読み方、プレゼンの技法、意見の理解力を伸ばす。</li> </ol>						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平常点30点 (コメントカードや授業中発言などによる)</li> <li>2. 発表点20点 (担当したプレゼンと質疑応答などによる)</li> <li>3. レポート50点 (自分なりのテーマで学期末に提出する)</li> </ol>						
教科書	『教育原理』 倉戸直実監修、聖公会出版、978-4-88274-196-1。						
参考書	図書館での論文ガイダンスを活用して、自分の興味・問題に役立つものを探してください。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	内田 祐貴						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における理科教育について、知識技術を深め、理科の得意な教員を目指す。						
授業の概要	発達教育演習Aをうけ、さらに各学年の理科で扱うそれぞれの内容に対して、具体的な授業案や教材を作成をする。また、理科教育について必要な統計処理や、新しい教育方法であるアクティブラーニング的手法を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校理科の授業、特に実験授業の指導をできる</li> <li>・教材作成のための、資料準備や資料活用をできる</li> <li>・教員採用試験で理科が得意だとアピールできる</li> </ul>						
授業計画	<p>第01回 指導案と評価  第02回 4年生「電気の働き」学習内容と実験  第03回 4年生「電気の働き」模擬授業  第04回 教材作成演習1  第05回 教材作成演習2  第06回 4年生「天気の様子」学習内容と実験  第07回 4年生「天気の様子」模擬授業  第08回 博物館科学館実習  第09回 5年生「物の溶け方」学習内容と実験  第10回 5年生「物の溶け方」模擬授業  第11回 5年生「振り子の運動」学習内容と実験  第12回 5年生「振り子の運動」模擬授業  第13回 5年生「電流の働き」学習内容と実験  第14回 5年生「電流の働き」模擬授業  第15回 論文の構成と書き方</p> <p>デジタル教材の使い方や、アクティブラーニング、先行事例研究などもこれらの具体的な単元を使いながら行っていきます。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	最近の理科教育について興味をもったものを調べておく。						
授業方法	講義と模擬授業、実験実習、提出物の作成						
評価基準と評価方法	提出物などを主資料(60)として取り組みの熱意、平常点等(40)を考慮する						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	大下 卓司						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	関心を持った教育実践や教育問題に沿って各自が内容を掘り下げる						
授業の概要	学生が、各自の興味・関心に応じて文献（教育方法学の理論書、実践記録など）を選び、毎回の授業で交代で発表し、発表内容について学生全員で議論する。教員も議論に加わり、補足説明や論点の提示を適宜行う。授業の進め方は、「教育発達演習A」の延長ではあるが、4年次の「卒業研究」に向けての準備とすべく、追求したい問題の立て方、そのための文献の選び方、そこからの論点の取り出し方などについて指導する。また、問いと追求と答えという三要素を備えたレポートも作成できることをめざす。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年次の「卒業研究」に向けての準備とすべく、追求したい問題の立て方、そのための文献の選び方、そこからの論点の取り出し方などを身につける</li> <li>・問いと追求と答えという三要素を備えたレポートも作成できるようになる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 レポート返却およびコメント 第2回 テキストの内容と使用方法に関する説明、より伝わるレポートの書き方の指導 第3回 「教育発達演習A」のレポートの調査を深め、報告を行い、相互に検討する 第4回 「教育発達演習A」のレポートの調査を深め、報告を行い、相互に検討する 第5回 「教育発達演習A」のレポートの調査を深め、報告を行い、相互に検討する 第6回 テキスト発表とディスカッション 第7回 テキスト発表とディスカッション 第8回 テキスト発表とディスカッション 第9回 テキスト発表とディスカッション 第10回 自分が志望する仕事と発表内容を関連付ける 第11回 自由テーマによる発表とディスカッション 第12回 自由テーマによる発表とディスカッション 第13回 自由テーマによる発表とディスカッション 第14回 自由テーマによる発表とディスカッション 第15回 総括討論						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前半は視聴覚教材も使いながら、今日的な教育問題に関する議論を行い、学校教育への理解を深める</li> <li>・後半は、自分のテーマについて事前に調べる。発表者以外の学生も、発表者のテーマに沿った基本資料を、発表者と相談したうえで指示する。</li> </ul>						
授業方法	レジュメの作成・発表と全体討論。議論の深まりに応じて、学外の社会教育施設や小学校等による公開研究会で学ぶ。						
評価基準と評価方法	授業中への出席と積極的な参加を前提としながら、平常点50%とレポート課題50%で評価する。						
教科書	授業中に適宜指示をする						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	奥 美佐子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもと美術Ⅱ						
授業の概要	子どもの造形、美術教育の分野で、教育発達演習Aにおいて見出した課題をさらに専門的に研究する方法を修得する。各自がテーマを持って発表し、学生間で討議する経験を積む。この過程で卒業研究の課題の発見、課題へのアプローチの仕方、文献研究や実践的、実証的研究の方法及び論文作成法を身につけることができるようにする。						
到達目標	(1) 卒業研究のテーマを設定し、資料収集することができる。 (2) 各自のトピックを発表し、討議することができる。 (3) テーマに沿ったレポートの作成とプレゼンテーションができる。						
授業計画	第1回 テーマ設定 第2回 論文の読み方と発表の仕方 第3回 論文購読 第4回 論文購読 第5回 論文購読 第6回 資料収集・教材研究：文献検索、子どもの作品収集等 第7回 資料収集・教材研究：現地研修（授業時間外に別途日時を設定） 第8回 資料収集・教材研究：第6回～第9回のいずれかで現地研修を実施予定 第9回 資料収集・教材研究： 第10回 資料整理の方法 第11回 テーマの確認とレポート作成について 第12回 シラバス作成について 第13回 発表1 第14回 発表2 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：発表などに備えて、十分に資料などを検討しておくこと。 授業後学習：検討した課題について要点をまとめ、疑問があれば次回に質問できるようにすること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	参加態度、提出物など平常点30%、発表及びレポート70%で評価する。						
教科書	使用しない。						
参考書	必要に応じて紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	奥村 正子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもと音楽の関わりについて、自分の問題意識を明らかにする。						
授業の概要	幼児期・児童期の音楽教育に関する研究論文を講読する。各自の問題意識に関連した文献を収集し、その内容を全員で議論し、教員が解説する。授業の進め方は「教育発達演習A」の延長であるが、最終回は、研究計画と文献リストを提出する。						
到達目標	音楽教育に関する問題意識を持つことができ、卒業研究のテーマを設定できる。						
授業計画	第1回 テーマ設定に向けて 第2回 文献探索の方法について 第3回 特色ある音楽教育1 第4回 特色ある音楽教育2 第5回 特色ある音楽教育3 第6回 研究手法について 第7回 文献講読1 第8回 文献講読2 第9回 文献講読3 第10回 文献講読4 第11回 レポートの提出とまとめ 第12回 発表1 第13回 発表2 第14回 発表3 第15回 研究計画と文献リストの提出						
授業外における学習（準備学習の内容）	図書館の活用、文献収集をはじめ、テーマ設定のために積極的に行動しよう。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点（授業への取り組み）40%、レポート30% 発表30% 出席回数が授業全体の3分の2に満たない場合、評価の対象としない。						
教科書	・「乳幼児の音楽表現」日本赤ちゃん学会 監修、小西行郎 他 編著、中央法規出版 ISBN978-4-8058-5448-8						
参考書	そのつど紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	倉 真智子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	研究課題の精選と課題検討						
授業の概要	子どもを取り巻くさまざまな環境からくる健康問題について、教育現場や地域、家庭教育といった視点から考え、教職につく立場として理解を深めることを目的とする。 子どもの体力・運動能力、生活習慣、遊び文化などについて、テキストや文献、先行研究をもとに考え討議し、それらから卒業研究のテーマに向け進めていく。						
到達目標	(1) 自分の卒業研究のテーマを精選することができる。 (2) より多くの文献を収集し、テーマと関連づけることができる。 (3) 文献の中から、研究テーマに即した論文をまとめ、発表し、意見を述べ合うことができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 各自のテーマ設定と文献収集についての説明 第3回 文献の収集 第4回 文献リスト作成 第5回 レジユメの作成法と発表方法 第6回 先行研究から学ぶ論文の書き方 第7回 講読発表 ー幼児・児童に関する文献ー 第8回 講読発表 ー運動に関する文献からー 第9回 講読発表 ー子どもの健康に関する文献からー 第10回 講読発表 ー生活習慣に関する文献からー 第11回 講読発表 ー保護者に関する文献からー 第12回 講読発表 ー保育者に関する文献からー 第13回 プロポーザル 第14回 プロポーザルの検討 第15回 まとめと卒業研究に向けての課題						
授業外における学習(準備学習の内容)	各種文献やコラム等、身近な情報の収集をしておく。						
授業方法	講読発表、ディスカッション						
評価基準と評価方法	講読発表(50%)、発表レポート(50%)						
教科書	必要に応じて紹介する。また、適宜プリントを配布する。						
参考書	「よくわかる卒論の書き方」白井利明・高橋一郎 ミネルヴァ書房 「レポート・論文のまとめ方と書き方」宮内克男 川内書店						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	寺見 陽子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児の発達研究と養育・保育の場における理論と実践に関する研究						
授業の概要	目的：自己課題を明確化させ、実践方法や研究方法について学ぶ。 概要：ここでは「教育発達演習A」での研究をもとに、自己研究課題を焦点化させ、文献や研究論文を購読するとともに、乳幼児の発達研究や保育実践研究の方法論について学ぶ。自分でプロポーザルを作成し、その流れに沿って、研究・実験・調査・観察等の実施計画や結果をまとめ、考察する。						
到達目標	自己課題の明確化し、それに関連した専門知識の獲得と研究方法を学ぶことができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 自己課題の設定と研究法について 第3回 文献輪読・グループディスカッション (1) 第4回 文献輪読・グループディスカッション (2) 第5回 文献輪読・グループディスカッション (3) 第6回 文献輪読・グループディスカッション (4) 第7回 文献輪読・グループディスカッション (5) 第8回 中間報告 第9回 文献購読・プロポーザルの作成 (1) 第10回 グループ・サーベイ (1) —調査計画 第11回 グループ・サーベイ (2) —調査方法 第12回 グループ・サーベイ (3) —調査 第13回 調査結果の報告 第14回 自己課題に基づくレポートの作成 第15回 総括と卒業研究に向けた方針の設定						
授業外における学習(準備学習の内容)	文献検索・文献輪読・グループ研究とフィールドサーベイ						
授業方法	グループワークを中心とする。						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 小レポート (30) ・プレゼンテーション (20) ・報告書 (50)						
教科書	必要に応じて示す。						
参考書	必要に応じて示す。						



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	藤本 浩一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	生涯発達心理学						
授業の概要	文献検索の仕方、問題意識の立て方、心理学論文の読み方などを学ぶ。 本年度は各自がテーマを設定し、個人ないしグループ研究を行う。						
到達目標	①相関係数を使った調査データの処理とレポートを作成できる。 ②心理学的観点から調査を行うための問題意識を持てる。						
授業計画	第1回 心理学研究の紹介（群間比較） 第2回 心理学研究の紹介（時系列での比較） 第3回 心理学研究の紹介（自由記述の分析） 第4回 文献講読発表 第5回 実験計画の立案 第6回 質問紙を用いた研究の紹介 第7回 アンケート調査項目の選定 第8回 アンケート調査実施法 第9回 結果の処理 第10回 統計実習 第11回 統計実習（2） 第12回 論文のまとめ方 第13回 グループ研究発表（AとB） 第14回 グループ研究発表（Cテスト） 第15回 グループ研究発表（Dの共起ネットワーク）						
授業外における学習（準備学習の内容）	発表準備、文献・ネット検索など						
授業方法	発表、討論、DVD視聴、小テスト記載（まとめ）、講義						
評価基準と評価方法	小テスト、発表などの平常点（50%）、レポート（50%）で合計100% なお、発表・レジュメの評価は、努力（2）、わかりやすさ（2）、理解度（3）の割合で行う。						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	松岡 靖						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	働くことへの希望をもって自分なりに進路を模索しよう。						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育・教育に必要な「希望」を主題とする文献で、学生がそれぞれ担当部分を報告する。</li> <li>2. 現代日本の保育・教育の論点について、学生が質疑応答し、教員がその背景を解説する。</li> <li>3. 卒業研究に向けてテーマを探しつつ、資料の収集や問いの立て方などについて練習する。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育・教育をめぐる基礎知識を増やすことで、進路選択に向けて情報を学生が収集できる。</li> <li>2. 「問い→追求→答え」の構成、論理とデータを兼ね備えたレポート作成に学生が習熟する。</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期の振り返りと後期の見通し</li> <li>2. 図書館での論文ガイダンス</li> <li>3. 教科書(1)：そもそも希望とは何か？</li> <li>4. 教科書(2)：もう希望は失われたか？</li> <li>5. 教科書(3)：なぜ希望は失われたか？</li> <li>6. 教科書(4)：希望をめぐる物語とは？</li> <li>7. 教科書(5)：努力は無駄に終わるか？</li> <li>8. 教科書(6)：希望を取り戻すために？</li> <li>9. 教科書(7)：キャリア教育の役割は？</li> <li>10. 学生による中間報告(1)</li> <li>11. 学生による中間報告(2)</li> <li>12. 学生による中間報告(3)</li> <li>13. 学生による発表と質疑</li> <li>14. 成績の説明と授業の批評</li> <li>15. 4年生の卒業研究を聴く</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数回ある各自による発表をしっかりと準備してください。</li> <li>2. 文献の内容を自分の体験と結び付けて理解してください。</li> <li>3. 最後のレポートで自分が面白いテーマを探してください。</li> </ol>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序盤では教科書についての報告と教員による解説を中心に進めます。</li> <li>2. 中盤では学生による発表と学生同士が行う質疑応答が軸となります。</li> <li>3. 終盤では学生全員が卒業研究に向けてレポートを作成・発表します。</li> </ol>						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平常点30点 (コメントカードや授業での発言など)</li> <li>2. 発表点20点 (担当したプレゼンと質疑応答による)</li> <li>3. レポート50点 (自分のテーマで学期末に提出する)</li> </ol>						
教科書	『希望のつくり方』 玄田有史、岩波書店、978-4-00-431270-3						
参考書	図書館での論文ガイダンスを活用して、自分の興味・問題に沿って検索してください。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職基本演習						
担当教員	谷口 和良						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教職についての専門的な知識と実践的な指導力の育成						
授業の概要	本授業は、学生がこれまでの教職課程に関する履修や教職課程外での様々な活動を通じて、教員としての資質や能力が有機的に統合されながら、形成してきているかを自己点検・確認することである。そして、教員になるために自分に不足している知識や技能・技術、能力・態度などを補い、教員として必要な実践的な指導力の向上を図ることである。						
到達目標	学習指導について教材研究や学習指導案作成、模擬授業などにより教職における専門的な知識や実践的な授業力を高めることができる。また、学級経営や生徒指導について、事例研究、グループによる演習、ロールプレーなどにより実践的な指導力及び資質や能力を養うことができる。						
授業計画	第 1 回 オリエンテーション：本授業のねらいや授業概要 第 2 回 教職課程の履修を振り返り、教員としての自己点検・確認して自己の課題の把握 第 3 回 授業における基本的な展開や教師の役割、評価などについて検討・討議 第 4 回 グループに分かれて学習指導案の作成 第 5 回 模擬授業の実施とその授業評価・授業修正（Ⅰ） 第 6 回 模擬授業の実施とその授業評価・授業修正（Ⅱ） 第 7 回 小学校教員としての仕事内容（校務分掌）・学校経営にも参画 第 8 回 小学校学級担任の役割と学級経営の在り方 第 9 回 小学校の担任としての学級づくりの具体化（経営方針や学級目標、係活動など） 第 10 回 問題行動の事例とその対策方法の検討（いじめ・不登校的な児童について） 第 11 回 問題行動の事例とその対策方法の検討（暴力的な子や学力遅進的な子などについて） 第 12 回 児童理解についての今日的課題及びその対策 第 13 回 問題行動児童の保護者との連携の在り方についての事例とその対策 第 14 回 ロールプレー等による担任と保護者との対応の仕方や在り方 第 15 回 まとめ：教員としての資質と能力についての自己評価と課題						
授業外における学習（準備学習の内容）	・授業前学習：授業計画に従って、授業内容を踏まえこれまでの他の講義や実習などから該当する内容を予習・復習しておいてください。 ・授業後学習：授業で学んだことを復習整理し、要点をまとめておくようにしてください。そして、次に授業や実習及び就職した際に生かせるようにしておくことが大切です。授業中に理解できなかったことは、次の授業に質問したり課題にしたりして、実践に生かせるようにしてください。						
授業方法	参加型の授業を中心にし、グループで指導案作成や模擬授業の実施、事例に対する対応策作成などを行い、全体やグループで発表し合ったりディスカッションをしたりする。						
評価基準と評価方法	・平常点50%（授業やグループ発表での内容や態度、小テスト、授業のワークシートや意見・感想など） ・学期末レポート50%（教員として必要な資質や能力に関するようなこと）						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職実践演習（幼・小）						
担当教員	松岡 靖・井上 知子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教職課程履修カルテと教育・保育実習記録などを用いて実践的な事例研究を行う。事例研究のテーマは、（１）教職・保育者に必要な使命感・責任感・愛情、（２）職務上の社会性や対人関係能力、（３）行き届いた子ども理解や学級経営、（４）教科教育・保育内容の十分な指導力とする。						
授業の概要	教職・保育士養成課程の完成教育として、教職科目と教科科目・保育内容の担当教員がオムニバスで分担する。大学での講義・討論、模擬授業・保育による事例研究とともに、教育・保育の現場へのフィールドワークを行う。この授業を通じて学生が現場での実践的な対応力を伸ばす準備とする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職・保育士養成課程の履修全体を、学生が実習経験を踏まえつつ総括できる。</li> <li>2. 教育者・保育者に必要な資質・能力に照らし、学生が自らの課題を省察できる。</li> <li>3. 実践的指導力を高めることで、学生が教育者・保育者として順調に出発できる。</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職課程履修カルテ：教育者としての資質・能力（松岡）</li> <li>2. 教育のPDCAサイクル：実習記録での評価と課題は？（松岡）</li> <li>3. 教育のポートフォリオ：教職課程における役割は？（松岡）</li> <li>4. 実践事例研究(1)：実践でのPDCAサイクルの具体化（井上）</li> <li>5. フィールドワークの事前指導（井上）</li> <li>6. フィールドワーク(1)：教育・保育の現場の参観（井上）</li> <li>7. フィールドワーク(2)：教育・保育の現場の参観（井上）</li> <li>補講。フィールドワークの事後指導（松岡）</li> <li>補講。教育実習欠席分の補講（松岡）</li> <li>8. 実践事例研究(2)：教育者として必要な資質・能力（井上）</li> <li>9. 実践事例研究(3)：教育・保育現場における組織論（井上）</li> <li>10. 実践事例研究(4)：子ども理解から学級経営まで（井上）</li> <li>11. 模擬授業・保育(1)：指導計画と授業・保育の計画（井上）</li> <li>12. 模擬授業・保育(2)：略案作成と授業・保育の準備（井上）</li> <li>13. 模擬授業・保育(3)：模擬授業・保育の実施と検討（井上）</li> <li>14. 模擬授業・保育(4)：模擬授業・保育のPDCAサイクル（井上）</li> <li>15. 履修カルテのまとめ：教育者としての決意の発表（井上）</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自らの履修カルテや実習記録を十分に活用すること。</li> <li>2. 事例研究や模擬授業・保育を工夫して準備すること。</li> </ol>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オムニバスだが毎回を複数教員で担当する。</li> <li>2. 第1～3回は松岡が中心となって担当する。</li> <li>3. 第4～15回は井上が中心となって担当する。</li> </ol>						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育者としての資質・能力を担当教員が連携して評価する。</li> <li>2. 授業での提出課題50%、模擬授業・保育での発表内容50%。</li> </ol>						
教科書	とくに指定せず履修カルテや実習記録などを使用する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職実践演習（幼・小）						
担当教員	松岡 靖・谷口 和良						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教職課程履修カルテと教育・保育実習記録などを用いて実践的な事例研究を行う。事例研究のテーマは、(1) 教職・保育者に必要な使命感・責任感・愛情、(2) 職務上の社会性や対人関係能力、(3) 行き届いた子ども理解や学級経営、(4) 教科教育・保育内容の十分な指導力とする。						
授業の概要	教職・保育士養成課程の完成教育として、教職科目と教科科目・保育内容の担当教員がオムニバスで分担する。大学での講義・討論、模擬授業・保育による事例研究とともに、教育・保育の現場へのフィールドワークを行う。この授業を通じて学生が現場での実践的な対応力を伸ばす準備とする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職・保育士養成課程の履修全体を、学生が実習経験を踏まえつつ総括できる。</li> <li>2. 教育者・保育者に必要な資質・能力に照らし、学生が自らの課題を省察できる。</li> <li>3. 実践的指導力を高めることで、学生が教育者・保育者として順調に出発できる。</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職課程履修カルテ：教育者としての資質・能力（松岡）</li> <li>2. 教育のPDCAサイクル：実習記録での評価と課題は？（松岡）</li> <li>3. 教育のポートフォリオ：教職課程における役割は？（松岡）</li> <li>4. 実践事例研究(1)：実践でのPDCAサイクルの具体化（谷口）</li> <li>5. フィールドワークの事前指導（谷口）</li> <li>6. フィールドワーク(1)：教育・保育の現場の参観（谷口）</li> <li>7. フィールドワーク(2)：教育・保育の現場の参観（谷口）</li> <li>補講。フィールドワークの事後指導（松岡）</li> <li>補講。教育実習欠席分の補講（松岡）</li> <li>8. 実践事例研究(2)：教育者として必要な資質・能力（谷口）</li> <li>9. 実践事例研究(3)：教育・保育現場における組織論（谷口）</li> <li>10. 実践事例研究(4)：子ども理解から学級経営まで（谷口）</li> <li>11. 模擬授業・保育(1)：指導計画と授業・保育の計画（谷口）</li> <li>12. 模擬授業・保育(2)：略案作成と授業・保育の準備（谷口）</li> <li>13. 模擬授業・保育(3)：模擬授業・保育の実施と検討（谷口）</li> <li>14. 模擬授業・保育(4)：模擬授業・保育のPDCAサイクル（谷口）</li> <li>15. 履修カルテのまとめ：教育者としての決意の発表（谷口）</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自らの履修カルテや実習記録を十分に活用すること。</li> <li>2. 事例研究や模擬授業・保育を工夫して準備すること。</li> </ol>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オムニバスだが毎回を複数教員で担当する。</li> <li>2. 第1～3回は松岡が中心となって担当する。</li> <li>3. 第4～15回は谷口が中心となって担当する。</li> </ol>						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育者としての資質・能力を担当教員が連携して評価する。</li> <li>2. 授業での提出課題50%、模擬授業・保育での発表内容50%。</li> </ol>						
教科書	とくに指定せず履修カルテや実習記録などを使用する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職実践演習（幼・小）						
担当教員	松岡 靖・吉田 直哉						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教職課程履修カルテと教育・保育実習記録などを用いて実践的な事例研究を行う。事例研究のテーマは、(1) 教職・保育者に必要な使命感・責任感・愛情、(2) 職務上の社会性や対人関係能力、(3) 行き届いた子ども理解や学級経営、(4) 教科教育・保育内容の十分な指導力とする。						
授業の概要	教職・保育士養成課程の完成教育として、教職科目と教科科目・保育内容の担当教員がオムニバスで分担する。大学での講義・討論、模擬授業・保育による事例研究とともに、教育・保育の現場へのフィールドワークを行う。この授業を通じて学生が現場での実践的な対応力を伸ばす準備とする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職・保育士養成課程の履修全体を、学生が実習経験を踏まえつつ総括できる。</li> <li>2. 教育者・保育者に必要な資質・能力に照らし、学生が自らの課題を省察できる。</li> <li>3. 実践的指導力を高めることで、学生が教育者・保育者として順調に出発できる。</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職課程履修カルテ：教育者としての資質・能力（松岡）</li> <li>2. 教育のPDCAサイクル：実習記録での評価と課題は？（松岡）</li> <li>3. 教育のポートフォリオ：教職課程における役割は？（松岡）</li> <li>4. 実践事例研究(1)：実践でのPDCAサイクルの具体化（吉田）</li> <li>5. フィールドワークの事前指導（吉田）</li> <li>6. フィールドワーク(1)：教育・保育の現場の参観（吉田・松岡）</li> <li>7. フィールドワーク(2)：教育・保育の現場の参観（吉田・松岡）</li> <li>補講。フィールドワークの事後指導（松岡）</li> <li>補講。教育実習欠席分の補講（松岡）</li> <li>8. 実践事例研究(2)：教育者として必要な資質・能力（吉田）</li> <li>9. 実践事例研究(3)：教育・保育現場における組織論（吉田）</li> <li>10. 実践事例研究(4)：子ども理解から学級経営まで（吉田）</li> <li>11. 模擬授業・保育(1)：指導計画と授業・保育の計画（吉田）</li> <li>12. 模擬授業・保育(2)：略案作成と授業・保育の準備（吉田）</li> <li>13. 模擬授業・保育(3)：模擬授業・保育の実施と検討（吉田）</li> <li>14. 模擬授業・保育(4)：模擬授業・保育のPDCAサイクル（吉田）</li> <li>15. 履修カルテのまとめ：教育者としての決意の発表（吉田）</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自らの履修カルテや実習記録を十分に活用すること。</li> <li>2. 事例研究や模擬授業・保育を工夫して準備すること。</li> </ol>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オムニバスだが毎回を複数教員で担当する。</li> <li>2. 第1～3回は松岡が中心となって担当する。</li> <li>3. 第4～15回は吉田が中心となって担当する。</li> </ol>						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育者としての資質・能力を担当教員が連携して評価する。</li> <li>2. 授業での提出課題50%、模擬授業・保育での発表内容50%。</li> </ol>						
教科書	とくに指定せず履修カルテや実習記録などを使用する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職論						
担当教員	大石 正廣						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	教職の意義と教員の役割						
授業の概要	<p>教職課程の出発点として、教職の意義と役割を理解する。また、教職に対する自らの適性を吟味させつつ教員として働く意欲を引き出すことをめざす。そのため、次の3点を主な目標に授業内容を構成する。</p> <p>第1に、教職の特徴と現状に関する基本的な知識を習得する。第2に、教員の職務内容を知り、これからの時代に求められる教師像について理解する。第3に、教員としての力量形成と教職の専門性に関する認識を深める。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職の意義と役割を理解することができる。</li> <li>・教員の職務内容を知ることができる。</li> <li>・教職の特徴とその現状に関する基本的な知識を習得することができる。</li> <li>・これからの時代に求められる教師像について理解することができる。</li> <li>・教職の専門性に関する認識を深めることができる。</li> </ul>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、及び、教職に関する基礎的知識</p> <p>第2回 保育所・幼稚園</p> <p>第3回 小学校・中学校</p> <p>第4回 教員の職務内容と役割・義務</p> <p>第5回 教員に求められる資質、能力・技能</p> <p>第6回 教師としての生き方をさぐる</p> <p>第7回 学校教育の歴史</p> <p>第8回 教職の法制と制度</p> <p>第9回 子どもにつけたい力</p> <p>第10回 学習指導、カリキュラム開発と授業づくり</p> <p>第11回 学級づくり</p> <p>第12回 保護者・地域・社会との連携</p> <p>第13回 教職をめぐる改革動向と教師の専門性</p> <p>第14回 教員養成段階における学び・教育観をもつ</p> <p>第15回 教員採用をめぐる今日的動向</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>指導計画を参考にして、参考書などの該当する箇所を読む。授業後には、学んだことを整理し理解を深める。保育所、幼稚園、小学校のホームページを閲覧することにより、それぞれの保育・教育活動について学ぶ参考とする。</p>						
授業方法	対話型の授業・グループでの意見交流、演習などを中心に行う。						
評価基準と評価方法	<p>授業への参加態度、積極的な学び（資料作成力や企画力、発表力やグループ内討議での積極的姿勢など）と各回提出のリアクションペーパー（授業で学べたこと等）で50%、テスト（授業内容の理解）で50%を合わせた総合評価とする。</p>						
教科書	資料を配布する。						
参考書	<p>高谷哲也編著『教師の仕事と求められる力量』（現場と結ぶ教職シリーズ第17巻）あいり出版</p> <p>片山紀子 富永直也 『学校が見える教職論』 大学教育出版</p> <p>山口健二 高瀬淳 編 『教職論ハンドブック』 ミネルウァ書房</p>						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	内田・藤本・松岡・吉田						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	これからの大学生活をデザインする。 自分で考え、表現できる力を養う。						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学4年間の学習の進め方について、4人の教員がオムニバス方式で演習を分担する。</li> <li>2. 履修登録の指導、授業と自習の連動、授業への参加法、図書館での情報収集などを指導する。</li> <li>3. 各教員の専門分野について学生が関心を持ちやすい内容を講義する。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生一人一人が大学4年間の学習計画をデザインできる。</li> <li>2. レポート作成や発表することで専門的な学習への動機づけを強める。</li> <li>3. 自ら考えて文章や口頭で表現できる。</li> <li>4. 子どもの教育についての自分の意見をつくる。</li> </ol>						
授業計画	<p>全体指導</p> <p>第01回 (1)履修指導：4年間の計画を立てる</p> <p>第02回 (2)学内オリエンテーション</p> <p>第03回 (3)学科施設の利用</p> <p>内田担当</p> <p>第04回 (1)レポートの書き方1 アイデアの出し方、まとめ方</p> <p>第05回 (2)レポートの書き方2 資料の調べ方</p> <p>第06回 (3)レポートの書き方3 レポート発表</p> <p>藤本担当</p> <p>第07回 (1)知識を得る方法；ブラインド・ウォーク</p> <p>第08回 (2)知識を得る方法；エゴグラム</p> <p>第09回 (3)知識を得る方法；ソーシャル・スキル</p> <p>松岡担当</p> <p>第10回 (1)ワークショップ：高校と大学では何が違うか？</p> <p>第11回 (2)教科書：コミュニケーションのゴールとは？</p> <p>第12回 (3)実践：「意見となぜ」のプレゼンテーション</p> <p>吉田担当</p> <p>第13回 (1)自分のことを伝える・相手のことを理解する：自己開示</p> <p>第14回 (2)物語のあらすじを伝える1：小学校を舞台とした映画「ブタがいた教室」</p> <p>第15回 (3)物語のあらすじを伝える2：小学校を舞台とした映画「ブタがいた教室」</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	グループ発表や個人レポートで引き受けた責任を果たすこと。						
授業方法	担当教員によって授業方法が異なるので、学生にはその点も学んでほしい。						
評価基準と評価方法	平常点で30点、レポートと試験で70点。						
教科書	(松岡担当分) 山田ズーニー『あなたの話はなぜ「通じない」のか』ちくま文庫、2006年、ISBN:4-480-42280-3。						
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。						



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	内田・藤本・松岡・吉田						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	これからの大学生活をデザインする。 自分で考え、表現できる力を養う。						
授業の概要	1. 大学4年間の学習の進め方について、4人の教員がオムニバス方式で演習を分担する。 2. 履修登録の指導、授業と自習の連動、授業への参加法、図書館での情報収集などを指導する。 3. 各教員の専門分野について学生が関心を持ちやすい内容を講義する。						
到達目標	1. 学生一人一人が大学4年間の学習計画をデザインできる。 2. レポート作成や発表することで専門的な学習への動機づけを強める。 3. 自ら考えて文章や口頭で表現できる。 4. 子どもの教育についての自分の意見をつくる。						
授業計画	<p>全体指導</p> <p>第01回 (1)履修指導：4年間の計画を立てる</p> <p>第02回 (2)学内オリエンテーション</p> <p>第03回 (3)学科施設の利用</p> <p>内田担当</p> <p>第04回 (1)レポートの書き方1 アイデアの出し方、まとめ方</p> <p>第05回 (2)レポートの書き方2 資料の調べ方</p> <p>第06回 (3)レポートの書き方3 レポート発表</p> <p>藤本担当</p> <p>第07回 (1)知識を得る方法；ブラインド・ウォーク</p> <p>第08回 (2)知識を得る方法；エゴグラム</p> <p>第09回 (3)知識を得る方法；ソーシャル・スキル</p> <p>松岡担当</p> <p>第10回 (1)ワークショップ：高校と大学では何が違うか？</p> <p>第11回 (2)教科書：コミュニケーションのゴールとは？</p> <p>第12回 (3)実践：「意見となぜ」のプレゼンテーション</p> <p>吉田担当</p> <p>第13回 (1)自分のことを伝える・相手のことを理解する：自己開示</p> <p>第14回 (2)物語のあらすじを伝える1：小学校を舞台とした映画「ブタがいた教室」</p> <p>第15回 (3)物語のあらすじを伝える2：小学校を舞台とした映画「ブタがいた教室」</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	グループ発表や個人レポートで引き受けた責任を果たすこと。						
授業方法	担当教員によって授業方法が異なるので、学生にはその点も学んでほしい。						
評価基準と評価方法	平常点で30点、レポートと試験で70点。						
教科書	(松岡担当分) 山田ズーニー『あなたの話はなぜ「通じない」のか』ちくま文庫、2006年、ISBN:4-480-42280-3。						
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	内田・藤本・松岡・吉田						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	これからの大学生活をデザインする。 自分で考え、表現できる力を養う。						
授業の概要	1. 大学4年間の学習の進め方について、4人の教員がオムニバス方式で演習を分担する。 2. 履修登録の指導、授業と自習の連動、授業への参加法、図書館での情報収集などを指導する。 3. 各教員の専門分野について学生が関心を持ちやすい内容を講義する。						
到達目標	1. 学生一人一人が大学4年間の学習計画をデザインできる。 2. レポート作成や発表することで専門的な学習への動機づけを強める。 3. 自ら考えて文章や口頭で表現できる。 4. 子どもの教育についての自分の意見をつくる。						
授業計画	<p>全体指導</p> <p>第01回 (1)履修指導：4年間の計画を立てる</p> <p>第02回 (2)学内オリエンテーション</p> <p>第03回 (3)学科施設の利用</p> <p>内田担当</p> <p>第04回 (1)レポートの書き方1 アイデアの出し方、まとめ方</p> <p>第05回 (2)レポートの書き方2 資料の調べ方</p> <p>第06回 (3)レポートの書き方3 レポート発表</p> <p>藤本担当</p> <p>第07回 (1)知識を得る方法；ブラインド・ウォーク</p> <p>第08回 (2)知識を得る方法；エゴグラム</p> <p>第09回 (3)知識を得る方法；ソーシャル・スキル</p> <p>松岡担当</p> <p>第10回 (1)ワークショップ：高校と大学では何が違うか？</p> <p>第11回 (2)教科書：コミュニケーションのゴールとは？</p> <p>第12回 (3)実践：「意見となぜ」のプレゼンテーション</p> <p>吉田担当</p> <p>第13回 (1)自分のことを伝える・相手のことを理解する：自己開示</p> <p>第14回 (2)物語のあらすじを伝える1：小学校を舞台とした映画「ブタがいた教室」</p> <p>第15回 (3)物語のあらすじを伝える2：小学校を舞台とした映画「ブタがいた教室」</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	グループ発表や個人レポートで引き受けた責任を果たすこと。						
授業方法	担当教員によって授業方法が異なるので、学生にはその点も学んでほしい。						
評価基準と評価方法	平常点で30点、レポートと試験で70点。						
教科書	(松岡担当分) 山田ズーニー『あなたの話はなぜ「通じない」のか』ちくま文庫、2006年、ISBN:4-480-42280-3。						
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	内田・藤本・松岡・吉田						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	これからの大学生活をデザインする。 自分で考え、表現できる力を養う。						
授業の概要	1. 大学4年間の学習の進め方について、4人の教員がオムニバス方式で演習を分担する。 2. 履修登録の指導、授業と自習の連動、授業への参加法、図書館での情報収集などを指導する。 3. 各教員の専門分野について学生が関心を持ちやすい内容を講義する。						
到達目標	1. 学生一人一人が大学4年間の学習計画をデザインできる。 2. レポート作成や発表することで専門的な学習への動機づけを強める。 3. 自ら考えて文章や口頭で表現できる。 4. 子どもの教育についての自分の意見をつくる。						
授業計画	<p>全体指導</p> <p>第01回 (1)履修指導：4年間の計画を立てる</p> <p>第02回 (2)学内オリエンテーション</p> <p>第03回 (3)学科施設の利用</p> <p>内田担当</p> <p>第04回 (1)レポートの書き方1 アイデアの出し方、まとめ方</p> <p>第05回 (2)レポートの書き方2 資料の調べ方</p> <p>第06回 (3)レポートの書き方3 レポート発表</p> <p>藤本担当</p> <p>第07回 (1)知識を得る方法；ブラインド・ウォーク</p> <p>第08回 (2)知識を得る方法；エゴグラム</p> <p>第09回 (3)知識を得る方法；ソーシャル・スキル</p> <p>松岡担当</p> <p>第10回 (1)ワークショップ：高校と大学では何が違うか？</p> <p>第11回 (2)教科書：コミュニケーションのゴールとは？</p> <p>第12回 (3)実践：「意見となぜ」のプレゼンテーション</p> <p>吉田担当</p> <p>第13回 (1)自分のことを伝える・相手のことを理解する：自己開示</p> <p>第14回 (2)物語のあらすじを伝える1：小学校を舞台とした映画「ブタがいた教室」</p> <p>第15回 (3)物語のあらすじを伝える2：小学校を舞台とした映画「ブタがいた教室」</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	グループ発表や個人レポートで引き受けた責任を果たすこと。						
授業方法	担当教員によって授業方法が異なるので、学生にはその点も学んでほしい。						
評価基準と評価方法	平常点で30点、レポートと試験で70点。						
教科書	(松岡担当分) 山田ズーニー『あなたの話はなぜ「通じない」のか』ちくま文庫、2006年、ISBN:4-480-42280-3。						
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	内田・藤本・松岡・吉田						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	プレゼンテーション能力を伸ばそう コミュニケーション力をつけよう 発想する、自分の意見を持つこと						
授業の概要	1. 各担当が専門分野の知見を活かし、学生が意欲的に効率よく学習できるよう指導する。 2. テキスト講読を通じて、資料の作り方、発表の話し方、質疑応答、図書館での検索野仕方を練習する。 3. 相手の立場に立ったコミュニケーションを考える。 4. 発想力、企画力をつける練習を行う。						
到達目標	1. 基本的なプレゼンテーションができる。 2. 2年次以降の学習に向けて基礎学力を獲得する。						
授業計画	第01回 (全体指導) 映像作品制作実習1 第02回 (全体指導) 映像作品制作実習2 内田担当 コミュニケーションって? ー相手の立場に立ったコミュニケーションー 第03回 (1)相手に伝える方法1 内容にあった話し方 第04回 (2)相手に伝える方法2 自分の意見を納得してもらおう 第05回 (3)相手に伝える方法3 自分の考えを書いて伝える 藤本担当 第06回 (1)発想する力: 創造性 第07回 (2)発想する力: 発想から文章に 第08回 (3)発想する力: 画面の左右差 松岡担当 第09回 (1)ワークショップ: 思い出の先生を語り合う 第10回 (2)教科書: 人を説得する技術とは? 第11回 (3)実践: 「いい問い」のプレゼンテーション 吉田担当 第12回 (1)物語のあらすじを伝える3: 中学校を舞台とした映画「リリィ・シュシュのすべて」 第13回 (2)物語のあらすじを伝える4: 高校を舞台とした映画「桐島、部活やめるってよ」 第14回 (3)物語のあらすじを伝える5: 高校を舞台とした映画「桐島、部活やめるってよ」 (全体指導) 第15回 (全体指導)映像作品発表、大学での一年間を振り返る						
授業外における学習(準備学習の内容)	グループ発表や個人レポートで引き受けた責任を果たすこと。						
授業方法	担当教員によって授業方法が異なるので、学生にはその点も学んでほしい。						
評価基準と評価方法	平常点で30点、レポートと試験で70点						
教科書	(松岡担当分) 山田ズーニー『あなたの話はなぜ「通じない」のか』ちくま文庫、2006年、ISBN:4-480-42280-3。						
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	内田・藤本・松岡・吉田						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	プレゼンテーション能力を伸ばそう コミュニケーション力をつけよう 発想する、自分の意見を持つこと						
授業の概要	1. 各担当が専門分野の知見を活かし、学生が意欲的に効率よく学習できるよう指導する。 2. テキスト講読を通じて、資料の作り方、発表の話し方、質疑応答、図書館での検索野仕方を練習する。 3. 相手の立場に立ったコミュニケーションを考える。 4. 発想力、企画力をつける練習を行う。						
到達目標	1. 基本的なプレゼンテーションができる。 2. 2年次以降の学習に向けて基礎学力を獲得する。						
授業計画	第01回 (全体指導) 映像作品制作実習1 第02回 (全体指導) 映像作品制作実習2 内田担当 コミュニケーションって? ー相手の立場に立ったコミュニケーションー 第03回 (1)相手に伝える方法1 内容にあった話し方 第04回 (2)相手に伝える方法2 自分の意見を納得してもらおう 第05回 (3)相手に伝える方法3 自分の考えを書いて伝える 藤本担当 第06回 (1)発想する力: 創造性 第07回 (2)発想する力: 発想から文章に 第08回 (3)発想する力: 画面の左右差 松岡担当 第09回 (1)ワークショップ: 思い出の先生を語り合う 第10回 (2)教科書: 人を説得する技術とは? 第11回 (3)実践: 「いい問い」のプレゼンテーション 吉田担当 第12回 (1)物語のあらすじを伝える3: 中学校を舞台とした映画「リリィ・シュシュのすべて」 第13回 (2)物語のあらすじを伝える4: 高校を舞台とした映画「桐島、部活やめるってよ」 第14回 (3)物語のあらすじを伝える5: 高校を舞台とした映画「桐島、部活やめるってよ」 (全体指導) 第15回 (全体指導)映像作品発表、大学での一年間を振り返る						
授業外における学習(準備学習の内容)	グループ発表や個人レポートで引き受けた責任を果たすこと。						
授業方法	担当教員によって授業方法が異なるので、学生にはその点も学んでほしい。						
評価基準と評価方法	平常点で30点、レポートと試験で70点						
教科書	(松岡担当分) 山田ズーニー『あなたの話はなぜ「通じない」のか』ちくま文庫、2006年、ISBN:4-480-42280-3。						
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	内田・藤本・松岡・吉田						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	プレゼンテーション能力を伸ばそう コミュニケーション力をつけよう 発想する、自分の意見を持つこと						
授業の概要	1. 各担当が専門分野の知見を活かし、学生が意欲的に効率よく学習できるよう指導する。 2. テキスト講読を通じて、資料の作り方、発表の話し方、質疑応答、図書館での検索野仕方を練習する。 3. 相手の立場に立ったコミュニケーションを考える。 4. 発想力、企画力をつける練習を行う。						
到達目標	1. 基本的なプレゼンテーションができる。 2. 2年次以降の学習に向けて基礎学力を獲得する。						
授業計画	第01回 (全体指導) 映像作品制作実習1 第02回 (全体指導) 映像作品制作実習2 内田担当 コミュニケーションって? ー相手の立場に立ったコミュニケーションー 第03回 (1)相手に伝える方法1 内容にあった話し方 第04回 (2)相手に伝える方法2 自分の意見を納得してもらおう 第05回 (3)相手に伝える方法3 自分の考えを書いて伝える 藤本担当 第06回 (1)発想する力: 創造性 第07回 (2)発想する力: 発想から文章に 第08回 (3)発想する力: 画面の左右差 松岡担当 第09回 (1)ワークショップ: 思い出の先生を語り合う 第10回 (2)教科書: 人を説得する技術とは? 第11回 (3)実践: 「いい問い」のプレゼンテーション 吉田担当 第12回 (1)物語のあらすじを伝える3: 中学校を舞台とした映画「リリィ・シュシュのすべて」 第13回 (2)物語のあらすじを伝える4: 高校を舞台とした映画「桐島、部活やめるってよ」 第14回 (3)物語のあらすじを伝える5: 高校を舞台とした映画「桐島、部活やめるってよ」 (全体指導) 第15回 (全体指導)映像作品発表、大学での一年間を振り返る						
授業外における学習(準備学習の内容)	グループ発表や個人レポートで引き受けた責任を果たすこと。						
授業方法	担当教員によって授業方法が異なるので、学生にはその点も学んでほしい。						
評価基準と評価方法	平常点で30点、レポートと試験で70点						
教科書	(松岡担当分) 山田ズーニー『あなたの話はなぜ「通じない」のか』ちくま文庫、2006年、ISBN:4-480-42280-3。						
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	内田・藤本・松岡・吉田						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	プレゼンテーション能力を伸ばそう コミュニケーション力をつけよう 発想する、自分の意見を持つこと						
授業の概要	1. 各担当が専門分野の知見を活かし、学生が意欲的に効率よく学習できるよう指導する。 2. テキスト講読を通じて、資料の作り方、発表の話し方、質疑応答、図書館での検索野仕方を練習する。 3. 相手の立場に立ったコミュニケーションを考える。 4. 発想力、企画力をつける練習を行う。						
到達目標	1. 基本的なプレゼンテーションができる。 2. 2年次以降の学習に向けて基礎学力を獲得する。						
授業計画	第01回 (全体指導) 映像作品制作実習1 第02回 (全体指導) 映像作品制作実習2 内田担当 コミュニケーションって? ー相手の立場に立ったコミュニケーションー 第03回 (1)相手に伝える方法1 内容にあった話し方 第04回 (2)相手に伝える方法2 自分の意見を納得してもらおう 第05回 (3)相手に伝える方法3 自分の考えを書いて伝える 藤本担当 第06回 (1)発想する力: 創造性 第07回 (2)発想する力: 発想から文章に 第08回 (3)発想する力: 画面の左右差 松岡担当 第09回 (1)ワークショップ: 思い出の先生を語り合う 第10回 (2)教科書: 人を説得する技術とは? 第11回 (3)実践: 「いい問い」のプレゼンテーション 吉田担当 第12回 (1)物語のあらすじを伝える3: 中学校を舞台とした映画「リリィ・シュシュのすべて」 第13回 (2)物語のあらすじを伝える4: 高校を舞台とした映画「桐島、部活やめるってよ」 第14回 (3)物語のあらすじを伝える5: 高校を舞台とした映画「桐島、部活やめるってよ」 (全体指導) 第15回 (全体指導)映像作品発表、大学での一年間を振り返る						
授業外における学習(準備学習の内容)	グループ発表や個人レポートで引き受けた責任を果たすこと。						
授業方法	担当教員によって授業方法が異なるので、学生にはその点も学んでほしい。						
評価基準と評価方法	平常点で30点、レポートと試験で70点						
教科書	(松岡担当分) 山田ズーニー『あなたの話はなぜ「通じない」のか』ちくま文庫、2006年、ISBN:4-480-42280-3。						
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	キリスト教保育						
担当教員	奥村 正子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教における子ども観を知る。 キリスト教保育で必要とされる「こどもさんびか」や「子どもと礼拝の音楽」について知る。						
授業の概要	教会暦、キリスト教と子どもについて学ぶ。賛美歌などのキリスト教音楽を知る。キリスト教保育においてクリスマスの期間に上演される「聖誕劇」について理解を深める。						
到達目標	「こどもさんびか」の伴奏や指導ができるようになる。 クリスマスの意味について理解を深め、子どもたちの「聖誕劇」を指導するための知識、技術を学ぶ。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明 第2回 キリスト教と子ども：こどもさんびか 1 第3回 生活のうた：こどもさんびか 2 第4回 自然と子ども：こどもさんびか 3 第5回 聖誕劇について1：クリスマスの意味 第7回 聖誕劇について2：登場する人々 第8回 聖誕劇について3：台詞と音楽 第9回 聖誕劇について4：アンサンブル 第10回 「聖誕劇」のまとめ 第11回 指導計画・シミュレーション指導案の作成 第12回 保育シミュレーションとディスカッション、及び ピアノによる礼拝曲（教会暦） 第13回 保育シミュレーションとディスカッション、及び ピアノによる礼拝曲（祈り） 第14回 保育シミュレーションとディスカッション、及び ピアノによる礼拝曲（賛美） 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	こどもさんびか等、楽曲の課題は、十分に練習を行うこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	授業における積極的な取り組み、小テストなど平常点の評価が <sup>※</sup> 70%、期末試験が <sup>※</sup> 30%。 出席回数が10回に満たない場合は評価の対象としない。						
教科書	楽譜等、資料はそのつど配布する。						
参考書	・「新キリスト教保育指針」 キリスト教保育連盟 発行 その他は授業で紹介する。						



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	国語科研究						
担当教員	大石 正廣						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	言葉の学び手・言葉の使い手を育てる国語科の教科専門力をつける						
授業の概要	国語科教育の役割と課題、国語科の全体構造、国語科で育てる学力の系統、言葉の機能、子どもの言語発達と言語環境といった国語力を養うために必要な知識や、国語科の3領域（話すこと・聞くこと、読むこと、書くこと）、及び、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項について解説する。これらの知識や内容の理解は、教材をもとに考察することで一層深められるので、現行教科書教材を取り上げながら、その眼点等について説明する。						
到達目標	1. 小学校国語科で扱う文学的文章・説明的文章などの教材分析力と授業構想力をつけることができる。 2. 言葉の力を養う言語活動を活性化する方法や発問の仕方についての理解を深め、小学校国語科の教科専門力をつけることができる。						
授業計画	第1回 日本語という言語の特質、子どもを取り巻く言語環境、求められる国語力 第2回 学習指導要領からみた国語科教育の変遷 第3回 国語科の中核目標と指導内容 第4回 文学教材の授業研究法 第5回 文学的文章の指導1「お手紙」を中心にした低学年の授業分析と育てる言語力・読解力 第6回 文学的文章の指導2「大造じさんとガン」を中心にした高学年の授業分析と育てる言語力・読解力 第7回 説明的文章の授業研究法 第8回 説明的文章の指導1「自動車くらべ」を中心にした低学年の授業分析と育てる言語力・読解力 第9回 説明的文章の指導2「くらしの中の和と洋」を中心にした高学年の授業分析と育てる言語力・読解力 第10回 音声言語教育の内容と指導 第11回 書くことの指導の内容と系統 第12回 漢字学習の内容と指導研究 第13回 伝統的な言語文化・小学校で扱う神話・民話・古典 第14回 国語科授業づくりの方法 第15回 これからの国語科教育の課題						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義で扱う教材についてこと読んでおくこと。 読み聞かせをしたい絵本を図書館等で選び、読み聞かせの練習をする。						
授業方法	幼児期から小学校児童期へのつながりがわかる授業内容とする。 講義形式、演習形式、対話形式の授業など様々な形態の授業を組み合わせで行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加態度、積極的な学び（資料作成力や企画力、発表力やグループ内討議での積極的姿勢など）と各回提出のリアクションペーパー（授業で学べたこと等）で50%、テスト（授業内容の理解）で50%、を合わせた総合評価とする。						
教科書	プリントを配付する。 小学校国語科教科書（東京書籍、三省堂、光村図書等）（授業で使用するが、個人で所有する必要はない）						
参考書	1. 文部科学省『小学校学習指導要領（国語科）』東洋館出版（授業でときどき参照する） 2. 中渕正義監修『「新たな学び」を支える国語の授業』（上・下）三省堂 2012 3. 長崎伸仁・吉川芳則・石丸憲一編著『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』学事出版 2013 4. 長崎伸仁『表現力を鍛える対話の授業』明治図書 2011						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	国語科研究						
担当教員	大石 正廣						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	言葉の学び手・言葉の使い手を育てる国語科の教科専門力をつける						
授業の概要	国語科教育の役割と課題、国語科の全体構造、国語科で育てる学力の系統、言葉の機能、子どもの言語発達と言語環境といった国語力を養うために必要な知識や、国語科の3領域（話すこと・聞くこと、読むこと、書くこと）、及び、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項について解説する。これらの知識や内容の理解は、教材をもとに考察することで一層深められるので、現行教科書教材を取り上げながら、その眼点等について説明する。						
到達目標	1. 小学校国語科で扱う文学的文章・説明的文章などの教材分析力と授業構想力をつけることができる。 2. 言葉の力を養う言語活動を活性化する方法や発問の仕方についての理解を深め、小学校国語科の教科専門力をつけることができる。						
授業計画	第1回 日本語という言語の特質、子どもを取り巻く言語環境、求められる国語力 第2回 学習指導要領からみた国語科教育の変遷 第3回 国語科の中核目標と指導内容 第4回 文学教材の授業研究法 第5回 文学的文章の指導1「お手紙」を中心にした低学年の授業分析と育てる言語力・読解力 第6回 文学的文章の指導2「大造じさんとガン」を中心にした高学年の授業分析と育てる言語力・読解力 第7回 説明的文章の授業研究法 第8回 説明的文章の指導1「自動車くらべ」を中心にした低学年の授業分析と育てる言語力・読解力 第9回 説明的文章の指導2「くらしの中の和と洋」を中心にした高学年の授業分析と育てる言語力・読解力 第10回 音声言語教育の内容と指導 第11回 書くことの指導の内容と系統 第12回 漢字学習の内容と指導研究 第13回 伝統的な言語文化・小学校で扱う神話・民話・古典 第14回 国語科授業づくりの方法 第15回 これからの国語科教育の課題						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義で扱う教材についてこと読んでおくこと。 読み聞かせをしたい絵本を図書館等で選び、読み聞かせの練習をする。						
授業方法	幼児期から小学校児童期へのつながりがわかる授業内容とする。 講義形式、演習形式、対話形式の授業など様々な形態の授業を組み合わせで行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加態度、積極的な学び（資料作成力や企画力、発表力やグループ内討議での積極的姿勢など）と各回提出のリアクションペーパー（授業で学べたこと等）で50%、テスト（授業内容の理解）で50%、を合わせた総合評価とする。						
教科書	プリントを配付する。 小学校国語科教科書（東京書籍、三省堂、光村図書等）（授業で使用するが、個人で所有する必要はない）						
参考書	1. 文部科学省『小学校学習指導要領（国語科）』東洋館出版（授業でときどき参照する） 2. 中渕正義監修『「新たな学び」を支える国語の授業』（上・下）三省堂 2012 3. 長崎伸仁・吉川芳則・石丸憲一編著『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』学事出版 2013 4. 長崎伸仁『表現力を鍛える対話の授業』明治図書 2011						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	国語科指導法						
担当教員	大石 正廣						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	言語力の育成を重視する小学校国語科教育の実践的指導力の育成						
授業の概要	国語科教育の指導方法、国語科の3領域（話すこと・聞くこと、読むこと、書くこと）及び伝統的な言語文化と国語科の特質に関する事項ごとの授業づくりについて解説する。特に、教材研究、指導計画の立案、学習指導案の作成、指導方法、指導技術、評価方法については、授業構想力や実践的指導力の核となるものなので、実例をあげて説明をする。これらの理解は、教材を選び、指導計画を立て、発問や学習支援の方法などを考え、実際に指導を行うことで、確かなものになるので、受講者一人一人が指導案を作成し、模擬授業を行う。						
到達目標	小学校国語科を担当するために必要な指導理論、実践的展開力の基礎を身につけることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション国語科教育の目標、模擬授業 第2回 国語科学習指導案の作成について 第3回 話すこと・聞くことの指導の実際・対話力を養う指導法 第4回 読むことの授業づくり1「かさこじぞう」を中心とした低学年の教材研究、主発問・補助発問づくり 第5回 「かさこじぞう」の模擬授業 第6回 読むことの授業づくり2「ごんぎつね」を中心とした高学年の教材研究、主発問・補助発問づくり 第7回 「ごんぎつね」を中心とした模擬授業 第8回 読むことの授業づくり3 詩の教材分析、主発問、補助発問づくり 第9回 詩の指導の実際 模擬授業 第10回 読むことの授業づくり4 説明文「盲導犬の訓練」を中心とした低学年の教材研究、主発問、補助発問づくり 第11回 「盲導犬の訓練」を中心とした模擬授業 第12回 読むことの授業づくり5 説明文「未来に生かす自然のエネルギー」を中心とした高学年の教材研究、主発問、補助発問 第13回 「未来に生かす自然のエネルギー」を中心とした模擬授業 第14回 書くことの指導の実際 第15回 伝統的な言語文化についての指導の実際						
授業外における学習（準備学習の内容）	1. 小学校学習指導要領国語に示されている内容を把握しておくこと。 2. 模擬授業で扱う教材を熟読しておくこと。 3. 模擬授業で行う指導案の作成を事前しておくこと。						
授業方法	講義形式、演習形式、模擬授業形式の授業など様々な形態を組み合わせで行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加意欲・態度（演習や模擬授業での積極的な活動・発言等も含める）が20%、学習指導案略案等の作成能力と模擬授業などでみる実践的指導力、各回提出のリアクションペーパーで50%、指導法についての知識の定着度をみるテストで30%、以上を合わせた総合評価とする。						
教科書	資料を配布する。 文部科学省『小学校学習指導要領解説（国語編）』東洋館出版〔授業で使用〕						
参考書	長崎伸仁・石丸憲一・大石正廣編著『文学・説明文の授業展開 全単元 小学校低学年』学事出版 2012 長崎伸仁・石丸憲一・大石正廣編著『文学・説明文の授業展開 全単元 小学校中学年』学事出版 2012 長崎伸仁・石丸憲一・大石正廣編著『文学・説明文の授業展開 全単元 小学校高学年』学事出版 2012 香月正澄・長安邦浩編著『小学校国語科アクティブラーニング型発問づくり 明治図書 2016 長崎伸仁・桂聖『文学の教材研究コーチング』東洋館出版社 2016						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども英語Ⅰ						
担当教員	吉井 康博						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	幼児・児童の英語教育研究						
授業の概要	この授業では、早期英語教育の理解に必要な認知心理学の基礎知識とSLA(第二言語習得)理論を学習します。言語を学習するには次のような要因が関与します。つまり、個人の言語学習に向かう動機と態度、inputとoutput、相互交流、さらに意識と注意、そして気づきなどです。これらの要因がどのような形で相互に関連しL2(第二言語)学習を促進するかを理論の実例から学習します。また授業の展開に必要な英語表現や基礎文法を口頭練習により学びます。						
到達目標	幼児・児童に英語を教える指導原理と授業を行う際に要求される英語表現の習得を目指し、英語指導ができる力を養います。						
授業計画	English for Primary Teachers: EPT / Classroom English: CE / Sentence-Creating Exercises: SCE / Review Quiz: RQ 1. Introduction 2. EPT 1.1 First Language -- second language CE 1-1 SCE1-1 3. RQ (CE1-1) EPT 1.2 Starting your lessons in English CE 1-2 SCE1-2 4. RQ (CE1-2) EPT 1.3 Organizing your classroom CE 1-3 SCE1-3 5. RQ (CE1-3) EPT 1.4 Ending your lessons CE 1-4 SCE1-4 6. RQ (CE1-4) EPT 1.5 Young learners CE 1-5 SCE1-5 7. RQ(CE1-5) EPT 2.1 Giving instructions in English CE 1-6 SCE1-6 8. RQ(CE1-6) EPT 2.2. Listening and identifying CE 1-7 SCE1-7 9. RQ(CE1-7) EPT 2.3 Listening and doing - TPR CE 1-8 SCE1-8 10. RQ(CE1-8) EPT 2.4 Listening and performing - miming CE 1-9 SCE1-9 11. RQ(CE1-9) EPT 2.5 Listening and responding games CE 1-10 SCE1-10 12. RQ(CE1-10) EPT 3.1 Listen and color CE 1-11 SCE1-11 13. RQ(CE1-11) EPT 3.2 Listen and draw CE 1-12 SCE1-12 14. RQ(CE1-12) EPT 3.3 Listen and make CE 1-13 SCE1-13 15. Question-and-Answer Session / Final Quiz						
授業外における学習(準備学習の内容)	(1) 毎回の授業で行うClassroom English(教室英語表現)は、Review Quiz(復習テスト)を行うので必ず口頭でも筆記でも対応できるよう準備が必要です。 (2) 教科書(English for Primary Teachers)は予習して、しっかり意味を理解しておく必要があります。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	Review Quiz: 40%; Participation:10%; Final Quiz:50%						
教科書	English for Primary Teachers Mary Slattery&Jane Willis Oxford Univ. Press ISBN 978-0-19-437563-3						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども英語II						
担当教員	吉井 康博						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	幼児・児童の英語教育研究						
授業の概要	子ども英語Iで学習した理論的知識に基づき、実用的な授業展開方法に関する理解を深め、効果的な指導方法について何が必要なかを考察していきます。また、授業案を練ることを課題とし、その課題を実践する模擬授業を行ってまいります。 子ども英語Iと同様、英語の形と表現法を学ぶ過程で、児童に投げかける疑問文を作ることや、様々な表現を組み合わせる簡単な物語を創作する練習も行います。						
到達目標	幼児・児童に英語を教える指導原理と授業を行う際に要求される英語力の習得、また授業が実際展開できる能力を身につけることを目指します。						
授業計画	English for Primary Teachers: EPT / Classroom English: CE / Sentence-Creating Exercises: SCE / Review Quiz: RQ 1. EPT 4.1 Using classroom phrases CE 1-1 SCE1-1 2. RQ (CE1-1) EPT 4.2 Saying rhymes and singing songs CE 1-2 SCE1-2 3. RQ (CE1-2) EPT 4.3 Practicing new vocabulary CE 1-3 SCE1-3 4. RQ (CE1-3) EPT 4.4 Playing vocabulary games CE 1-4 SCE1-4 5. RQ (CE1-4) EPT 4.5 Practicing pronunciation of new sounds CE 1-5 SCE1-5 6. RQ(CE1-5) EPT 5.1 Cognitive development CE 1-6 SCE1-6 7. RQ(CE1-6) EPT 5.2 Starting to speak freely CE 1-7 SCE1-7 8. RQ(CE1-7) EPT 5.3 Speaking games CE 1-8 SCE1-8 9. RQ(CE1-8) EPT 5.4 Children speaking in groups CE 1-9 SCE1-9 10. RQ(CE1-9) EPT 6.1 Beginning reading CE 1-10 SCE1-10 11. RQ(CE1-10) EPT 6.2 Speaking to reading CE 1-11 SCE1-11 12. RQ(CE1-11) EPT 6.3 Helping children recognize phrases CE 1-12 SCE1-12 13. RQ(CE1-12) EPT 6.4 Reading independently CE 1-13 SCE1-13 14. Presentation 15. Question-and-Answer Session / Final Quiz						
授業外における学習（準備学習の内容）	(1) 毎回の授業で行うClassroom English(教室英語表現)は、Review Quiz(復習テスト)を行うので必ず口頭でも筆記でも対応できるよう準備が必要です。 (2) 教科書(English for Primary Teachers)は予習して、しっかり意味を理解しておく必要があります。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	Review Quiz: 30%; Presentaion:20%; Final Quiz:50%						
教科書	English for Primary Teachers Mary Slattery&Jane Willis Oxford Univ. Press ISBN 978-0-19-437563-4						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども心理Ⅳ（発達障害）						
担当教員	藤本 浩一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	発達のアンバランスの理解と支援						
授業の概要	近年の教育・保育現場で注目されている発達アンバランス（発達障害）について正しい理解を持ち、適切な支援策を講じることができるような知識基盤を得ることを目的とする。 LD、ADHD、自閉症スペクトラムなどについて概説し、発達障害児の特性を十分知った上で、学校や日常生活場面での彼らに対する適切な教育・訓練や対応の仕方を学ぶ。障害を持つ人が社会で誇りと満足を持って生きていくにはどうすればいいかを考えるきっかけとしたい。受講人数次第では論文講読・グループ発表を行う。						
到達目標	発達アンバランスについての知識を得て、各種の障害を区別できる。将来の職場でスムーズに対処できるように支援の方法を説明できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. LD 特徴、ワーキングメモリー</li> <li>2. LD 事例、支援</li> <li>3. ADHD 特徴、査定</li> <li>4. ADHD 事例、支援、大人のADHD</li> <li>5. ASD/PDD 特徴、原因</li> <li>6. ASD/PDD 事例、訓練</li> <li>7. ASD/PDD 支援の取り組み</li> <li>8. 知的遅滞 特徴、心理査定、支援の事例</li> <li>9. ダウン症 特徴</li> <li>10. 認知訓練の実際 中間テスト</li> <li>11. 論文講読① 「発達障害の特徴」</li> <li>12. 論文講読② 「自閉症について」</li> <li>13. 論文講読③ 「園での発達障害児の支援の方法」</li> <li>14. 論文講読④ 「学校での発達障害児の支援の方法」</li> <li>15. 論文講読⑤ 「発達障害者の社会参加」</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	文献検索、発表要旨作成等の準備、レポート課題						
授業方法	講義、視聴覚教材、討論、論文講読と発表						
評価基準と評価方法	中間テストにて発達障害に関する知識を問う（30%）。他に、発表のわかりやすさ・本人理解（30%）、筆記試験（40%）などにより総合的に評価を行う。						
教科書	プリント教材を配ります。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども心理V (いじめと虐待)						
担当教員	黒崎 優美						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	教育的課題に対する臨床心理学的理解						
授業の概要	<p>目的： 学校や家庭で生じている教育的課題であるいじめと虐待について、臨床心理学的な視点から考え、理解を深めることを目的とします。</p> <p>概要： いじめや虐待などの教育的課題について、臨床心理学的理論に基づく理解や接近の方法を紹介し、身近な素材や事例を用いて理解を深めます。ワークや演習を通じて応用力を高め、その成果を共有します。教育者やカウンセラーなどの専門家による対応のあり方についても学びます。</p>						
到達目標	いじめや虐待などの教育的課題について理解を深め、臨床心理学的な観点から説明することができる。授業で得られた理解を、自分自身や日常生活や教育・保育の現場に応用することができる、また、それを言語化し他者と共有することができる。						
授業計画	第1回 導入 ～集団としての学校・家庭と“居場所”～ 第2回 「いじめ」の心理 ～“空気”としての学校～ 第3回 「いじめ」の心理 ～いじめ問題とその問題～ 第4回 「いじめ」の心理 ～いじめが起きるメカニズム(1)～ 第5回 「いじめ」の心理 ～いじめが起きるメカニズム(2)～ 第6回 「いじめ」の心理 ～いじめへの対処法(1)～ 第7回 「いじめ」の心理 ～いじめへの対処法(2)～ 第8回 「虐待」の心理 ～役割としての被害者・加害者(1)～ 第9回 「虐待」の心理 ～役割としての被害者・加害者(2)～ 第10回 「虐待」の心理 ～何が連鎖しているか(1)～ 第11回 「虐待」の心理 ～何が連鎖しているか(2)～ 第12回 「虐待」の心理 ～虐待への対処法(1)～ 第13回 「虐待」の心理 ～虐待への対処法(2)～ 第14回 課題発表 第15回 まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習： 教育的課題や臨床心理学に関する本を読み自分なりの理解や疑問をもって授業に臨んでください。 授業後学習： 授業内で紹介する参考書を読みさらに理解を深め新たな疑問をみつけてください。身近な素材を授業で得た理解と結びつけ「素材カード」にまとめ提出してください(任意、随時受付)。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点(授業レポート、素材カード) 60% 期末試験 20% 課題(レポート、もしくは課題発表) 20%						
教科書	プリントを配布します						
参考書	授業内で紹介します						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子どもの食と栄養／子ども発達I（食育）						
担当教員	織田 小枝						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの健やかな発育・発達には適切な食生活が重要であるばかりではなく、生涯にわたる健康への第一歩である。本授業では、子どもの成長発達に必要な栄養や食品の基本的知識を学ぶとともに「食育」の重要性を理解し、食育を行うための専門的知識について講義する。						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康な食生活の意義と栄養に関する基本的知識を学ぶ。</li> <li>2. 子どもの発育・発達に応じた食生活について理解を深める。</li> <li>3. 食育の基本と内容および食育のための環境と地域社会との連携について理解する。</li> <li>4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。</li> <li>5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な栄養学、食品学の知識を説明できる。</li> <li>2. 子どもの発育・発達段階に応じた食生活を学び、有効な食育内容を検討することができる。</li> <li>3. 食育の重要性について説明できる。</li> </ol>						
授業計画	第1回 授業概要の説明、子どもの健康と食生活の意義 第2回 栄養に関する基本的知識①（糖質・脂質） 第3回 栄養に関する基本的知識②（たんぱく質・ミネラル） 第4回 栄養に関する基本的知識③（ビタミン・その他） 第5回 食べ物の消化、吸収と排泄 第6回 献立作成 第7回 調理の基本 第8回 乳児期の授乳の意義と食生活 中間試験 第9回 乳児期の離乳の意義と食生活 第10回 幼児期の心身の発達と食生活 第11回 学童期の心身の発達と食生活 第12回 食育の基本と内容 第13回 児童福祉施設における食事と栄養 第14回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 第15回 まとめ、試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業内容の予習および復習 食に関する情報収集や市場調査を日頃から心がけること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験50%、課題・レポート50%として評価する。						
教科書	「最新子どもの食と栄養」飯塚美和子他編、学建書院、2017年、ISBN=978-4-7624-5841-5						
参考書	「子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養」堤ちはる・土井正子編著、萌文書林、2015年、ISBN=978-4-89347-154-3 「オールガイド食品成分表2017」実教出版編集部編、実教出版、2016年、ISBN=978-4-407-34075-4						



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子どもの食と栄養／子ども発達I（食育）						
担当教員	織田 小枝						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの健やかな発育・発達には適切な食生活が重要であるばかりではなく、生涯にわたる健康への第一歩である。本授業では、子どもの成長発達に必要な栄養や食品の基本的知識を学ぶとともに「食育」の重要性を理解し、食育を行うための専門的知識について講義する。						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康な食生活の意義と栄養に関する基本的知識を学ぶ。</li> <li>2. 子どもの発育・発達に応じた食生活について理解を深める。</li> <li>3. 食育の基本と内容および食育のための環境と地域社会との連携について理解する。</li> <li>4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。</li> <li>5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な栄養学、食品学の知識を説明できる。</li> <li>2. 子どもの発育・発達段階に応じた食生活を学び、有効な食育内容を検討することができる。</li> <li>3. 食育の重要性について説明できる。</li> </ol>						
授業計画	第1回 子どもの健康と食生活の意義 第2回 栄養に関する基本的知識①（糖質・脂質） 第3回 栄養に関する基本的知識②（たんぱく質・ミネラル） 第4回 栄養に関する基本的知識③（ビタミン・その他） 第5回 食べ物の消化、吸収と排泄 第6回 献立作成 第7回 調理の基本 第8回 乳児期の授乳の意義と食生活 中間試験 第9回 乳児期の離乳の意義と食生活 第10回 幼児期の心身の発達と食生活 第11回 学童期の心身の発達と食生活 第12回 食育の基本と内容 第13回 児童福祉施設における食事と栄養 第14回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 第15回 まとめ、試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業内容の予習および復習 食に関する情報収集や市場調査を日頃から心がけること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験50%、課題・レポート50%として評価する。						
教科書	「最新子どもの食と栄養」飯塚美和子他編、学建書院、2017年、ISBN=978-4-7624-5841-5						
参考書	「子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養」堤ちはる・土井正子編著、萌文書林、2015年、ISBN=978-4-89347-154-3 「オールガイド食品成分表2017」実教出版編集部編、実教出版、2016年、ISBN=978-4-407-34075-4						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達Ⅳ（人権と福祉）						
担当教員	塚元 重範						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	人権と社会福祉の役割と仕組み						
授業の概要	人権を守り、一人ひとりの生活を豊かにする社会福祉がどのような役割を担い、どういう仕組みになっているかを学ぶ。また、子どもの権利の侵害への対応方法や福祉制度の利用方法、関係機関同士の連携等保育や福祉現場で従事する者に求められるものを考える力を養う。						
到達目標	社会福祉の理念、仕組み、法律、制度を理解し、主たる法律、制度を列挙できる。 社会的援助を必要とする状況を理解し、社会福祉制度の利用方法を理解し、適切な福祉サービスの利用の仕方が説明できる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション、社会福祉の考え方 第2回：社会福祉を取り巻く環境 第3回：社会福祉の歴史、社会福祉の仕組み 第4回：社会福祉サービスの利用の仕組み 第5回：社会福祉の機関と施設 第6回：社会保障、低所得者福祉 第7回：児童家庭福祉 第8回：児童虐待その1、現状と課題 第9回：児童虐待その2、対応と対策 第10回：高齢者福祉 第11回：障害者福祉 第12回：地域福祉、利用者保護制度 第13回：社会的援助技術 第14回：社会福祉の担い手 第15回：まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回授業までに教科書を読んでおいてください。また、日常的に福祉に関連する新聞記事などに関心を持ち、何が問題でどうあるべきか等考えるようにしておいてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点 20% 小レポート 30% 試験 50%						
教科書	新プリマーズ『社会福祉』第4版 石田慎二・山縣文治編著 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-07341-2 C3336						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達Ⅴ（社会性と人格）						
担当教員	藤本 浩一						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会性と人格の発達						
授業の概要	子どもの人格と社会性の発達について講義を行う。子どもを取り巻く人間関係や社会文化的要因、自我の形成、対人関係などについて理解を深め、子どもの心の支援について考察する。「いじめ」対策や社会的スキル獲得など、個々の子どもに応じた対処の仕方を工夫できるような資源を作る。教師集団の心理についてもDVD視聴により社会心理学の観点から学習を深める。						
到達目標	社会性発達の研究を広く知ることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人格の基礎 気質、タイプ</li> <li>2. 社会性とは何か そのゴール</li> <li>3. 社会性が損なわれるとき</li> <li>4. 社会性の発達</li> <li>5. 対人コミュニケーション</li> <li>6. 家族関係 親子、兄弟</li> <li>7. 社会的認知</li> <li>8. 遊びと社会性</li> <li>9. 友人関係の成立と発展</li> <li>10. 自己主張と自己抑制</li> <li>11. セルフコントロール</li> <li>12. 学級の中での対人関係</li> <li>13. 社会的スキルトレーニング</li> <li>14. 道徳性発達</li> <li>15. DVD視聴と筆記試験実施</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	文献・論文検索、発表要旨作成、レポート課題作成。						
授業方法	講義、討論、視聴覚教材						
評価基準と評価方法	筆記試験（50％）と、不定期の提出物など（50％）で総合的に評価を行います。人数が多くなければ発表授業を行い、その場合は発表30％、筆記試験30％、提出物40％で総合評価します。						
教科書	プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	井上 知子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	学校・保育・子育て支援現場での実地学習を行う						
授業の概要	保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際について見学を通して理解する。						
到達目標	①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育についてレポートにまとめることができる ②乳幼児・児童を援助するための保育・教育についてレポートにまとめることができる ③授業全体を通じて、教師や保育者の仕事について説明することができる						
授業計画	<p>小学校（代表：根津）、幼稚園（代表：井上）、保育所（代表：吉田）、特別支援学校（代表：谷口）を中心に、見学と実地体験を行う。具体的な訪問順、および訪問先は授業開始までに確定する。</p> <p>第1回 オリエンテーション：授業の進め方・レポートに関する説明（大下・大石・内田）、訪問上の注意（根津、井上、吉田、谷口）  第2回 事前指導（根津、井上、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員）  第3回 現場見学と実地体験（1）：引率（全教員）  第4回 事後指導（根津、井上、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田）  第5回 事前指導（根津、井上、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員）  第6回 現場見学と実施体験（2）：引率（全教員）  第7回 事後指導（根津、井上、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田）  第8回 事前指導（根津、井上、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員）  第9回 現場見学と実施体験（3）：引率（全教員）  第10回 事後指導（根津、井上、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田）  第11回 事前指導（根津、井上、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員）  第12回 現場見学と実地体験（4）：引率（全教員）  第13回 事後指導（根津、井上、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田）  第14回 全体に関するディスカッション（全教員）  第15回 まとめ（全教員）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	幼稚園、保育所、小学校などについて、事前に気になるニュースなどを調べておく。						
授業方法	講義およびグループディスカッション						
評価基準と評価方法	学外実習レポート（80%）、総括レポート（20%）						
教科書	特に指定しない。						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	内田 祐貴						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	学校・保育・子育て支援現場での実地学習を行う						
授業の概要	保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際について見学を通して理解する。						
到達目標	①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育についてレポートにまとめることができる ②乳幼児・児童を援助するための保育・教育についてレポートにまとめることができる ③授業全体を通じて、教師や保育者の仕事について説明することができる						
授業計画	<p>小学校（代表：根津）、幼稚園（代表：井上）、保育所（代表：吉田）、特別支援学校（代表：谷口）を中心に、見学と実地体験を行う。具体的な訪問順、および訪問先は授業開始までに確定する。</p> <p>第1回 オリエンテーション：授業の進め方・レポートに関する説明（大下・大石・内田）、訪問上の注意（根津、井上、吉田、谷口）  第2回 事前指導（根津、井上、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員）  第3回 現場見学と実地体験（1）：引率（全教員）  第4回 事後指導（根津、井上、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田）  第5回 事前指導（根津、井上、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員）  第6回 現場見学と実施体験（2）：引率（全教員）  第7回 事後指導（根津、井上、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田）  第8回 事前指導（根津、井上、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員）  第9回 現場見学と実施体験（3）：引率（全教員）  第10回 事後指導（根津、井上、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田）  第11回 事前指導（根津、井上、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員）  第12回 現場見学と実地体験（4）：引率（全教員）  第13回 事後指導（根津、井上、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田）  第14回 全体に関するディスカッション（全教員）  第15回 まとめ（全教員）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	幼稚園、保育所、小学校などについて、事前に気になるニュースなどを調べておく。						
授業方法	講義およびグループディスカッション						
評価基準と評価方法	学外実習レポート（80%）、総括レポート（20%）						
教科書	特に指定しない。						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	大石 正廣						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	学校・保育・子育て支援現場での実地学習を行う						
授業の概要	保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際について見学を通して理解する。						
到達目標	①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育についてレポートにまとめることができる ②乳幼児・児童を援助するための保育・教育についてレポートにまとめることができる ③授業全体を通じて、教師や保育者の仕事について説明することができる						
授業計画	<p>小学校（代表：根津）、幼稚園（代表：井上）、保育所（代表：吉田）、特別支援学校（代表：谷口）を中心に、見学と実地体験を行う。具体的な訪問順、および訪問先は授業開始までに確定する。</p> <p>第1回 オリエンテーション：授業の進め方・レポートに関する説明（大下・大石・内田）、訪問上の注意（根津、井上、吉田、谷口）  第2回 事前指導（根津、井上、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員）  第3回 現場見学と実地体験（1）：引率（全教員）  第4回 事後指導（根津、井上、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田）  第5回 事前指導（根津、井上、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員）  第6回 現場見学と実施体験（2）：引率（全教員）  第7回 事後指導（根津、井上、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田）  第8回 事前指導（根津、井上、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員）  第9回 現場見学と実施体験（3）：引率（全教員）  第10回 事後指導（根津、井上、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田）  第11回 事前指導（根津、井上、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員）  第12回 現場見学と実地体験（4）：引率（全教員）  第13回 事後指導（根津、井上、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田）  第14回 全体に関するディスカッション（全教員）  第15回 まとめ（全教員）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	幼稚園、保育所、小学校などについて、事前に気になるニュースなどを調べておく。						
授業方法	講義およびグループディスカッション						
評価基準と評価方法	学外実習レポート（80%）、総括レポート（20%）						
教科書	特に指定しない。						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	谷口 和良						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	学校・保育・子育て支援現場での実地学習を行う						
授業の概要	保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際について見学を通して理解する。						
到達目標	①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育についてレポートにまとめることができる ②乳幼児・児童を援助するための保育・教育についてレポートにまとめることができる ③授業全体を通じて、教師や保育者の仕事について説明することができる						
授業計画	<p>小学校（代表：根津）、幼稚園（代表：井上）、保育所（代表：吉田）、特別支援学校（代表：谷口）を中心に、見学と実地体験を行う。具体的な訪問順、および訪問先は授業開始までに確定する。</p> <p>第1回 オリエンテーション：授業の進め方・レポートに関する説明（大下・大石・内田）、訪問上の注意（根津、井上、吉田、谷口）  第2回 事前指導（根津、井上、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員）  第3回 現場見学と実地体験（1）：引率（全教員）  第4回 事後指導（根津、井上、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田）  第5回 事前指導（根津、井上、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員）  第6回 現場見学と実施体験（2）：引率（全教員）  第7回 事後指導（根津、井上、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田）  第8回 事前指導（根津、井上、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員）  第9回 現場見学と実施体験（3）：引率（全教員）  第10回 事後指導（根津、井上、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田）  第11回 事前指導（根津、井上、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員）  第12回 現場見学と実地体験（4）：引率（全教員）  第13回 事後指導（根津、井上、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田）  第14回 全体に関するディスカッション（全教員）  第15回 まとめ（全教員）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	幼稚園、保育所、小学校などについて、事前に気になるニュースなどを調べておく。						
授業方法	講義およびグループディスカッション						
評価基準と評価方法	学外実習レポート（80%）、総括レポート（20%）						
教科書	特に指定しない。						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	根津 隆男						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	学校・保育・子育て支援現場での実地学習を行う						
授業の概要	保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際について見学を通して理解する。						
到達目標	①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育についてレポートにまとめることができる ②乳幼児・児童を援助するための保育・教育についてレポートにまとめることができる ③授業全体を通じて、教師や保育者の仕事について説明することができる						
授業計画	<p>小学校（代表：根津）、幼稚園（代表：井上）、保育所（代表：吉田）、特別支援学校（代表：谷口）を中心に、見学と実地体験を行う。具体的な訪問順、および訪問先は授業開始までに確定する。</p> <p>第1回 オリエンテーション：授業の進め方・レポートに関する説明（大下・大石・内田）、訪問上の注意（根津、井上、吉田、谷口）  第2回 事前指導（根津、井上、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員）  第3回 現場見学と実地体験（1）：引率（全教員）  第4回 事後指導（根津、井上、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田）  第5回 事前指導（根津、井上、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員）  第6回 現場見学と実施体験（2）：引率（全教員）  第7回 事後指導（根津、井上、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田）  第8回 事前指導（根津、井上、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員）  第9回 現場見学と実施体験（3）：引率（全教員）  第10回 事後指導（根津、井上、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田）  第11回 事前指導（根津、井上、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員）  第12回 現場見学と実地体験（4）：引率（全教員）  第13回 事後指導（根津、井上、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田）  第14回 全体に関するディスカッション（全教員）  第15回 まとめ（全教員）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	幼稚園、保育所、小学校などについて、事前に気になるニュースなどを調べておく。						
授業方法	講義およびグループディスカッション						
評価基準と評価方法	学外実習レポート（80%）、総括レポート（20%）						
教科書	特に指定しない。						
参考書	必要に応じて示す。						



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	吉田 直哉						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	学校・保育・子育て支援現場での実地学習を行う						
授業の概要	保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際について見学を通して理解する。						
到達目標	①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育についてレポートにまとめることができる ②乳幼児・児童を援助するための保育・教育についてレポートにまとめることができる ③授業全体を通じて、教師や保育者の仕事について説明することができる						
授業計画	<p>小学校（代表：根津）、幼稚園（代表：井上）、保育所（代表：吉田）、特別支援学校（代表：谷口）を中心に、見学と実地体験を行う。具体的な訪問順、および訪問先は授業開始までに確定する。</p> <p>第1回 オリエンテーション：授業の進め方・レポートに関する説明（大下・大石・内田）、訪問上の注意（根津、井上、吉田、谷口）  第2回 事前指導（根津、井上、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員）  第3回 現場見学と実地体験（1）：引率（全教員）  第4回 事後指導（根津、井上、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田）  第5回 事前指導（根津、井上、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員）  第6回 現場見学と実施体験（2）：引率（全教員）  第7回 事後指導（根津、井上、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田）  第8回 事前指導（根津、井上、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員）  第9回 現場見学と実施体験（3）：引率（全教員）  第10回 事後指導（根津、井上、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田）  第11回 事前指導（根津、井上、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員）  第12回 現場見学と実地体験（4）：引率（全教員）  第13回 事後指導（根津、井上、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田）  第14回 全体に関するディスカッション（全教員）  第15回 まとめ（全教員）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	幼稚園、保育所、小学校などについて、事前に気になるニュースなどを調べておく。						
授業方法	講義およびグループディスカッション						
評価基準と評価方法	学外実習レポート（80%）、総括レポート（20%）						
教科書	特に指定しない。						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども文化論						
担当教員	奥 美佐子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	共感する世界の体験						
授業の概要	子ども文化の一つとして、紙芝居や人形劇は子どもたちに魅力ある環境を創造するものである。紙芝居は小さな劇場として物語を提供し、人形劇は子どもたちは命を吹き込まれた人形に心を開き、人形との応答を通して自己を表現する。紙芝居では個々の表現を、人形劇では教育的効果を踏まえて保育・教育に役立つように、人形制作、演出、上演、相互評価を行う。また、人形劇作成のプロセスを通じてグループワークによる学生のコミュニケーション能力や表現力の育成を目指す。						
到達目標	(1) 絵本、紙芝居、人形劇の教育的効果を解説することができる。 (2) 絵本を基に人形劇の台本を作り、グループで人形劇を上演することができる。 (3) 自己評価、相互評価票を作成して、課題を具体的に述べることができる。						
授業計画	第1回 子ども文化論の概要 子ども文化と保育 第2回 ○紙芝居と出会う 紙芝居を創る：ストーリー展開を考える 第3回 紙芝居を創る：制作 第4回 紙芝居を演じる：舞台を使って演じる 第5回 ○人形劇を創る 人形劇の発生と歴史、物語ることについて 絵本から台本を創る 人形劇鑑賞と人形劇の基本の講義（ゲストスピーカー招聘予定 人形劇団アニモさんの人形劇を賞） 第7回 人形劇を創る：人形劇の構想 第8回 人形劇を創る：物語、話の展開と場面の絵コンテ、人形のデザイン 第9回 人形劇を創る：人形作成 第10回 人形劇を創る：人形作成 第11回 人形劇を創る：音声・背景などの製作 第12回 人形劇を創る：順次リハーサル 第13回 上演：前半グループの上演 第14回 上演：後半グループの上演 第15回 ○まとめと相互評価						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：グループごとの話し合いを十分にし、必要な材料・用具の準備すること。 授業後学習：全体の計画と照らしながら上演に向かって進めること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	紙芝居の制作と実演40%、台本作成・上演60%、参加の姿勢等平常点を加味して評価する。						
教科書	使用しない。適宜プリントを配布する。						
参考書	・紙芝居「おおきくおおきくおおきくなあれ」「だんごむしのころちゃん」など、子ども参加、自然、行事、昔話などのジャンルのもの。図書館に收藏。 ・「紙芝居―共感のよろこび」まっしのりこ著 ISBN4-494-02235-7 他、必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	算数科研究						
担当教員	大下 卓司						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	算数の楽しさを自ら体験する						
授業の概要	日常生活で用いる算数の基礎的事項を再確認する。それを土台に数の不思議さや面白さ、図形的美しさ、学習内容の系統性や移行の内容などを、数と計算・量と測定・図形・数量関係の4領域から考察し、理解していく。						
到達目標	算数の基本的な内容を理解するとともに、算数の研究手法や楽しさを体得する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業内容説明。算数科の目標・内容。家計の算数 第2回 数を楽しむ(1) ことばと演算(加減乗除)について議論する。身の回りの算数 第3回 数を楽しむ(2) 数と量の関係について理解する。%とは何か。 第4回 数を楽しむ(3) 分数の加法・減法について議論する。 第5回 数を楽しむ(3) 分数の乗法、除法について議論する。 第6回 量と測定(1) 式と単位の関係を理解する。 第7回 量と測定(2) 台形や複合図形の面積の求め方を考える。 第8回 量と測定(3) 単位置あたりの大きさについて議論する。 第9回 図形(1) 合同な図形や対称な図形等の理解を深め、様々な三角形・四角形の関係を知る。 第10回 図形(2) 図形の意味や性質について理解する。作図や制作を行う 第11回 数量関係(1) 二つの数量の変わり方を調べて問題解決を図る。 第12回 数量関係(2) 起こり得る場合を順序よく整理して調べる。 第13回 数量関係(3) 密度や速度の意味について議論する。 第14回 幼稚園児の遊びと算数の関係(4領域や算数的活動)を考える。 第15回 試験と授業全体の振り返り						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：授業までに教科書を読み、関心・意欲を持って授業にのぞんでください。 授業後学習：学んだことをもう一度簡単に整理し、要点をまとめてください。 復習のつもりで教科書を読めると理解が深まります。						
授業方法	講義やグループでのディスカッション						
評価基準と評価方法	試験50%、授業毎の課題50%						
教科書	授業で指示する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	算数科研究						
担当教員	大下 卓司						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	算数の楽しさを自ら体験する						
授業の概要	日常生活で用いる算数の基礎的事項を再確認する。それを土台に数の不思議さや面白さ、図形の美しさ、学習内容の系統性や移行の内容などを、数と計算・量と測定・図形・数量関係の4領域から考察し、理解していく。						
到達目標	算数の基本的な内容を理解するとともに、算数の研究手法や楽しさを体得する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業内容説明。算数科の目標・内容。家計の算数 第2回 数を楽しむ(1) ことばと演算(加減乗除)について議論する。身の回りの算数 第3回 数を楽しむ(2) 数と量の関係について理解する。%とは何か。 第4回 数を楽しむ(3) 分数の加法・減法について議論する。 第5回 数を楽しむ(3) 分数の乗法、除法について議論する。 第6回 量と測定(1) 式と単位の関係を理解する。 第7回 量と測定(2) 台形や複合図形の面積の求め方を考える。 第8回 量と測定(3) 単位置あたりの大きさについて議論する。 第9回 図形(1) 合同な図形や対称な図形等の理解を深め、様々な三角形・四角形の関係を知る。 第10回 図形(2) 図形の意味や性質について理解する。作図や制作を行う 第11回 数量関係(1) 二つの数量の変わり方を調べて問題解決を図る。 第12回 数量関係(2) 起こり得る場合を順序よく整理して調べる。 第13回 数量関係(3) 密度や速度の意味について議論する。 第14回 幼稚園児の遊びと算数の関係(4領域や算数的活動)を考える。 第15回 試験と授業全体の振り返り						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：授業までに教科書を読み、関心・意欲を持って授業にのぞんでください。 授業後学習：学んだことをもう一度簡単に整理し、要点をまとめてください。 復習のつもりで教科書を読めると理解が深まります。						
授業方法	講義やグループでのディスカッション						
評価基準と評価方法	試験50%、授業毎の課題50%						
教科書	授業で指示する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	算数科指導法						
担当教員	大下 卓司						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	楽しく、学習を促進する算数の授業を創る						
授業の概要	現行の算数教科書から選んだ内容について、指導案を作成し、グループで模擬授業を行い検討していく。また、授業のビデオを見て、授業のあり方や問題点等を検討し、楽しい授業づくりに生かしていく。						
到達目標	算数好きで、生き生きとした児童の育成に役立つような授業が実施できる。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：授業概要の説明。算数科における新学習指導要領のポイントを理解する。</p> <p>第2回 算数科の指導案の書き方とポイントについて考える。</p> <p>第3回 評価と学力調査をもとに分かる授業を考える。</p> <p>第4回 問題解決の授業を目指した教材開発を行う。</p> <p>第5回 授業のビデオを見て、算数の授業の特徴をつかむ。</p> <p>第6回 授業プラン作成(1) グループごとに教材研究を行い、指導案の単元計画を立てる。</p> <p>第7回 授業プラン作成(2) グループごとに模擬授業で行う本時の展開と板書計画を立てる。</p> <p>第8回 授業プラン作成(3) グループごとに指導案を完成させ、検討会を行う。</p> <p>第9回 模擬授業(1) グループごとに模擬授業を実施し、簡単な事後検討会を行う。</p> <p>第10回 模擬授業(2) グループごとに模擬授業を実施し、簡単な事後検討会を行う。</p> <p>第11回 模擬授業(3) グループごとに模擬授業を実施し、簡単な事後検討会を行う。</p> <p>第12回 模擬授業の振り返り：模擬授業の中の数例を取り上げ再構成に向け議論する。</p> <p>第13回 学力調査やテストの事例をもとに、各単元の学習内容を評価する際の考え方や方法を理解する。</p> <p>第14回 授業プランを洗練し、アクティブラーニングとその評価を取り入れた単元を計画する。</p> <p>第15回 まとめ：講義全体を振り返り、レポートを作成する。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>授業前学習：授業計画に従って、該当する箇所を考えてください。</p> <p>授業後学習：教材、発問、板書等が適切であったか考察してください。</p>						
授業方法	講義、演習、グループや全体でのディスカッション。						
評価基準と評価方法	<p>意欲 発表および授業毎の課題 20%</p> <p>知識 指導案およびレポート 60%</p> <p>適正 模擬授業 20%</p>						
教科書	授業で指示する。						
参考書	「活用力・思考力・表現力を育てる 365日の算数学習指導案」清水廣監修 明治図書						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目																																				
科目名	社会科研究																																				
担当教員	根津 隆男																																				
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0																														
授業のテーマ	「小学校社会科教育の在り方を追求する」																																				
授業の概要	現在に至るまでの社会科教育史を概観し、社会科成立の趣旨を理解し、小学校の社会科教育は、公民的資質の基礎を養うことを究極の目標にしていることについて理解を深める。その上で、学習指導要領に基づいて指導計画を作成し、授業を展開する。そのためには、社会科の目標と内容から、子どもたちに何を理解させ、どのような指導をしたらよいか、年間の指導計画を作成することによって、社会科の総合的理解を図る。																																				
到達目標	小学校社会の成立と変遷を知り、小学校社会科教育の内容についての総合的な理解を目指す。																																				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回：オリエンテーション</td> <td>：社会科好きになるために</td> </tr> <tr> <td>第2回：社会科誕生まで</td> <td>：小学校社会科の誕生</td> </tr> <tr> <td>第3回：社会科教育の変遷①</td> <td>：小学校社会科の変遷</td> </tr> <tr> <td>第4回：社会科教育の変遷②</td> <td>：学習指導要領の移り変わり</td> </tr> <tr> <td>第5回：問題解決的な学習</td> <td>：経験主義と系統主義の融合</td> </tr> <tr> <td>第6回：社会科の特質</td> <td>：全学年の目標と内容の理解</td> </tr> <tr> <td>第7回：学習内容①</td> <td>：中学年の地域学習の内容と指導計画</td> </tr> <tr> <td>第8回：学習内容②</td> <td>：産業学習の内容と指導計画</td> </tr> <tr> <td>第9回：学習内容③</td> <td>：歴史学習の内容と指導計画</td> </tr> <tr> <td>第10回：教科書の活用</td> <td>：学び方を学ぶ教科書の活用</td> </tr> <tr> <td>第11回：現場学習</td> <td>：現場での驚きと疑問を「学習問題」へ</td> </tr> <tr> <td>第12回：社会科における言語活動</td> <td>：体験を定着させる言語活動</td> </tr> <tr> <td>第13回：社会科の評価</td> <td>：指導計画と評価計画</td> </tr> <tr> <td>第14回：模擬授業①</td> <td>：地域に根差したカリキュラム</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめのテスト</td> <td></td> </tr> </table>							第1回：オリエンテーション	：社会科好きになるために	第2回：社会科誕生まで	：小学校社会科の誕生	第3回：社会科教育の変遷①	：小学校社会科の変遷	第4回：社会科教育の変遷②	：学習指導要領の移り変わり	第5回：問題解決的な学習	：経験主義と系統主義の融合	第6回：社会科の特質	：全学年の目標と内容の理解	第7回：学習内容①	：中学年の地域学習の内容と指導計画	第8回：学習内容②	：産業学習の内容と指導計画	第9回：学習内容③	：歴史学習の内容と指導計画	第10回：教科書の活用	：学び方を学ぶ教科書の活用	第11回：現場学習	：現場での驚きと疑問を「学習問題」へ	第12回：社会科における言語活動	：体験を定着させる言語活動	第13回：社会科の評価	：指導計画と評価計画	第14回：模擬授業①	：地域に根差したカリキュラム	第15回：まとめのテスト	
第1回：オリエンテーション	：社会科好きになるために																																				
第2回：社会科誕生まで	：小学校社会科の誕生																																				
第3回：社会科教育の変遷①	：小学校社会科の変遷																																				
第4回：社会科教育の変遷②	：学習指導要領の移り変わり																																				
第5回：問題解決的な学習	：経験主義と系統主義の融合																																				
第6回：社会科の特質	：全学年の目標と内容の理解																																				
第7回：学習内容①	：中学年の地域学習の内容と指導計画																																				
第8回：学習内容②	：産業学習の内容と指導計画																																				
第9回：学習内容③	：歴史学習の内容と指導計画																																				
第10回：教科書の活用	：学び方を学ぶ教科書の活用																																				
第11回：現場学習	：現場での驚きと疑問を「学習問題」へ																																				
第12回：社会科における言語活動	：体験を定着させる言語活動																																				
第13回：社会科の評価	：指導計画と評価計画																																				
第14回：模擬授業①	：地域に根差したカリキュラム																																				
第15回：まとめのテスト																																					
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞・テレビ等の情報機関より、世の中の動きを捉えておく。																																				
授業方法	講義・演習																																				
評価基準と評価方法	<table border="0"> <tr> <td>平常点（授業への参加度、提出物）</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>演習点（指導計画・指導案作成）</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>テスト点（公民的資質を身につける社会科になっているか）</td> <td>50%</td> </tr> </table>							平常点（授業への参加度、提出物）	30%	演習点（指導計画・指導案作成）	20%	テスト点（公民的資質を身につける社会科になっているか）	50%																								
平常点（授業への参加度、提出物）	30%																																				
演習点（指導計画・指導案作成）	20%																																				
テスト点（公民的資質を身につける社会科になっているか）	50%																																				
教科書	小学校学習指導要領解説 社会編（平成20年8月） 文部科学省 楽しく学ぶ小学生の地図帳 帝国書院																																				
参考書	・評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 国立教育政策研究所教育課程研究センター著																																				

科目区分	子ども発達学科専門教育科目																																				
科目名	社会科指導法																																				
担当教員	根津 隆男																																				
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	3	単位数	2.0																														
授業のテーマ	「楽しく学べる社会科学習のあり方を追求する」																																				
授業の概要	社会科を得意とする子供は多い、しかし社会科を苦手とする子供も少なくない。社会科はそれほど好き嫌いが極端な教科である。教師の中にも社会科の指導を苦手としているものが少なくない。それは社会が嫌いというよりは地域の特性などで教科書をそのまま使うことができないことなど、社会科の授業の進め方が分からないということに起因していると考えられる。そこで、覚えたり調べたりするだけの学習ではなく、驚きと疑問を解決していく「楽しく学べる社会学習」の指導法を、実際の模擬授業を通して目標に迫っていく。																																				
到達目標	「楽しい社会科授業づくり」の理論を構築し、子どもたちが満足して学習を終える授業づくりを、学習指導を案を作成したり、模擬授業を試みたりする体験的・実践的な学びを進める。																																				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回：オリエンテーション</td> <td>：「社会科が好き」な子どもたちを目指して</td> </tr> <tr> <td>第2回：学習指導要領</td> <td>：教育課程のよりどころとしての学習指導要領</td> </tr> <tr> <td>第3回：社会科の指導について</td> <td>：問題解決学習と系統学習の関係について</td> </tr> <tr> <td>第4回：社会科の目標と内容①</td> <td>：第3・4学年</td> </tr> <tr> <td>第5回：社会科の目標と内容②</td> <td>：第5・6学年 ゲストスピーカー招聘予定</td> </tr> <tr> <td>第6回：地域学習、産業学習</td> <td>：身近な素材の教材化</td> </tr> <tr> <td>第7回：歴史学習</td> <td>：人物中心の学習</td> </tr> <tr> <td>第8回：社会科指導案の作成</td> <td>：目標、単元について、指導計画、評価計画の書き方</td> </tr> <tr> <td>第9回：指導略案の作成①</td> <td>：子どもたちの驚きを「学習問題」に高めることを意識して</td> </tr> <tr> <td>第10回：模擬授業①</td> <td>：3・4年生の地域学習「教科書の資料」の活用を中心に</td> </tr> <tr> <td>第11回：指導略案の作成</td> <td>：板書の工夫を中心に</td> </tr> <tr> <td>第12回：模擬授業②</td> <td>：5年生の産業学習「庄内平野の米づくり」</td> </tr> <tr> <td>第13回：学習指導案の作成</td> <td>：単元の目標の確認と「単元について」の作成</td> </tr> <tr> <td>第14回：模擬授業③</td> <td>：6年生の歴史学習「室町時代の政治と文化」</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめとテスト</td> <td></td> </tr> </table>							第1回：オリエンテーション	：「社会科が好き」な子どもたちを目指して	第2回：学習指導要領	：教育課程のよりどころとしての学習指導要領	第3回：社会科の指導について	：問題解決学習と系統学習の関係について	第4回：社会科の目標と内容①	：第3・4学年	第5回：社会科の目標と内容②	：第5・6学年 ゲストスピーカー招聘予定	第6回：地域学習、産業学習	：身近な素材の教材化	第7回：歴史学習	：人物中心の学習	第8回：社会科指導案の作成	：目標、単元について、指導計画、評価計画の書き方	第9回：指導略案の作成①	：子どもたちの驚きを「学習問題」に高めることを意識して	第10回：模擬授業①	：3・4年生の地域学習「教科書の資料」の活用を中心に	第11回：指導略案の作成	：板書の工夫を中心に	第12回：模擬授業②	：5年生の産業学習「庄内平野の米づくり」	第13回：学習指導案の作成	：単元の目標の確認と「単元について」の作成	第14回：模擬授業③	：6年生の歴史学習「室町時代の政治と文化」	第15回：まとめとテスト	
第1回：オリエンテーション	：「社会科が好き」な子どもたちを目指して																																				
第2回：学習指導要領	：教育課程のよりどころとしての学習指導要領																																				
第3回：社会科の指導について	：問題解決学習と系統学習の関係について																																				
第4回：社会科の目標と内容①	：第3・4学年																																				
第5回：社会科の目標と内容②	：第5・6学年 ゲストスピーカー招聘予定																																				
第6回：地域学習、産業学習	：身近な素材の教材化																																				
第7回：歴史学習	：人物中心の学習																																				
第8回：社会科指導案の作成	：目標、単元について、指導計画、評価計画の書き方																																				
第9回：指導略案の作成①	：子どもたちの驚きを「学習問題」に高めることを意識して																																				
第10回：模擬授業①	：3・4年生の地域学習「教科書の資料」の活用を中心に																																				
第11回：指導略案の作成	：板書の工夫を中心に																																				
第12回：模擬授業②	：5年生の産業学習「庄内平野の米づくり」																																				
第13回：学習指導案の作成	：単元の目標の確認と「単元について」の作成																																				
第14回：模擬授業③	：6年生の歴史学習「室町時代の政治と文化」																																				
第15回：まとめとテスト																																					
授業外における学習（準備学習の内容）	小学校時代に使用した地図帳・教科書に目を通しておくこと																																				
授業方法	講義・演習																																				
評価基準と評価方法	平常点（授業への参加度・提出物）				30%																																
	演習（模擬授業・学習指導案）				20%																																
	テスト点				50%																																
	履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の三つの観点で行う。																																				
教科書	小学校学習指導要領解説社会編（平成20年8月） 文部科学省 小学校地図帳 帝国書院																																				
参考書	小学校社会科教師の専門性育成 教育出版 東京学芸大学社会科教育研究室編 授業実践ナビ 社会 文溪堂 安野功著																																				

科目区分	子ども発達学科専門教育科目																																				
科目名	社会科指導法																																				
担当教員	根津 隆男																																				
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0																														
授業のテーマ	「楽しく学べる社会科学習のあり方を追求する」																																				
授業の概要	社会科を得意とする子供は多い、しかし社会科を苦手とする子供も少なくない。社会科はそれほど好き嫌いが極端な教科である。教師の中にも社会科の指導を苦手としているものが少なくない。それは社会が嫌いというよりは地域の特性などで教科書をそのまま使うことができないことなど、社会科の授業の進め方が分からないということに起因していると考えられる。そこで、覚えたり調べたりするだけの学習ではなく、驚きと疑問を解決していく「楽しく学べる社会学習」の指導法を、実際の模擬授業を通して目標に迫っていく。																																				
到達目標	「楽しい社会科授業づくり」の理論を構築し、子どもたちが満足して学習を終える授業づくりを、学習指導を案を作成したり、模擬授業を試みたりする体験的・実践的な学びを進める。																																				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回：オリエンテーション</td> <td>：「社会科が好き」な子どもたちを目指して</td> </tr> <tr> <td>第2回：学習指導要領</td> <td>：教育課程のよりどころとしての学習指導要領</td> </tr> <tr> <td>第3回：社会科の指導について</td> <td>：問題解決学習と系統学習の関係について</td> </tr> <tr> <td>第4回：社会科の目標と内容①</td> <td>：第3・4学年</td> </tr> <tr> <td>第5回：社会科の目標と内容②</td> <td>：第5・6学年 ゲストスピーカー招聘予定</td> </tr> <tr> <td>第6回：地域学習、産業学習</td> <td>：身近な素材の教材化</td> </tr> <tr> <td>第7回：歴史学習</td> <td>：人物中心の学習</td> </tr> <tr> <td>第8回：社会科指導案の作成</td> <td>：目標、単元について、指導計画、評価計画の書き方</td> </tr> <tr> <td>第9回：指導略案の作成①</td> <td>：子どもたちの驚きを「学習問題」に高めることを意識して</td> </tr> <tr> <td>第10回：模擬授業①</td> <td>：3・4年生の地域学習「教科書の資料」の活用を中心に</td> </tr> <tr> <td>第11回：指導略案の作成</td> <td>：板書の工夫を中心に</td> </tr> <tr> <td>第12回：模擬授業②</td> <td>：5年生の産業学習「庄内平野の米づくり」</td> </tr> <tr> <td>第13回：学習指導案の作成</td> <td>：単元の目標の確認と「単元について」の作成</td> </tr> <tr> <td>第14回：模擬授業③</td> <td>：6年生の歴史学習「室町時代の政治と文化」</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめとテスト</td> <td></td> </tr> </table>							第1回：オリエンテーション	：「社会科が好き」な子どもたちを目指して	第2回：学習指導要領	：教育課程のよりどころとしての学習指導要領	第3回：社会科の指導について	：問題解決学習と系統学習の関係について	第4回：社会科の目標と内容①	：第3・4学年	第5回：社会科の目標と内容②	：第5・6学年 ゲストスピーカー招聘予定	第6回：地域学習、産業学習	：身近な素材の教材化	第7回：歴史学習	：人物中心の学習	第8回：社会科指導案の作成	：目標、単元について、指導計画、評価計画の書き方	第9回：指導略案の作成①	：子どもたちの驚きを「学習問題」に高めることを意識して	第10回：模擬授業①	：3・4年生の地域学習「教科書の資料」の活用を中心に	第11回：指導略案の作成	：板書の工夫を中心に	第12回：模擬授業②	：5年生の産業学習「庄内平野の米づくり」	第13回：学習指導案の作成	：単元の目標の確認と「単元について」の作成	第14回：模擬授業③	：6年生の歴史学習「室町時代の政治と文化」	第15回：まとめとテスト	
第1回：オリエンテーション	：「社会科が好き」な子どもたちを目指して																																				
第2回：学習指導要領	：教育課程のよりどころとしての学習指導要領																																				
第3回：社会科の指導について	：問題解決学習と系統学習の関係について																																				
第4回：社会科の目標と内容①	：第3・4学年																																				
第5回：社会科の目標と内容②	：第5・6学年 ゲストスピーカー招聘予定																																				
第6回：地域学習、産業学習	：身近な素材の教材化																																				
第7回：歴史学習	：人物中心の学習																																				
第8回：社会科指導案の作成	：目標、単元について、指導計画、評価計画の書き方																																				
第9回：指導略案の作成①	：子どもたちの驚きを「学習問題」に高めることを意識して																																				
第10回：模擬授業①	：3・4年生の地域学習「教科書の資料」の活用を中心に																																				
第11回：指導略案の作成	：板書の工夫を中心に																																				
第12回：模擬授業②	：5年生の産業学習「庄内平野の米づくり」																																				
第13回：学習指導案の作成	：単元の目標の確認と「単元について」の作成																																				
第14回：模擬授業③	：6年生の歴史学習「室町時代の政治と文化」																																				
第15回：まとめとテスト																																					
授業外における学習（準備学習の内容）	小学校時代に使用した地図帳・教科書に目を通しておくこと																																				
授業方法	講義・演習																																				
評価基準と評価方法	平常点（授業への参加度・提出物） 演習（模擬授業・学習指導案） テスト点 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の三つの観点で行う。					30% 20% 50%																															
教科書	小学校学習指導要領解説社会編（平成20年8月） 文部科学省 楽しく学ぶ小学生の地図帳 帝国書院																																				
参考書	小学校社会科教師の専門性育成 教育出版 東京学芸大学社会科教育研究室編 授業実践ナビ 社会 文溪堂 安野功著																																				



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会的養護／養護原理						
担当教員	塚元 重範						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	社会的養護について理解を深める						
授業の概要	社会的養護の理念、制度、方法など基本的な内容について理解し、社会的養護の体系や施設養護の実際、役割を学ぶ。						
到達目標	社会的養護の現状と体系や制度及び社会的養護の課題等を理解し、社会的養護の現状と仕組みが説明できる。社会的養護の施設と里親について説明ができる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 社会的養護の理念 第2回：社会的養護の概念 第3回：社会的養護の歴史的変遷 第4回：子ども観の変遷と児童の権利条約 第5回：児童の権利擁護と被措置児童等の虐待防止 第6回：社会的養護の制度と法体系 第7回：社会的養護の仕組みと実施体系 第8回：社会的養護の施設の種類の種類と施設養護の基本原則 第9回：家庭養護と里親 第10回：社会的養護の現状 第11回：社会的養護の課題 第12回：社会的養護の専門職・実施者 第13回：養護施設等運営管理と倫理の確立 第14回：地域福祉の現状と課題、ソーシャルワーク 第15回：まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から社会的養護に関心を持ち、児童問題や児童福祉施設、里親などの新聞記事には目を通し、何が問題でどうあるべきかなどを自分なりに考えるようにしてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点 20% 小レポート 30% 試験 50%						
教科書	基本保育シリーズ6「社会的養護」 監修公益財団法人児童育成協会 編集：相澤 仁 林 浩康 中央法規 ISBN 978-4-8058-5206-4 C3036						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会的養護内容／養護内容演習						
担当教員	塚元 重範						
学期	後期 前半	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	社会的養護を必要とする子どもの現状と援助の実際を通して、施設養護の専門性と子どもの理解、専門的なかわり方を学ぶ。						
授業の概要	児童福祉施設の役割や援助の実際を知り、施設に入所している子どもやその保護者、家族のこころの理解や基本的な対応を学ぶとともに適切な対応方法や対応の留意点を考える。						
到達目標	児童福祉施設の役割と援助の実際を理解し、基本的な役割を説明できる。 児童福祉施設に入所している子どもやその家族の心を理解し、施設職員としての役割や技術を理解し、基本的な援助の方法や指導の方法が説明できる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション、児童の社会的養護の現状と施設入所の意義 第2回：施設養護と里親 第3回：養護内容の実践領域1（健康、食事、排泄等） 第4回：養護内容の実践領域2（衣服の着脱、清潔、睡眠等） 第5回：児童養護施設の子どもの特徴と子どもの心の理解 第6回：子どもの問題行動とその対応（他職種との連携） 第7回：発達課題と子どもへの指導の留意点 第8回：援助指針と支援計画、親・家族への関わりと支援 第8回：まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から社会的養護に関心を持ち、児童養護や児童福祉施設に関連する新聞記事などを読んで、問題点などを考えるようにしてください。						
授業方法	講義とグループ討議 演習						
評価基準と評価方法	平常点 20% 小レポート 30% 試験 50%						
教科書	随時、資料を配布						
参考書	基本保育シリーズ18 「社会的養護内容」 監修 公益財団法人児童育成協会 中央法規 児童の福祉を支える 演習「社会的養護内容」 編著 吉田真理 萌文書林						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会的養護内容／養護内容演習						
担当教員	塚元 重範						
学期	後期 前半	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	社会的養護を必要とする子どもの現状と援助の実際を通して、施設養護の専門性と子どもの理解、専門的なかわり方を学ぶ。						
授業の概要	児童福祉施設の役割や援助の実際を知り、施設に入所している子どもやその保護者、家族のこころの理解や基本的な対応を学ぶとともに適切な対応方法や対応の留意点を考える。						
到達目標	児童福祉施設の役割と援助の実際を理解し、基本的な役割を説明できる。 児童福祉施設に入所している子どもやその家族の心を理解し、施設職員としての役割や技術を理解し、基本的な援助の方法や指導の方法が説明できる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション、児童の社会的養護の現状と施設入所の意義 第2回：施設養護と里親 第3回：養護内容の実践領域1（健康、食事、排泄等） 第4回：養護内容の実践領域2（衣服の着脱、清潔、睡眠等） 第5回：児童養護施設の子どもの特徴と子どもの心の理解 第6回：子どもの問題行動とその対応（他職種との連携） 第7回：発達課題と子どもへの指導の留意点 第8回：援助指針と支援計画、親・家族への関わりと支援 第8回：まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から社会的養護に関心を持ち、児童養護や児童福祉施設に関連する新聞記事などを読んで、問題点などを考えるようにしてください。						
授業方法	講義とグループ討議 演習						
評価基準と評価方法	平常点 20% 小レポート 30% 試験 50%						
教科書	随時、資料を配布						
参考書	基本保育シリーズ18 「社会的養護内容」 監修 公益財団法人児童育成協会 中央法規 児童の福祉を支える 演習「社会的養護内容」 編著 吉田真理 萌文書林						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会福祉援助技術						
担当教員	塚元 重範						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会福祉援助技術の理論と実際						
授業の概要	社会福祉援助技術の意味や進め方、相談援助を行う上で必要な知識、技術を学びながら、相談援助者としての実践力を養う。						
到達目標	相談援助の基本的な知識、技術を習得し、原則や留意点が説明できる。 相談援助の実践力を養い、基本的な相談面接ができる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：社会福祉援助技術とは 第3回：社会福祉援助技術の種類と内容 第4回：相談面接の基本1（面談と電話相談の留意点、事前準備） 第5回：相談面接の基本2（基本的態度） 第6回：相談面接の基本3（面接技法） 第7回：相談面接の実際（ロールプレイ） 第8回：自己覚知 第9回：他者理解 第10回：保育所・施設における保護者対応 第11回：相談援助の過程 第12回：地域援助技術と社会資源 第13回：児童虐待事例への対応 第14回：記録の目的と書き方 第15回：まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	相談援助の理論、原則をおさえたうえで、個々の事例の対応を考えるようにするため、絶えず、理論や原則を振り返るようにしてください。						
授業方法	講義、グループ討議、ロールプレイ等						
評価基準と評価方法	平常点 20% 小レポート 30% 試験 50%						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書	「演習・保育と相談援助」監修前田敏夫、編集佐藤伸隆・中西遍彦（株）みらい ISBN 978-4-86015-320-5						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会福祉援助技術						
担当教員	塚元 重範						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会福祉援助技術の理論と実際						
授業の概要	社会福祉援助技術の意味や進め方、相談援助を行う上で必要な知識、技術を学びながら、相談援助者としての実践力を養う。						
到達目標	相談援助の基本的な知識、技術を習得し、原則や留意点が説明できる。 相談援助の実践力を養い、基本的な相談面接ができる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：社会福祉援助技術とは 第3回：社会福祉援助技術の種類と内容 第4回：相談面接の基本1（面談と電話相談の留意点、事前準備） 第5回：相談面接の基本2（基本的態度） 第6回：相談面接の基本3（面接技法） 第7回：相談面接の実際（ロールプレイ） 第8回：自己覚知 第9回：他者理解 第10回：保育所・施設における保護者対応 第11回：相談援助の過程 第12回：地域援助技術と社会資源 第13回：児童虐待事例への対応 第14回：記録の目的と書き方 第15回：まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	相談援助の理論、原則をおさえたうえで、個々の事例の対応を考えるようにするため、絶えず、理論や原則を振り返るようにしてください。						
授業方法	講義、グループ討議、ロールプレイ等						
評価基準と評価方法	平常点 20% 小レポート 30% 試験 50%						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書	「演習・保育と相談援助」監修前田敏夫、編集佐藤伸隆・中西遍彦（株）みらい ISBN 978-4-86015-320-5						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	障害児保育／子ども発達III（障害児と環境）						
担当教員	西川 央江						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	障害のある子どもへの理解と支援						
授業の概要	インクルーシブ教育の推進において特別な支援を要する子どもや保護者に対して専門的支援が求められている。この授業において、①ダウン症等の知的障害、自閉症スペクトラム、脳性麻痺等の運動障害、感覚障害の子どもたちの障害特性、②障害のある子どもを育てる保護者や家族を支援する方法、③保育、教育場面で困っている子どもに対しての支援のあり方について学習する。また、障害にある子どもたちの豊かな発達を保障するためにどのような環境・システムを整えることが大切であるかについて考える。						
到達目標	1. 障害の特性についての基本的な知識について説明できる 2. 障害のある子どもへの支援方法を述べることができる 3. 障害のある子どもの保護者や兄弟姉妹、その他周囲の人への支援について説明できる 4. 障害のある子どもの発達を促すために環境・システムに求められる要件を述べることができる						
授業計画	第1回 障害児を取り巻く状況と保育・教育 第2回 障害のある子どもの発達 第3回 障害特性の理解と支援①（知的障害） 第4回 障害特性の理解と支援②（ダウン症） 第5回 障害特性の理解と支援③（自閉症スペクトラム） 第6回 障害特性の理解と支援④（自閉症スペクトラムと学習障害、注意欠損多動性障害） 第7回 障害特性の理解と支援⑤（脳性麻痺と運動障害） 第8回 障害特性の理解と支援⑥（てんかんと重複する障害） 第9回 障害特性の理解と支援⑦（視覚障害） 第10回 障害特性の理解と支援⑧（聴覚障害） 第11回 子どもを支援する環境の実際①（保育場面） 第12回 子どもを支援する環境の実際②（教育場面） 第13回 子どもを支援する環境の実際③（家庭場面） 第14回 関係機関との連携 支援者の支援 第15回 まとめ 試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：障害のある子どもについて関心を持ち報道番組や新聞記事等から情報を得る 授業後学習：授業で学んだ知識をボランティア活動や教育実習場面で経験したと照らし合わせ、将来的に保育・教育場面で生かしていける基礎的な知識になるようにまとめる。						
授業方法	講義、視聴覚教材を用いた学習、グループワーク						
評価基準と評価方法	試験50% 視聴覚教材に対するまとめレポート20% 各回提出のリアクションペーパー（受講コメント、質問等）30%						
教科書	プリント資料配布						
参考書	「障害児者の理解と教育・支援」金子書房 ISBN978-4-7608-2616-2 「障害児保育」北大路書房 ISBN978-4-7628-2628-3 「保育者のための障害児保育」中央法規出版 ISBN4-8058-1236-2						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	障害児保育／子ども発達III（障害児と環境）						
担当教員	西川 央江						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	障害のある子どもへの理解と支援						
授業の概要	インクルーシブ教育の推進において特別な支援を要する子どもや保護者に対して専門的支援が求められている。この授業において、①ダウン症等の知的障害、自閉症スペクトラム、脳性麻痺等運動障害、感覚障害の子どもたちの障害特性、②障害のある子どもを育てる保護者や家族を支援する方法、③保育、教育場面で困っている子どもに対する支援のあり方について学習する。また、障害のある子どもたちの豊かな発達を保障するためにどのような環境・システムを整えることが大切であるかについて考える。						
到達目標	1. 障害の特性についての基本的な知識について説明できる 2. 障害のある子どもへの支援方法を述べることができる 3. 障害のある子どもの保護者や兄弟姉妹、その他周囲の人への支援について説明できる 4. 障害のある子どもの発達を促すために環境・システムに求められる要件を述べることができる						
授業計画	第1回 障害児を取り巻く状況と保育・教育 第2回 障害のある子どもの発達 第3回 障害特性の理解と支援①（知的障害） 第4回 障害特性の理解と支援②（ダウン症） 第5回 障害特性の理解と支援③（自閉症スペクトラム） 第6回 障害特性の理解と支援④（自閉症スペクトラムと学習障害、注意欠損多動性障害） 第7回 障害特性の理解と支援⑤（脳性麻痺と運動障害） 第8回 障害特性の理解と支援⑥（てんかんと重複する障害） 第9回 障害特性の理解と支援⑦（視覚障害） 第10回 障害特性の理解と支援⑧（聴覚障害） 第11回 子どもを支援する環境と実際①（保育場面） 第12回 子どもを支援する環境と実際②（教育場面） 第13回 子どもを支援する地域と実際③（家庭場面） 第14回 関係機関との連携 支援者の支援 第15回 まとめ 試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：障害のある子どもについて関心を持ち、ニュース、報道番組、新聞記事などから積極的に情報を取り入れるように心がけてください。						
授業方法	講義、視聴覚教材を用いた学習、グループワーク						
評価基準と評価方法	試験50% 視聴覚教材に対するまとめレポート20% 各回提出のリアクションペーパー（授業コメント、質問等）30%						
教科書	プリント資料配布						
参考書	「障害児者の理解と教育・支援」金子書房 ISBN978-4-7608-2616-2 「障害児保育」北大路書房 ISBN978-4-7628-2628-3 「保育者のための障害児保育」中央法規出版ISBN4-8058-1236-2						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	小児体育						
担当教員	倉 真智子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	幼児期の運動理解と指導						
授業の概要	幼児期は生涯にわたって心身の健康の基盤を培う重要な時期である。幼児期に遊びの中で十分体を動かし、諸機能の発達を促し、児童期へと繋げていくことが大切である。さらに遊びを通して認知的、情緒・社会的発達を相互に関連させながら発達していく。これらを理解し、年齢による発達を踏まえ、適切な指導や援助ができる基礎的技能を習得する。						
到達目標	(1) 発達段階を捉え、年齢に応じた運動遊びを行うことができる。 (2) 指導計画の細案を立案し指導できる。 (3) 模擬保育後、自己評価や他者を評価し、積極的に意見が言える。 (4) これらを総合し、各自新たに指導計画を作成することができる。						
授業計画	1 現在における学童期・幼児期の運動の問題点 2 幼児期における運動遊びの意義 3 細案の作成法 4 鬼ごっこ(3歳児) 5 鬼ごっこ(4・5歳児) 6 ボールを用いた遊び 7 ボール運動 8 縄を用いた遊び(3歳児) 9 縄を用いた遊び(4・5歳児) 10 フープを用いた遊び 11 フープを用いた遊びの展開 12 身近なものを利用した遊びの展開 13 マット、跳び箱遊び(3歳児) 14 細案から指導計画の作成 15 指導計画の立案と作成						
授業外における学習(準備学習の内容)	小学校の体育と幼児期の遊びの相違を理解し、書物等で調べておくこと。						
授業方法	実技・演習						
評価基準と評価方法	細案と発表(40%) 指導計画(20%) リアクションペーパー等による平常点(40%)						
教科書	「子どもが育つ運動遊び」みらい ISBN 978-4-86015-379-3						
参考書	「遊びの指導」 幼少年教育研究所 同文書院 「0~5歳児の運動遊び指導百科」前橋明 ひかりのくに 「どの子どものびる運動神経」白石豊・広瀬仁美 かがわ出版						



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	小児体育						
担当教員	倉 真智子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	幼児期の運動理解と指導						
授業の概要	幼児期は生涯にわたって心身の健康の基盤を培う重要な時期である。幼児期に遊びの中で十分体を動かし、諸機能の発達を促し、児童期へと繋げていくことが大切である。さらに遊びを通して認知的、情緒・社会的発達を相互に関連させながら発達していく。これらを理解し、年齢による発達を踏まえ、適切な指導や援助ができる基礎的技能を習得する。						
到達目標	(1) 発達段階を捉え、年齢に応じた運動遊びを行うことができる。 (2) 指導計画の細案を立案し指導できる。 (3) 模擬保育後、自己評価や他者を評価し、積極的に意見が言える。 (4) これらを総合し、各自新たに指導計画を作成することができる。						
授業計画	1 現在における学童期・幼児期の運動の問題点 2 幼児期における運動遊びの意義 3 細案の作成法 4 鬼ごっこ(3歳児) 5 鬼ごっこ(4・5歳児) 6 ボールを用いた遊び 7 ボール運動 8 縄を用いた遊び(3歳児) 9 縄を用いた遊び(4・5歳児) 10 フープを用いた遊び 11 フープを用いた遊びの展開 12 身近なものを利用した遊びの展開 13 マット、跳び箱遊び(3歳児) 14 細案から指導計画の作成 15 指導計画の立案と作成						
授業外における学習(準備学習の内容)	小学校の体育と幼児期の遊びの相違を理解し、書物等で調べておくこと。						
授業方法	実技・演習						
評価基準と評価方法	細案と発表(40%) 指導計画(20%) リアクションペーパー等による平常点(40%)						
教科書	「子どもが育つ運動遊び」みらい ISBN 978-4-86015-379-3						
参考書	「遊びの指導」 幼少年教育研究所 同文書院 「0~5歳児の運動遊び指導百科」前橋明 ひかりのくに 「どの子どものびる運動神経」白石豊・広瀬仁美 かがわ出版						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	小児保健A						
担当教員	美安 敬子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	小児は大人の縮小版ではなく、小児という特徴をもち、未熟な機能が発達・発育していくことである。その特徴を理解し、健やかな成長の促進への関わりを学ぶ						
授業の概要	小児の発達・発育とは一定の法則がある。その法則とはどのようなことなのか。身体・精神・情緒などの成長過程を知り、保育者としての役割を自覚できる。						
到達目標	小児を1人の尊厳をもつ人間として理解し、小児期の意味とその保持増進に向けて健康的な成長・発達を促進するための基礎的知識を学ぶことができる。また、小児の健康生活・成長・発達の促進者としての小児保健管理の基礎的能力を育成することができる。						
授業計画	第1回：第1章 子どもの健康と保健の意義① 健康の概念 第2回：第2章 子どもの健康と保健の意義② 小児保健統計 第3回：第2章 子どもの発育・発達①体の理解 身体発育とは 第4回：第2章 子どもの発育・発達②運動機能・精神機能の発達 第5回：第2章 子どもの発育・発達③生理機能・感覚器の発達 第6回：第3章 子どもの心の健康① 園生活とこころの健康 第7回：第3章 子どもの心の健康② 特別な配慮がいる子どもたち 第8回：第6章 子どもの事故① 子どもに多い事故 第9回：第6章 子どもの事故② 子どもに多いけが 第10回：第6章 子どもの事故③ 年齢別に見た怪我の特徴 第11回：第7章 子どもの保育環境① 望ましい保育環境 第12回：第7章 子どもの保育環境② 室内での安全対策 第13回：第7章 子どもの保育環境② 保育現場の安全対策 第14回：第8章 保護者への子どもの健康管理の伝え方 けんこうだより 第15回：後期試験 試験解答開示と説明とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	教科書をしっかり読み込んでおくこと 専門用語が多いのでわからない語彙については調べておくこと 実習中に授業内容を参照して振り返ること						
授業方法	教科書持参必須！！！！（DVD・パソコンを使用した授業方法）						
評価基準と評価方法	期末テストで100%評価します。 *教科書必携・課題・授業態度は最大20%評価減点します						
教科書	これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健I （必ず持参すること） 鈴木美枝子 創成者 2200円						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	小児保健B						
担当教員	美安 敬子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	小児は免疫機能や、全ての臓器機能が未熟なので、病気・怪我・事故に遭いやすく、急変、重症化しやすい。小児がかかりやすい疾患や手当て、早期発見・早期予防について学ぶ。						
授業の概要	発育・発達の日覚しい子どもの特性を学び、罹患しやすい疾患の知識と事故の予防などの知識について学ぶ。また、家庭や地域との連携による保健活動を学ぶ						
到達目標	小児を1人の尊厳をもつ人間として理解し、小児期の意味とその保持増進に向けて健康的な成長・発達を促進するための基礎的知識を学ぶことができる。また、小児の健康生活・成長・発達の促進者としての小児保健管理の基礎的能力を育成することができる。						
授業計画	第1回：第4章 子どもの食と栄養 ① 母乳・人工栄養期 第2回：第4章 子どもの食と栄養 ② 離乳食期 第3回：第4章 子どもの食と栄養 ③ 幼児食期 第4回：第5章 子どもの病気と保育① 健康状態の把握 第5回：第5章 子どもの病気と保育② 体調不良のときの対応 発熱・下痢・嘔吐・咳 第6回：第5章 子どもの病気と保育③ ウイルス感染症 細菌感染症 第7回：第5章 子どもの病気と保育④ 耳・鼻・喉の感染症 胃腸の感染症 目・腎の感染症 第8回：第5章 子どもの病気と保育⑤ アレルギー疾患とは 抗原抗体反応 第9回：第5章 子どもの病気と保育⑥ アレルギーマーチ・アナフィラキシーショック 第10回：第5章 子どもの病気と保育⑦ 先天異常疾患 第11回：第5章 子どもの病気と保育⑧ 感染症予防 感染源・感染経路・感染対策 第12回：第5章 子どもの病気と保育⑨ 感染症予防 予防接種時期・学校感染症 第13回：第5章 子どもの病気と保育⑩ 感染症予防 生ワクチンと不活化ワクチン 第14回：第5章 子どもの病気と保育⑪ 健康診断について 第15回： 後期試験 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	教科書を読みこんでおくこと。専門用語が多いのでわからない語彙は調べておくこと 実習で遭遇した怪我・病気については教科書とネットや文献検索で再確認しておくこと						
授業方法	DVDやPCのスライドを使用し授業を進めます。 教科書持参必須						
評価基準と評価方法	授業態度・課題・期末テストで100%評価します。 スマホ・携帯電話・私語・居眠り・授業中にふさわしくない行為不可【試験から最大20%減点して評価します。】						
教科書	これだけはおさえない！ 保育者のための子どもの保健 I 創成者 2200円 鈴木美枝子						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	小児保健演習						
担当教員	寺村 ゆかの						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児の「こころとからだの健康」を保持・増進するための具体的援助						
授業の概要	乳幼児の健康や保育に関する既習の知識を統合しながら、日常の養護の方法として「乳幼児の健やかな成長・発達を保障するために必要な援助技術」について学ぶ。さらに「病気や事故の予防と応急処置」といった具体的な技術も演習を通して習得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者に必要不可欠な役割のひとつである「乳幼児の健康を保持・増進する」ための専門的知識とその技術を確実に習得する</li> <li>2. 保育をおこなう上での「安全・衛生管理」ができることに加え、そのための「環境構成」も考えられるようになる</li> <li>3. 子どもの健全な成長・発達という観点から「年間の保健活動」を考えられるようになる</li> </ol>						
授業計画	<p>第1回 授業のオリエンテーション/私がイメージする「子どもの健康」とは</p> <p>第2回 子どもの発育・発達を知ろう①(講義)</p> <p>第3回 子どもの発育・発達を知ろう②(演習) 抱き方・衣服の着脱・身体発育の測定など</p> <p>第4回 子どもの健康状態を知ろう①(講義) 体温・脈拍・呼吸・一般状態の観察と評価</p> <p>第5回 子どもの健康状態を知ろう②(演習) 体温・脈拍・呼吸・一般状態の観察と評価</p> <p>第6回 日常における養護の方法①(演習) 沐浴・スキンケアについて</p> <p>第7回 日常における養護の方法②(講義) 栄養・母乳の与え方・調乳の仕方など</p> <p>第8回 日常における養護の方法③(講義) 口腔ケア・睡眠など</p> <p>第9回 室内の環境整備・衛生管理(講義)</p> <p>第10回 体調不良時の対応(講義) 発熱・嘔吐・下痢・脱水時などの対応</p> <p>第11回 事故予防とけがの対応(講義)</p> <p>第12回 いざという時の応急処置①(講義)</p> <p>第13回 いざという時の応急処置②(演習)</p> <p>第14回 保健活動の計画と評価</p> <p>第15回 授業全体のまとめ</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの健康に関する既習科目(前年度までの)の内容を復習しておく</li> <li>2. 各回の授業内容に関連のある項目について、文献やマスメディア等を参考にして事前学習をおこなう</li> </ol>						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	毎回授業中の後半に作成するミニレポート(演習記録)70% 小テスト 30%						
教科書	ISBN 978-4-521-73677-8 子どもの保健 演習 大西文子編著(2012) 中山書店						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	小児保健演習						
担当教員	寺村 ゆかの						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児の「こころとからだの健康」を保持・増進するための具体的援助						
授業の概要	乳幼児の健康や保育に関する既習の知識を統合しながら、日常の養護の方法として「乳幼児の健やかな成長・発達を保障するために必要な援助技術」について学ぶ。さらに「病気や事故の予防と応急処置」といった具体的な技術も演習を通して習得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者に必要不可欠な役割のひとつである「乳幼児の健康を保持・増進する」ための専門的知識とその技術を確実に習得する</li> <li>2. 保育をおこなう上での「安全・衛生管理」ができることに加え、そのための「環境構成」も考えられるようになる</li> <li>3. 子どもの健全な成長・発達という観点から「年間の保健活動」を考えられるようになる</li> </ol>						
授業計画	<p>第1回 授業のオリエンテーション/私がイメージする「子どもの健康」とは</p> <p>第2回 子どもの発育・発達を知ろう①(講義)</p> <p>第3回 子どもの発育・発達を知ろう②(演習) 抱き方・衣服の着脱・身体発育の測定など</p> <p>第4回 子どもの健康状態を知ろう①(講義) 体温・脈拍・呼吸・一般状態の観察と評価</p> <p>第5回 子どもの健康状態を知ろう②(演習) 体温・脈拍・呼吸・一般状態の観察と評価</p> <p>第6回 日常における養護の方法①(演習) 沐浴・スキンケアについて</p> <p>第7回 日常における養護の方法②(講義) 栄養・母乳の与え方・調乳の仕方など</p> <p>第8回 日常における養護の方法③(講義) 口腔ケア・睡眠など</p> <p>第9回 室内の環境整備・衛生管理(講義)</p> <p>第10回 体調不良時の対応(講義) 発熱・嘔吐・下痢・脱水時などの対応</p> <p>第11回 事故予防とけがの対応(講義)</p> <p>第12回 いざという時の応急処置①(講義)</p> <p>第13回 いざという時の応急処置②(演習)</p> <p>第14回 保健活動の計画と評価</p> <p>第15回 授業全体のまとめ</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの健康に関する既習科目(前年度までの)の内容を復習しておく</li> <li>2. 各回の授業内容に関連のある項目について、文献やマスメディア等を参考にして事前学習をおこなう</li> </ol>						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	毎回授業中の後半に作成するミニレポート(演習記録)70% 小テスト 30%						
教科書	ISBN 978-4-521-73677-8 子どもの保健 演習 大西文子編著(2012) 中山書店						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	児童家庭福祉／子ども発達II（児童福祉）						
担当教員	塚元 重範						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	児童家庭福祉の意義と役割						
授業の概要	子どもの捉え方を歴史的経緯の中で理解し、現代社会における子どもや家庭の問題とそれに対応する児童家庭福祉の理念、制度、仕組みについて学ぶ。						
到達目標	児童家庭福祉の理念、仕組み、法律、制度を理解し、主たる法律、制度を列挙できる。 現代の子どもと家庭を取り巻く環境について考え、児童問題とそれに対応する児童家庭福祉制度やサービスについて理解し、活用の仕方について説明できる。 児童家庭福祉の現状と課題を理解し、今後の展望について考えることができる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション、児童家庭福祉の考え方 第2回：児童家庭福祉を取り巻く状況 第3回：児童家庭福祉の歴史 第4回：児童家庭福祉行政の仕組み 第5回：児童家庭福祉の機関と施設 第6回：健全育成サービス 第7回：母子保健サービス 第8回：保育サービス 第9回：要保護児童への福祉サービス 第10回：障害児福祉サービス 第11回：少年非行への対応 第12回：ひとり親家庭への福祉サービス 第13回：子ども虐待の防止とその対応 第14回：児童家庭福祉でのソーシャルワーク 第15回：まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回、授業を受ける前に必ず教科書を読んでおいてください。また、日頃から児童問題に関心を持ち、新聞などで児童問題に関する記事が出たら何が問題なのか自分なりに考えるようにしてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点 20% 小レポート 30% 試験 50%						
教科書	新プリマーズ『児童家庭福祉』第4版 福田公教・山縣文治編著 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-07340-5 C3336						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	スポーツと健康						
担当教員	藤木 大三						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本学学生以前に、社会の一員として豊かで健康的な社会生活を送るために、不可欠な基礎要件としての資質に関する認識と自己の実現を、様々な身体活動や講義を通して学習、実践していくことを目的とする。						
授業の概要	授業は、主に講義で学んだことを体育館での実技を通して、実践し体得していく、という形式で行う。また履修学生全員が、以下のいずれかの方法で「スポーツ」及び「健康」に関する授業外実践を行い、学期期間中に全体へのプレゼンテーションを行うことを義務付ける。 1. 「スポーツ関連書」読後感想 2. 「スポーツ実体験（個人）」と実践報告 3. 「スポーツ実体験（複数）」と実践報告						
到達目標	本授業を通して、 1. 普段の学生生活から、より健康への意識を高めることが出来る。 2. 実技体験を通して、履修学生同士が今以上にコミュニケーションを深めることが出来る。 3. 他にはないユニークな授業実践を通して、本学学生としてのアイデンティティを高めることが出来る。						
授業計画	第1回 授業概要オリエンテーション+講師自己紹介 第2回 体力についての再認識（講義） 第3回 体力についての再認識（実技） 第4回 筋力についての基礎的知見を深める（講義） 第5回 筋力についての基礎的知見を深める（実技） 第6回 授業フィードバックとしての実技体験1（実技） 第7回 知っておきたいダイエットの真実（講義） 第8回 知っておきたいダイエットの真実（講義） 第9回 脳の構造から見た男女の相違について（講義） 第10回 脳の構造から見た男女の相違について（実技） 第11回 授業フィードバックとしての実技体験2（実技） 第12回 子どもから健やかな老後へのいざない（講義） 第13回 子どもから健やかな老後へのいざない（実技） 第14回 選択コース発表会1 第15回 選択コース発表会2						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業外実践課題については、第1回授業で詳細を説明する。						
授業方法	講義と実技						
評価基準と評価方法	授業平常点 60 % 個人課題 30% 松蔭manaba経由での期末レポート提出 10%						
教科書	特になし						
参考書	特になし						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	スポーツと健康						
担当教員	藤木 大三						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本学学生以前に、社会の一員として豊かで健康的な社会生活を送るために、不可欠な基礎要件としての資質に関する認識と自己の実現を、様々な身体活動や講義を通して学習、実践していくことを目的とする。						
授業の概要	授業は、主に講義で学んだことを体育館での実技を通して、実践し体得していく、という形式で行う。また履修学生全員が、以下のいずれかの方法で「スポーツ」及び「健康」に関する授業外実践を行い、学期期間中に全体へのプレゼンテーションを行うことを義務付ける。 1. 「スポーツ関連書」読後感想 2. 「スポーツ実体験（個人）」と実践報告 3. 「スポーツ実体験（複数）」と実践報告						
到達目標	本授業を通して、 1. 普段の学生生活から、より健康への意識を高めることが出来る。 2. 実技体験を通して、履修学生同士が今以上にコミュニケーションを深めることが出来る。 3. 他にはないユニークな授業実践を通して、本学学生としてのアイデンティティを高めることが出来る。						
授業計画	第1回 授業概要オリエンテーション+講師自己紹介 第2回 体力についての再認識（講義） 第3回 体力についての再認識（実技） 第4回 筋力についての基礎的知見を深める（講義） 第5回 筋力についての基礎的知見を深める（実技） 第6回 授業フィードバックとしての実技体験1（実技） 第7回 知っておきたいダイエットの真実（講義） 第8回 知っておきたいダイエットの真実（講義） 第9回 脳の構造から見た男女の相違について（講義） 第10回 脳の構造から見た男女の相違について（実技） 第11回 授業フィードバックとしての実技体験2（実技） 第12回 子どもから健やかな老後へのいざない（講義） 第13回 子どもから健やかな老後へのいざない（実技） 第14回 選択コース発表会1 第15回 選択コース発表会2						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業外実践課題については、第1回授業で詳細を説明する。						
授業方法	講義と実技						
評価基準と評価方法	授業平常点 60 % 個人課題 30% 松蔭manaba経由での期末レポート提出 10%						
教科書	特になし						
参考書	特になし						



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工科研究						
担当教員	奥 美佐子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	美術教育（造形表現・図画工作・美術）の意義について考える						
授業の概要	美術教育は保育所・幼稚園では造形表現、小学校では図画工作という名称になっている。この授業では美術教育を具体的なイメージを持って理解し、子どもの造形・図画工作の意味と意義について検証するために、美術教育の理念、美術教育史、教育要領・学習指導要領、子どもの造形表現の発達と表現形式について基本的な知識を得るとともに、表現と鑑賞の関係、児童の理解と教師の役割について考える。造形表現・図画工作科の基本的な考えを、理論・事例研究・実技を通して学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 美術教育の歴史や教育要領・学習指導要領を説明することができる。</li> <li>(2) 子どもの美術表現の特質を示し、事例を通じて解説することができる。</li> <li>(3) 表現と鑑賞の関係を学び、子どもの作品及び自分の作品を評価することができる。</li> </ol>						
授業計画	第1回 子どもの表現と美的経験 第2回 図工科教育の理念と目標 第3回 美術教育の潮流(1)：美術教育の変遷 第4回 美術教育の潮流(2)：現代の潮流…美術教育史から見た課題 第5回 子どもの表現の事例研究(1)：造形表現の発達との関連を見る・低学年 第6回 子どもの表現の事例研究(2)：造形表現の発達との関連を見る・中、高学年 第7回 教育要領・学習指導要領概説、図画工作科の指導計画 第8回 子どもの活動の研究(1)：造形遊びの実践 第9回 子どもの活動の研究(2)：実践の考察と相互評価 第10回 子どもの活動の研究(3)：絵に表す実践 第11回 子どもの活動の研究(4)：実践の考察と相互評価 第12回 子どもの活動の研究(5)：立体に表す 第13回 子どもの活動の研究(6) 実践の考察と相互評価 第14回 鑑賞教育：鑑賞と表現の関係について考える 第15回 図工科教育の課題：グループディスカッション及び講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な材料・用具の準備しておくこと。 授業後学習：レポートや課題を課すことがある。各回の内容を系統的にまとめておくこと。						
授業方法	講義・演習						
評価基準と評価方法	課題に取り組む姿勢及び活動に関わるレポート等の提出物60%、作品40%で評価する。						
教科書	藤江充他著『図画工作科指導法 理論と実践』日本文教出版 ISBN78-4-536-60020-0 小学校学習指導要領図画工作編						
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工科研究						
担当教員	奥 美佐子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	美術教育（造形表現・図画工作・美術）の意義について考える						
授業の概要	美術教育は保育所・幼稚園では造形表現、小学校では図画工作という名称になっている。この授業では美術教育を具体的なイメージを持って理解し、子どもの造形・図画工作の意味と意義について検証するために、美術教育の理念、美術教育史、教育要領・学習指導要領、子どもの造形表現の発達と表現形式について基本的な知識を得るとともに、表現と鑑賞の関係、児童の理解と教師の役割について考える。造形表現・図画工作科の基本的な考えを、理論・事例研究・実技を通して学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 美術教育の歴史や教育要領・学習指導要領を説明することができる。</li> <li>(2) 子どもの美術表現の特質を示し、事例を通じて解説することができる。</li> <li>(3) 表現と鑑賞の関係を学び、子どもの作品及び自分の作品を評価することができる。</li> </ol>						
授業計画	第1回 子どもの表現と美的経験 第2回 図工科教育の理念と目標 第3回 美術教育の潮流(1)：美術教育の変遷 第4回 美術教育の潮流(2)：現代の潮流…美術教育史から見た課題 第5回 子どもの表現の事例研究(1)：造形表現の発達との関連を見る・低学年 第6回 子どもの表現の事例研究(2)：造形表現の発達との関連を見る・中、高学年 第7回 教育要領・学習指導要領概説、図画工作科の指導計画 第8回 子どもの活動の研究(1)：造形遊びの実践 第9回 子どもの活動の研究(2)：実践の考察と相互評価 第10回 子どもの活動の研究(3)：絵に表す実践 第11回 子どもの活動の研究(4)：実践の考察と相互評価 第12回 子どもの活動の研究(5)：立体に表す 第13回 子どもの活動の研究(6) 実践の考察と相互評価 第14回 鑑賞教育：鑑賞と表現の関係について考える 第15回 図工科教育の課題：グループディスカッション及び講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な材料・用具の準備しておくこと。 授業後学習：レポートや課題を課すことがある。各回の内容を系統的にまとめておくこと。						
授業方法	講義・演習						
評価基準と評価方法	課題に取り組む姿勢及び活動に関わるレポート等の提出物60%、作品40%で評価する。						
教科書	藤江充他著『図画工作科指導法 理論と実践』日本文教出版 ISBN78-4-536-60020-0 小学校学習指導要領図画工作編						
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工科指導法						
担当教員	奥 美佐子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「図画工作」の授業を構想し実践する						
授業の概要	柔軟な発想で児童の表現を捉えることができるように、多様な授業場面や児童の表現を実践例を通して学ぶ。図画工作科の教育内容を理解し、図工科研究で学んだ図工科の基本理念を反映して、授業の計画立案、実施、評価を実践的に行う。指導案を作成しそれに基づいて制作した作品をプレゼンテーションすることを含めた模擬授業を行う。						
到達目標	(1) 学習指導要領の目標と内容を解説することができる。 (2) 題材、材料・用具、表現方法などを対象に合わせて選択し、指導案を作成することができる。 (3) 作例を制作し、指導案に沿って模擬授業を行うことができる。						
授業計画	第1回 学習指導要領における教科の位置付け 第2回 「楽しい造形活動・造形遊び」の指導と評価 (1) : 低学年～中学年の学年別目標を見据えて 第3回 「楽しい造形活動・造形遊び」の指導と評価 (2) : 高学年の学年別目標を見据えて 第4回 「絵に表す」の指導と評価 (1) : 低学年の学年別目標を見据えて 第5回 「絵に表す」の指導と評価 (2) : 中学年～高学年の学年別目標を見据えて (指導の実際: ゲストスピーカーの講義を中心に) 第6回 「立体や工作に表す」の指導と評価 第7回 「鑑賞」の指導と評価 第8回 指導案の作成と授業の準備 (1) 指導案作成 第9回 指導案の作成と授業の準備 (2) 授業案に基づく授業の準備 第10回 学生グループによる模擬授業 (1) 例 : 立体 第11回 学生グループによる模擬授業 (2) : 造形遊び 第12回 学生グループによる模擬授業 (3) : 絵画 第13回 学生グループによる模擬授業 (4) : 工作 第14回 学生グループによる模擬授業 (5) : 鑑賞 第15回 まとめ: 図画工作科における教師の役割・指導と評価						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習: 授業計画に従って授業毎に必要な教材の準備をすること。 授業後学習: 自分の学習内容だけでなく、他の受講生の成果や課題についても参考にして次回へ活かせるよう自主学習しておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	模擬授業関連の作品・活動に関わるレポート、発表、模擬授業等80%、日常の提出物、参加態度等20%で評価する。						
教科書	藤江充他著『図画工作科指導法 理論と実践』日本文教出版 ISBN78-4-536-60020-0 小学校学習指導要領図画工作編 (図工科研究で使用した教科書を使用する)						
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工実技I						
担当教員	奥 美佐子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	美術を体感するI (表現技法を広げる)						
授業の概要	子どもと表現する喜びを共有するためには、教師が子どもの造形を理解すると共に自らも造形する喜びを経験しておくことが大切である。この授業では自己表現の喜びを体感すること、教育現場で使われている材料研究を通して造形の基礎的な能力を培うことを目標とする。平面を中心として、多様な材料体験と造形理論による基礎基本の理解、造形操作や技法の習得と表現への展開法、幅広いメディアによるイメージ表現の試行について学び、造形能力を高める。						
到達目標	(1) 造形言語を用いて作品を解説することができる。 (2) 表現技法の材料用具や方法をファイルに美しくまとめ、表現方法を解説できる。 (3) 表現技法を有効に使用し、オリジナルな表現に挑戦することができる。						
授業計画	第1回 美術について：授業概要、評価の方法、表現と鑑賞の関係について 第2回 造形理論A 造形要素 第3回 造形要素から描く (1)点・線・面・形を考える 第4回 造形理論B 色彩論 第5回 造形要素から描く (2)色をつくる 第6回 色彩構成 (1)色面を生かした色彩構成の構想 第7回 色彩構成 (2)制作 第8回 技法研究(1)：パス、コンテの遊び 第9回 技法研究(2)：絵の具の遊び 第10回 技法研究(3)：版遊び 第11回 技法研究(4)：いろいろな材料・用具で 第12回 技法研究(5)：技法のまとめ(ファイル作り) 第13回 材料・技法を生かした制作(1)構想・制作 第14回 材料・技法を生かした制作(2)制作 第15回 鑑賞とまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な材料・用具の準備をすること。材料用具は必携。 授業後学習：制作過程や作品制作のコンセプトを確認し、美術的行為を言語化できるように、自作を自己評価しておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	受講態度及び作品レポート等20%、課題レポート及び課題作品の提出による評価80%で評価する。						
教科書	テキストは使用しない。プリントを適宜配布する。						
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工実技I						
担当教員	奥 美佐子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	美術を体感するI (表現技法を広げる)						
授業の概要	子どもと表現する喜びを共有するためには、教師が子どもの造形を理解すると共に自らも造形する喜びを経験しておくことが大切である。この授業では自己表現の喜びを体感すること、教育現場で使われている材料研究を通して造形の基礎的な能力を培うことを目標とする。平面を中心として、多様な材料体験と造形理論による基礎基本の理解、造形操作や技法の習得と表現への展開法、幅広いメディアによるイメージ表現の試行について学び、造形能力を高める。						
到達目標	(1) 造形言語を用いて作品を解説することができる。 (2) 表現技法の材料用具や方法をファイルに美しくまとめ、表現方法を解説できる。 (3) 表現技法を有効に使用し、オリジナルな表現に挑戦することができる。						
授業計画	第1回 美術について：授業概要、評価の方法、表現と鑑賞の関係について 第2回 造形理論A 造形要素 第3回 造形要素から描く (1)点・線・面・形を考える 第4回 造形理論B 色彩論 第5回 造形要素から描く (2)色をつくる 第6回 色彩構成 (1)色面を生かした色彩構成の構想 第7回 色彩構成 (2)制作 第8回 技法研究(1)：パス、コンテの遊び 第9回 技法研究(2)：絵の具の遊び 第10回 技法研究(3)：版遊び 第11回 技法研究(4)：いろいろな材料・用具で 第12回 技法研究(5)：技法のまとめ(ファイル作り) 第13回 材料・技法を生かした制作(1)構想・制作 第14回 材料・技法を生かした制作(2)制作 第15回 鑑賞とまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な材料・用具の準備をすること。材料用具は必携。 授業後学習：制作過程や作品制作のコンセプトを確認し、美術的行為を言語化できるように、自作を自己評価しておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	受講態度及び作品レポート等20%、課題レポート及び課題作品の提出による評価80%で評価する。						
教科書	テキストは使用しない。プリントを適宜配布する。						
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工実技II						
担当教員	奥 美佐子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	美術を体感するII (表現の展開に挑む)						
授業の概要	多様な表現方法に向かい表現技術を高め、制作過程および完成作品を相互評価することを通して、表現、鑑賞、評価の力を養う。図工実技IIでは、自分が表現したい内容に沿ってメディアを選択し、造形要素からの表現、コラボージュ、版表現、立体や半立体による制作など、新たな表現技術に挑戦することにより自己表現を深める自由制作にも挑戦する。						
到達目標	(1) 新しい表現技術を使って作品を制作することができる。 (2) 自分のイメージに沿って材料を選択し、造形作品として具体化することができる。 (3) 造形言語を使って自分の作品を言語化できる。						
授業計画	第1回 材料と表現について：授業概要、評価の方法の説明を含む 第2回 紙の立体：ペーパークラフト(1)：基本形、紙の操作 第3回 : ペーパークラフト(2)：ポップアップのしくみを知る 第4回 : ペーパークラフト(3)：ポップアップカード制作 第5回 : ペーパークラフト(4)：ポップアップカード制作・完成 第6回 立体 : 発砲球(1)：動く原理 第7回 : 発砲球(2)：デザイン 第8回 : 発砲球(3)：評価 第9回 版 : 版画(1) : 版による表現 第10回 : 版画(2) : 制作及び刷り 第11回 : 版画(3) : 刷り及び評価 第12回 自由制作・課題制作(選択) (1) 構想および制作 第13回 (2) 制作 第14回 (3) 完成・展示 第15回 合評会とまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	業前学習：授業計画及び制作の展開に沿って、授業毎に必要な材料・用具の準備すること。 授業後学習：制作過程や作品制作のコンセプトを確認し、美術的行為を言語化できるように、自作を鑑賞しておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	表現履歴等の提出による評価20%、課題レポート及び課題作品の提出による評価80%。						
教科書	テキストは使用しない。プリントを適宜配布する。						
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工実技II						
担当教員	奥 美佐子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	美術を体感するII(表現の展開に挑む)						
授業の概要	多様な表現方法に向かい表現技術を高め、制作過程および完成作品を相互評価することを通して、表現、鑑賞、評価の力を養う。図工実技IIでは、自分が表現したい内容に沿ってメディアを選択し、造形要素からの表現、コラボージュ、版表現、立体や半立体による制作など、新たな表現技術に挑戦することにより自己表現を深める自由制作にも挑戦する。						
到達目標	(1) 新しい表現技術を使って作品を制作することができる。 (2) 自分のイメージに沿って材料を選択し、造形作品として具体化することができる。 (3) 造形言語を使って自分の作品を言語化できる。						
授業計画	第1回 材料と表現について：授業概要、評価の方法の説明を含む 第2回 紙の立体：ペーパークラフト(1)：基本形、紙の操作 第3回 : ペーパークラフト(2)：ポップアップのしくみを知る 第4回 : ペーパークラフト(3)：ポップアップカード制作 第5回 : ペーパークラフト(4)：ポップアップカード制作・完成 第6回 立体 : 発砲球(1)：動く原理 第7回 : 発砲球(2)：デザイン 第8回 : 発砲球(3)：評価 第9回 版 : 版画(1) : 版による表現 第10回 : 版画(2) : 制作及び刷り 第11回 : 版画(3) : 刷り及び評価 第12回 自由制作・課題制作(選択) (1) 構想および制作 第13回 (2) 制作 第14回 (3) 完成・展示 第15回 合評会とまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	業前学習：授業計画及び制作の展開に沿って、授業毎に必要な材料・用具の準備すること。 業後学習：制作過程や作品制作のコンセプトを確認し、美術的行為を言語化できるように、自作を鑑賞しておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	表現履歴等の提出による評価20%、課題レポート及び課題作品の提出による評価80%。						
教科書	テキストは使用しない。プリントを適宜配布する。						
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	生活科研究						
担当教員	谷口 和良						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生活科の創設の背景や意図、ねらい及び歴史的な変遷について						
授業の概要	小学校に入学した子どもたちに対して、小1プロブレムのことが問題にされています。本来は、この問題・課題を解決するために生活科が創設されています。また、生活科のような学習が、歴史的に何度か行われており、それら学びながら、保育所・幼稚園での保育・教育と小学校低学年教育との連携し、スムーズに小学校への移行が図られるように、小学校入門期の第1、2学年における生活科教育のあり方やカリキュラム構成のあり方などを学んでいきます。						
到達目標	生活科の趣旨やねらい、特徴並びに児童中心主義的な教育の歴史的な変遷や在り方などについて理解するとともに、自分なりに生活科の授業観・学習観をもつことができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング 第2回 生活科学習の想起と特徴 第3回 生活科の基礎研究としての大正自由主義教育 第4回 生活科の基礎研究としてのコア・カリキュラム 第5回 戦後の教育の主な流れ：学習指導要領の変遷 第6回 生活科の創設：その背景や意図、ねらい 第7回 生活科の特徴：教科学習、合科的な学習、総合的な学習との違い 第8回 生活科の目的や目標：低学年期の望ましい教育や学習、生活科教育目標 第9回 生活科の内容：第1、2学年における内容構成・留意事項 第10回 生活科の学習：具体的な学習の流れ及び学習の実際 第11回 生活科における教師の役割：指導と支援の違い、学習場面での教師の働きかけ 第12回 生活科のカリキュラム構成：単元や年間指導計画の作成 第13回 生活科における評価：カリキュラム、学習指導、子どもの変容 第14回 小学校第3学年以上への円滑な移行：社会科や理科、他教科等への移行 第15回 まとめ：望ましい生活科教育・授業のあり方の総括及びレポート提出						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画にそって、前々回のワークシートや教科書の該当する箇所を読んでおいたり、授業内容に対して自分なりの考えをもったりして、興味・関心を高めておいてください 授業後学習：授業でのワークシートを読み返し、要点をまとめたり覚えたりしておきましょう。毎時間の授業内容は連続しているので、授業内容を関連づけながら、生活科の望ましい教育の在り方を膨らませていってください						
授業方法	生活科の創設の背景や意図、ねらい及び歴史的な変遷についての授業や文献研究、グループワークやディスカッション						
評価基準と評価方法	・平常点50%（授業やグループ発表での意欲・関心・態度、小テスト、授業のワークシートの内容や意見・感想など） ・学期末のテストかレポート50%（望ましい生活科教育のあり方、授業を受けての意見・感想など） ・意欲は授業への関心や態度、知識は授業での質問や小テスト、適正は授業中の言動や授業後の意見や感想、レポートなどから評価						
教科書	文部科学省 「小学校学習指導要領 生活編」 日本文教出版（平成20年）ISBN978-4-536-59002-0						
参考書							



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	生活科研究						
担当教員	谷口 和良						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生活科の創設の背景や意図、ねらい及び歴史的な変遷について						
授業の概要	小学校に入学した子どもたちに対して、小1プロブレムのことが問題にされています。本来は、この問題・課題を解決するために生活科が創設されています。また、生活科のような学習が、歴史的に何度か行われており、それらを学びながら、保育所・幼稚園での保育・教育と小学校低学年教育との連携につながり、スムーズに小学校への移行が図られるように、小学校入門期の第1, 2学年における生活科教育のあり方やカリキュラム構成のあり方などを学んでいきます。						
到達目標	生活科の趣旨やねらい、特徴並びに児童中心主義的な教育の歴史的な変遷や在り方などについて理解するとともに、自分なりに生活科の授業観・学習観をもつことができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング 第2回 生活科学習の想起と特徴 第3回 生活科の基礎研究としての大正自由主義教育 第4回 生活科の基礎研究としてのコア・カリキュラム 第5回 戦後の教育の主な流れ：学習指導要領の変遷 第6回 生活科の創設：その背景や意図、ねらい 第7回 生活科の特徴：教科学習、合科的な学習、総合的な学習との違い 第8回 生活科の目的や目標：低学年期の望ましい教育や学習、生活科教育目標 第9回 生活科の内容：第1, 2学年における内容構成・留意事項 第10回 生活科の学習：具体的な学習の流れ及び学習の実際 第11回 生活科における教師の役割：指導と支援の違い、学習場面での教師の働きかけ 第12回 生活科のカリキュラム構成：単元や年間指導計画の作成 第13回 生活科における評価：カリキュラム、学習指導、子どもの変容 第14回 小学校第3学年以上への円滑な移行：社会科や理科、他教科等への移行 第15回 まとめ：望ましい生活科教育・授業のあり方の総括及びレポート提出						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画にそって、前々回のワークシートや教科書の該当する箇所を読んでおいたり、授業内容に対して自分なりの考えをもったりして、興味・関心を高めておいてください 授業後学習：授業でのワークシートを読み返し、要点をまとめたり覚えたりしておきましょう。毎時間の授業内容は連続しているので、授業内容を関連づけながら生活科の望ましい教育の在り方を膨らませていってください						
授業方法	生活科の創設の背景や意図、ねらい及び歴史的な変遷についての授業や文献研究、グループワークやディスカッション						
評価基準と評価方法	・平常点50%（授業やグループ発表での意欲・関心・態度、小テスト、授業のワークシートの内容や意見・感想など） ・学期末のテストかレポート50%（望ましい生活科教育のあり方、授業を受けての意見・感想など） ・意欲は授業への関心や態度、知識は授業での質問や小テスト、適正は授業中の言動や授業後の意見や感想、レポートなどから評価						
教科書	文部科学省 「小学校学習指導要領 生活編」 日本文教出版（平成20年）ISBN978-4-536-59002-0						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	生活科指導法						
担当教員	谷口 和良						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生活科における望ましい授業実践のあり方や方法の追求						
授業の概要	生活科の目標や内容、方法などから、他教科との違いや特徴を理解し、それらを生かした教材研究や学習指導案の作成及び模擬授業などを行う。そして、授業における学習形態や指導・支援のあり方並びに教師の働きかけなども学びながら、より望ましい生活科の授業構想や学習指導方法・技術を探究する。						
到達目標	生活科における具体的な教材研究を通して、生活科のカリキュラム構成や学習指導案の作成及び授業実践などの力を身につけることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング、栽培物の決定 第2回 栽培の教材研究：実際の栽培活動（栽培の時期や方法など） 第3回 栽培活動における観察活動とその意義 第4回 生活科の九つの内容の一つ「動植物の飼育栽培」の目標と内容 第5回 「動植物の飼育栽培」活動における目標の具体化と他教科との比較 第5回 栽培活動の単元及び指導案作り：単元構成や指導案の形式及び作成 第6回 生活科学習指導案の作成：単元目標や趣旨（児童観・教材観・指導観の作成） 第7回 略案の作成：本時の目標や学習活動及び教師の働きかけ 第8回 作成した略案による模擬授業：模擬授業の実施、それについての討議及び略案の修正 第9回 単元「秋を見つけよう」：秋のイメージマップづくりと単元構成 第10回 「落葉や木の実で遊ぼう」における造形活動の教材研究と略案の作成 第11回 他教科との合科的・関連的な学習に向けての教材研究と授業構想 第12回 他教科との合科・関連的な学習の指導案の作成 第13回 指導案に基づく模擬授業に向けての準備 第14回 模擬授業の実際と検討・修正 第15回 まとめ：望ましい生活科学習及び教師の役割についてや指導案作成などのレポート作成及びテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画にそって、授業までに授業内容を予想し、自分の考えなどをもちながら、当日の授業への興味・関心を高めるようにしてください。 授業後学習：授業内容は連続しているので、前回のワークシートを読み返ししながら要点をまとめたり、大事なことを覚えたりしましょう。そして、授業を積み重ねるごとに生活科の授業実践力を高めていくようにすることが大切です。						
授業方法	基礎的・基本的な知識や技能の獲得に向けた授業、それらをもとに学習指導案の作成や教材研究及び模擬授業の実施などをグループや個人で行いながら、全体で発表し討議し合う。						
評価基準と評価方法	・平常点40%（授業での意欲・関心・態度及びワークシートの内容や感想・意見、模擬授業やグループ発表などの取り組み、並びに教材の製作などでの取り組み状況など） ・作成・製作物30パーセント（作成した学習展開案や製作した教材の作品、観察記録など） ・学期末テスト・レポート30%（望ましい生活科学習に向けた単元構成や展開案、生活科学習及び基本的な知識理解のテストなど）						
教科書							
参考書	・文部科学省「小学校学習指導要領解説 生活編」日本文教出版（平成20年） ・生活科の教科書（啓林館や大日本図書など）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	生徒指導論						
担当教員	武井 哲郎						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	生徒指導の在り方を検討する。						
授業の概要	いじめや不登校など子どもを取り巻く困難な状況について基礎的な知識を修得し、教職に就く者として問題への解決能力を高める。また、生徒指導上・進路指導上の課題に対して教師が担うべき役割を検討する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの権利を擁護するための生徒指導の在り方について考察することができる。</li> <li>・虐待、不登校、いじめなどへの対応について、検討を加えることができる。</li> <li>・キャリア教育の実態や課題を、具体的に述べることができる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 オリエンテーション—生徒指導とは何か？ 第2回 子どもの権利と生徒指導 第3回 子どもの権利擁護と教師の役割 第4回 虐待の種別と対応 第5回 不登校の要因とその実態 第6回 不登校への対応と教師の役割 第7回 不登校と子どもの居場所 第8回 いじめの定義と類型 第9回 いじめへの対応と教師の役割 第10回 懲戒と体罰 第11回 暴力行為への対応 第12回 校則の制定と運用 第13回 子どもの生き方と進路指導 第14回 キャリア教育の実態と課題 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	指定した教科書の内容を参考にしながら講義を進めていくため、適宜、講義中に指示する箇所に目を通しておくこと。						
授業方法	講義。グループ・ワークを適宜取り入れる。						
評価基準と評価方法	1. レポート 60% 2. 期末試験 40% 以上で、評価する。						
教科書	坂田仰編著『生徒指導とスクール・コンプライアンス—法律・判例を理解し実践に活かす』学事出版、ISBN：978-4761921705						
参考書	黒川雅子・山田知代編著（2014）『生徒指導・進路指導』学事出版、ISBN：978-4761920579 文部科学省（2011）『生徒指導提要（平成22年3月）』教育図書、ISBN：978-4877302740						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	内田 祐貴						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	小学校で理科を自信を持って教えられるための、基礎知識基本技能を習得する。						
授業の概要	県や市町の教育委員会では理科を教えられる小学校の教員を求めている。今求められている教員像を念頭におきながら、学生一人ひとりにアピールできるものを一つでも多く身に付けてもらうため、教育全般にわたること、及び理科教育に関わることについての知識や技能を興味深く修得し、また具体的な調査研究をしながらその方法を身に付けることを内容とする。3回生のゼミ内容を引き継いで更に内容を深め、理科への興味関心が高まる教材開発を目指す。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校で理科の授業を行える知識技術を身に付ける。</li> <li>・指導案や必要に応じた教材を作成できる。</li> <li>・理科を楽しむ。</li> <li>・教員採用試験でアピールできるものを身につける</li> </ul>						
授業計画	第01回 ガイダンス 第02回 5年生「植物の発芽、成長、結実」学習内容と実験 第03回 5年生「植物の発芽、成長、結実」模擬授業 第04回 5年生「流水の働き」学習内容と実験 第05回 学校外施設を利用した理科教育 第06回 5年生「流水の働き」模擬授業 第07回 6年生「燃焼の仕組み」学習内容と実験 第08回 6年生「燃焼の仕組み」模擬授業 第09回 6年生「水溶液の性質」学習内容と実験 第10回 6年生「水溶液の性質」模擬授業 第11回 6年生「てこの規則性」学習内容と実験 第12回 6年生「てこの規則性」模擬授業 第13回 研究テーマの設定(1) 第14回 研究テーマの設定(2) 第15回 中間まとめ 第16回 6年生「電気の利用」学習内容と実験 第17回 6年生「電気の利用」模擬授業 第18回 先行事例研究、輪読1(小学校3年理科) 第19回 先行事例研究、輪読2(小学校4年理科) 第20回 先行事例研究、輪読3(小学校5年理科) 第21回 先行事例研究、輪読4(小学校6年理科) 第22回 中間発表 第23回 教材研究開発1 第24回 教材研究開発2 第25回 教材研究開発3 第26回 教材研究開発4 第27回 発表、指導1 第28回 発表、指導2 第29回 発表、指導3 第30回 まとめ(小学校理科を教えるには)						
授業外における学習(準備学習の内容)	先行研究調査、文献検索、データ収集など卒業研究の準備						
授業方法	講義と発表、教材開発、授業案作成						
評価基準と評価方法	発表の成果を主資料(70)として取り組みの熱意等(30)を考慮する						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	大下 卓司						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜4	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	教育方法学の領域で、各学生がテーマを設定し、論文執筆に向けての作業を行う。						
授業の概要	1. 毎回の授業では、各学生が、自分のテーマの基本文献を素材にした発表や、論文の構想の発表を交代で行い、発表内容について学生全員で議論する。教員も議論に加わり、テーマの深め方や論文のまとめ方に関する指導を適宜行う。 2. 「卒業研究」の成果を論文にまとめるために、論文に書き方についても詳細に指導する。学期末には成果を発表する場を設け、学生による相互評価と教員による成績評価を行う。						
到達目標	1. 学生自身のよりよい保育・教育実践の糧となるような研究を行う。 2. 学術論文に必要な調査・思考を実際に体験し、学士としてふさわしい卒業論文を執筆する						
授業計画	第1回 オリエンテーションおよびレポートをコメントをつけて返却する。 第2回 3年生最終時に決めた卒業論文のテーマについても一度整理し発表する。 第3回 3年生最終時に決めた卒業論文のテーマについても一度整理し発表する。 第4回 3年生最終時に決めた卒業論文のテーマについても一度整理し発表する。 第5回 3年生最終時に決めた卒業論文のテーマについても一度整理し発表する。 第6回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。 第7回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。 第8回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。 第9回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。 第10回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。 第11回 卒業論文の構想発表 第12回 卒業論文の構想発表 第13回 卒業論文の構想発表 第14回 卒業論文の構想発表 第15回 論文のまとめ方・書き方について指導する。 第16回 卒業論文の進捗報告 第17回 卒業論文の進捗報告 第18回 卒業論文の進捗報告 第19回 卒業論文の進捗報告 第20回 論文執筆と個別指導 第21回 論文執筆と個別指導 第22回 論文執筆と個別指導 第23回 論文執筆と個別指導 第24回 論文執筆と個別指導 第25回 卒業論文の初校の発表と検討 第26回 卒業論文の初校の発表と検討 第27回 卒業論文の初校の発表と検討 第28回 卒業論文の報告会と相互評価 第29回 卒業論文の報告会と相互評価 第30回 まとめ：研究成果を自分の進路にいかんにかずか議論する						
授業外における学習（準備学習の内容）	1. 卒業論文執筆に向けて、各自図書館で文献を探すなど、自覚的に取り組むこと 2. 学年末には相互評価を行うため、批判的な読み方、作文指導の素養を、自らの研究の過程で習得するよう励むこと						
授業方法	1. 前半は、先行研究を整理し、各自のテーマにおける学術的な論点を模索する 2. 後半は、発見した論点について、様々な角度から迫る文献を読み、必要に応じてインタビューなどの手法を取り入れて、説得力のある文章を書き、論文を仕上げる。						
評価基準と評価方法	1. 授業毎の課題および発表：50点 2. 卒業論文：50点						
教科書							
参考書	各自のテーマに応じて、適宜アドバイスをを行う。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	奥 美佐子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	造形教育・美術教育の研究						
授業の概要	子どもの造形、美術教育にかかわる分野から設定した各自のテーマをもとに発表し、それに基づいた討論に補説を加えるという、学生主体の形式で進める。各自のテーマ、課題へのアプローチの仕方、研究内容、分析方法、探究度などについても具体的に検討する。自己のテーマを追求し、論文作成へと展開する中で、問題意識をもち、課題解決に向かう方法や分析力、プレゼンテーション力を身につける。						
到達目標	(1) テーマに沿って研究を進め、卒論を完成する。 (2) シラバス、パワーポイントによる発表資料を作成し、プレゼンテーションすることができる。						
授業計画	第1回 卒論について：テーマ設定、論文作成法 第2回 研究計画作成 第3回 研究計画作成 第4回 計画に従って、文献研究、調査研究等開始 第5回 研究計画に基づく研究 第6回 研究計画に基づく研究 第7回 研究計画に基づく研究 第8回 報告会 第9回 研究計画に基づく研究 第10回 研究計画に基づく研究 第11回 研究計画に基づく研究 第12回 研究計画に基づく研究 第13回 中間発表準備 第14回 中間発表1 第15回 中間発表2 第16回 論文骨子の確認 第17回 論文作成 第18回 論文作成 第19回 論文作成 第20回 論文作成 第21回 論文作成 第22回 報告会 第23回 論文作成 第24回 論文作成 第25回 論文作成 第26回 発表準備 第27回 発表準備 第28回 卒論発表 第29回 卒論発表 第30回 卒論発表とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：発表などに備えて、十分に資料などを検討しておくこと。 授業後学習：検討した課題について要点をまとめ、疑問があれば次回に質問や提案ができるようにしておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点（参加態度等）20%、論文と発表80%で評価する。						
教科書	使用しない。						

参考書	必要に応じて紹介する。
-----	-------------

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	奥村 正子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	音楽教育について、自らの問題意識に沿って、卒業研究としてまとめる。						
授業の概要	それぞれの課題について、レポートの作成、発表、全員での討論を交えて授業を進める。						
到達目標	現代に求められる音楽教育のあり方について、自身の問題意識に沿って卒業研究をまとめることができる。研究内容について、発表会でプレゼンテーションを行うことができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 3年次に進めてきた研究テーマについての確認。 第3回 3年次に進めてきた研究テーマについての確認。 第4回 テーマに関する先行研究や関連図書の収集。 第5回 テーマに関する先行研究や関連図書の収集。 第6回 文献の解読について指導する。各自の研究を進める。 第7回 文献の解読について指導する。各自の研究を進める。 第8回 文献の解読について指導する。各自の研究を進める。 第9回 研究の進捗状況を発表。 第11回 発表と討論1 第12回 発表と討論2 第13回 個別指導。 第14回 個別指導。全員での討論の時間を設ける。 第15回 レポート提出 第16回 夏季休暇中の進捗状況について報告する。 第17回 研究報告について全体への指導。 第18回 個別指導。全員での討論の時間を設ける。 第19回 これまでの研究成果の中間発表。 第20回 中間発表に対する指導。方向性の確認。 第21回 個別指導。全員での討論の時間を設ける。 第22回 個別指導。 第23回 論文の構成の確認。 第24回 個別指導。 第25回 個別指導。全員での討論の時間を設ける。 第26回 個別指導。全員での討論の時間を設ける。 第27回 卒業研究の仮提出 第28回 卒業研究の提出 第29回 卒業研究発表についての指導 第30回 卒業研究の成果発表						
授業外における学習（準備学習の内容）	それぞれの研究を進める。授業では、進捗状況の確認と修正を行う。						
授業方法	演習 個別指導						
評価基準と評価方法	課題への取り組みとゼミ活動への積極的な参加 60% 中間発表 20% 最終発表20% 卒業研究論文の提出は必須。						
教科書							
参考書	そのつど紹介する。						



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	倉 真智子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜2	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	子どもの健康分野についての論文作成						
授業の概要	子どもの健康教育を主とした内容で、「教育発達演習A・B」での学習をもとに、それぞれの研究テーマに沿って進めていく。 研究方法は調査研究、文献研究とし、先行研究を熟読したうえで卒業研究の作成に取り組む。 3年次の研究計画に基づき、計画的に進め、研究目的から結果が得られるよう完成させる。						
到達目標	(1) 卒業研究に関する文献を収集することができる。 (2) 先行研究を熟読したうえで、それぞれのテーマに向け論文を仕上げる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 卒業研究作成に向けて</li> <li>2. 研究テーマの検討</li> <li>3. 研究テーマ設定</li> <li>4. 研究テーマについてディスカッション</li> <li>5. プロポーザルについて</li> <li>6. プロポーザル発表 -子どもに関して-</li> <li>7. プロポーザル発表 -保護者・保育者に関して-</li> <li>8. 論文の書き方 -構成について-</li> <li>9. 論文の書き方 -引用方法-</li> <li>10. 文献検索</li> <li>11. 先行研究の検討</li> <li>12. 中間発表に向けて</li> <li>13. 中間発表 -子どもに関して-</li> <li>14. 中間発表 -保護者・保育者に関して-</li> <li>15. 論文作成</li> <li>16. 論文作成 -考察のまとめ方-</li> <li>17. 論文作成</li> <li>18~27 個別指導</li> <li>28. 卒研発表に向けて</li> <li>29~30 卒業研究発表会</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	文献の収集、データ処理など						
授業方法	全体指導と個別指導						
評価基準と評価方法	論文に対する積極的な質問等の平常点 30%、論文作成 70%						
教科書	適宜紹介やプリントを配布する						
参考書	「よくわかる論文の書き方」 白井利明・高橋一郎						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	寺見 陽子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	卒業論文の作成						
授業の概要	目的：卒業論文の作成 概要：「教育発達演習A・B」での研究をもとに、卒業研究に向けて文献や研究論文を購読するとともに、プロポーザルを作成し、その流れに沿って、研究・実験・調査・観察等を実施し、結果をまとめ考察する。さらに今後の課題を明らかにする。						
到達目標	卒業論文の作成をとおして、自己課題が明確化し、自分なりの視点や考えを言語化して表現できるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 研究テーマに関するディスカッション 第3回 研究テーマの検討と焦点化 第4回 研究テーマの設定 第5回 研究テーマに関する文献の検索と購読 第6回 研究テーマに関する論文の検索と購読 第7回 研究テーマの研究法に関する検索と購読 第8回 先行研究のまとめと研究課題設定 第9回 プロポーザルの作成(1)―研究目的と研究方法の明確化 第10回 プロポーザルの作成(2)―研究計画の作成 第11回 中間発表(1) 第12回 データ収集計画 第13回 データの整理・分析 第14回 データの結果と考察 第15回 中間発表(2) 第16回 論文作成(1)―先行研究のまとめ 第17回 論文作成(2)―仮説と目的 第18回 論文作成(3)―方法執筆 第20回 論文作成(4)―結果資料の整理 第21回 論文作成(5)―結果執筆 第22回 論文作成(6)―考察のポイント整理 第25回 論文作成(7)―考察執筆 第26回 論文作成(8)―文献整理 第27回 論文作成(9)―全体の見直し 第28回 論文作成(10)―論文の仕上げ 第29回 論文検討会 第30回 論文発表会						
授業外における学習(準備学習の内容)	文献の検索・調査・観察等						
授業方法	個人指導を中心とする						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 プレゼンテーション(50%)、レポート(50%)						
教科書	必要に応じて示す。						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	藤本 浩一						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜4	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	生涯発達の心理と支援						
授業の概要	教育心理学・発達心理学を中心とした調査・実験・観察研究を計画立案・実施し、統計処理を行い、論文にまとめる。実験や調査が行えない種類のテーマについては文献研究もあり得る。従来の心理学研究を丹念に調べる一方で、各自の関心を高めて両者を結びつける作業を行う。個別相談を順に行うので指定した時間帯に出席が必要。論文評価は出席に加えて継続的努力・工夫・論理的つながり・着眼点・整った方法等から行う。教育実習や採用試験があるので、夏休みまでにデータ収集し、早い目書きあげる。						
到達目標	個人の興味関心を卒業論文の形に仕上げることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒論の文体と作成の心得、卒論執筆の目安</li> <li>2. テーマ候補紹介と選定</li> <li>3. テーマ毎の方法論の検討</li> <li>4. 論文検索状況報告</li> <li>5. 文献のまとめ方習熟</li> <li>6. 実証データの収集法</li> <li>7. 実験計画と実施</li> <li>8. データ収集</li> <li>9. 結果の整理</li> <li>10. 結果における統計手法</li> <li>11. 統計処理のいろいろ</li> <li>12. 卒論チェックポイント</li> <li>13. 中間発表</li> <li>14. 中間発表その2</li> <li>15. わかりやすい文章</li> <li>16. 章立ての工夫</li> <li>17. 個別指導1) 文章チェック</li> <li>18. 個別指導2) 考察の吟味</li> <li>19. 個別指導3) 目的の明確化</li> <li>20. 個別指導4) 文献整備</li> <li>21. 個別指導5) 構文</li> <li>22. 第2期中間発表</li> <li>23. 個別指導6) 節ごとのつながりの整合性</li> <li>24. 個別指導7) リサーチクエスチョン確認</li> <li>25. 個別指導8) 修正対照表作成法</li> <li>26. 個別指導9) 最終チェック</li> <li>27. 個別指導10) 提出の体裁</li> <li>28. 卒論発表会</li> <li>29. 卒論発表会その2</li> <li>30. 反省会</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容)	文献検索、データ収集、文章作成など卒業研究の準備						
授業方法	研究室での個別指導と教室にて全体発表の授業						
評価基準と評価方法	平常点30%と卒業論文(努力、論理的つながり、方法論、独創性など)70%により行う。						
教科書	統計処理法など、適宜プリントを配布します。						

参考書	
-----	--

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	松岡 靖						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	保育・教育の質的研究を深めて卒業論文にまとめよう。						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序盤では保育・教育を扱う教科書について学生が報告する。</li> <li>2. 中盤では学生の関心に応じた調査と発表を教員が支援する。</li> <li>3. 終盤では卒業研究の中間報告と論文作成を教員が指導する。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育・教育について専門家として知識・思考の水準を引き上げる。</li> <li>2. 「問い→追及→答え」、論理とデータを兼ね備えた文章を書ける。</li> <li>3. 学士号にふさわしい論文を作成するために発表と執筆を体験する。</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究オリエンテーション(1)</li> <li>2. 図書館での論文ガイダンス(1)</li> <li>3. 教科書(1)：幼児教育の意義はどこにあるか？</li> <li>4. 教科書(2)：現代の日本の子どもの特徴とは？</li> <li>5. 教科書(3)：幼児教育のための内容と方法は？</li> <li>6. 教科書(4)：保幼小の連携をいかに進めるか？</li> <li>7. 教科書(5)：労働・社会保障としての教育は？</li> <li>8. 教科書(6)：投資部門と職業希望への道筋は？</li> <li>9. 学生による中間報告(1)</li> <li>10. 学生による中間報告(2)</li> <li>11. 学生による中間報告(3)</li> <li>12. 学生による中間報告(4)</li> <li>13. 学生による発表と質疑(1)</li> <li>14. 学生による発表と質疑(2)</li> <li>15. 前期の振り返りと後期の見通し</li> <li>16. 卒業研究オリエンテーション(2)</li> <li>17. 図書館での論文ガイダンス(2)</li> <li>18. 学生による中間報告(1)</li> <li>19. 学生による中間報告(2)</li> <li>20. 学生による中間報告(3)</li> <li>21. 学生による中間報告(4)</li> <li>22. 学生による中間報告(5)</li> <li>23. 学生による中間報告(6)</li> <li>24. 学生による中間報告(7)</li> <li>25. 学生による中間報告(8)</li> <li>26. 学生による発表と質疑(1)</li> <li>27. 学生による発表と質疑(2)</li> <li>28. 学生による発表と質疑(3)</li> <li>29. 卒業論文の報告と提出</li> <li>30. 3年生向けの発表会</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各自の発表に責任を持って取り組んでください。</li> <li>2. 取り組んだ成果を3年生へと発表してください。</li> </ol>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序盤は教科書を使った報告と質疑を中心に進めます。</li> <li>2. 中盤は各自の卒業研究の中間報告を中心に進めます。</li> <li>3. 終盤はその卒業論文の発表と質疑を中心に進めます。</li> </ol>						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平常点30点(コメントカードや授業中の発言など)</li> <li>2. 発表点20点(担当したプレゼンと質疑応答による)</li> <li>3. 卒業論文50点(各自のテーマで12月中に仕上げる)</li> </ol>						
教科書	『希望をつむぎだす幼児教育』鬢櫛久美子・石川昭義、あいり出版、978-4-901903-79-0。						
参考書	図書館での論文ガイダンスを活用して、自分の興味・問題に沿って検索してください。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	体育科学研究						
担当教員	前田 正登						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における体育科の理論と実践						
授業の概要	小学校学習指導要領に基づき、各学年における指導の領域を理解し指導する力を身につける。また、幼児教育との接続を踏まえ、自身の身体能力を高めることは勿論のこと、情緒面や知的発達を促すことや集団活動などを通してコミュニケーション能力を育成する。さらに、論理的思考力を育むことを踏まえ、生涯にわたって運動に親しむことができるように指導する能力を養う。						
到達目標	小学校における体育科を考えると、低学年においては幼児期の運動発達をしっかりと捉える必要がある。そのためには教師自身が幼小の連携について理解しておかなければならない。本授業の到達目標は、①各学年において学習する運動領域を理解する、②小学校体育のあり方を実践的に学び、教師としての資質・能力を高める、の2つができることとする。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業概要と導入 意識づけ 第2回 小学校体育の意義とねらい 第3回 学習指導要領 基本方針及び改善事項の理解 第4回 幼児期の運動遊び 第5回 小学校体育の考え方 第6回 からだほぐし運動 第7回 からだづくり運動 第8回 ボール運動（中学年） 第9回 ボール運動（高学年） 第10回 子どもの体力と遊び 第11回 走・跳の運動 第12回 器械運動（マット・跳び箱） 第13回 ボール運動（ゴール型） 第14回 ボール運動（ベースボール型） 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	小学校学習指導要領概説（体育編）を読み、各学年の目標や内容を把握しておくこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	授業態度(50%)，課題達成度(30%)，レポート(20%)						
教科書	「小学校学習指導要領解説」体育編 文部科学省						
参考書	「新しい体育の考え方」 下山真二 洋泉社 「体育の授業づくり」平塚昭仁 フォーラムA						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	体育科研究						
担当教員	前田 正登						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における体育科の理論と実践						
授業の概要	小学校学習指導要領に基づき、各学年における指導の領域を理解し指導する力を身につける。また、幼児教育との接続を踏まえ、自身の身体能力を高めることは勿論のこと、情緒面や知的発達を促すことや集団活動などを通してコミュニケーション能力を育成する。さらに、論理的思考力を育むことを踏まえ、生涯にわたって運動に親しむことができるように指導する能力を養う。						
到達目標	小学校における体育科を考えると、低学年においては幼児期の運動発達をしっかりと捉える必要がある。そのためには教師自身が幼小の連携について理解しておかなければならない。本授業の到達目標は、①各学年において学習する運動領域を理解する、②小学校体育のあり方を実践的に学び、教師としての資質・能力を高める、の2つができることとする。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業概要と導入 意識づけ 第2回 小学校体育の意義とねらい 第3回 学習指導要領 基本方針及び改善事項の理解 第4回 幼児期の運動遊び 第5回 小学校体育の考え方 第6回 からだほぐし運動 第7回 からだづくり運動 第8回 ボール運動（中学年） 第9回 ボール運動（高学年） 第10回 子どもの体力と遊び 第11回 走・跳の運動 第12回 器械運動（マット・跳び箱） 第13回 ボール運動（ゴール型） 第14回 ボール運動（ベースボール型） 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	小学校学習指導要領概説（体育編）を読み、各学年の目標や内容を把握しておくこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	授業態度(50%)，課題達成度(30%)，レポート(20%)						
教科書	「小学校学習指導要領解説」体育編 文部科学省						
参考書	「新しい体育の考え方」 下山真二 洋泉社 「体育の授業づくり」平塚昭仁 フォーラムA						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	体育科指導法						
担当教員	倉 真智子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校「体育科」の指導法について学ぶ						
授業の概要	小学校体育における教科と学年における各領域について理解し、その指導方法を習得することにある。児童が自ら意欲的に楽しく、かつ安全に取り組めるよう教師として授業方法の工夫を考える必要がある。教師としての理念、専門的な知識について学ぶ。また、近年問題になっている児童の保健に関する授業の在り方を考えていく。						
到達目標	各学年における、運動領域を十分に理解し、「ねらい」と「めやす」を立て授業を展開できる。						
授業計画	第1回 授業概要と小学校体育の役割 第2回 幼児期から小学校体育へのつながり 第3回 新体力テストの実施概要 第4回 中学年における器械運動（マット） 第5回 高学年における器械運動（マット） 第6回 中学年・高学年における器械運動（跳び箱） 第7回 体づくり運動 第8回 走・挑の運動 第9回 陸上運動 第10回 ボール運動（ゴール型・ベースボール型） 第11回 ボール運動（ネット型） 第12回 運動会における問題点・組体操を考える 第13回 保健－毎日の生活と健康－ 第14回 保健－育ちゆく体とわたし 第15回 到達目標の確認とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	小学校学習要領「体育編」を熟読することと、体育科研究で学んだ内容を振り返り、学年の理解を深めておくこと。						
授業方法	講義と演習 （模擬授業）						
評価基準と評価方法	リアクションペーパー等による平常点40% 指導案20% 模擬授業40%						
教科書	小学校学習指導要領解説 体育編 文部科学省 東洋館出版						
参考書	全単元・全時間の授業のすべて（1年～6年） 東洋館出版 全単元学習カード（体育）東洋館出版 体育の授業づくり フォーラムA						



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	楽しい理科実験						
担当教員	内田 祐貴						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	理科実験の楽しさを、自分自身が手を動かすことにより実感する。						
授業の概要	理科の面白さの1つに実験がある。しかしながら、高校までは自身で能動的に実験をする機会は少なく、実験に苦手意識を持つ初等教育の教員は多い。この授業ではそれぞれの実験を学生自身が行うことにより、理科実験の楽しさを体験する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科実験のを自身が楽しむ。</li> <li>・将来、子どもたちに見せられるようになること。</li> <li>・実験器具、操作などの基本事項を修得すること。</li> </ul>						
授業計画	第01回 楽しい理科実験ガイダンス 第02回 身の回りの液体を調べる 第03回 光の性質（万華鏡づくり） 第04回 鏡を作る（銀鏡反応） 第05回 低温の世界 第06回 結晶作り 第07回 スタンプ作り（発泡スチロールの再利用） 第08回 何度も繰り返す反応（振動反応） 第09回 静電気の性質 第10回 葉脈の葉作り 第11回 カルメ焼き 第12回 スライム（高分子物質） 第13回 顕微鏡の世界 第14回 DNAを取り出す 第15回 電気パン *天候や季節によって変更があります						
授業外における学習（準備学習の内容）	manabaに講義資料を掲載しておくので、前回の実験方法について復習しておく。						
授業方法	講義と実験						
評価基準と評価方法	提出したレポート(50)を主資料として、授業への取り組みの姿勢出席等(50)を加味する。						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	楽しい理科実験						
担当教員	内田 祐貴						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	理科実験の楽しさを、自分自身が手を動かすことにより実感する。						
授業の概要	理科の面白さの1つに実験がある。しかしながら、高校までは自身で能動的に実験をする機会は少なく、実験に苦手意識を持つ初等教育の教員は多い。この授業ではそれぞれの実験を学生自身が行うことにより、理科実験の楽しさを体験する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科実験のを自身が楽しむ。</li> <li>・将来、子どもたちに見せられるようになること。</li> <li>・実験器具、操作などの基本事項を修得すること。</li> </ul>						
授業計画	第01回 楽しい理科実験ガイダンス 第02回 身の回りの液体を調べる 第03回 光の性質（万華鏡づくり） 第04回 鏡を作る（銀鏡反応） 第05回 低温の世界 第06回 結晶作り 第07回 スタンプ作り（発泡スチロールの再利用） 第08回 何度も繰り返す反応（振動反応） 第09回 静電気の性質 第10回 葉脈の葉作り 第11回 カルメ焼き 第12回 スライム（高分子物質） 第13回 顕微鏡の世界 第14回 DNAを取り出す 第15回 電気パン *天候や季節によって変更があります						
授業外における学習（準備学習の内容）	manabaに講義資料を掲載しておくので、前回の実験方法について復習しておく。						
授業方法	講義と実験						
評価基準と評価方法	提出したレポート(50)を主資料として、授業への取り組みの姿勢出席等(50)を加味する。						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	特別活動論						
担当教員	大石 正廣						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	人間力を高める特別活動の実践的指導力の育成						
授業の概要	<p>特別活動は、望ましい集団活動を通して自己の生き方を主体的に考え、自己の実現を図ることができる人間を育成するという使命をもつ。そのためには、学級活動、児童会活動やクラブ活動、及び、学校行事等を通して、児童の企画力や実行力を引き出し、主体性や積極性を育てるように指導することが大事である。そうすることで自立した個と集団が育成できる。</p> <p>講義では現学習指導要領に即して特別活動の意義や内容、具体的な活動や実践方法について解説する。学生諸君は過去の経験を呼び起こしながら、どうすれば有効な指導ができるのか、体験的な集団づくりの手法について研究し、グループ討議や共同しての活動案づくりの中で、ねらいに応じる特別活動を展開していくために必要な組織的な動きやかかわりができる力を身につけて欲しい。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別活動の意義や目的、内容を理解することができる。</li> <li>2. 活動や行事の立案能力、主体的・積極的に実践できる能力を身につけることができる。</li> </ol>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 特別活動の教育課程上の位置づけ その意義と役割</p> <p>第2回 特別活動の理念・方針の変更</p> <p>第3回 学習指導要領に示されている特別活動の目標と内容</p> <p>第4回 学級活動1 自主的・実践的な態度を育てる学級づくりをしよう。</p> <p>第5回 学級活動2 発想力を鍛えよりよい学級づくりに参画させよう。</p> <p>第6回 学級活動3 いじめを生まない集団作りをしよう。</p> <p>第7回 児童会活動・クラブ活動 子どもの企画力や実行力を育てよう。</p> <p>第8回 学校行事1 儀式的行事・文化的行事 子どもに充実感や充足感を味わわせよう。</p> <p>第9回 学校行事2 健康安全・体育的行事 子どもに充実感や充足感を味わわせよう。</p> <p>第10回 学校的行事3 ①遠足・集团的行事1 子どもに豊かな経験や体験をさせる計画を立てよう。</p> <p>第11回 ②遠足・集団宿泊的行事2 計画案の検討の交流を図り、より充実した経験や体験をさせよう。</p> <p>第12回 学校行事4 勤労生産・奉仕的行事 社会奉仕の精神を養う経験や体験をさせよう。</p> <p>第13回 特別活動と道徳教育との関連 子ども人間関係調整能力を高めよう。</p> <p>第14回 特別活動の全体計画と年間指導計画</p> <p>第15回 特別活動の諸課題とその解決策（地域の特徴を生かした体験活動、食の指導等）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小学校で行っている特別活動について、インターネットなどで調べる。</li> <li>2. 学校訪問実習などの際に、学校目標や学級目標、系の活動、学校行事について情報収集する。</li> <li>3. 模擬授業等の計画・準備をする。</li> </ol>						
授業方法	講義形式と演習形式の授業を組み合わせで行う。模擬授業、模擬活動を適宜取り入れていく。						
評価基準と評価方法	授業への参加態度、積極的な学び（資料作成力や企画力、発表力やグループ内討議での積極的姿勢など）と各回提出のリアクションペーパー（授業で学べたこと等）など（50%）とテスト（50%）とで、総合的な評価を行なう。						
教科書	資料を配付する。 文部科学省『小学校学習指導要領解説（特別活動）』東洋館出版[授業中に使用]						
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『小学校 新学習指導要領の授業 特別活動 実践資料集 全学年』宮川八岐 石塚忠夫他編著 小学館</li> <li>2. 『自分を鍛え、集団を創る！ 特別活動の技術』杉田洋著 小学館</li> <li>3. 『ボランティアを楽しむアイデア&amp;指導案』原田正樹 柳久美子編著 学事出版</li> </ol>						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	道徳教育指導法						
担当教員	松岡 靖						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「特別の教科 道徳」の指導案を倫理学で組み立てよう。						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習指導要領が示す道徳教育の位置づけについて説明する。</li> <li>2. 道徳科の指導案を紹介しつつ、倫理的な背景を解説する。</li> <li>3. 指導案作成・模擬授業実施・相互評価を学生を中心に行う。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校での道徳教育の役割と指導法について学生が理解できる。</li> <li>2. 道徳教育のあり方について倫理学の視点で学生が評価できる。</li> <li>3. 学習指導要領を踏まえ道徳科の模擬授業を学生が実践できる。</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：私語の倫理学をめぐって</li> <li>2. 体験した道徳教育：グループで発表する</li> <li>3. 指導要領にみる道徳科(1)：学校教育の役割</li> <li>4. 指導要領にみる道徳科(2)：他教科との関係</li> <li>5. 道徳科の教材研究(1)：自己との関わり</li> <li>6. 道徳科の教材研究(2)：他者との関わり</li> <li>7. 道徳科の教材研究(3)：集団・社会との関わり</li> <li>8. 道徳科の教材研究(4)：生命・自然との関わり</li> <li>9. 倫理学から道徳科をみる：身体の内面は本当か？</li> <li>10. 模擬授業の実践(1)：自己との関わり</li> <li>11. 模擬授業の実践(2)：他者との関わり</li> <li>12. 模擬授業の実践(3)：集団・社会との関わり</li> <li>13. 模擬授業の実践(4)：生命・自然との関わり</li> <li>14. 模擬授業の実践(5)：その他との関わり</li> <li>15. まとめ：相互評価・レポート返却・成績説明など</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教科書と学習指導要領は各自でも何度か読んでください。</li> <li>2. 模擬授業は責任をもって準備した上で実施してください。</li> <li>3. 模擬授業が済んだらレポートを早めに提出してください。</li> </ol>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序盤では教員による講義を基本にディスカッションも取り入れます。</li> <li>2. 中盤では学生が参加して教材研究をしつつ学習指導案を準備します。</li> <li>3. 終盤では学生グループによる模擬授業と質疑応答を中心に進めます。</li> </ol>						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平常点30点（コメントカードや授業での発言などによる）</li> <li>2. 模擬授業40点（教員だけでなく学生の相互評価をも含む）</li> <li>3. 学期末レポート30点（模擬授業と質疑応答を題材とする）</li> </ol>						
教科書	『道徳教育はホントに道徳的か？』松下良平、日本図書センター、978-4-284-30447-4。						
参考書	『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	乳児保育／乳児保育演習						
担当教員	塚本 美由紀						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	近年、社会的にも乳児保育および保育士への期待が高まっている。乳児期の子どもの発達を理解し、保護者等との連携をもとに、より質の高い乳児保育を行うため、学習・研究・実践演習等で研鑽を積み、乳児保育の重要性を理解することが授業テーマとなる。						
授業の概要	保育所および乳児院における3歳未満児の保育実践について学習する。3歳未満児の発達理解を深め、講義、演習等を通して、乳児保育の基本や援助について理解を深める。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所、乳児院における乳児保育の現状と課題の理解を深めることができる。</li> <li>2. 3歳未満児の健やかな成長を支える生活や遊びの理解を深めることができる。</li> <li>3. 乳児保育の計画作成、保育内容や方法、環境構成や観察・記録の理解を深めることができる。</li> <li>4. 保護者や関係機関との連携についての理解を深めることができる。</li> </ol>						
授業計画	第1回 乳児、乳児保育とは 第2回 胎児期・新生児期の発達と保育 第3回 0歳児の発達と保育 第4回 1歳児の発達と保育 第5回 2歳児の発達と保育 第6回 基本的生活習慣の配慮と援助①健康・食事・排泄 第7回 基本的生活習慣の配慮と援助②睡眠・着脱・清潔 第8回 乳児保育における遊びと援助①遊びの本質 第9回 乳児保育における遊びと援助②造形遊び 第10回 乳児保育における遊びと援助③絵本 第11回 乳児保育における遊びと援助④ふれあい遊び・わらべ歌・子守歌 第12回 子育て支援事業、保護者・関連機関との連携 第13回 指導計画の立案 第14回 指導計画の検討 第15回 発表 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：教科書、保育所保育指針・解説書を読むこと。 授業後学習：講義内容のまとめを行うこと。						
授業方法	講義型授業、演習、グループディスカッション、保育教材作成を行う。						
評価基準と評価方法	授業内の課題（70点）、レポート〔作品含む〕（30点）						
教科書	『赤ちゃんから学ぶ「乳児保育」の実践カ―保育所・家庭で役立つ―』川原佐公監修・古橋紗人子編著 保育出版社 ISBN978-4-938795-87-0						
参考書	授業で適宜紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	乳児保育／乳児保育演習						
担当教員	塚本 美由紀						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	近年、社会的にも乳児保育および保育士への期待が高まっている。乳児期の子どもの発達を理解し、保護者等との連携をもとに、より質の高い乳児保育を行うため、学習・研究・実践演習等で研鑽を積み、乳児保育の重要性を理解することが授業テーマとなる。						
授業の概要	保育所および乳児院における3歳未満児の保育実践について学習する。3歳未満児の発達理解を深め、講義、演習等を通して、乳児保育の基本や援助について理解を深める。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所、乳児院における乳児保育の現状と課題の理解を深めることができる。</li> <li>2. 3歳未満児の健やかな成長を支える生活や遊びの理解を深めることができる。</li> <li>3. 乳児保育の計画作成、保育内容や方法、環境構成や観察・記録の理解を深めることができる。</li> <li>4. 保護者や関係機関との連携についての理解を深めることができる。</li> </ol>						
授業計画	第1回 乳児、乳児保育とは 第2回 胎児期・新生児期の発達と保育 第3回 0歳児の発達と保育 第4回 1歳児の発達と保育 第5回 2歳児の発達と保育 第6回 基本的生活習慣の配慮と援助①健康・食事・排泄 第7回 基本的生活習慣の配慮と援助②睡眠・着脱・清潔 第8回 乳児保育における遊びと援助①遊びの本質 第9回 乳児保育における遊びと援助②造形遊び 第10回 乳児保育における遊びと援助③絵本 第11回 乳児保育における遊びと援助④ふれあい遊び・わらべ歌・子守歌 第12回 子育て支援事業、保護者・関連機関との連携 第13回 指導計画の立案 第14回 指導計画の検討 第15回 発表 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：教科書、保育所保育指針・解説書を読むこと。 授業後学習：講義内容のまとめを行うこと。						
授業方法	講義型授業、演習、グループディスカッション、保育教材作成を行う。						
評価基準と評価方法	授業内の課題（70点）、レポート〔作品含む〕（30点）						
教科書	『赤ちゃんから学ぶ「乳児保育」の実践カ―保育所・家庭で役立つ―』川原佐公監修・古橋紗人子編著 保育出版社 ISBN978-4-938795-87-0						
参考書	授業で適宜紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育基本演習						
担当教員	井上 知子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育実践力を培う						
授業の概要	第一に、乳幼児の行動や捉え方について具体的事例を通して理解を深める。 第二に、保育教材を収集したり作成したりする過程で、教材のもつ意味や生かし方を学び、模擬保育の中で活用してみる。 第三に、上記の目に見える保育を指導計画や指導案ではどのように表し、どのように評価していくかなど保育実務の仕組みを理解する。						
到達目標	実際の保育を想定した模擬保育では、保育者役と子ども役になり、双方の立場から保育を体験できる。 指導計画の役割を知り、その意義について述べることができる。 幼児期の教育の様々な領域における幼児の発達について、自作教材を通して考える。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション : 授業概要と課題</p> <p>第2回 自作教材の作成(1) : 自作教材(言語)を使った保育指導案の作成</p> <p>第3回 自作教材の作成(2) : 自作教材(造形)を使った保育指導案の作成及び実技</p> <p>第4回 指導計画の考え方と立て方(1) : 「ねらい」「内容」の考え方と書き方</p> <p>第5回 指導計画の考え方と立て方(2) : 第2回・第3回に作成した指導案の修正</p> <p>第6回 模擬保育とディスカッション(1) : 自然とのかかわりに関する保育</p> <p>第7回 模擬保育とディスカッション(2) : 人間関係に関する保育</p> <p>第8回 模擬保育とディスカッション(3) : 規範意識の芽生えに関する保育</p> <p>第9回 模擬保育とディスカッション(4) : 言葉による伝え合いに関する保育</p> <p>第10回 模擬保育とディスカッション(5) : 健康な心と体に関する保育</p> <p>第11回 自作教材の作成(3) : 豊かな感性と表現に関する保育教材作成</p> <p>第12回 自作教材の作成(4) : 数量・図形等への関心・感覚を育てる保育教材案の作成</p> <p>第13回 保育計画の考え方と立て方(3) : 「環境の構成」の考え方と実際</p> <p>第14回 保育評価と記録 : 保育における記録の意義と方法</p> <p>第15回 まとめと授業評価 : 保育者の使命</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習: 自作教材を作成したり、模擬保育を行ったりするための資料集めをしておくこと。 授業後学習: 課題解決に向けて、授業内容を整理する。						
授業方法	演習および模擬保育とディスカッションを中心に行います。						
評価基準と評価方法	授業参加態度(意欲・関心 など) 30% 提出物(自作教材、指導案を含むレポート など) 50% 模擬保育の内容やディスカッションでの発言 20% などを総合して評価する。						
教科書	幼稚園教育指導資料第1集「指導計画の作成と保育の展開」 平成25年 文部科学省 フレーベル館						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育原理						
担当教員	寺見 陽子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	保育所保育の基本原理の理解						
授業の概要	保育所および認定こども園の機能や社会的役割を理解すると共に、保育の目的、目標、内容、方法、子ども理解と援助、保育の環境構成等の在り方及び保育者の役割について概観する。さらに、育所における保育の特性、保育の内容と方法、実践の考え方と展開の在り方を考える。						
到達目標	保育の特性と保育の基本、そのあり方を理解することができる。						
授業計画	第1回 現代社会と保育—子ども子育て新制度を巡って 第2回 保育所と認定こども園における保育の意義と基底 第3回 保育所・認定こども園における保育の方針と概要 第4回 保育所および認定こども園における保育の特性 第5回 保育所および認定こども園における保育の基本 第6回 保育の原理と方法 第7回 保育の内容と保育の環境（1）—養護と教育 第8回 保育の内容と保育の環境（2）—健康・安全・食育 第9回 保育の環境構成と保育者の役割（1）—3歳未満児を中心に 第10回 保育の環境構成と保育者の役割（2）—3歳以上児を中心に 第11回 保育の計画と実践—保育課程と指導計画 第12回 保育の省察と評価—保育のPDCAと保育の質の向上 第13回 保護者との連携と支援 第14回 地域の子育て支援—「まっぼっくり」実習 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	ボランティア等で、保育現場での子どもの生活や遊びにかかわる経験をもつようにしてほしい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 実習レポート20点、テスト80点						
教科書	寺見陽子編「乳幼児保育の理論と実際」ミネルバ書房（ISBN978-4-623-05040-6 C3336）						
参考書	必要に応じて示す。						



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育原理						
担当教員	寺見 陽子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	保育所保育の基本原理の理解						
授業の概要	保育所および認定こども園の機能や社会的役割を理解すると共に、保育の目的、目標、内容、方法、子ども理解と援助、保育の環境構成等の在り方及び保育者の役割について概観する。さらに、育所における保育の特性、保育の内容と方法、実践の考え方と展開の在り方を考える。						
到達目標	保育の特性と保育の基本、そのあり方を理解することができる。						
授業計画	第1回 現代社会と保育—子ども子育て新制度を巡って 第2回 保育所と認定こども園における保育の意義と基底 第3回 保育所・認定こども園における保育の方針と概要 第4回 保育所および認定こども園における保育の特性 第5回 保育所および認定こども園における保育の基本 第6回 保育の原理と方法 第7回 保育の内容と保育の環境（1）—養護と教育 第8回 保育の内容と保育の環境（2）—健康・安全・食育 第9回 保育の環境構成と保育者の役割（1）—3歳未満児を中心に 第10回 保育の環境構成と保育者の役割（2）—3歳以上児を中心に 第11回 保育の計画と実践—保育課程と指導計画 第12回 保育の省察と評価—保育のPDCAと保育の質の向上 第13回 保護者との連携と支援 第14回 地域の子育て支援—「まっぼっくり」実習 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	ボランティア等で、保育現場での子どもの生活や遊びにかかわる経験を持つようにしてほしい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 実習レポート20点、テスト80点						
教科書	寺見陽子編 「乳幼児保育の理論と実際」 ミネルバ書房 (ISBN978-4-623-05040-6 c3336)						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育者論						
担当教員	吉田 直哉						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育者の社会的使命と専門性						
授業の概要	本講義は、学生一人一人がもつ「私が保育するとはどういうことか」という問いを出発点としながら、現代日本における保育者の制度的位置づけ、現在に至るまでの保育者の位置づけの変遷、現在から未来へ向けて求められる保育者の専門性とミッション(使命)について学ぶ。						
到達目標	保育の歴史的な流れを見通しながら、保育者の制度的位置づけ、社会的役割を理解し、その現状と課題を把握することができる。さらに、子どもの発達、学び(遊び)の特性を踏まえて、保育者に求められる専門性を理解し、その専門性を向上させるための基礎的な知識や理論を自家薬籠中のものとする事ができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション・導入 第2回 「保育者論」を学ぶことの意義 第3回 現代における保育者の社会的位置づけ(1)：保育者の社会的イメージ 第4回 現代における保育者の社会的位置づけ(2)：関連法令における規定 第5回 保育者へのニーズと職業倫理(1)：全国保育士会倫理綱領 第6回 保育者へのニーズと職業倫理(2)：バイステックの7原則 第7回 保育者に求められるスキル(1)：受信的・発信的技能 第8回 保育者に求められるスキル(2)：保護者支援とカウンセリングマインド・ケア 第9回 保育者としての熟達(1)：ライフサイクルと生涯発達 第10回 保育者としての熟達(2)：カツの保育者のキャリア形成論 第11回 保育者としての熟達(3)：新任男性保育者の事例検討 第12回 子どもの発達援助(1)：園生活の特性 第13回 子どもの発達援助(2)：子どもの発達過程に即した支援 第14回 子どもの発達援助(3)：子どもの学習＝遊びの特性に即した支援 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	保育原理等で学習した内容を、必要に応じて復習することが求められる。『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』の内容を、概略的に理解していることが必要となる。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	提出物(松蔭manabaへの小レポート・30%)、小テスト(70%)による評価						
教科書	石川昭義・小原敏郎編著『保育者のためのキャリア形成論』建帛社、2015年。ISBN9784767950228						
参考書	谷田貝公昭ほか編『新版保育用語辞典』一藝社、2016年。ISBN9784863591066						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育者論						
担当教員	吉田 直哉						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育者の社会的使命と専門性						
授業の概要	本講義は、学生一人一人がもつ「私が保育するとはどういうことか」という問いを出発点としながら、現代日本における保育者の制度的位置づけ、現在に至るまでの保育者の位置づけの変遷、現在から未来へ向けて求められる保育者の専門性とミッション(使命)について学ぶ。						
到達目標	保育の歴史的な流れを見通しながら、保育者の制度的位置づけ、社会的役割を理解し、その現状と課題を把握することができる。さらに、子どもの発達、学び(遊び)の特性を踏まえて、保育者に求められる専門性を理解し、その専門性を向上させるための基礎的な知識や理論を自家薬籠中のものとする事ができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション・導入 第2回 「保育者論」を学ぶことの意義 第3回 現代における保育者の社会的位置づけ(1)：保育者の社会的イメージ 第4回 現代における保育者の社会的位置づけ(2)：関連法令における規定 第5回 保育者へのニーズと職業倫理(1)：全国保育士会倫理綱領 第6回 保育者へのニーズと職業倫理(2)：バイステックの7原則 第7回 保育者に求められるスキル(1)：受信的・発信的技能 第8回 保育者に求められるスキル(2)：保護者支援とカウンセリングマインド・ケア 第9回 保育者としての熟達(1)：ライフサイクルと生涯発達 第10回 保育者としての熟達(2)：カッツの保育者のキャリア形成論 第11回 保育者としての熟達(3)：新任男性保育者の事例検討 第12回 子どもの発達援助(1)：園生活の特性 第13回 子どもの発達援助(2)：子どもの発達過程に即した支援 第14回 子どもの発達援助(3)：子どもの学習＝遊びの特性に即した支援 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	保育原理等で学習した内容を、必要に応じて復習することが求められる。『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』の内容を、概略的に理解していることが必要となる。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	提出物(松蔭manabaへの小レポート・30%)、小テスト(70%)による評価						
教科書	石川昭義・小原敏郎編著『保育者のためのキャリア形成論』建帛社、2015年。ISBN9784767950228						
参考書	谷田貝公昭ほか編『新版保育用語辞典』一藝社、2016年。ISBN9784863591066						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目																																																			
科目名	保育指導法																																																			
担当教員	井上 知子																																																			
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	4	単位数	2.0																																													
授業のテーマ	子どもを主体とした保育指導法																																																			
授業の概要	<p>幼児期は、遊びを中心とした生活の中で生涯に渡って重要な人格の基礎を培う。遊びとは、幼児が自ら主体となって展開するものであり、その中で大切な学びを得る。そのためには、保育者が高い専門性をもち、役割を自覚することが重要である。</p>																																																			
到達目標	<p>保育実践で行う活動の意味を知り、その意義について述べることができる。 乳幼児の育ちを支える保育者の役割が分かり、実践するための様々な方法を知ることができる。</p>																																																			
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>:授業概要 幼稚園や保育所の生活</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>幼児期にふさわしい生活</td> <td>:主体的な遊びが生まれる「場」</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>環境の構成と保育の展開</td> <td>:「環境を通して行う教育」とは</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>一人一人に応じた指導</td> <td>:「幼児を理解する」ことの重要性</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>「遊び」の指導</td> <td>:「遊びを通しての指導」とは</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>「生活」の指導</td> <td>:健康な心と体、社会性を培う</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>学び合い育ち合うクラスづくり</td> <td>:個と集団の関係</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>園内外の環境を生かした保育</td> <td>:地域とのかかわり、園外保育</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>保育活動と行事</td> <td>:環境としての行事</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>指導計画の立て方</td> <td>:「ねらい」と「内容」の立て方</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>幼稚園・保育所・小学校の連携</td> <td>:学びの連続性を考える 幼児期に育てたい10項目</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>危機管理</td> <td>:安全管理と保護者対応</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>子育て支援の現状</td> <td>:家庭との連携の必要性</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>保育者としての資質向上</td> <td>:園内研修や記録の活用</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめと授業評価(レポート提出)</td> <td></td> </tr> </table>							第1回	オリエンテーション	:授業概要 幼稚園や保育所の生活	第2回	幼児期にふさわしい生活	:主体的な遊びが生まれる「場」	第3回	環境の構成と保育の展開	:「環境を通して行う教育」とは	第4回	一人一人に応じた指導	:「幼児を理解する」ことの重要性	第5回	「遊び」の指導	:「遊びを通しての指導」とは	第6回	「生活」の指導	:健康な心と体、社会性を培う	第7回	学び合い育ち合うクラスづくり	:個と集団の関係	第8回	園内外の環境を生かした保育	:地域とのかかわり、園外保育	第9回	保育活動と行事	:環境としての行事	第10回	指導計画の立て方	:「ねらい」と「内容」の立て方	第11回	幼稚園・保育所・小学校の連携	:学びの連続性を考える 幼児期に育てたい10項目	第12回	危機管理	:安全管理と保護者対応	第13回	子育て支援の現状	:家庭との連携の必要性	第14回	保育者としての資質向上	:園内研修や記録の活用	第15回	まとめと授業評価(レポート提出)	
第1回	オリエンテーション	:授業概要 幼稚園や保育所の生活																																																		
第2回	幼児期にふさわしい生活	:主体的な遊びが生まれる「場」																																																		
第3回	環境の構成と保育の展開	:「環境を通して行う教育」とは																																																		
第4回	一人一人に応じた指導	:「幼児を理解する」ことの重要性																																																		
第5回	「遊び」の指導	:「遊びを通しての指導」とは																																																		
第6回	「生活」の指導	:健康な心と体、社会性を培う																																																		
第7回	学び合い育ち合うクラスづくり	:個と集団の関係																																																		
第8回	園内外の環境を生かした保育	:地域とのかかわり、園外保育																																																		
第9回	保育活動と行事	:環境としての行事																																																		
第10回	指導計画の立て方	:「ねらい」と「内容」の立て方																																																		
第11回	幼稚園・保育所・小学校の連携	:学びの連続性を考える 幼児期に育てたい10項目																																																		
第12回	危機管理	:安全管理と保護者対応																																																		
第13回	子育て支援の現状	:家庭との連携の必要性																																																		
第14回	保育者としての資質向上	:園内研修や記録の活用																																																		
第15回	まとめと授業評価(レポート提出)																																																			
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>授業前学習:教育実習に参加した者は実習記録に目を通しておく 授業後学習:配布プリントを活用して内容を整理する。</p>																																																			
授業方法	講義																																																			
評価基準と評価方法	<p>筆記試験による評価 50% 授業態度(意欲・関心・発言)、レポート等の提出物による評価 50% を総合して評価します。</p>																																																			
教科書	プリントを配布します。																																																			
参考書	<p>幼稚園教育要領解説 文部科学省 保育所保育指針 厚生労働省</p>																																																			

科目区分	子ども発達学科専門教育科目																																																			
科目名	保育指導法																																																			
担当教員	井上 知子																																																			
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	4	単位数	2.0																																													
授業のテーマ	子どもを主体とした保育指導法																																																			
授業の概要	<p>幼児期は、遊びを中心とした生活の中で生涯に渡って重要な人格の基礎を培う。遊びとは、幼児が自ら主体となって展開するものであり、その中で大切な学びを得る。そのためには、保育者が高い専門性をもち、役割を自覚することが重要である。</p>																																																			
到達目標	<p>保育実践で行う活動の意味を知り、その意義について述べることができる。 乳幼児の育ちを支える保育者の役割が分かり、実践するための様々な方法を知ることができる。</p>																																																			
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>:授業概要 幼稚園や保育所の生活</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>幼児期にふさわしい生活</td> <td>:主体的な遊びが生まれる「場」</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>環境の構成と保育の展開</td> <td>:「環境を通して行う教育」とは</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>一人一人に応じた指導</td> <td>:「幼児を理解する」ことの重要性</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>「遊び」の指導</td> <td>:「遊びを通しての指導」とは</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>「生活」の指導</td> <td>:健康な心と体、社会性を培う</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>学び合い育ち合うクラスづくり</td> <td>:個と集団の関係</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>園内外の環境を生かした保育</td> <td>:地域とのかかわり、園外保育</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>保育活動と行事</td> <td>:環境としての行事</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>指導計画の立て方</td> <td>:「ねらい」と「内容」の立て方</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>幼稚園・保育所・小学校の連携</td> <td>:学びの連続性を考える 幼児期に育てたい10項目</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>危機管理</td> <td>:安全管理と保護者対応</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>子育て支援の現状</td> <td>:家庭との連携の必要性</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>保育者としての資質向上</td> <td>:園内研修や記録の活用</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめと授業評価(レポート提出)</td> <td></td> </tr> </table>							第1回	オリエンテーション	:授業概要 幼稚園や保育所の生活	第2回	幼児期にふさわしい生活	:主体的な遊びが生まれる「場」	第3回	環境の構成と保育の展開	:「環境を通して行う教育」とは	第4回	一人一人に応じた指導	:「幼児を理解する」ことの重要性	第5回	「遊び」の指導	:「遊びを通しての指導」とは	第6回	「生活」の指導	:健康な心と体、社会性を培う	第7回	学び合い育ち合うクラスづくり	:個と集団の関係	第8回	園内外の環境を生かした保育	:地域とのかかわり、園外保育	第9回	保育活動と行事	:環境としての行事	第10回	指導計画の立て方	:「ねらい」と「内容」の立て方	第11回	幼稚園・保育所・小学校の連携	:学びの連続性を考える 幼児期に育てたい10項目	第12回	危機管理	:安全管理と保護者対応	第13回	子育て支援の現状	:家庭との連携の必要性	第14回	保育者としての資質向上	:園内研修や記録の活用	第15回	まとめと授業評価(レポート提出)	
第1回	オリエンテーション	:授業概要 幼稚園や保育所の生活																																																		
第2回	幼児期にふさわしい生活	:主体的な遊びが生まれる「場」																																																		
第3回	環境の構成と保育の展開	:「環境を通して行う教育」とは																																																		
第4回	一人一人に応じた指導	:「幼児を理解する」ことの重要性																																																		
第5回	「遊び」の指導	:「遊びを通しての指導」とは																																																		
第6回	「生活」の指導	:健康な心と体、社会性を培う																																																		
第7回	学び合い育ち合うクラスづくり	:個と集団の関係																																																		
第8回	園内外の環境を生かした保育	:地域とのかかわり、園外保育																																																		
第9回	保育活動と行事	:環境としての行事																																																		
第10回	指導計画の立て方	:「ねらい」と「内容」の立て方																																																		
第11回	幼稚園・保育所・小学校の連携	:学びの連続性を考える 幼児期に育てたい10項目																																																		
第12回	危機管理	:安全管理と保護者対応																																																		
第13回	子育て支援の現状	:家庭との連携の必要性																																																		
第14回	保育者としての資質向上	:園内研修や記録の活用																																																		
第15回	まとめと授業評価(レポート提出)																																																			
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>授業前学習:教育実習に参加した者は実習記録に目を通しておく 授業後学習:配布プリントを活用して内容を整理する。</p>																																																			
授業方法	講義																																																			
評価基準と評価方法	<p>筆記試験による評価 50% 授業態度(意欲・関心・発言)、レポート等の提出物による評価 50% を総合して評価します。</p>																																																			
教科書	プリントを配布します。																																																			
参考書	<p>幼稚園教育要領解説 文部科学省 保育所保育指針 厚生労働省</p>																																																			

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習I（施設）						
担当教員	塚元 重範						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	児童福祉施設の保育士のあるべき姿を学ぶ						
授業の概要	児童福祉施設で実際に子どもや利用者と一緒に生活の中で、子どもや利用者の理解、施設で働く保育士の職務、職員間の連携や施設の役割・責任などの理解、家庭環境の理解などを実践的に学ぶ						
到達目標	施設で過ごす子どもや利用者との関わりを体験し、子どもや利用者に対し適切な対応や共感的な対応ができる。施設の役割や保育士の基本的な役割を説明できる。						
授業計画	<p>授業は実習先である児童福祉施設において行われる。10日間にわたる概要は次の通りであるが、実習先の事情により内容が多少変わる場合もある。</p> <p>○実習前段階として *学内での事前指導（実習の心得、諸注意、実習意義・目的・内容・方法、それぞれの施設の対象児・者の理解・かかわり方、児童福祉施設に関する制度・法律・社会背景などの理解を深める）</p> <p>○第1段階（1～7日目） 観察実習（実習施設の組織・種類・特性の理解、職員の職種（専門家）の働きと役割・連携の取り方、子どもや利用者のニーズ、施設の一日の流れなどを理解する）</p> <p>○第2段階（8～10日目） 観察に加え、部分的な参加を伴う参加実習（子どもや利用者へのサポートやかかわりを実際に保育士の補助をしながら体験する。また、環境整備や教材準備等を補助する。援助計画を理解する）</p> <p>○実習事後段階として *事後指導（自己評価・反省、感想・レポートの提出、実習報告会への出席、実習記録の提出、自己課題の達成度確認等） *実習全期間を通して実習の記録をする</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	児童福祉施設の見学、施設でのボランティアを体験する。現代の子どもたちがおかれている社会や家庭の状況、子どもたちの育ちの様子等に関する情報をまとめる。児童福祉施設に関する法令、規則、基本となる指針等にふれる。						
授業方法	児童福祉施設における実習、教員による巡回訪問指導						
評価基準と評価方法	実習目的や方法等に関する理解度（レポートによる）		20%				
	実習記録の内容		20%				
	諸手続きへの取り組み		10%				
	施設先の実習評価（出席を含め）		50%				
教科書	実習の手引き、事前授業で配布したプリント						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習I (保育所)						
担当教員	吉田 直哉						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	保育所における実習への参加						
授業の概要	保育所における実習に参加し、保育所生活の特性、子どもの発達過程を踏まえた子どもへの支援、保育士の業務への補助を通して、保育士に求められる基礎的な専門的知識・技能を習得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所の社会的機能を具体的に理解する。</li> <li>・ 保育所生活の特性を理解する。</li> <li>・ 子どもの発達過程を理解する。</li> <li>・ 子どもの個人差を踏まえた個別的・集団的な支援ができる。</li> <li>・ 保育士の職務の具体的内容を体得する。</li> </ul>						
授業計画	<p>実習 I (10日間)の、標準的な内容は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前学習：保育所でのオリエンテーション(学外オリエンテーション)を受ける</li> <li>・ 見学・観察実習</li> <li>・ 参加(部分)実習</li> <li>・ 実習記録(日誌)の作成</li> <li>・ 事後学習：各自の取り組みを自己評価したうえで、レポートを作成する</li> </ul>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所等でのボランティア活動へ積極的に参加する。</li> <li>・ 実習中に必要とされる保育技能(手遊び、歌、絵本、紙芝居等)を、日頃から習得する。</li> <li>・ 保育所という社会との出会いに備えて、社会人としての基礎的なマナー、常識を体得する。</li> </ul>						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習完了の基礎点 40%</li> <li>・ 実習園の評価 40%</li> <li>・ 実習記録・レポート 20%</li> </ul>						
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高玉和子編著『実践力がつく保育実習』大学図書出版、2014年、ISBN：978-4-907166-15-1</li> <li>・ 『実習の手引き』</li> </ul>						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『月刊保育とカリキュラム』ひかりのくに</li> </ul>						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習II (保育所)						
担当教員	吉田 直哉						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	保育所における実習への参加						
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所における実習に参加し、保育所生活の特性、子どもの発達過程を踏まえた子どもへの支援、保育士の業務への補助を通して、保育士に求められる応用的な専門的知識・技能を習得する。</li> <li>・ 実習記録への記載方法を習得し、記録を作成する。</li> <li>・ 実習指導案の作成方法を理解し、実際に指導案を作成し、自ら保育を実施する。</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所の社会的機能を具体的に理解する。</li> <li>・ 保育所生活の特性を理解する。</li> <li>・ 子どもの発達過程を理解する。</li> <li>・ 子どもの個人差を踏まえた個別的・集団的な支援ができる。</li> <li>・ 保育士の職務の具体的内容を体得する。</li> </ul>						
授業計画	<p>実習Ⅱ(10日間)の、標準的な内容は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前学習：保育所でのオリエンテーション(学外オリエンテーション)を受ける</li> <li>・ 参加(部分)実習：数回の参加実習を、指導案を作成したうえで実施する</li> <li>・ 責任実習：1～2回の責任実習を、指導案を作成したうえで実施する</li> <li>・ 保育所の保護者に対する子育て支援への参加</li> <li>・ 実習記録(日誌)の作成</li> <li>・ 事後学習：各自の取り組みを自己評価したうえで、レポートを作成する</li> </ul>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育実習Ⅰの内容の反省をする。</li> <li>・ 保育所等でのボランティア活動へ積極的に参加する。</li> <li>・ 実習中に必要とされる保育技能(手遊び、歌、絵本、紙芝居等)を、日頃から習得する。</li> <li>・ 保育所という社会との出会いに備えて、社会人としての基礎的なマナー、常識を体得する。</li> </ul>						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習完了の基礎点 40%</li> <li>・ 実習園の評価 40%</li> <li>・ 実習記録・レポート 20%</li> </ul>						
教科書	・ 2年次の保育実習Ⅰで使用した教材に準じる。						
参考書	・ 『月刊保育とカリキュラム』ひかりのくに						



科目区分	子ども発達学科専門教育科目												
科目名	保育実習III (施設)												
担当教員	塚元 重範												
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0						
授業のテーマ	保育実習 I (施設) の経験を踏まえ、総合的に学習する。												
授業の概要	療育・養育のあり方や地域の中での施設の役割を理解する。保育士やその他の専門職員の働きの実態に触れ、連携や専門性の重要性について理解する。援助計画や支援計画を立案し指導する。子どもや利用者、保護者とのかわりを通して理解を深める。												
到達目標	児童福祉施設で保育士の職務を理解し、施設保育士とともに基本的な職務を果たすことができる 子どもの課題を理解し、短期的な援助計画を立てることができる												
授業計画	<p>授業は施設での実習の形で進められる。10日間にわたる概要は次の通りであるが、実習先の事情により内容が多少変わる場合もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実習前段階 オリエンテーション (諸注意、心得、実習施設の概要・理念、運営方針・指導方針、援助計画の確認、指導者との打ち合わせ等) を受ける。</li> <li>○実習中 部分参加 (主体性を持って養護、療育に参加する。子どもや利用者とかかわる。施設の組織、職員のチームワーク力、環境への留意などの観察)</li> <li>①援助計画の立案</li> <li>②計画に基づいて実践する</li> <li>③実践の評価反省をする</li> <li>④施設が実施する地域におけるイベント、事業などに参加する</li> <li>⑤研究的な視点を持って子どもや利用者とかかわる</li> <li>⑥実習体験の記録、子どもや利用者理解のための記録、気づき、実践の自己評価・反省の記録、課題の達成確認等</li> <li>⑦教員による訪問指導を受ける</li> <li>○実習後段階 全体を通じた自己評価・反省・レポートの提出、実習の振り返り、「実習記録」の提出、施設で働くことをイメージし、今後の学習への課題の明確化等</li> </ul>												
授業外における学習 (準備学習の内容)	実習前、施設でのボランティア活動をする												
授業方法	施設における実習												
評価基準と評価方法	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">施設の評価</td> <td style="width: 50%;">50%</td> </tr> <tr> <td>実習記録の内容</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>20%</td> </tr> </table>							施設の評価	50%	実習記録の内容	30%	レポート	20%
施設の評価	50%												
実習記録の内容	30%												
レポート	20%												
教科書	「実習の手引き」事前授業で配布したプリント												
参考書													

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導I						
担当教員	吉田 直哉・塚元 重範						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育実習(保育所・児童福祉施設)に必要なとされる知識・技能						
授業の概要	<p>保育所と児童福祉施設での実習に臨むにあたって、効果的な学びを実現するため、実習の意義、目的、内容、方法に関して概説する。具体的なテーマは以下のとおりである。</p> <p>①保育所、児童福祉施設の社会的機能          ②既習科目で習得した知識・技能の再確認          ③子どもへの援助に必要な態度、技能          ④実習記録の記載方法          ⑤各自の実習課題の明確化</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の意義、目的、方法などを理解できる。</li> <li>・自己の実習課題・目標を明確化できる。</li> <li>・実習に必要なとされる書類の作成、手続きを誤りなく行える。</li> <li>・子どもの発達の特性、子どもの最善の利益と人権の擁護について理解できる。</li> <li>・実習生としての倫理を自らのものとして内面化できる。</li> <li>・子ども・利用者の生活援助に関する基本的な技能を使いこなすことができる。</li> <li>・事後指導においては、実習内容の反省を行い、次なる実習に向けた課題と自己目標を意識化できる。</li> </ul>						
授業計画	<p>第1回 保育所実習の意義・目的・内容・方法</p> <p>第2回 保育所における保育士の職務内容、倫理(守秘義務、子どもの権利擁護)</p> <p>第3回 保育所実習の流れ(映像教材)</p> <p>第4回 保育所における子ども理解の方法と保育士の支援方法</p> <p>第5回 保育所実習における実習記録の作成方法</p> <p>第6回 保育所実習における指導計画(実習指導案)の作成方法</p> <p>第7回 保育所実習の課題の明確化、関連書類の作成、学内オリエンテーション</p> <p>第8回 施設実習の意義・目的・内容・方法</p> <p>第9回 障害系施設の概要と保育士の職務内容</p> <p>第10回 養護系施設の概要と保育士の職務内容</p> <p>第11回 施設実習の実際(映像教材)</p> <p>第12回 施設実習における子どもの理解と保育士の支援方法、倫理</p> <p>第13回 施設実習における実習記録の作成方法</p> <p>第14回 施設実習の課題の明確化、関連書類の作成、学内オリエンテーション</p> <p>第15回 事後指導</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所、児童福祉施設に関するニュースや情報を収集する。</li> <li>・保育所、児童福祉施設におけるボランティア等に積極的に参加する。</li> </ul>						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート、ワークシート、実習指導案等の提出物 50%</li> <li>・授業への取り組み(小テスト含む) 50%</li> </ul>						

教科書	・高玉和子編著『実践力がつく保育実習』大学図書出版、2014年、ISBN：978-4-907166-15-1 ・小林育子ほか『幼稚園・保育所・施設実習ワーク』萌文書林、2012年、ISBN：978-4-89347-094-2 ・『実習の手引き』
参考書	・『保育所保育指針解説書』フレーベル館 ・『月刊保育とカリキュラム』ひかりのくに ・守巧ほか『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 ・長島和代編『これだけは知っておきたい保育の基本用語』わかば社 ・長島和代編『これだけは知っておきたい保育のマナーと言葉』わかば社

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導I						
担当教員	吉田 直哉・塚元 重範						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育実習(保育所・児童福祉施設)に必要なとされる知識・技能						
授業の概要	<p>保育所と児童福祉施設での実習に臨むにあたって、効果的な学びを実現するため、実習の意義、目的、内容、方法に関して概説する。具体的なテーマは以下のとおりである。</p> <p>①保育所、児童福祉施設の社会的機能          ②既習科目で習得した知識・技能の再確認          ③子どもへの援助に必要な態度、技能          ④実習記録の記載方法          ⑤各自の実習課題の明確化</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の意義、目的、方法などを理解できる。</li> <li>・自己の実習課題・目標を明確化できる。</li> <li>・実習に必要なとされる書類の作成、手続きを誤りなく行える。</li> <li>・子どもの発達の特性、子どもの最善の利益と人権の擁護について理解できる。</li> <li>・実習生としての倫理を自らのものとして内面化できる。</li> <li>・子ども・利用者の生活援助に関する基本的な技能を使いこなすことができる。</li> <li>・事後指導においては、実習内容の反省を行い、次なる実習に向けた課題と自己目標を意識化できる。</li> </ul>						
授業計画	<p>第1回 保育所実習の意義・目的・内容・方法</p> <p>第2回 保育所における保育士の職務内容、倫理(守秘義務、子どもの権利擁護)</p> <p>第3回 保育所実習の流れ(映像教材)</p> <p>第4回 保育所における子ども理解の方法と保育士の支援方法</p> <p>第5回 保育所実習における実習記録の作成方法</p> <p>第6回 保育所実習における指導計画(実習指導案)の作成方法</p> <p>第7回 保育所実習の課題の明確化、関連書類の作成、学内オリエンテーション</p> <p>第8回 施設実習の意義・目的・内容・方法</p> <p>第9回 障害系施設の概要と保育士の職務内容</p> <p>第10回 養護系施設の概要と保育士の職務内容</p> <p>第11回 施設実習の実際(映像教材)</p> <p>第12回 施設実習における子どもの理解と保育士の支援方法、倫理</p> <p>第13回 施設実習における実習記録の作成方法</p> <p>第14回 施設実習の課題の明確化、関連書類の作成、学内オリエンテーション</p> <p>第15回 事後指導</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所、児童福祉施設に関するニュースや情報を収集する。</li> <li>・保育所、児童福祉施設におけるボランティア等に積極的に参加する。</li> </ul>						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート、ワークシート、実習指導案等の提出物 50%</li> <li>・授業への取り組み(小テスト含む) 50%</li> </ul>						

教科書	・高玉和子編著『実践力がつく保育実習』大学図書出版、2014年、ISBN：978-4-907166-15-1 ・小林育子ほか『幼稚園・保育所・施設実習ワーク』萌文書林、2012年、ISBN：978-4-89347-094-2 ・『実習の手引き』
参考書	・『保育所保育指針解説書』フレーベル館 ・『月刊保育とカリキュラム』ひかりのくに ・守巧ほか『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 ・長島和代編『これだけは知っておきたい保育の基本用語』わかば社 ・長島和代編『これだけは知っておきたい保育のマナーと言葉』わかば社

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導II						
担当教員	吉田 直哉						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	保育実習Ⅱへの取り組み方法の理解						
授業の概要	<p>保育実習Ⅱに臨むにあたって必要な以下の事項を共同的に学習し、理解する。</p> <p>①保育所の社会的機能 ②保育者のキャリアアップにおける実習の位置づけ ③実習に必要とされる知識・技能 ④実習生の倫理と義務 ⑤保育記録(実習日誌)の記載方法 ⑥実習指導計画(指導案)の作成方法</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習Ⅰの取り組みを反省し、実習Ⅱへ向けての各自の課題を明確にできる。</li> <li>・実習に必要な知識・技能を習得し、自家菜籠中の物とすることができる。</li> </ul>						
授業計画	<p>第1回 保育実習Ⅰの振り返り、反省事項の共有</p> <p>第2回 保育実習Ⅱにおける自己課題の明確化</p> <p>第3回 実習記録の作成方法：時系列の記録</p> <p>第4回 実習記録の作成方法：エピソード記録</p> <p>第5回 実習指導計画の作成方法</p> <p>第6回 実習指導計画の発表と検討</p> <p>第7回 準備事項、注意事項の総括(小テスト含む)</p> <p>第8回 事後指導(実習先からの評価の確認、実習記録の再読)</p> <p>※各自の課題・疑問に関しては、個別での相談に応じる。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>以下の事項への積極的な参加が求められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育現場への参加(ボランティア等)</li> <li>・保育雑誌、書籍からの資料の収集</li> <li>・地域子育て支援コミュニティルーム「まつぼっくり」への参加</li> </ul>						
授業方法	講義および演習形式						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習課題の明確化(レポートの作成、発表) 30%</li> <li>・指導案の作成(プレゼンテーション含む) 30%</li> <li>・小テスト 20%</li> <li>・提出課題 20%</li> </ul>						
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長島和代編『わかる・書ける・使える保育の基本用語』わかば社、2013年、ISBN：978-4-907270-04-9</li> <li>・小林育子ほか『幼稚園・保育所・施設実習ワーク』萌文書林、2006年、ISBN：978-4-89347-094-2(保育実習指導Ⅰから継続して使用)</li> <li>・『実習の手引き』</li> </ul>						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『月刊保育とカリキュラム』ひかりのくに</li> </ul>						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導II						
担当教員	吉田 直哉						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	保育実習Ⅱへの取り組み方法の理解						
授業の概要	<p>保育実習Ⅱに臨むにあたって必要な以下の事項を共同的に学習し、理解する。</p> <p>①保育所の社会的機能          ②保育者のキャリアアップにおける実習の位置づけ          ③実習に必要とされる知識・技能          ④実習生の倫理と義務          ⑤保育記録(実習日誌)の記載方法          ⑥実習指導計画(指導案)の作成方法</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習Ⅰの取り組みを反省し、実習Ⅱへ向けての各自の課題を明確にできる。</li> <li>・実習に必要な知識・技能を自家薬籠中のものとする事ができる。</li> </ul>						
授業計画	<p>第1回 保育実習Ⅰの振り返り、反省事項の共有</p> <p>第2回 保育実習Ⅱにおける自己課題の明確化</p> <p>第3回 実習記録の作成方法：時系列の記録</p> <p>第4回 実習記録の作成方法：エピソード記録</p> <p>第5回 実習指導計画の作成方法</p> <p>第6回 実習指導計画の発表と検討</p> <p>第7回 準備事項、注意事項の総括(小テスト含む)</p> <p>第8回 事後指導(実習先からの評価の確認、実習記録の再読)</p> <p>※各自の課題・疑問に関しては、個別での相談に応じる。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>以下の事項への積極的な参加が求められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育現場への参加(ボランティア等)</li> <li>・保育雑誌、書籍からの資料の収集</li> <li>・地域子育て支援コミュニティルーム「まつぼっくり」への参加</li> </ul>						
授業方法	講義および演習形式						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習課題の明確化(レポートの作成、発表) 30%</li> <li>・指導案の作成(プレゼンテーション含む) 30%</li> <li>・小テスト 20%</li> <li>・提出課題 20%</li> </ul>						
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長島和代編『わかる・書ける・使える保育の基本用語』わかば社、2013年、ISBN：978-4-907270-04-9</li> <li>・小林育子ほか『幼稚園・保育所・施設実習ワーク』萌文書林、2006年、ISBN：978-4-89347-094-2(保育実習指導Ⅰから継続して使用)</li> <li>・『実習の手引き』</li> </ul>						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『月刊保育とカリキュラム』ひかりのくに</li> </ul>						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導III						
担当教員	塚元 重範						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	保育実習 I（施設）の経験を踏まえ、総合的に学習する						
授業の概要	実習に臨むにあたって、より深く児童福祉施設に求められている役割と機能、保育士に求められている専門的な知識や技術等に関する指導を行う。 実習の計画と具体的な準備をさせる。						
到達目標	問題行動を有する子どもとのかかわり方、保護者支援や家庭支援のための知識・技術を養い、子どもの問題行動への適切な対応ができる。 実習課題を明確にし、具体的な実習内容を計画できる						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 実習1の振り返り(問題行動への対応) 第3回 実習1の振り返り(甘え、トラブル、生活指導) 第4回 各施設における施設実習を深めるために(施設等の理解) 第5回 各施設における施設実習を深めるために(子どもの理解と対応、職員の役割等の理解) 第6回 自立支援計画作成の視点、他の専門職種や関係機関との連携 第7回 親・家族への対応と支援、課題の明確化 第8回 事後指導						
授業外における学習(準備学習の内容)	施設でのボランティア活動を行う						
授業方法	講義とグループ討議、演習						
評価基準と評価方法	実習目的の理解や子どもや親への適切な対応等の理解(小テスト、レポート等) 50% 実習課題の明確化 30% 平常点 20%						
教科書	実習の手引き、その他プリントを配布						
参考書							



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育相談支援						
担当教員	寺見 陽子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	保育の専門性を生かした保育相談支援の在り方の理解						
授業の概要	保育の場における保護者に対する保育指導の在り方について、事例を通して具体的に考える。						
到達目標	保育の専門性を生かした保育指導の技術や技法、支援の方法を学ぶことができる。						
授業計画	第1回 保育相談支援の意義 第2回 園児の保護者と地域の子育て家庭への支援 第3回 保育相談支援の基本 第4回 保育相談支援に生かす理論と技術①—相談援助技術 第5回 保育相談支援に生かす理論と技術②—対人援助技術 第6回 保育相談支援に生かす理論と技術③—社会的資源の活用 第7回 保育における保育相談支援—保育のなかでの保護者対応 第8回 保育における保育相談支援—保育参加や懇談会、行事、連絡帳等の活用 第9回 ケース・カンファレンス①—3歳以上児とその保護者の支援の事例検討 第10回 ケース・カンファレンス②—3歳未満児とその保護者の支援の事例検討 第11回 保育の場における支援の計画とその作成—支援計画の流れ 第12回 保育の場における支援の計画と評価—支援のPDCA 第13回 児童福祉施設における保育相談支援 第14回 ディカッション 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	実習やその他の活動を通して、保護者のことや気がかりな親子について考える機会を持ちようにしてほしい。						
授業方法	演習とグループワーク						
評価基準と評価方法	小レポート（30） 最終レポート（70）						
教科書	大島恭二ほか「育相談支援」建帛社（ISBN978-4-7679-3290-3）						
参考書	必要の応じて随時示します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育相談支援						
担当教員	寺見 陽子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	保育の専門性を生かした保育相談支援の在り方の理解						
授業の概要	保育の場における保護者に対する保育指導の在り方について、事例を通して具体的に考える。						
到達目標	保育の専門性を生かした保育指導の技術や技法、支援の方法を学ぶことができる。						
授業計画	第1回 保育相談支援の意義 第2回 園児の保護者と地域の子育て家庭への支援 第3回 保育相談支援の基本 第4回 保育相談支援に生かす理論と技術①—相談援助技術 第5回 保育相談支援に生かす理論と技術②—対人援助技術 第6回 保育相談支援に生かす理論と技術③—社会的資源の活用 第7回 保育における保育相談支援—保育のなかでの保護者対応 第8回 保育における保育相談支援—保育参加や懇談会、行事、連絡帳等の活用 第9回 ケース・カンファレンス①—3歳以上児とその保護者の支援の事例検討 第10回 ケース・カンファレンス②—3歳未満児とその保護者の支援の事例検討 第11回 保育の場における支援の計画とその作成—支援計画の流れ 第12回 保育の場における支援の計画と評価—支援のPDCA 第13回 児童福祉施設における保育相談支援 第14回 ディカッション 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	実習やその他の活動を通してであった気がかりな親子について考える機会を持ちようにしてください。						
授業方法	講義とグループワーク						
評価基準と評価方法	小レポート（30） 最終レポート（70）						
教科書	大島恭二ほか「保育相談支援」建帛社（ISBN978-4-7679-3290-3）						
参考書	必要の応じて随時示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（健康）						
担当教員	倉 真智子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの健康教育						
授業の概要	幼児期は生涯にわたって必要となる健康な心と体づくりの基礎を培う重要な時期である。今日においては社会的変化により、幼児の健康に様々な問題がおこっている。この授業では、それらの要因を探り、グループ討議を交えながら学習していく。また、保育者となる学生自身が自らの健康を意識し、生活の仕方をふりかえることによって、健康に対する認識をもち、指導・援助が行えるよう実践力を習得する。						
到達目標	(1) 領域の健康について、ねらい・内容を理解している。 (2) 年齢による発達段階を他者にわかりやすく説明できる。 (3) 幼児期の健康問題について、グループ討議後発表する。						
授業計画	1回 子どもの健康と五領域における「健康」のねらいと内容 2回 今日における健康の課題 3回 子どもの発育・発達 4回 子どもを取り巻く環境の現状 5回 子どもと自然 6回 基本的生活習慣に重要性 7回 子どもの事故等の応急処置・安全保育と危機管理（ゲストスピーカー） 8回 基本的生活習慣の自立と支援 9回 子どもの健康と運動遊び 10回 運動の重要性と援助 11回 発達段階による遊びの特徴 12回 運動遊びの重要性ー幼児期運動指針からー 13回 動機づけと保育者の役割 14回 健康教育と期末試験 15回 まとめと試験およびふりかえ学習						
授業外における学習（準備学習の内容）	子どもの発達を捉えておく。また、自分自身の生活をふりかえり、健康な生活習慣についての意識を高めておく。						
授業方法	講義と演習（グループ討議）						
評価基準と評価方法	グループ討議の発表とリアクションペーパーなどの平常点(50%)、期末試験(50%)						
教科書	「保育者を目指すあなたへ 子どもと健康」 みらい ISBN 978-4-86015-316-8C3037						
参考書	「子どもが育つ運動遊び」 みらい ISBN 978-4-86015-379-3C3037						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（健康）						
担当教員	倉 真智子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの健康教育						
授業の概要	幼児期は生涯にわたって必要となる健康な心と体づくりの基礎を培う重要な時期である。今日においては社会的変化により、幼児の健康に様々な問題がおこっている。この授業では、それらの要因を探り、グループ討議を交えながら学習していく。また、保育者となる学生自身が自らの健康を意識し、生活の仕方をふりかえることによって、健康に対する認識をもち、指導・援助が行えるよう実践力を習得する。						
到達目標	(1) 領域の健康について、ねらい・内容を理解している。 (2) 年齢による発達段階を他者にわかりやすく説明できる。 (3) 幼児期の健康問題について、グループ討議後発表する。						
授業計画	1回 子どもの健康と五領域における「健康」のねらいと内容 2回 今日における健康の課題 3回 子どもの発育・発達 4回 子どもを取り巻く環境の現状 5回 子どもと自然 6回 基本的生活習慣に重要性 7回 子どもの事故等の応急処置・安全保育と危機管理（ゲストスピーカー） 8回 基本的生活習慣の自立と支援 9回 子どもの健康と運動遊び 10回 運動の重要性と援助 11回 発達段階による遊びの特徴 12回 運動遊びの重要性ー幼児期運動指針からー 13回 動機づけと保育者の役割 14回 健康教育と期末試験 15回 まとめと試験およびふりかえ学習						
授業外における学習（準備学習の内容）	子どもの発達を捉えておく。また、自分自身の生活をふりかえり、健康な生活習慣についての意識を高めておく。						
授業方法	講義と演習（グループ討議）						
評価基準と評価方法	グループ討議の発表とリアクションペーパーなどの平常点(50%)、期末試験(50%)						
教科書	「保育者を目指すあなたへ 子どもと健康」 みらい ISBN 978-4-86015-316-8C3037						
参考書	「子どもが育つ運動遊び」 みらい ISBN 978-4-86015-379-3C3037						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（言葉）						
担当教員	吉田 直哉						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの言語発達の特性の理解とそれに即した援助方法						
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領および保育所保育指針における保育内容「言葉」のねらいと内容を解説する。</li> <li>・子どもの言語発達の過程を解説する。</li> <li>・子どもの言語発達の特性に即した保育者の援助の理論と実践について解説する。特に、子どもの人格形成、自尊心の涵養に資する言葉がけの方法について、実例を紹介しながら説明する。</li> <li>・言葉を用いた代表的な児童文化財(絵本・紙芝居・ことば遊びうた)を紹介し、それを用いた指導計画の立て方を説明する。</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの言語発達の過程について理解する。</li> <li>・子どもに対する適切な言葉による関わりの原理が分かる。</li> <li>・ことばを取り入れた児童文化財を素材にした指導計画を立案できる。</li> <li>・学生自身の言葉体験を振り返りながら、子ども期において望ましい言語環境のあり方について考え、それを他者に説明できる。</li> </ul>						
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション・自分の幼少期の言葉体験の発表</p> <p>第2回 子どもにとっての言葉(1)：言葉の2機能</p> <p>第3回 子どもにとっての言葉(2)：原初的コミュニケーション</p> <p>第4回 領域「言葉」の「ねらい」</p> <p>第5回 領域「言葉」の「内容」</p> <p>第6回 言葉の発達と保育者の適切な関わり：0～1歳</p> <p>第7回 言葉の発達と保育者の適切な関わり：2歳</p> <p>第8回 言葉の発達と保育者の適切な関わり：3歳</p> <p>第9回 言葉の発達と保育者の適切な関わり：4歳</p> <p>第10回 言葉の発達と保育者の適切な関わり：5歳</p> <p>第11回 言葉を用いた児童文化の種別と歴史</p> <p>第12回 言葉を用いた児童文化(1)：0～1歳児</p> <p>第13回 言葉を用いた児童文化(2)：2～3歳児</p> <p>第14回 言葉を用いた児童文化(3)：4～5歳児</p> <p>第15回 まとめと振り返り</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本、紙芝居等の児童文化を用いた模擬保育の準備として、積極的に多くの児童文化財に触れ、口演の練習を積む。</li> <li>・身の回りの子どもの言葉の使用状況について、日頃から観察し、記録する。</li> </ul>						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小レポート 40%</li> <li>・児童文化を用いた指導案の作成とその実演 10%</li> <li>・小テスト 50%</li> </ul>						
教科書	神田英雄『育ちのきほん：0歳から6歳』ひとなる書房、2008年、ISBN：978-4-89464-125-9						

参考書	今井和子『子どもとことばの世界：実践から捉えた乳幼児のことばと自我の育ち』ミネルヴァ書房、1996年、ISBN : 978-4-623-02666-1
-----	---

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（言葉）						
担当教員	吉田 直哉						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの言語発達の特性の理解とそれに即した援助方法						
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領および保育所保育指針における保育内容「言葉」のねらいと内容を解説する。</li> <li>・子どもの言語発達の過程を解説する。</li> <li>・子どもの言語発達の特性に即した保育者の援助の理論と実践について解説する。特に、子どもの人格形成、自尊心の涵養に資する言葉がけの方法について、実例を紹介しながら説明する。</li> <li>・言葉を用いた代表的な児童文化財(絵本・紙芝居・ことば遊びうた)を紹介し、それを用いた指導計画の立て方を説明する。</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの言語発達の過程について理解する。</li> <li>・子どもに対する適切な言葉による関わりの原理が分かる。</li> <li>・ことばを取り入れた児童文化財を素材にした指導計画を立案できる。</li> <li>・学生自身の言葉体験を振り返りながら、子ども期において望ましい言語環境のあり方について考え、それを他者に説明できる。</li> </ul>						
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション・自分の幼少期の言葉体験の発表</p> <p>第2回 子どもにとっての言葉(1)：言葉の2機能</p> <p>第3回 子どもにとっての言葉(2)：原初的コミュニケーション</p> <p>第4回 領域「言葉」の「ねらい」</p> <p>第5回 領域「言葉」の「内容」</p> <p>第6回 言葉の発達と保育者の適切な関わり：0～1歳</p> <p>第7回 言葉の発達と保育者の適切な関わり：2歳</p> <p>第8回 言葉の発達と保育者の適切な関わり：3歳</p> <p>第9回 言葉の発達と保育者の適切な関わり：4歳</p> <p>第10回 言葉の発達と保育者の適切な関わり：5歳</p> <p>第11回 言葉を用いた児童文化の種別と歴史</p> <p>第12回 言葉を用いた児童文化(1)：0～1歳児</p> <p>第13回 言葉を用いた児童文化(2)：2～3歳児</p> <p>第14回 言葉を用いた児童文化(3)：4～5歳児</p> <p>第15回 まとめと振り返り</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本、紙芝居等の児童文化を用いた模擬保育の準備として、積極的に多くの児童文化財に触れ、口演の練習を積む。</li> <li>・身の回りの子どもの言葉の使用状況について、日頃から観察し、記録する。</li> </ul>						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小レポート 40%</li> <li>・児童文化を用いた指導案の作成とその実演 10%</li> <li>・小テスト 50%</li> </ul>						
教科書	神田英雄『育ちのきほん：0歳から6歳』ひとなる書房、2008年、ISBN：978-4-89464-125-9						

参考書	今井和子『子どもとことばの世界：実践から捉えた乳幼児のことばと自我の育ち』ミネルヴァ書房、1996年、ISBN : 978-4-623-02666-1
-----	---



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容環境／保育内容（環境）						
担当教員	上中 修						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「環境を通して行う教育」の意義と援助法の理解						
授業の概要	幼児は自然、人、社会、物、文化などの身近な環境に直接かかわる体験を通して、人としての基盤や学習の基盤を培います。この授業ではこのような「環境にかかわる保育」の意義について学びます。さらにより共感者、援助者となるために必要な知識や技術を身につけるため、自然あそびや動物飼育、栽培や製作活動、伝統や生活文化などについて学び、実際に演習を行って実践的な力を養成していきます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが育つために必要な環境の重要性について具体的に説明できる。</li> <li>・子どもと環境とのかかわりを援助する保育実践のあり方について例を挙げて説明できる。</li> <li>・多様な場面や活動を具体的に取り上げ、「環境」について説明できる。</li> <li>・様々な事例を考察でき、活動を促す環境構成の工夫や指導者としての役割等について列挙できる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 保育内容環境の意義 第2回 保育内容環境と幼児理解 第3回 好奇心・探求心を育てる指導 第4回 思考力の芽生えを育む指導 第5回 人的環境としての友達、保育者 第6回 物的環境としての園具・遊具・素材 第7回 前半授業のまとめと試験 第8回 自然環境としての動植物 第9回 日常生活の中での興味や関心 第10回 地域・行事との関わり 第11回 環境からみた道徳性の芽生えを培う指導 第12回 乳幼児の安全環境 第13回 保育内容環境からみた実践的課題 第14回 食農教育・食育 第15回 後半授業のまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業の中で示す課題を次の授業までに調べて授業に臨んで下さい。 授業後学習：教科書だけでなく、配布したプリントもしっかりと読んで学びを定着させて下さい。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	試験70%、レポート30% 履修カルテの評価は、「意欲」「知識」「適性」の3観点で行う。						
教科書	保育実践に活かす保育内容環境 保育出版社						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容環境／保育内容（環境）						
担当教員	上中 修						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「環境を通して行う教育」の意義と援助法の理解						
授業の概要	幼児は自然、人、社会、物、文化などの身近な環境に直接かかわる体験を通して、人としての基盤や学習の基盤を培います。この授業ではこのような「環境にかかわる保育」の意義について学びます。さらにより共感者、援助者となるために必要な知識や技術を身につけるため、自然あそびや動物飼育、栽培や製作活動、伝統や生活文化などについて学び、実際に演習を行って実践的な力を養成していきます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが育つために必要な環境の重要性について具体的に説明できる。</li> <li>・子どもと環境とのかかわりを援助する保育実践のあり方について例を挙げて説明できる。</li> <li>・多様な場面や活動を具体的に取り上げ、「環境」について説明できる。</li> <li>・様々な事例を考察でき、活動を促す環境構成の工夫や指導者としての役割等について列挙できる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 保育内容環境の意義 第2回 保育内容環境と幼児理解 第3回 好奇心・探求心を育てる指導 第4回 思考力の芽生えを育む指導 第5回 人的環境としての友達、保育者 第6回 物的環境としての園具・遊具・素材 第7回 前半授業のまとめと試験 第8回 自然環境としての動植物 第9回 日常生活の中での興味や関心 第10回 地域・行事との関わり 第11回 環境からみた道徳性の芽生えを培う指導 第12回 乳幼児の安全環境 第13回 保育内容環境からみた実践的課題 第14回 食農教育・食育 第15回 後半授業のまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業の中で示す課題を次の授業までに調べて授業に臨んで下さい。 授業後学習：教科書だけでなく、配布したプリントもしっかりと読んで学びを定着させて下さい。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	試験70%、レポート30% 履修カルテの評価は、「意欲」「知識」「適性」の3観点で行う。						
教科書	保育実践に活かす保育内容環境 保育出版社						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容総論						
担当教員	吉田 直哉						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	幼稚園教育、保育所保育における「保育の内容」を支える理論と、その実践化						
授業の概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針における「保育の内容」の構造の全体像を概説したうえで、保育内容を実践化する中で、保育の「ねらい」を達成するための方略(保育形態)について学ぶ。						
到達目標	①養護と教育の総合性を基本とする保育内容の基本構造、およびそれを支える主要な理論を理解することができる。 ②近代以降、現在に至るまでの保育内容の歴史的変遷を説明できる。 ③乳幼児期の発達特性を踏まえた子ども理解、保育記録の方法を習得し、実践の場で活用できる。 ④保育の多様な展開の現状について、深い認識ができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーションと導入的なトピックの紹介 第2回 保育所保育指針における保育内容の構造 第3回 幼稚園教育要領における保育内容の構造 第4回 養護と教育の一体性、保育内容の総合性 第5回 「環境を通じた保育」を支える理念・理論 第6回 家庭、地域、学校教育との連続性の保障 第7回 乳幼児期の発達特性に沿う保育内容の展開(1)：乳児期と幼児期 第8回 乳幼児期の発達特性に沿う保育内容の展開(2)：個別保育と集団保育 第9回 子ども理解(観察法)と保育記録(1)：ラーニングストーリー 第10回 子ども理解(観察法)と保育記録(2)：エピソード記録 第11回 保育内容の歴史的変遷(1)：戦前 第12回 保育内容の歴史的変遷(2)：戦後 第13回 多様なニーズに適合した保育の展開(1)：乳児保育、長時間保育 第14回 多様なニーズに適合した保育の展開(2)：特別ニーズ保育、多文化保育 第15回 全体の総括						
授業外における学習(準備学習の内容)	・保育原理、保育者論で習得した内容を適宜復習する(範囲はその都度指示する)						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	・小レポート(松蔭manabaを活用する) 40点 ・小テスト 60点						
教科書	・浅見均・田中正浩編著『子どもの育ちを支える保育内容総論』大学図書出版、2013年、ISBN：978-4-907166-02-1						
参考書	・適宜指示する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容総論						
担当教員	吉田 直哉						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	幼稚園教育、保育所保育における「保育の内容」を支える理論と、その実践化						
授業の概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針における「保育の内容」の構造の全体像を概説したうえで、保育内容を実践化する中で、保育の「ねらい」を達成するための方略(保育形態)について学ぶ。						
到達目標	①養護と教育の総合性を基本とする保育内容の基本構造、およびそれを支える主要な理論を理解することができる。 ②近代以降、現在に至るまでの保育内容の歴史的変遷を説明できる。 ③乳幼児期の発達特性を踏まえた子ども理解、保育記録の方法を習得し、実践の場で活用できる。 ④保育の多様な展開の現状について、深い認識ができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーションと導入的なトピックの紹介 第2回 保育所保育指針における保育内容の構造 第3回 幼稚園教育要領における保育内容の構造 第4回 養護と教育の一体性、保育内容の総合性 第5回 「環境を通じた保育」を支える理念・理論 第6回 家庭、地域、学校教育との連続性の保障 第7回 乳幼児期の発達特性に沿う保育内容の展開(1)：乳児期と幼児期 第8回 乳幼児期の発達特性に沿う保育内容の展開(2)：個別保育と集団保育 第9回 子ども理解(観察法)と保育記録(1)：ラーニングストーリー 第10回 子ども理解(観察法)と保育記録(2)：エピソード記録 第11回 保育内容の歴史的変遷(1)：戦前 第12回 保育内容の歴史的変遷(2)：戦後 第13回 多様なニーズに適合した保育の展開(1)：乳児保育、長時間保育 第14回 多様なニーズに適合した保育の展開(2)：特別ニーズ保育、多文化保育 第15回 全体の総括						
授業外における学習(準備学習の内容)	・保育原理、保育者論で習得した内容を適宜復習する(範囲はその都度指示する)						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	・小レポート(松蔭manabaを活用する) 40点 ・小テスト 60点						
教科書	・浅見均・田中正浩編著『子どもの育ちを支える保育内容総論』大学図書出版、2013年、ISBN：978-4-907166-02-1						
参考書	・適宜指示する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容人間関係／保育内容（人間関係）						
担当教員	寺見 陽子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	幼稚園・保育所における領域「人間関係」の意義とその内容について理解する。また、人とのかかわりによって育つ自我の発達過程と、その育ちを支える子どもの内的能力の発達、保育環境や保育者の役割について理解する。						
授業の概要	保育実践事例を通して、年齢に応じたかかわりの変化を具体的に明らかにしながら、保育における子どもとのかかわりの基本と子どもの育ちを促す人間関係、保育の内容、保育者の援助のあり方について解説する。						
到達目標	①子どもの心の育ちとその育ちを支える人の関わりのあるあり方について理解することができる。 ②領域人間関係の意義と保育内容について理解することができる。 ③人のかかわりを育てる保育のあり方と実践方法について理解することができる。 ④保育者としての感性やかかわりのセンス、実践に生かせる力を身に付けることができる。						
授業計画	第1回 保育内容「人間関係」の意義と内容 第2回 乳児期の人間関係と心の育ち 第3回 幼児期の人間関係と心の育ち 第4回 乳児の人間関係と保育 第5回 1、2歳児の人間関係と保育 第6回 3歳児の人間関係と保育 第7回 4歳児の人間関係と保育 第8回 5、6歳児の人間関係と保育 第9回 生活・遊びと人間関係—個の育ちと集団 第10回 多様な人間関係と保育—地域交流 第11回 育ちの気がかりな子どもと人間関係 第12回 豊かな人間関係を育てる保育とその環境 第13回 人とのかかわりを育てる保育者の役割 第14回 人とのかかわりを育てる実践と計画 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	フィールドでの子どもとのかかわり						
授業方法	講義と演習：エピソードによる事例やDVD等によって具体的な子どもの姿に触れながら、子どもの内面理解と援助、保育の方法やあり方、解釈に関連する理論を解説する。						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 小レポート20点 テスト80点 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行う。						
教科書	寺見陽子編「子どもの心の育ちと人間関係」保育出版（ISBN978-4-938795-77-1） プリント配布						
参考書	必要に応じて紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容人間関係／保育内容（人間関係）						
担当教員	寺見 陽子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	幼稚園・保育所における領域「人間関係」の意義とその内容について理解する。また、人とのかかわりによって育つ自我の発達過程と、その育ちを支える子どもの内的能力の発達、保育環境や保育者の役割について理解する。						
授業の概要	保育実践事例を通して、年齢に応じたかかわりの変化を具体的に明らかにしながら、保育における子どもとのかかわりの基本と子どもの育ちを促す人間関係、保育の内容、保育者の援助のあり方について解説する。						
到達目標	①子どもの心の育ちとその育ちを支える人の関わり方について理解することができる。 ②領域人間関係の意義と保育内容について理解することができる。 ③人のかかわりを育てる保育のあり方と実践方法について理解することができる。 ④保育者としての感性やかかわりのセンス、実践に生かせる力を身に付けることができる。						
授業計画	第1回 保育内容「人間関係」の意義と内容 第2回 乳児期の人間関係と心の育ち 第3回 幼児期の人間関係と心の育ち 第4回 乳児の人間関係と保育 第5回 1、2歳児の人間関係と保育 第6回 3歳児の人間関係と保育 第7回 4歳児の人間関係と保育 第8回 5、6歳児の人間関係と保育 第9回 生活・遊びと人間関係—個の育ちと集団 第10回 多様な人間関係と保育—地域交流 第11回 育ちの気がかりな子どもと人間関係 第12回 豊かな人間関係を育てる保育とその環境 第13回 人とのかかわりを育てる保育者の役割 第14回 人とのかかわりを育てる実践と計画 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	フィールドでの子どもとのかかわり						
授業方法	講義と演習：エピソードによる事例やDVD等によって、具体的な子どもの姿に触れながら、子どもの内面理解と援助、保育の方法やあり方、解釈に関連する理論を解説する。						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 小レポート20点 テスト80点 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3つの観点から評価する。						
教科書	寺見陽子編「子どもの心の育ちと人間関係」保育出版（ISBN978-4-938795-77-1） プリント配布						
参考書	必要に応じて紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容表現I（音楽表現）／保育内容（表現I）						
担当教員	奥村 正子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育者に求められる音楽的な専門性の探求。						
授業の概要	幼稚園教育要領の目標を達成するための具体的な内容を理解し、領域「表現」のねらいと内容を学ぶ。乳幼児の発達に即した総合的な援助・指導が行えるよう、保育計画について学習する。楽器遊びや、弾き歌いによる指導など、具体的・実践的な音楽技能を習得する。音楽表現に関わる援助方法を企画し、シミュレーションを行う中で、自らの技能、表現力の拡充を図る。						
到達目標	領域「表現」が示すねらいと内容について説明ができる。乳幼児の「音楽的な表現」の特性とその発達について、具体的な例をあげて説明することができる。音楽表現に関わる援助方法を企画し、シミュレーションを行う。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明・領域「表現」のねらいと内容 第2回 領域「表現」の歴史の変遷 弾き歌い実習1 第3回 乳幼児期の「うたう」表現活動と発達1 音楽表現活動の実際の姿（VTR視聴を含む） 第4回 幼児期の「うたう」表現活動と発達2 弾き歌い実習2 第5回 幼児期の「ひく」表現活動と発達 音楽表現活動の実際の援助の姿（VTR視聴を含む） 第6回 子どもの楽器を使った合奏実習 第7回 乳幼児期の「きく」「つくる」表現活動と発達 弾き歌い実習3 第8回 乳幼児期の「うごく」表現活動と発達 第9回 領域「表現」における指導計画・シミュレーション指導案の作成に向けて 第10回 担当学生第1組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第11回 担当学生第2組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第12回 担当学生第3組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第13回 担当学生第4組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第14回 担当学生第5組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	指定したテキストの箇所は、次回までに読んでおくこと。 弾き歌いの課題曲について、各自、平素からよく練習しておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点60点（小テスト、保育シミュレーション、レポートの総合） 期末試験 40点 出席回数が授業全体の2/3未満である場合には欠席とし、評価の対象としない。						
教科書	『乳幼児の音楽表現』日本赤ちゃん学会 監修、小西行郎 他 編著、中央法規出版 ISBN978-4-8058-5448-8						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容表現I（音楽表現）／保育内容（表現I）						
担当教員	奥村 正子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育者に求められる音楽的な専門性の探求。						
授業の概要	幼稚園教育要領の目標を達成するための具体的な内容を理解し、領域「表現」のねらいと内容を学ぶ。乳幼児の発達に即した総合的な援助・指導が行えるよう、保育計画について学習する。楽器遊びや、弾き歌いによる指導など、具体的・実践的な音楽技能を習得する。音楽表現に関わる援助方法を企画し、シミュレーションを行う中で、自らの技能、表現力の拡充を図る。						
到達目標	領域「表現」が示すねらいと内容について説明ができる。乳幼児の「音楽的な表現」の特性とその発達について、具体的な例をあげて説明することができる。音楽表現に関わる援助方法を企画し、シミュレーションを行う。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明・領域「表現」のねらいと内容 第2回 領域「表現」の歴史の変遷 弾き歌い実習1 第3回 乳幼児期の「うたう」表現活動と発達1 音楽表現活動の実際の姿（VTR視聴を含む） 第4回 幼児期の「うたう」表現活動と発達2 弾き歌い実習2 第5回 幼児期の「ひく」表現活動と発達 音楽表現活動の実際の援助の姿（VTR視聴を含む） 第6回 子どもの楽器を使った合奏実習 第7回 乳幼児期の「きく」「つくる」表現活動と発達 弾き歌い実習3 第8回 乳幼児期の「うごく」表現活動と発達 第9回 領域「表現」における指導計画・シミュレーション指導案の作成に向けて 第10回 担当学生第1組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第11回 担当学生第2組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第12回 担当学生第3組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第13回 担当学生第4組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第14回 担当学生第5組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	指定したテキストの箇所は、次回までに読んでおくこと。 弾き歌いの課題曲について、各自、平素からよく練習しておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点60点（小テスト、保育シミュレーション、レポートの総合） 期末試験 40点 出席回数が授業全体の2/3未満である場合には欠席とし、評価の対象としない。						
教科書	『乳幼児の音楽表現』日本赤ちゃん学会 監修、小西行郎 他 編著、中央法規出版 ISBN978-4-8058-5448-8						
参考書	授業中に紹介する。						



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容表現II（造形表現）／保育内容（表現II）						
担当教員	奥 美佐子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児の造形表現の研究						
授業の概要	乳幼児の造形表現を指導・援助するために必要な理論と実践の方法を学ぶ。造形表現の理念、乳幼児の発達との関係、指導に必要な造形表現の素材・用具・表現技法を身につけ、実践的な造形指導に活用できるように導く。実技や教育・保育現場の資料を通して造形保育を構想し、幼児が主体的に活動できる環境構成や一人ひとりにあった指導・援助について学ぶ。						
到達目標	(1) 乳幼児の造形表現の特徴を解説することができる。 (2) 身近な環境にある自然や事象から、造形表現の題材を見つけ、造形活動の構想へつなぐことができる。 (3) 造形素材、用具、表現技法を選択して、指導案を作成することができる。						
授業計画	第1回 幼児の造形表現の実際と特質・幼稚園教育要領、保育所保育指針「領域表現」の理解 第2回 造形表現が生まれる道筋・乳幼児の造形活動の実際 第3回 乳幼児の造形表現の発達 第4回 幼児と描画表現 (1) 多様な描画材と出会う 第5回 幼児と描画表現 (2) 五感と描画 第6回 幼児と描画表現 (3) 表現を読む：子どもの絵の見方 第7回 「もの」とかかわる (1) ものと出会う（感触教材） 第8回 「もの」とかかわる (2) 行為や操作の遊び（紙・粘土） 第9回 「もの」とかかわる (3) 多様な素材でつくる 第10回 造形活動の指導の原理：保育の構想・環境構成・評価 第11回 造形保育の構想 (1) 指導計画と指導案 第12回 造形保育の構想 (2) 指導案作成と保育の試行 第13回 素材研究 (1) 一つの素材からの展開 第14回 素材研究 (2) 飾る 第15回 子どもの造形を読む：造形表現の読み取りと子ども理解						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な材料・用具の準備をすること。 授業後学習：各授業のテーマ毎にノートの整理をすること。特に実技的内容の授業回は、経験した実技と指導の関連について整理しておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	受講態度・プレゼンテーション等20%、作品・活動に関わるレポート等の提出物40%、指導案・課題レポート40%で評価する。						
教科書	花篤實、岡田愨吾編著『新造形表現』三晃書房 ISBN978-4-7830-8000-B						
参考書	・奥美佐子著『0、1、2歳児の造形あそび』ひかりのくに ISBN978-4-564-60892-6 その他、必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容表現II（造形表現）／保育内容（表現II）						
担当教員	奥 美佐子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児の造形表現の研究						
授業の概要	乳幼児の造形表現を指導・援助するために必要な理論と実践の方法を学ぶ。造形表現の理念、乳幼児の発達との関係、指導に必要な造形表現の素材・用具・表現技法を身につけ、実践的な造形指導に活用できるように導く。実技や教育・保育現場の資料を通して造形保育を構想し、幼児が主体的に活動できる環境構成や一人ひとりにあった指導・援助について学ぶ。						
到達目標	(1) 乳幼児の造形表現の特徴を解説することができる。 (2) 身近な環境にある自然や事象から、造形表現の題材を見つけ、造形活動の構想へつなぐことができる。 (3) 造形素材、用具、表現技法を選択して、指導案を作成することができる。						
授業計画	第1回 幼児の造形表現の実際と特質・幼稚園教育要領、保育所保育指針「領域表現」の理解 第2回 造形表現が生まれる道筋・乳幼児の造形活動の実際 第3回 乳幼児の造形表現の発達 第4回 幼児と描画表現 (1) 多様な描画材と出会う 第5回 幼児と描画表現 (2) 五感と描画 第6回 幼児と描画表現 (3) 表現を読む：子どもの絵の見方 第7回 「もの」とかかわる (1) ものと出会う（感触教材） 第8回 「もの」とかかわる (2) 行為や操作の遊び（紙・粘土） 第9回 「もの」とかかわる (3) 多様な素材でつくる 第10回 造形活動の指導の原理：保育の構想・環境構成・評価 第11回 造形保育の構想 (1) 指導計画と指導案 第12回 造形保育の構想 (2) 指導案作成と保育の試行 第13回 素材研究 (1) 一つの素材からの展開 第14回 素材研究 (2) 飾る 第15回 子どもの造形を読む：造形表現の読み取りと子ども理解						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な材料・用具の準備をすること。 授業後学習：各授業のテーマ毎にノートの整理をすること。特に実技的内容の授業回は、経験した実技と指導の関連について整理しておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	受講態度・プレゼンテーション等20%、作品・活動に関わるレポート等の提出物40%、指導案・課題レポート40%で評価する。						
教科書	花篤實、岡田愨吾編著『新造形表現』三晃書房 ISBN978-4-7830-8000-B						
参考書	・奥美佐子著『0、1、2歳児の造形あそび』ひかりのくに ISBN978-4-564-60892-6 その他、必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容表現III（身体表現）／保育内容（表現III）						
担当教員	倉 真智子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの表現力を読み取り、自らの表現能力を身につける。						
授業の概要	幼児の表現活動は、最も基本的な心の表れである。感じたことや考えたことを素直に身体で表現しようとする。これらを理解するには、学生自身が表現する楽しさや豊かな感性をもつことが重要である。幼児の表現の萌芽を見落とさないためにも、総合的な視点から幼児の表現力を高めるための援助の仕方や指導法、技能の習得をする。また、幼児の動きを見据えての伴奏法についても学ぶ。						
到達目標	(1) 自らの身体表現活動を積極的に行うことができる。 (2) 発達や特性に応じたリズムあそびや指遊び等の模擬保育ができる。 (3) 簡易なピアノ伴奏ができる。						
授業計画	第1回 保育内容（表現Ⅲ）の授業のねらいと計画 第2回 領域「表現」（保育所保育指針・幼稚園教育要領）の理解 第3回 わらべ歌と身体遊び 第4回 表現活動（身近な生き物や事象） 第5回 表現活動（身近な事象） 第6回 イメージの世界で遊ぶ、ノンバーバルコミュニケーション 第7回 律動運動 第8回 子どもの歌から律動運動への応用 第9回 リズム遊び 第10回 年齢に応じた手遊びの指導法 第11回 手遊び等の模擬保育 -0～3歳児対象- 第12回 手遊び等の模擬保育 -4～5歳児対象- 第13回 幼児のリズム体操の創作 第14回 幼児のリズムダンスの創作 第15回 リズム体操およびリズムダンスの発表とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	さまざまな場面における幼児の表現活動を、身近な場面において気づき、その意味を読み取れるよう意識しておくこと。また、子どもの発達を理解しておくとともに、歌などに親しんでおくことで授業がより有効になる。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	リアクションペーパー等による平常点(40%)、模擬保育発表(30%)、課題（手遊び本の作成）(20%)、リズムダンス・体操の創作（10%）						
教科書	資料等を配布						
参考書	「保育園・幼稚園のうたあそび」 吉津晶子 成美堂出版 「2、3歳児のふれあい歌遊び」 塩野マリ ひかりのくに 「これなら弾けるピアノ伴奏160」 本田玖美子 ナツメ社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容表現III（身体表現）／保育内容（表現III）						
担当教員	倉 真智子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの表現力を読み取り、自らの表現能力を身につける。						
授業の概要	幼児の表現活動は、最も基本的な心の表れである。感じたことや考えたことを素直に身体で表現しようとする。これらを理解するには、学生自身が表現する楽しさや豊かな感性をもつことが重要である。幼児の表現の萌芽を見落とさないためにも、総合的な視点から幼児の表現力を高めるための援助の仕方や指導法、技能の習得をする。また、幼児の動きを見据えての伴奏法についても学ぶ。						
到達目標	(1) 自らの身体表現活動を積極的に行うことができる。 (2) 発達や特性に応じたリズムあそびや指遊び等の模擬保育ができる。 (3) 簡易なピアノ伴奏ができる。						
授業計画	第1回 保育内容（表現Ⅲ）の授業のねらいと計画 第2回 領域「表現」（保育所保育指針・幼稚園教育要領）の理解 第3回 わらべ歌と身体遊び 第4回 表現活動（身近な生き物や事象） 第5回 表現活動（身近な事象） 第6回 イメージの世界で遊ぶ、ノンバーバルコミュニケーション 第7回 律動運動 第8回 子どもの歌から律動運動への応用 第9回 リズム遊び 第10回 年齢に応じた手遊びの指導法 第11回 手遊び等の模擬保育 -0～3歳児対象- 第12回 手遊び等の模擬保育 -4～5歳児対象- 第13回 幼児のリズム体操の創作 第14回 幼児のリズムダンスの創作 第15回 リズム体操およびリズムダンスの発表とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	さまざまな場面における幼児の表現活動を、身近な場面において気づき、その意味を読み取れるよう意識しておくこと。また、子どもの発達を理解しておくとともに、歌などに親しんでおくことと授業がより有効になる。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	リアクションペーパー等による平常点(40%)、模擬保育発表(30%)、課題（手遊び本の作成）(20%)、リズムダンス・体操の創作（10%）						
教科書	資料等を配布						
参考書	「保育園・幼稚園のうたあそび」 吉津晶子 成美堂出版 「2、3歳児のふれあい歌遊び」 塩野マリ ひかりのくに 「これなら弾けるピアノ伴奏160」 本田玖美子 ナツメ社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育の心理学／子ども心理Ⅰ（発達心理）						
担当教員	寺見 陽子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	発達理論と乳幼児の発達の理解						
授業の概要	人間性の育ちの観点から、乳幼児期の子どもの発達について、ワロン、エリクソン、ピアジェの理論を基に学ぶ。人の心はなぜ、どのように芽生え、心の内面を形成していくのか、その過程を理解するとともに、保育や育児の現場における乳幼児の理解のあり方、発達援助のあり方、環境のあり方などについて考える。						
到達目標	①発達の基本と乳幼児の発達過程を理解することができる。 ②乳幼児期の子ども心の育ちについて理解することができる。 ③乳幼児を理解し、援助するための発達の視点を学ぶとともに、大人の役割を理解することができる。						
授業計画	第1回 発達と環境 第2回 ヒトの誕生と生物的基盤の発達 第3回 人間性の発達とその基盤 第4回 新生児期・乳児期の発達—初期コミュニケーションと心の芽生え 第5回 身体と自我と社会—愛着形成と基本的信頼感の形成 第6回 幼児前期の発達—自我の芽生えと自立 第7回 象徴と言葉と思考の芽生え 第8回 幼児中期の発達—内面世界と自分らしさの形成 第9回 遊びと社会性の発達 第10回 幼児後期の発達①—自分を見つめる自分の誕生 第11回 幼児後期の発達②—みんなの中の自分の形成 第12回 心の理論と道徳性の芽生え 第13回 子どもの発達と障害 第14回 親性の発達 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	発達理論を実際の子どもの発達の姿に結び付けて理解できるようにするために、実際の子どもとかかわり、ふれあう経験を日常生活の中で持つよう心がけてほしい。また、また、幼稚園・保育所等での子ども姿に触れる経験を大切にしてほしい。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 小レポート20点 テスト80点						
教科書	寺見陽子編 「子どもの保育と心理学」保育出版（ISBN4-938795-43-4 C3337）						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育の心理学／子ども心理Ⅰ（発達心理）						
担当教員	寺見 陽子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	発達理論と乳幼児の発達の理解						
授業の概要	人間性の育ちの観点から、乳幼児期の子どもの発達について、ワロン、エリクソン、ピアジェの理論を基に学ぶ。人の心はなぜ、どのように芽生え、心の内面を形成していくのか、その過程を理するとともに、保育や育児の現場における乳幼児の理解のあり方、発達援助のあり方、環境のありなどについて考える。						
到達目標	①発達の基本と乳幼児の発達過程を理解することができる。 ②乳幼児期の子どもの心の育ちについて理解することができる。 ③乳幼児を理解し、援助するための発達の視点を学ぶとともに、大人の役割を理解することができる。						
授業計画	第1回 発達と環境 第2回 ヒトの誕生と生物的基盤の発達 第3回 人間性の発達とその基盤 第4回 新生児期・乳児期の発達—初期コミュニケーションと心の芽生え 第5回 身体と自我と社会—愛着形成と基本的信頼感の形成 第6回 幼児前期の発達—自我の芽生えと自立 第7回 象徴と言葉と思考の芽生え 第8回 幼児中期の発達—内面世界と自分らしさの形成 第9回 遊びと社会性の発達 第10回 幼児後期の発達①—自分を見つめる自分の誕生 第11回 幼児後期の発達②—みんなの中の自分の形成 第12回 心の理論と道徳性の芽生え 第13回 子どもの発達と障害 第14回 親性の発達 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	発達理論を実際の子どもの発達の姿に結び付けて理解できるようにするために、実際の子どもとかかわり、ふれあう経験を日常生活の中で持つよう心がけてほしい。また、幼稚園・保育所等での子どもとの姿に触れる経験を大切にしてほしい。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 小レポート20点 テスト80点						
教科書	寺見陽子編「子どもの保育と心理学」保育出版（ISBN4-938795-43-4 C3337）						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	幼児体育						
担当教員	岸本 みさ子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	幼稚園・保育所・認定こども園における子どもの発達の理解すること。 幼児教育現場における、運動遊びの指導のあり方について学ぶ。						
授業の概要	乳幼児期の発育発達の段階を理解し、年齢に合った運動指導を考え、実践できる力を養う。また、乳幼児が置かれている状況（環境）を理解し、現代の子ども達にどのような運動が必要であるかを考え、指導する力を身につける。それだけではなく、子ども達が動きたくするような環境構成を考える力を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の発育発達を理解する。</li> <li>・乳幼児期の運動遊びの重要性を理解する。</li> <li>・年齢に合った運動指導ができるようになる。</li> <li>・年齢に合った指導計画作成ができるようになる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 子どもの発達について 第3回 指導計画について 第4回 道具を使用しない遊び1 第5回 道具を使用しない遊び2 第6回 道具を使用しない遊び3 第7回 ボールを使用した遊び 第8回 マットを使用した遊び 第9回 跳び箱を使用した遊び 第10回 縄を使用した遊び 第11回 フープを使用した遊び 第12回 身近な素材を使用した遊び 第13回 廃材を利用した遊び 第14回 模擬保育の振り返り 第15回 授業レポート及びまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の体力について知ること。</li> <li>・子どもの体力や生活習慣に関する情報を得る努力をすること。</li> <li>・子ども達と触れ合う機会があるとなおよい。</li> <li>・教科書を一通り目を通しておくこと。</li> <li>・授業ノートの作成</li> </ul>						
授業方法	演習形式。 グループで指導計画を立て、模擬保育を実施する。 その後、グループごとに振り返りを行う。						
評価基準と評価方法	指導計画・模擬保育指導 40% 授業ノート作成 40% 平常点 20%						
教科書	「子どもが育つ運動遊び」みらい 2016 ISBN978-4-86015-379-3						
参考書	「遊びの指導」幼少年教育研究所 同文書院						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	幼児体育						
担当教員	岸本 みさ子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	幼稚園・保育所・認定こども園における子どもの発達の理解すること。 幼児教育現場における、運動遊びの指導のあり方について学ぶ。						
授業の概要	乳幼児期の発育発達の段階を理解し、年齢に合った運動指導を考え、実践できる力を養う。また、乳幼児が置かれている状況（環境）を理解し、現代の子ども達にどのような運動が必要であるかを考え、指導する力を身につける。それだけではなく、子ども達が動きたくするような環境構成を考える力を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の発育発達を理解する。</li> <li>・乳幼児期の運動遊びの重要性を理解する。</li> <li>・年齢に合った運動指導ができるようになる。</li> <li>・年齢に合った指導計画作成ができるようになる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 子どもの発達について 第3回 指導計画について 第4回 道具を使用しない遊び1 第5回 道具を使用しない遊び2 第6回 道具を使用しない遊び3 第7回 ボールを使用した遊び 第8回 マットを使用した遊び 第9回 跳び箱を使用した遊び 第10回 縄を使用した遊び 第11回 フープを使用した遊び 第12回 身近な素材を使用した遊び 第13回 廃材を利用した遊び 第14回 模擬保育の振り返り 第15回 授業レポート及びまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の体力について知ること。</li> <li>・子どもの体力や生活習慣に関する情報を得る努力をすること。</li> <li>・子ども達と触れ合う機会があるとなおよい。</li> <li>・教科書を一通り目を通しておくこと。</li> <li>・授業ノートの作成</li> </ul>						
授業方法	演習形式。 グループで指導計画を立て、模擬保育を実施する。 その後、グループごとに振り返りを行う。						
評価基準と評価方法	指導計画・模擬保育指導 40% 授業ノート作成 40% 平常点 20%						
教科書	「子どもが育つ運動遊び」みらい 2016 ISBN978-4-86015-379-3						
参考書	「遊びの指導」幼少年教育研究所 同文書院						



科目区分	子ども発達学科専門教育科目																																																																		
科目名	幼児理解																																																																		
担当教員	井上 知子																																																																		
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	4	単位数	2.0																																																												
授業のテーマ	保育者に求められる幼児理解																																																																		
授業の概要	第一に、幼児を理解するために必要な考え方や視点について学ぶ。 第二に、具体的な事例を通して、保育者として幼児の行動や育ちをどのように読み取るのかを考える。 第三に、理解したことを基に、幼児にどうかかわるのかを考え、保育者の役割を理解する。																																																																		
到達目標	一人一人の幼児の内面を理解するための手掛かりを見付け、個々に即した対応の仕方を学ぶ。																																																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>4/14</td> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>: 授業概要の説明</td> </tr> <tr> <td>4/21</td> <td>第2回</td> <td>幼児を理解するために</td> <td>: 保育の始まりとしての幼児理解、絵本から学ぶ子どもの姿</td> </tr> <tr> <td>4/28</td> <td>第3回</td> <td>幼児理解の基盤になるもの</td> <td>: 幼児期にふさわしい生活</td> </tr> <tr> <td>5/12</td> <td>第4回</td> <td>幼児理解と発達を理解</td> <td>: 幼児期の発達の捉え方</td> </tr> <tr> <td>5/19</td> <td>第5回</td> <td>幼児理解と保育者の援助</td> <td>: 幼児理解の方法</td> </tr> <tr> <td>5/26</td> <td>第6回</td> <td>幼児の行動や行為の意味</td> <td>: ビデオを活用して</td> </tr> <tr> <td>6/ 2</td> <td>第7回</td> <td>幼児理解の方法</td> <td>: 観察・かかわり・記録</td> </tr> <tr> <td>6/ 9</td> <td>第8回</td> <td>保育者の姿勢(1)</td> <td>: 環境としての保育者</td> </tr> <tr> <td>6/16</td> <td>第9回</td> <td>保育者の姿勢(2)</td> <td>: 理解者、援助者としての保育者</td> </tr> <tr> <td>6/23</td> <td>第10回</td> <td>一人一人の幼児に応じた援助(1)</td> <td>: 友達とのかかわりを通じた幼児の育ち</td> </tr> <tr> <td>6/30</td> <td>第11回</td> <td>一人一人の幼児に応じた援助(2)</td> <td>: 個と集団の関係を捉える</td> </tr> <tr> <td>7/ 7</td> <td>第12回</td> <td>一人一人の幼児に応じた援助(3)</td> <td>: 特別な支援を必要とする幼児の保育</td> </tr> <tr> <td>7/14</td> <td>第13回</td> <td>一人一人の幼児に応じた援助(4)</td> <td>: 園内研修、保育者間の連携</td> </tr> <tr> <td>7/21</td> <td>第14回</td> <td>子育て支援・保護者との連携と幼児理解</td> <td>: 家庭との連携と情報発信</td> </tr> <tr> <td>7/28</td> <td>第15回</td> <td>まとめと授業評価</td> <td>: 質疑応答と筆記試験</td> </tr> </table>							4/14	第1回	オリエンテーション	: 授業概要の説明	4/21	第2回	幼児を理解するために	: 保育の始まりとしての幼児理解、絵本から学ぶ子どもの姿	4/28	第3回	幼児理解の基盤になるもの	: 幼児期にふさわしい生活	5/12	第4回	幼児理解と発達を理解	: 幼児期の発達の捉え方	5/19	第5回	幼児理解と保育者の援助	: 幼児理解の方法	5/26	第6回	幼児の行動や行為の意味	: ビデオを活用して	6/ 2	第7回	幼児理解の方法	: 観察・かかわり・記録	6/ 9	第8回	保育者の姿勢(1)	: 環境としての保育者	6/16	第9回	保育者の姿勢(2)	: 理解者、援助者としての保育者	6/23	第10回	一人一人の幼児に応じた援助(1)	: 友達とのかかわりを通じた幼児の育ち	6/30	第11回	一人一人の幼児に応じた援助(2)	: 個と集団の関係を捉える	7/ 7	第12回	一人一人の幼児に応じた援助(3)	: 特別な支援を必要とする幼児の保育	7/14	第13回	一人一人の幼児に応じた援助(4)	: 園内研修、保育者間の連携	7/21	第14回	子育て支援・保護者との連携と幼児理解	: 家庭との連携と情報発信	7/28	第15回	まとめと授業評価	: 質疑応答と筆記試験
4/14	第1回	オリエンテーション	: 授業概要の説明																																																																
4/21	第2回	幼児を理解するために	: 保育の始まりとしての幼児理解、絵本から学ぶ子どもの姿																																																																
4/28	第3回	幼児理解の基盤になるもの	: 幼児期にふさわしい生活																																																																
5/12	第4回	幼児理解と発達を理解	: 幼児期の発達の捉え方																																																																
5/19	第5回	幼児理解と保育者の援助	: 幼児理解の方法																																																																
5/26	第6回	幼児の行動や行為の意味	: ビデオを活用して																																																																
6/ 2	第7回	幼児理解の方法	: 観察・かかわり・記録																																																																
6/ 9	第8回	保育者の姿勢(1)	: 環境としての保育者																																																																
6/16	第9回	保育者の姿勢(2)	: 理解者、援助者としての保育者																																																																
6/23	第10回	一人一人の幼児に応じた援助(1)	: 友達とのかかわりを通じた幼児の育ち																																																																
6/30	第11回	一人一人の幼児に応じた援助(2)	: 個と集団の関係を捉える																																																																
7/ 7	第12回	一人一人の幼児に応じた援助(3)	: 特別な支援を必要とする幼児の保育																																																																
7/14	第13回	一人一人の幼児に応じた援助(4)	: 園内研修、保育者間の連携																																																																
7/21	第14回	子育て支援・保護者との連携と幼児理解	: 家庭との連携と情報発信																																																																
7/28	第15回	まとめと授業評価	: 質疑応答と筆記試験																																																																
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習: 授業計画に沿って、教科書に目を通しておく 授業後学習: 学習内容を整理し、次回に備える																																																																		
授業方法	講義																																																																		
評価基準と評価方法	筆記試験による評価 50% 授業態度(意欲・関心・発言)、レポート等の提出物による評価 50% を総合して評価します。																																																																		
教科書	幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」文部科学省 ぎょうせい 2010年																																																																		
参考書	幼稚園教育指導資料第4集「一人一人に応じる指導」文部省																																																																		

科目区分	子ども発達学科専門教育科目																																																			
科目名	幼児理解																																																			
担当教員	井上 知子																																																			
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	4	単位数	2.0																																													
授業のテーマ	保育者に求められる幼児理解																																																			
授業の概要	第一に、幼児を理解するために必要な考え方や視点について学ぶ。 第二に、具体的な事例を通して、保育者として幼児の行動や育ちをどのように読み取るのかを考える。 第三に、理解したことを基に、幼児にどうかかわるのかを考え、保育者の役割を理解する。																																																			
到達目標	一人一人の幼児の内面を理解するための手掛かりを見付け、個々に即した対応の仕方を学ぶ。																																																			
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>4/14 第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>: 授業概要の説明</td> </tr> <tr> <td>4/21 第2回</td> <td>幼児を理解するために</td> <td>: 保育の始まりとしての幼児理解、絵本から学ぶ子どもの姿</td> </tr> <tr> <td>4/28 第3回</td> <td>幼児理解の基盤になるもの</td> <td>: 幼児期にふさわしい生活</td> </tr> <tr> <td>5/12 第4回</td> <td>幼児理解と発達を理解</td> <td>: 幼児期の発達の捉え方</td> </tr> <tr> <td>5/19 第5回</td> <td>幼児理解と保育者の援助</td> <td>: 幼児理解の方法</td> </tr> <tr> <td>5/26 第6回</td> <td>幼児の行動や行為の意味</td> <td>: ビデオを活用して</td> </tr> <tr> <td>6/ 2 第7回</td> <td>幼児理解の方法</td> <td>: 観察・かかわり・記録</td> </tr> <tr> <td>6/ 9 第8回</td> <td>保育者の姿勢(1)</td> <td>: 環境としての保育者</td> </tr> <tr> <td>6/16 第9回</td> <td>保育者の姿勢(2)</td> <td>: 理解者、援助者としての保育者</td> </tr> <tr> <td>6/23 第10回</td> <td>一人一人の幼児に応じた援助(1)</td> <td>: 友達とのかかわりを通じた幼児の育ち</td> </tr> <tr> <td>6/30 第11回</td> <td>一人一人の幼児に応じた援助(2)</td> <td>: 個と集団の関係を捉える</td> </tr> <tr> <td>7/ 7 第12回</td> <td>一人一人の幼児に応じた援助(3)</td> <td>: 特別な支援を必要とする幼児の保育</td> </tr> <tr> <td>7/14 第13回</td> <td>一人一人の幼児に応じた援助(4)</td> <td>: 園内研修、保育者間の連携</td> </tr> <tr> <td>7/21 第14回</td> <td>子育て支援・保護者との連携と幼児理解</td> <td>: 家庭との連携と情報発信</td> </tr> <tr> <td>7/28 第15回</td> <td>まとめと授業評価</td> <td>: 質疑応答と筆記試験</td> </tr> </table>							4/14 第1回	オリエンテーション	: 授業概要の説明	4/21 第2回	幼児を理解するために	: 保育の始まりとしての幼児理解、絵本から学ぶ子どもの姿	4/28 第3回	幼児理解の基盤になるもの	: 幼児期にふさわしい生活	5/12 第4回	幼児理解と発達を理解	: 幼児期の発達の捉え方	5/19 第5回	幼児理解と保育者の援助	: 幼児理解の方法	5/26 第6回	幼児の行動や行為の意味	: ビデオを活用して	6/ 2 第7回	幼児理解の方法	: 観察・かかわり・記録	6/ 9 第8回	保育者の姿勢(1)	: 環境としての保育者	6/16 第9回	保育者の姿勢(2)	: 理解者、援助者としての保育者	6/23 第10回	一人一人の幼児に応じた援助(1)	: 友達とのかかわりを通じた幼児の育ち	6/30 第11回	一人一人の幼児に応じた援助(2)	: 個と集団の関係を捉える	7/ 7 第12回	一人一人の幼児に応じた援助(3)	: 特別な支援を必要とする幼児の保育	7/14 第13回	一人一人の幼児に応じた援助(4)	: 園内研修、保育者間の連携	7/21 第14回	子育て支援・保護者との連携と幼児理解	: 家庭との連携と情報発信	7/28 第15回	まとめと授業評価	: 質疑応答と筆記試験
4/14 第1回	オリエンテーション	: 授業概要の説明																																																		
4/21 第2回	幼児を理解するために	: 保育の始まりとしての幼児理解、絵本から学ぶ子どもの姿																																																		
4/28 第3回	幼児理解の基盤になるもの	: 幼児期にふさわしい生活																																																		
5/12 第4回	幼児理解と発達を理解	: 幼児期の発達の捉え方																																																		
5/19 第5回	幼児理解と保育者の援助	: 幼児理解の方法																																																		
5/26 第6回	幼児の行動や行為の意味	: ビデオを活用して																																																		
6/ 2 第7回	幼児理解の方法	: 観察・かかわり・記録																																																		
6/ 9 第8回	保育者の姿勢(1)	: 環境としての保育者																																																		
6/16 第9回	保育者の姿勢(2)	: 理解者、援助者としての保育者																																																		
6/23 第10回	一人一人の幼児に応じた援助(1)	: 友達とのかかわりを通じた幼児の育ち																																																		
6/30 第11回	一人一人の幼児に応じた援助(2)	: 個と集団の関係を捉える																																																		
7/ 7 第12回	一人一人の幼児に応じた援助(3)	: 特別な支援を必要とする幼児の保育																																																		
7/14 第13回	一人一人の幼児に応じた援助(4)	: 園内研修、保育者間の連携																																																		
7/21 第14回	子育て支援・保護者との連携と幼児理解	: 家庭との連携と情報発信																																																		
7/28 第15回	まとめと授業評価	: 質疑応答と筆記試験																																																		
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習: 授業計画に沿って、教科書に目を通しておく 授業後学習: 学習内容を整理し、次回に備える																																																			
授業方法	講義																																																			
評価基準と評価方法	筆記試験による評価 50% 授業態度(意欲・関心・発言)、レポート等の提出物による評価 50% を総合して評価します。																																																			
教科書	幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」文部科学省 ぎょうせい 2010年																																																			
参考書	幼稚園教育指導資料第4集「一人一人に応じる指導」文部省																																																			

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	理科研究						
担当教員	内田 祐貴						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における理科教育について、その内容構成、指導方法の基礎的な知識技術を習得する。						
授業の概要	学習指導要領における理科の目標とその趣旨、「エネルギー、粒子」、「生命、地球」の各領域について教材の構成と指導方法について学習する。特に、小学校理科を教えるにあたり、指導計画や指導案の作り方、授業時の指導方法、実験授業の方法など、基礎基本となる事柄を取り扱う。また、授業中にも実験を行い、実験の基本的操作を身に付けられるようにする。						
到達目標	・小学校理科の基本的指導方法の知識技術を習得し、指導計画、指導案を作成できる。						
授業計画	第01回 ガイダンス、理科研究について 第02回 理科の指導方法の基本理論 第03回 実験指導と理科の評価方法 第04回 理科の構造（生命 第3学年、第4学年） 第05回 理科の構造（生命 第5学年、第6学年） 第06回 発表と検討（生命）理科の構造（地球 全学年） 第07回 理科の構造（地球 全学年） 第08回 発表と検討（地球） 第09回 理科の構造（エネルギー 第3学年、第4学年） 第10回 理科の構造（エネルギー 第5学年、第6学年） 第11回 発表と検討（エネルギー） 第12回 理科の構造（粒子 第3学年、第4学年） 第13回 理科の構造（粒子 第5学年、第6学年） 第14回 発表と検討（粒子） 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	発表のための調べ学習						
授業方法	講義、実験、グループワーク、発表						
評価基準と評価方法	定期試験と発表を主資料(60)として、授業への取り組みの姿勢(40)も加味する。						
教科書	「わくわく理科3～6」（小学校理科教科書3学年～6学年用）、平成27年版、啓林館						
参考書	「小学校学習指導要領解説 理科編—平成20年8月」、文部科学省、大日本図書、ISBN-13: 978-4477019499						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	理科研究						
担当教員	内田 祐貴						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における理科教育について、その内容構成、指導方法の基礎的な知識技術を習得する。						
授業の概要	学習指導要領における理科の目標とその趣旨、「エネルギー、粒子」、「生命、地球」の各領域について教材の構成と指導方法について学習する。特に、小学校理科を教えるにあたり、指導計画や指導案の作り方、授業時の指導方法、実験授業の方法など、基礎基本となる事柄を取り扱う。また、授業中にも実験を行い、実験の基本的操作を身に付けられるようにする。						
到達目標	・小学校理科の基本的指導方法の知識技術を習得し、指導計画、指導案を作成できる。						
授業計画	第01回 ガイダンス、理科研究について 第02回 理科の指導方法の基本理論 第03回 実験指導と理科の評価方法 第04回 理科の構造（生命 第3学年、第4学年） 第05回 理科の構造（生命 第5学年、第6学年） 第06回 発表と検討（生命）理科の構造（地球 全学年） 第07回 理科の構造（地球 全学年） 第08回 発表と検討（地球） 第09回 理科の構造（エネルギー 第3学年、第4学年） 第10回 理科の構造（エネルギー 第5学年、第6学年） 第11回 発表と検討（エネルギー） 第12回 理科の構造（粒子 第3学年、第4学年） 第13回 理科の構造（粒子 第5学年、第6学年） 第14回 発表と検討（粒子） 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	発表のための調べ学習						
授業方法	講義、実験、グループワーク、発表						
評価基準と評価方法	定期試験と発表を主資料(60)として、授業への取り組みの姿勢(40)も加味する。						
教科書	「わくわく理科3～6」（小学校理科教科書3学年～6学年用）、平成27年版、啓林館						
参考書	「小学校学習指導要領解説 理科編—平成20年8月」、文部科学省、大日本図書、ISBN-13: 978-4477019499						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	理科指導法						
担当教員	内田 祐貴						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	理科を好きな教員になる。						
授業の概要	小学校理科の学習内容、指導方法を、模擬授業などの実践的演習をすることにより、身に付ける。前期「理科研究」で学習した理科指導の知識技術が、小学校の45分間の授業内で、どのように使えば、児童が理科を好きになる授業を行えるのかを、模擬授業を通して考える。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校における理科教育を理解する。</li> <li>・理科の模擬授業ができる(教材分析、授業計画、指導案、話し方、板書、様々な場面での対応、形成的評価、危険防止、実験指導等を含む)。</li> </ul>						
授業計画	第01回 ガイダンス 理科を教えるということ 第02回 授業展開と指導の方法 第03回 3学年「生命・地球」の学習と模擬授業実習 第04回 3学年「粒子・エネルギー」の学習と模擬授業実習 第05回 4学年「生命・地球」の学習と模擬授業実習 第06回 4学年「粒子・エネルギー」の学習と模擬授業実習 第07回 まとめ1 (3~4年生) 第08回 5学年「生命・地球」の学習と模擬授業実習 第09回 5学年「エネルギー」の学習と模擬授業実習 第10回 5学年「粒子」の学習と模擬授業実習 第11回 6学年「生命」の学習と模擬授業実習 第12回 6学年「粒子」の学習と模擬授業実習 第13回 6学年「エネルギー」の学習と模擬授業実習 第14回 6学年「地球」の学習と模擬授業実習 第15回 まとめ2 (5~6年生)  模擬授業実習のなかに、グループ指導演習とIT指導演習を含みます。						
授業外における学習(準備学習の内容)	模擬授業の準備						
授業方法	講義とグループワークと実習						
評価基準と評価方法	模擬授業と提出物を主資料(60)として、授業への取り組みの姿勢(40)も加味する。						
教科書	「わくわく理科3~6」(小学校理科教科書3学年~6学年用)、平成27年版、啓林館						
参考書	「小学校学習指導要領解説 理科編—平成20年8月」、文部科学省、大日本図書、ISBN-13: 978-4477019499						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	理科指導法						
担当教員	内田 祐貴						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	理科を好きな教員になる。						
授業の概要	小学校理科の学習内容、指導方法を、模擬授業などの実践的演習をすることにより、身に付ける。前期「理科研究」で学習した理科指導の知識技術が、小学校の45分間の授業内で、どのように使えば、児童が理科を好きになる授業を行えるのかを、模擬授業を通して考える。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校における理科教育を理解する。</li> <li>・理科の模擬授業ができる(教材分析、授業計画、指導案、話し方、板書、様々な場面での対応、形成的評価、危険防止、実験指導等を含む)。</li> </ul>						
授業計画	第01回 ガイダンス 理科を教えるということ 第02回 授業展開と指導の方法 第03回 3学年「生命・地球」の学習と模擬授業実習 第04回 3学年「粒子・エネルギー」の学習と模擬授業実習 第05回 4学年「生命・地球」の学習と模擬授業実習 第06回 4学年「粒子・エネルギー」の学習と模擬授業実習 第07回 まとめ1 (3~4年生) 第08回 5学年「生命・地球」の学習と模擬授業実習 第09回 5学年「エネルギー」の学習と模擬授業実習 第10回 5学年「粒子」の学習と模擬授業実習 第11回 6学年「生命」の学習と模擬授業実習 第12回 6学年「粒子」の学習と模擬授業実習 第13回 6学年「エネルギー」の学習と模擬授業実習 第14回 6学年「地球」の学習と模擬授業実習 第15回 まとめ2 (5~6年生)  模擬授業実習のなかに、グループ指導演習とIT指導演習を含みます。						
授業外における学習(準備学習の内容)	模擬授業の準備						
授業方法	講義とグループワークと実習						
評価基準と評価方法	模擬授業と提出物を主資料(60)として、授業への取り組みの姿勢(40)も加味する。						
教科書	「わくわく理科3~6」(小学校理科教科書3学年~6学年用)、平成27年版、啓林館						
参考書	「小学校学習指導要領解説 理科編—平成20年8月」、文部科学省、大日本図書、ISBN-13: 978-4477019499						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	レクリエーション概論						
担当教員	倉 真智子						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	レクリエーション活動の援助法と実践						
授業の概要	レクリエーションのもつ意味を歴史などから正しく理解する。レクリエーションはただ単に遊ぶことや楽しむことではなく、個人の生活の質の向上や社会生活や職場でのモラル向上の意味もある。さらに、レクリエーションは子どもから高齢者までの生活のあり方を意味することを理解する必要がある。授業においては、レクリエーション計画の立て方を学び、個人や集団においてコミュニケーションスキルを身につけ、理論に基づいた実践する能力を養う。						
到達目標	(1) 事業計画をたて指導することができる。 (2) レクリエーション計画を立案、実行できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レクリエーションの理解と歴史</li> <li>2. レクリエーションのもつ意味</li> <li>3. 社会福祉とレクリエーション</li> <li>4. 事業計画の立て方 -社会・児童に向けて-</li> <li>5. 事業計画の立て方 -幼稚園・保育所の場で-</li> <li>6. レクリエーション計画の立案方法 - KJ法を活用して -</li> <li>7. レクリエーション計画の立案</li> <li>8. レクリエーション計画の実行と振り返り</li> <li>9. レクリエーション実践の報告会</li> <li>10. コミュニケーションゲーム -アイスブレイキング-</li> <li>11. コミュニケーションワーク</li> <li>12. ニュースポーツ -グランドゴルフ・パターゴルフ-</li> <li>13. ニュースポーツ -ファミリーバトミントン-</li> <li>14. ニュースポーツ -ユニホック・ソフトバレー-</li> <li>15. 安全とレクリエーション活動援助のまとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	活動の場に足を運んで実体験する機会をもって臨むことを期待します。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	グループ発表40%、課題発表40%、レポート20%						
教科書	特に指定はしないが適宜資料を配布する						
参考書	「レクリエーション支援の基礎」（財）日本レクリエーション協会 「アイスブレイキング集」（財）日本レクリエーション協会 その他は適宜紹介する。						